



【地球環境基金】



2020年度 活動報告集

はじめに

平成4年(1992年)6月、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロにおいて「環境と開発に関する国連会議」(いわゆる「地球サミット」)が開催されました。この会議には、世界中のほとんどの国(約180カ国)が参加し、100カ国以上の元首・首脳、約1万人に及ぶ政府代表者が出席する大規模な会議となりました。この席上、日本国政府は民間の環境保全活動に対し、資金的支援の仕組みを整備することを表明しました。地球サミットにおいては、環境と開発に関するリオ宣言が出され、持続可能な開発を推進することとし、市民が環境問題に取り組むことの重要性が明らかにされました。

このような流れを受けて、当時の環境庁(現在の環境省)が中心となり、民間団体(NGO・NPO)による環境保全活動への資金の助成その他の支援を行うため、平成5年(1993年)5月、国と民間の拠出により地球環境基金が創設されました。

平成30年(2018年)には創設25年を迎え、この間、環境保全を行う民間団体に対し、活動に対する資金提供などを中心に支援してまいりました。今後も、地球環境基金は、更なる環境NGO・NPOの強化に向けた支援の充実を行うとともに、環境保全活動を行う次世代の人材育成に力を入れて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

「ききんちゃん」のご紹介!

「ききんちゃん」は、NGO・NPOの環境保全活動への支援を目的とした地球環境基金の事業を、より身近なものとして、広くみなさまに知っていただくために誕生しました。



- 名まえ ききんちゃん
- 年れい ヒミツ
- 住まい 神奈川県川崎市
- 身長 50cm
- 体重 ヒミツ
- 趣味 募金活動
- 特技 語学
- 好きなことば 地球のためにできること!
- チャームポイント つぶらなひとみ
- よく行くところ 環境イベント会場

目次

2020年度 地球環境基金助成実績	1
1.地球環境基金の仕組み	1
2.地球環境基金の造成状況(2021年3月現在)	2
3.2020年度の助成実績	2
様式の違いについて	5

助成の種類

- は** …はじめる助成
- つ** …つづける助成
- ひ** …ひろげる助成
- フ** …フロントランナー助成
- プ** …プラットフォーム助成
- 復** …復興支援助成
- 特** …特別助成
- L** …LOVE BLUE助成

2020年度 助成実績の概要(活動分野別) ※法人格は省略しています

自然保護・保全・復元

は	西表在来植物の植栽で地域振興を進める会	西表島海岸での原風景・藻場回復と環境教育：在来海浜植物の植栽・ウミガメ食害防止	9
は	宮津世屋エコツーリズムガイドの会	京都府絶滅寸全種指定「サンショウモ」(標準和名：サンショウモ 学名：Salvinia natans)の生育する棚田環境と棚田の生態系の保全	9
は	日本オランウータン・リサーチセンター	マレーシア・ダナムパレイ保護区におけるオランウータンの長期調査を基盤とした、人材育成と普及啓発事業	10
つ	石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク	石狩川流域にわずかに残る湿地環境・文化をネットワークの力で守り育てる	10
つ	大雪山・山守隊	たまには山に恩返し～高山帯の自然環境保全活動～	11
つ	African Marine Mammal Conservation Organization (AMMCO)	カメルーン南西部で絶滅の危機に瀕する大型水生ほ乳類マナティーと漁業の共存を目的とした、環境配慮型漁業の推進とエコツーリズムの整備	11
つ	雁の里親友の会	北極渡り鳥イニシアティブ優先種コクガン・カリガネの保全に向けた共同調査と普及啓発	12
つ	黒潮生物研究所	サンゴの育つ温帯の海—足摺宇和海国立公園における海洋生物多様性の解明とその保全および普及活動	12
つ	Centre for Ecological Studies	ネパールのシェイ・フォクスンド国立公園における地域コミュニティに基づいたユキヒョウ保全の強化	13
ひ	岩手山麓自然学校	町の天然記念物チョウセンアカシジミ保護！ 高畑牧野から広げる里のデワノトネリコ雑木林づくり	13
ひ	隠岐しぜんむら	隠岐諸島の島前地域における自然環境の保全体制の構築	14
ひ	四国自然史科学研究センター	地域もクマも守る 四国の社会イノベーションプロジェクト	14
ひ	ニッポンバラタナゴ高安研究会	高安の里におけるニッポンバラタナゴを保護するための地域循環共生圏づくり	15
ひ	大山千枚田保存会	台風被害が里山里海の生態系に与えた影響の把握と、そこから考える里山里海の保全活動	15
ひ	森からつづく道	オオキトンボを育む里地を知る・保つ・伝える・つなげるプロジェクト	16
復	はまのね	害獣として憎まれている鹿との共生を考える多様な関わりしるのデザイン	16
特	日本海洋教育スポーツ振興協会	世界に誇れるセーリング会場にしよう！ 自然の環境活動への理解を深める江ノ島エコプロジェクト2020	17
L	DEXTE-K	西なぎさ発：東京里海エイド (ラムサール条約に登録された葛西干潟における漂着ごみ収集を中心とした保全活動)	17
つ	ARDE/KUBAHO	ルワンダ国Ntebeコミュニティにおける丘陵地帯の土壌侵食と湿地帯の洪水を防ぎ、住民の水へのアクセスを向上させる総合的雨水集水モデル	18
つ	D・B・Cグループ	絶滅寸前ザゼンソウとその環境の保全活動	18
ひ	大杉谷自然学校	建設工事における環境配慮行動の推進	19

ひ	どんぐり王国	流域単位の里山保全と体制づくり	19
ひ	晴れの国野生生物研究会	オオサンショウウオの暮らす清流を守ろう！ 自然体験のフィールドづくりからはじめる水と緑の回廊の再生	20
ひ	ふるさとけものネットワーク	鳥獣被害対策における支援組織の育成・提言・ネットワーク化	20
ひ	日本鳥類保護連盟	ネパールにおける猛禽類をはじめとした鳥類及び自然環境を保全していくための人材の育成	21
ひ	PALLISHREE	インド国ベンガル湾岸湿地（バフダ入江およびルシクリヤ河口）における環境保全型クラブバンクの推進とプラスチックフリーエリアの開発	21
L	みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	宮城の浜の海洋ゴミを減らそうプロジェクト	22
つ	ワイルドライフ・プロミシング	ケニア、マサイマラ国立保護区周辺ゴイラレ地域の野生動物保全活動	23
ひ	国際自然保護連合日本委員会	国連生物多様性の10年における民間の取組・成果集約と国際発信による次期国際枠組への貢献（3年目）	23
ひ	香港観鳥会 (The Hong Kong Bird Watching Society)	西部太平洋における海鳥の衛星追跡：渡り鳥で繋げるアジアの海と人々	24
フ	石西礁湖サンゴ礁基金	複合ストレスの影響を受ける八重山地方のサンゴ礁保全・再生に向けたサンゴ認定制度の構築	24
つ	観光事業活動研究会	八重山の海環境に対応するサンゴ礁の再生とサンゴ礁を守る意識の向上	25
ひ	オランウータンと熱帯雨林の会	オランウータンに熱帯の森を ーインドネシアにおける熱帯雨林回復の取り組みー	26
ひ	喜界島サンゴ礁科学研究所	喜界島をモデルとした地域主体型のサンゴ礁保全プラットフォームの構築	27
ひ	環境生態工学研究所	『松島湾 うみっこ たづっこ プロジェクト』	28

森林保全・緑化

ひ	ウータン・森と生活を考える会	インドネシア・ボルネオ島における「開発」圧力に抗する地域住民主体の伝統知に基づく収入創出と環境教育を通じた熱帯林保全及びそれを支える日本でのしくみ構築	31
ひ	森づくりフォーラム	人工林の生物多様性を高める森づくりの普及啓発と市民参加型の施業モデル実践	31
ひ	Forest Action Nepal	東部ネパール・ジャルタルの森再生のためのツルヒヨドリ除去に関する参加型アクションリサーチ	32
つ	Save Earth Foundation	里山林における在来種保全活動 ー特定外来植物（オオハンゴンソウ）採取の継続実施ー	32
ひ	時ノ寿の森クラブ	森林・里山を社会財として「シェア」し、持続可能な森林保全を目指す	33
ひ	more trees	単一的な針葉樹人工林を多様な針広混交林や広葉樹林に再生するための知識・技術の普及と人材育成	33
ひ	moribio森の暮らし研究所	「環境林業」を担う人材の育成	34
復	森の防潮堤協会	岩沼市「千年希望の丘」植樹祭&収穫祭	34
つ	おしかリンク	牡鹿半島荻浜湾流域環境再生プロジェクト	35
ひ	グラウンドワーク三島	ふるさとの森を取り戻せ！「松毛川千年の森」再生プロジェクト	36

砂漠化防止

ひ	地球・人間環境フォーラム	モンゴル国ゴビ地域における牧民と協働した砂漠化防止活動	39
---	--------------	-----------------------------	----

ひ	ICA文化事業協会	ケニア半砂漠地域にあるイシンヤ地区の学校での環境教育を兼ねた植林緑化活動(3年目)	40
---	-----------	---	----

環境保全型農業等

つ	農ある暮らしを広める会	農ある暮らしの基盤となる自然環境を再生保全できるコミュニティづくり	43
つ	越後妻有里山協働機構	農と文化のフィールドミュージアム	43
ひ	ASED HABIGONJ	バングラデシュ北東部ハオール地域気候変動適応化農業普及プロジェクト Climate change adaptive agriculture expansion project in Haor area, north-east Bangladesh	44
ひ	APLA	フィリピン・ネグロス西州における小規模農民のネットワーク構築による環境保全型農業の推進とその担い手となる若手リーダーの育成	44
ひ	河北潟湖沼研究所	流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する	45
ひ	DANKA DANKA	セネガル共和国において地域循環型採卵養鶏を育てるプロジェクト	45
ひ	The Energy and Resources Institute (TERI)	インドにおける持続可能な開発のための伝統的農業：SATOYAMAのアプローチ	46
復	ザ・ピープル	福島から次世代へ！ 国外へ！ オーガニックコットンで想いをつなげるプロジェクト	46
ひ	DRCSC (Development Research Communication and Services Centre)	インド西ベンガル州ビルブム県における土地利用別アグロフォレストリーと環境に配慮した運用・利用の推進	47
ひ	シェア・ザ・プラネット	バングラデシュジェナイダ県における環境・気候変動に適応する持続的農業の実践と普及	47
ひ	ラムサール・ネットワーク日本	ラムサール条約と生物多様性条約の水田決議に基づく田んぼ10年プロジェクトの加速化とSDGsを組み入れた新しい水田目標の構築と活動の推進	48
ひ	BARCIK	バングラデシュネトロコナ県における気候変動による洪水への地域住民の適応能力とレジリエンス強化	49

地球温暖化防止

は	柿木自然エネルギー学校実行委員会	柿木自然エネルギー学校(小水力)実践編の開講	51
は	コクリエーションデザイン	キリバス共和国でエネルギー転換の仕組みと環境マイスター制度をつくるプロジェクト	51
は	東大和エネルギーの会	東大和エネルギー調査隊とおひさまモニターBIG	52
ひ	環境政策対話研究所	脱炭素社会づくりに向けた熟議の輪を広げる。	52
ひ	自然エネルギー共同設置推進機構(NECO)	自然エネルギー 100%を目指す「持続可能まちづくり」。電気・熱・交通での省エネ/シェア/創エネ	53
ひ	カーフリーデージャパン	ベトナムの典型的な農村景観が広がるタイビン省での自転車を中心とした持続可能な交通まちづくり活動	53
ひ	全国ご当地エネルギー協会	地域参加型温暖化対策としての「ご当地エネルギー地産地消」の仕組みづくり・協働・実装	54
ひ	生ごみリサイクル全国ネットワーク	通気式生ごみ保管容器「生ごみカラット」を使用した地球温暖化対策	54
ひ	パワーシフト・キャンペーン運営委員会	市民や事業所の再エネ電力選択による持続可能な再エネ社会の構築	55
ひ	FoE Japan	アジア太平洋地域での気候正義に基づいた1.5度目標達成に向けた調査・提言活動	55
プ	Climate Action Network Japan (CAN-Japan)	パリ協定の目標達成のための国内制度への政策提言と対話	56
つ	PVネット兵庫グローバルサービス	神戸市灘区水車新田における都市型小水力発電による地域活性化	56

つ	若桜・こらぼ企画	若桜町における実践型自然エネルギー学校(小水力発電)の開催	57
つ	縁パワーしまね	未来対話ー大学生・若者と作る「2050年に向けた山陰エネルギーシナリオ」	57
つ	おらってにいがた市民エネルギー協議会	「低炭素都市にいがた」を実現させるためのプロフェッショナル人材、「環境エネルギー教育コーディネーター」の創成	58
ひ	あきた地球環境会議	サバ州地球温暖化防止センター SDGs達成へ寄与！ “気候変動×スクールマニフェスト”で未来を描くProject Phase II	58
ひ	エコプランふくい	福井とタンザニアの節電所・発電所共同事業	59
ひ	おかやまエネルギーの未来を考える会	「岡山版・自然エネルギー100%プラットフォーム形成事業」	59
ひ	Climate Youth Japan	若者による気候変動の解決を導くビジョン作成を通じた活動の拡大と提言の影響強化	60
ひ	環境首都創造NGO全国ネットワーク	地域住民等主導の「気候変動適応の共創プログラム」の開発試行と、実践普及のための体制構築	60
ひ	地球環境市民会議(CASA)	2050年80%以上の削減の実現可能性と政策措置、自治体、中小企業・市民との協働活動の構築	61
つ	やまがた自然エネルギーネットワーク	地域で持続可能なエネルギーを学び実践する「やまがた自然エネルギー学校」	61
ひ	エコ・モビリティ サッポロ	楽しく快適にSDGsコミュニティ創造事業	62
ひ	地域再生機構	地域に根差した実践型自然エネルギー学校(小水力発電)運営支援	62
ひ	気候ネットワーク	パリ協定実施のための脱炭素ビジョンの作成と普及	63
ひ	ビナ・カルタ・レスタリ(BINTARI)財団	インドネシア、海面上昇影響を受ける沿岸コミュニティの衛生環境回復プロジェクト	64
ひ	環境創造研究センター	「COOL CHOICE」普及啓発に資する「ナッジ」の応用手法の研究と適用	65

循環型社会形成

は	せとうちんちゅネットワーク	廃校を活用した循環式農業、地域循環共生圏の創造	67
ひ	循環生活研究所	「ローカルフードサイクリング美和台」で目指す持続可能な共助社会	67
ひ	中部リサイクル運動市民の会	障がい者福祉施設との連携による地域資源循環ネットワークの構築活動 「なごやハートステーションPROJECT」	68
ひ	京都市環境保全活動推進協会	プラスチックごみ削減活動を通じた住民と観光客の持続可能な共存	68
ひ	水Do！ネットワーク	給水スポットの拡大による使い捨て飲料容器の削減活動の全国展開	69
ひ	JEAN	調べてみよう！マイクロプラスチック市民調査	69
フ	パルシック	パレスチナ西岸地区北アシーラにおける循環型社会のモデル形成事業	70
つ	フードバンク信州	フードバンクによる食料循環のネットワーク構築	71
つ	日本チャリティーショップ・ネットワーク	日本国内におけるチャリティーショップの普及と、地域の拠点として社会的価値を高める活動	72

大気・水・土壌環境保全

ひ	ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン	日本企業のサプライチェーン最上流の農家の環境・社会課題解決へ向けた取り組み	75
---	-------------------------------------	---------------------------------------	----

ひ	ナシール教育文化振興財団	パキスタン・チニョット地域における地下水資源保全と適正利用に関する参加型アプローチによる地域コミュニティのエンパワーメント	75
ひ	有害化学物質削減ネットワーク	2020年目標以降の化学物質管理に関する取組みの推進に関する情報発信、普及啓発活動	76
L	アーキペラゴ	瀬戸内海を美しくするためにはじめる身近な川ごみ調査	76
ひ	Pos Koordinasi untuk Keselamatan Korban Lumpur Lapindo (PosKo KKLuLa)	インドネシア共和国東ジャワ州シンドアルジョ地域における熱泥流被災者のエンパワーメント	77
ひ	ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議	有害化学物質による胎児と子どもの悪影響を最小限にするための政策提言と世論喚起活動	77
ひ	アジア砒素ネットワーク	バングラデシュの高濃度砒素汚染地域における持続的な安全水供給のための技術移転事業	78
L	パートナーシップオフィス	大学生による海ごみ問題解決のためのクリーンアップとワークショップ事業	79
L	神戸海さくら	須磨海岸における地域住民および海岸利用者の参加型清掃活動とマナー意識向上による持続的な環境保全活動	80

総合環境教育

は	スノーパーク小出	多世代で里山を守ろう！～体験で触れる身近な自然保護の環境づくり～	83
つ	ななしんぼ	郡上市明宝地区における森の恵みの有効活用	83
つ	天草海部	SDGs(14)を目標に、天草の海の生物多様性を学ぶ！先端技術を活用した人材育成	84
つ	瀬戸内オリーブ基金	地球規模でのゼロエミッションを実現するための、豊島産業廃棄物不法投棄事件の歴史的資料の活用。	84
つ	地球のしごと大學	持続可能な林業及び農業人の育成事業を行う「地球のしごと大學」の運営と卒業後の実践へ向けた支援	85
つ	石川県自然史センター	市民参加による地域環境学習教材の作成と環境教育に関する人材養成プロジェクト	85
ひ	いきものいんく	北欧の教育農場をモデルとした放課後自然塾（仮）を開講する	86
ひ	応用地質研究会ヒ素汚染研究グループ	バングラデシュの水供給困難地域における安全な水利用のための環境教育	86
ひ	畑とキャンプの自由な学校みんなの学校	「子どもとつくる。未来の地球プロジェクト」SDGsスクール活動の実践	87
ひ	ラブグリーンジャパン	ネパール・タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる	87
ひ	田舎のヒロインズ	自然豊かな日本の農村を守るために女性農家が取り組む次世代・消費者教育	88
ひ	丸瀬布昆虫同好会	「虫のいえ」を学校にひろげよう	88
ひ	LION	バンドン市の高校生に対する参加型総合環境教育プログラムの開発と実践	89
L	スピリット・オブ・セイラーズ	Ocean College ～海を学び、地球を感じる体験～	89
L	全国川ごみネットワーク	プラスチックごみ削減普及啓発プロジェクト	90
つ	石川県ユネスコ協会	北陸におけるSDGs達成に向けたESDプログラム開発	90
つ	キッチンるば	熊本県内の生活困窮家庭と被災した子どもたちの総合環境教育	91
つ	市民エネルギーとっとり	中山間地域の再生に資する総合的な地域環境教育実践活動	91
ひ	伊自良の里振興協会	木のある暮らしづくり	92

ひ	ezorock	災害時にも強い持続可能な北海道のための地域づくり人材育成事業	92
ひ	五ヶ瀬自然学校	世界農業遺産の里で行う耕作放棄地対策・環境保全型農業価値理解促進のための交流活動事業	93
ひ	日本環境教育フォーラム	バングラデシュ・シュンドルボンにおける生物多様性保全を目指した自然体験プログラムの開発及び実践	93
ひ	公害資料館ネットワーク	公害経験から教訓へ 公害教育の普遍化事業	94
ひ	長野県NPOセンター	長野発・SDGs実現に向けた学生アクションプラン [youth reach]	94
ひ	日本下水文化研究会	バングラデシュ都市スラムにおける衛生行動の変容促進と衛生環境の形成	95
ひ	おーでらす	集落の主體的な鳥獣害対策の実施と継続により、農村環境の生物多様性を保全する活動	95
ひ	しずおか環境教育研究会	乳幼児期の自然体験の実態調査と、認定こども園等でのモデル事業実施	96
復	みちのくトレイルクラブ	みちのく潮風トレイル 普及・啓発事業	96
L	能登半島おらっちゃんの里山里海	能登の里海環境・文化の持続可能性構築	97
ひ	さっぽろ自由学校「遊」	SDGsに基づくNPOのアドボカシー力の向上とセクター間対話の推進	97
ひ	まちなびや	全国の先生が手軽にできる！環境の仕事のイメージが広がる！ 「環境キャリア授業パッケージ」の開発と普及	98
L	くすの木自然館	鹿児島湾奥地域における湿地帯保全活動	99
つ	ECO village SHELTER project	みんなで作る森の学び場～里山保育「ぐーるりの森のこどもえん」	100
つ	エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議	森里川海(自然資本)を活用した地域課題解決型人材を育成する『未来・ひと・仕事』創生塾の構築と展開	101
つ	環境パートナーシップちば	SDGsを達成するためのESD地域リーダー担い手育成事業	102
ひ	しゃぼん玉の会	Promising Future Project ～後に続く世代が幸せになるようにSDGsを学ぶ子どもと若者のプロジェクト～事業	103
ひ	日本ハビタット協会	ラオス国ルアンパバン県における環境教育システムの構築	104
ひ	インドネシア教育振興会	学び愛インドネシア・ごみ銀行とコンポストの活用と普及	105
ひ	開発教育協会	「持続可能な開発を促進する教育・学習」コーディネーター研修事業	106
プ	国際協力NGOセンター	国際協力フォーラム開催	107




総合環境保全活動

は	ナチュラリストネットワークかがわ	持続可能な社会の実現に向けた四国の産学官民連携プラットフォームの構築 →四国における人・モノ・コトの発掘と発信による地域循環共生圏実践者ネットワークの構築	109
ひ	II NET	インドネシア・西部バリ国立公園周辺村における、地域に根ざした環境教育と若者ファシリテーター育成を通じた『子どもたちが生きいきと活動するカンムリシロムク保護村』づくり	109
ひ	アサザ基金	霞ヶ浦水源地の総合保全に向けたコンソーシアムの設立とコミュニティビジネスの流域ネットワーク化	110
ひ	SDGs市民社会ネットワーク	「持続可能な開発目標」(SDGs)に関する市民社会の活動の強化とマルチ・ステークホルダー・プロセスの定着を目指した活動	110
ひ	徳島保全生物学研究会	生物多様性活動認証制度の拡大による地域の生物多様性向上の推進	111
ひ	NPO地域づくり工房	市民からの持続可能性アセスメントの提案とモデル事業の実施	111

ひ	アジア太平洋資料センター (PARC)	電気自動車・再生可能エネルギー・SDGsを鉱物調達の視点から再検証するモニタリング・普及啓発・提言活動	112
復	九州エコファーマーズセンター	熊本地震被災地域における活性化のための活動	112
復	フー太郎の森基金	被災農地で被災者を対象にした無農薬・減農薬の市民農園造成と実践的「食育」講座開催	113
特	持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク (SUSPON)	持続可能なスポーツイベントを実現するためのNGO/NPOによる提言・実践活動	113
つ	Earth Company	企業・学校・NPOの誰もが使いやすい環境配慮施策パッケージの開発と導入支援	114
ひ	エバーラスティング・ネイチャー	ウミガメにおける海洋ゴミ問題のモニタリング調査と誤食ゴミを活用した参加型啓発プログラムの開発	114
ひ	北の里浜 花のかけはしネットワーク	東日本大震災被災地における地域のレジリエンス向上を目指した海浜植物群落の再生と環境・防災学習・地域交流ネットワーク形成	115
ひ	たてやま・海辺の鑑定団	南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」「伝える」ための仕組み強化による環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動	115
ひ	北九州・魚部	生き物好き発掘！身近な自然の危機を察知できる人材を増やすための取り組み	116
ひ	CSOネットワーク	持続可能性を高める中小企業をサポートするツールの開発及びそれに向けた調査～SDGs時代における地域のエコシステムを活用したアプローチ～	116
ひ	持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム協会	若者によるSDGs実施の推進のためのユースコンパクト発足、GDPIに変わるビジョン・指標策定を中心とした政策提言、およびSDGs推進に関わる啓発活動	117
ひ	たねと食とひと@フォーラム	「たね」を通してみた食と農の持続可能性についての啓発活動	117
フ	JARTA	旅行会社に向けたサステイナブル・ツーリズム国際認証制度の普及啓発	118
ひ	ACE	インドのコットン生産地の環境・社会課題を解決する持続可能なコットンの普及啓発活動	118
ひ	En Vision環境保全事務所	地理空間情報を使った、地域版SDGs達成に向けた生態系サービス評価のシナリオづくりと普及啓発—Evidenceに基づいた計画、評価、モニタリングの主流化のために—	119
フ	徳島地域エネルギー	熱利用転換で環境を守り未来につなぐ木質バイオマス地域アライアンス	119
つ	アースウォッチ・ジャパン	石垣島白保サンゴ礁保全調査プロジェクト	120
ひ	関西NGO協議会	若い世代を巻き込んだ「KANSAI-SDGs市民アジェンダ」の策定と活用～関西地域のSDGs啓発・普及活動を目指したアクションへつなぐ～	121
ひ	泉京・垂井	持続的で包括的な地域・環境ガバナンスの実現をめざす～ローカル・アドボカシー・モデルの実践と創出～	122
ひ	ペドラブランカ自然保護区支援連合	生産者・消費者・流通による包括的なアグロエコロジーネットワークの構築によって行うブラジル・ペドラブランカ山系の生態系保全活動	123
ひ	森の生活	市民による里山活動を通じた地域社会再生のモデル構築	124
ひ	Little Bees International	国連生物多様性の10年・愛知目標(1・2・5・14・15)の達成を目指したナイロビ川流域の河川敷及びコロゴッチョスラムを中心とした生物多様性保全のための総合環境保全活動(ケニア共和国)	125
ひ	「環境・持続社会」研究センター (JACSES)	地球規模での気候変動対策推進のための途上国の効果的な気候変動対策強化/透明性向上に向けた日本と国連資金メカニズム(GEF・GCF)・イニシアティブ(CBIT等)の取組/連携強化のための調査研究・提言・啓発	126
ひ	いすみライフスタイル研究所	森・里・水田・川・海一体型環境保全による夷隅川流域での生物多様性と里山・里海環境維持活動	127
ひ	APEX	途上国における環境技術関連事業の効果的遂行のための、適正技術に関する情報収集・ネットワーク形成と、普及・啓発活動	128
ひ	環境市民プラットフォームとやま (PECとやま)	富山県におけるSDGsの普及啓発とその達成に向けたパートナーシップ構築	129

その他の環境保全活動

ひ	Mブリッジ	エシカル消費の啓発活動事業 ～消費者にできる身近なSDGsとして伝え広げる～	131
---	-------	---	-----

 日本クマネットワーク	街に出るクマ ～アーバンベアとどう付き合うか～	131
 宗像フェスCSR推進実行委員会	日韓海洋プラスチックリサイクル環境学習事業	132
 ジョイライフさやま	環境保全の大切さを伝える自然体験・地域交流の創出	132

2020年度 地球環境基金助成実績

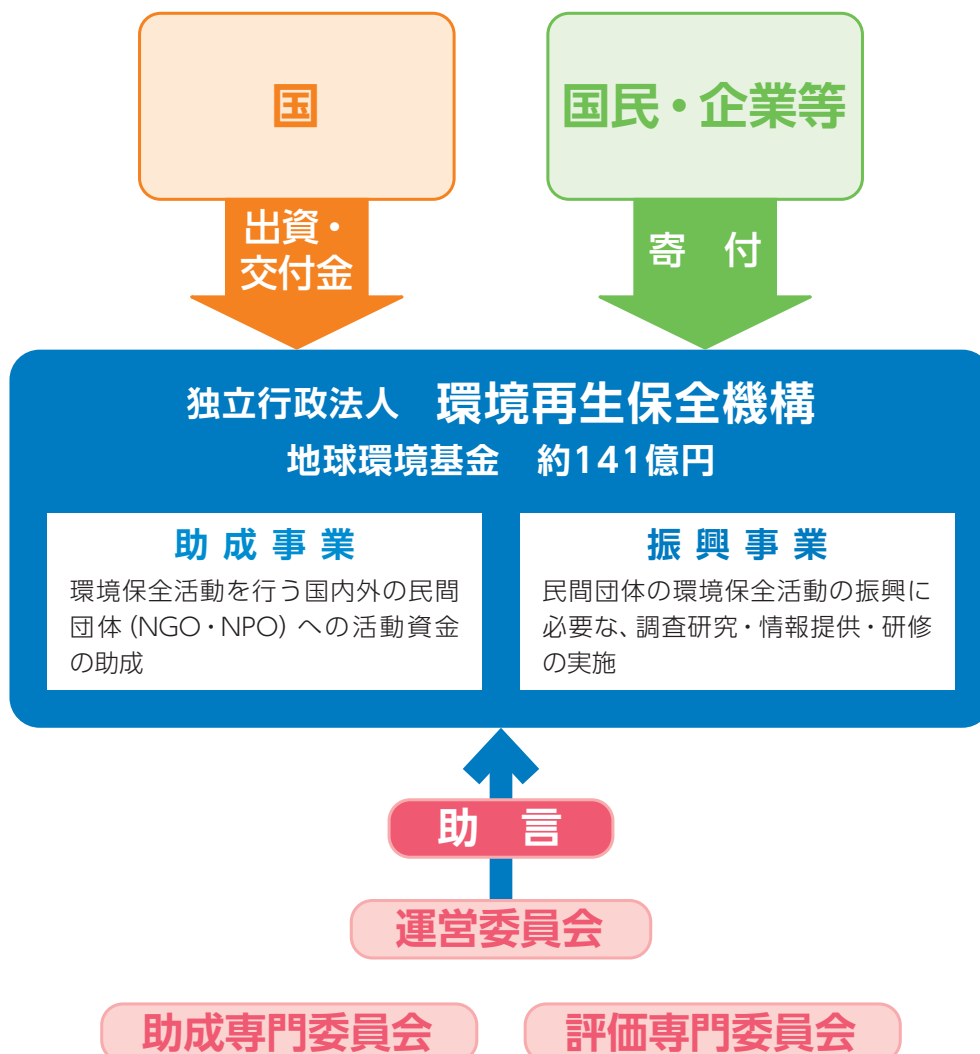
1 地球環境基金の仕組み

地球環境基金は、国と民間の双方からの資金拠出に基づいて基金を設け、その運用益等をもって国内外の民間団体(NGO・NPO)による環境保全活動への助成、その他の支援を行っています。

地球環境基金による支援の内容は、直接的にNGO・NPOの環境保全活動へ資金助成を行う「助成事業」と、間接的にNGO・NPOのための基盤整備として調査研究、情報提供、研修を行う「振興事業」の二本立てとなっています。

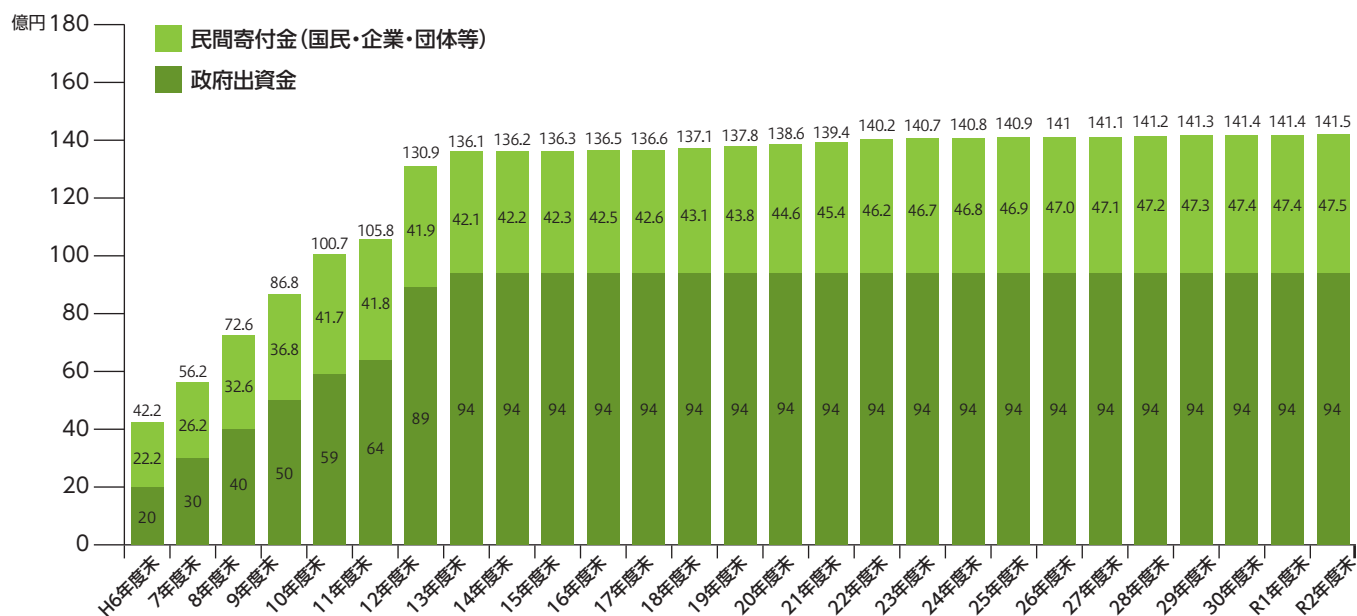
これらの事業の実施に当たっては、学識経験者からなる地球環境基金運営委員会の助言を受けることとされています。運営委員会の下には、助成専門委員会と評価専門委員会が設けられており、助成専門委員会では助成事業についての審査方針や具体的な助成先などについて、また評価専門委員会では助成対象活動の評価について、専門的見地から審議が行われています。

◆ 地球環境基金の仕組み ◆



2

地球環境基金の造成状況(2021年3月現在)



3

2020年度の助成実績

2020年度助成金の募集は、2019年11月5日から同年12月3日にかけて行い、336件、総額約12億2,344万円の交付要望が寄せられ、180件、総額約4億7,791万円の助成を行いました。

2015年度より企業等の寄付金の一部を直接活動助成に充てる「地球環境基金 企業協働プロジェクト」を創設し、一般社団法人日本釣用品工業会からの寄付による「LOVE BLUE助成」を実施しています。

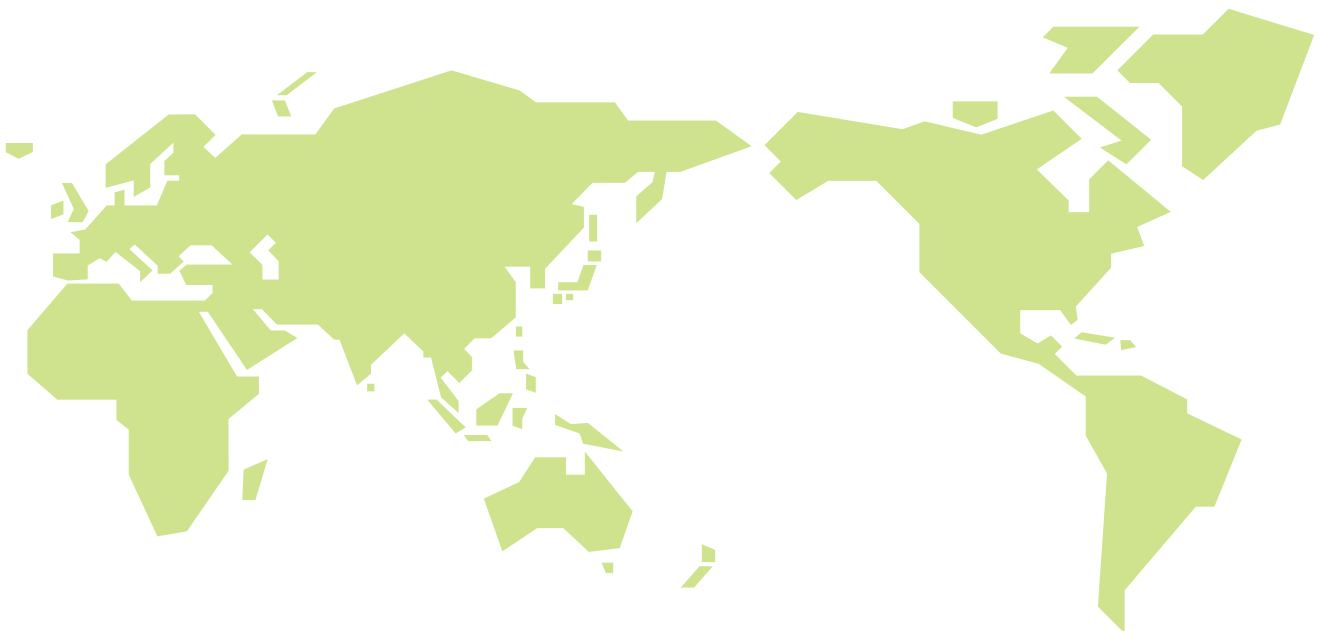
助成の種類	概要	要望件数 (要望総額)	助成件数 (助成総額)
はじめる助成	地域活動の種を育て、地域に根付いた活動を中心に、地域からの環境保全のボトムアップの充実を目指す支援制度	41件 (99百万円)	9件 (12百万円)
つづける助成	地域に根ざすことなどを目指してはじめた活動が、継続し、持続的な活動へと定着することを支援する制度	76件 (162百万円)	34件 (62百万円)
ひろげる助成	課題解決能力等に磨きをかけ、より効果的な活動の展開を実現し団体組織のステップアップを目指すための支援制度	172件 (774百万円)	112件 (334百万円)
フロントランナー助成	日本の環境NGO・NPOが中心となり、市民社会に新たなモデルや制度を作るための支援制度	10件 (73百万円)	4件 (19百万円)
プラットフォーム助成	日本の環境NGO・NPOが横断的に協働・連携し、国際会議等で意見表明を行うなどの大きな役割を果たすための支援制度	10件 (62百万円)	2件 (7百万円)
復興支援助成	東日本大震災及び熊本地震の被災地域における環境保全を通じて、これら地域の復興に貢献しようとする活動への支援制度	8件 (27百万円)	6件 (18百万円)
特別助成	東京2020大会の開催に向け、環境面でのレガシー、市民参加による環境保全のムーブメントの創出を目指す支援制度	3件 (13百万円)	2件 (8百万円)
LOVE BLUE助成	一般社団法人日本釣用品工業会からの寄付によるものであり、清掃活動など、水辺の環境を構築するための支援制度	10件 (14百万円)	11件 (12百万円)
合計		336件 (1,223百万円)	180件 (477百万円)

(※要望総額および助成総額は、百万円未満切捨のため合計が合致しない場合があります。)

活動区分別件数

活動区分	助成要望件数 (要望総額)	助成件数 (助成総額)
イ. 国内民間団体の開発途上地域での環境保全活動	52件 (231百万円)	24件 (74百万円)
ロ. 海外民間団体の開発途上地域での環境保全活動	29件 (117百万円)	16件 (51百万円)
ハ. 国内民間団体の国内での環境保全活動	251件 (873百万円)	140件 (352百万円)
合 計	336件 (1,223百万円)	180件 (477百万円)

(※要望総額および助成総額は、百万円未満切捨のため合計が合致しない場合があります。)



海外活動地域別件数

●アフリカ

活動地域	イ	ロ	合計
ケニア	3		3
ルワンダ		1	1
セネガル	1		1
カメルーン		1	1
タンザニア	1		1
合計	5	2	7

●中東

活動地域	イ	ロ	合計
パレスチナ自治区	1		1
合計	1		1

●大洋州・その他(広域ほか)

活動地域	イ	ロ	合計
キリバス	1		1
合計	1		1

●中南米

活動地域	イ	ロ	合計
ブラジル		1	1
合計		1	1

●アジア(東南アジア)

活動地域	イ	ロ	合計
インドネシア	3	4	7
フィリピン	1		1
ベトナム	1		1
マレーシア	2		2
ラオス	1		1
合計	8	4	12

●アジア(その他)

活動地域	イ	ロ	合計
中国		1	1
インド		3	3
バングラデシュ	5	2	7
パキスタン		1	1
ネパール	2	2	4
モンゴル	1		1
アジア(広域)	1		1
合計	9	9	18

■助成期間が2年以上で当該年度に活動が終了する団体用

(団体名) □□□□□□□□□□□□

(活動名) □□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

活動地域  □□□□□

(助成メニュー)

(活動年数)

(活動形態)

(活動成果指標①) 00

(活動成果指標②) 00

今年度計画の達成度 00%

目標達成度 00%

Large empty text area for main activity description.

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

Grid for describing difficulties.

■工夫した点

Grid for describing improvements.

課題

Grid for listing issues.

目標

Grid for listing goals.

活動内容と成果

Grid for listing activities and results.

Large empty text area for additional notes.

全助成期間の活動を振り返って

Grid for reflecting on all support periods.

Large empty text area for future outlook.

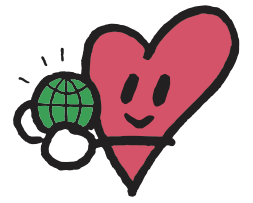
〒000-0000
□□□□□□□□□□
電話：000-0000-0000
E-mail：□□□□□□□□□□
HP：http://□□□□□□□□□□

(QRコード)



今後の展望

Grid for future outlook.



自然保護・ 保全・復元

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

西表在来植物の植栽で地域振興を進める会

西表島海岸での原風景・藻場回復と環境教育：
在来海浜植物の植栽・ウミガメ食害防止

活動地域 沖縄県西表島祖納海岸



ウミガメ食害防止柵の設置

課題

沖縄県の多くの海岸では外来植物が繁茂し、漂着ゴミが散乱している。西表島ではウミシヨウブ藻場がウミガメの食害で危機的な状況（藻場生態系が危機的な状況）にある。

目標

祖納海岸で原風景が回復され（外来植物フリー）、藻場がウミガメ食害前に回復する。当活動を参考に沖縄県の海岸で原風景が回復し、八重山のウミシヨウブ藻場が回復する。

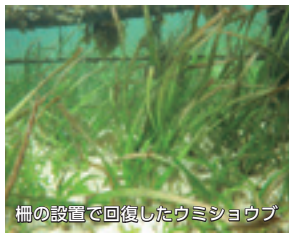


今後の展望

祖納海岸での原風景は回復できたので、維持活動を継続する。藻場の回復には行政による活動が必須で、この活動を環境大臣に助言した。これによる対応をみて、次の活動を決める。

活動内容と成果

西表島祖納海岸で二つの課題に取り組んだ。外来植物が大量に繁茂した砂浜を原風景に戻す活動では、木本を含む外来植物をほぼ完全に駆除し、在来海浜植物を植栽した。回復した景観は観光客等に好評である。ウミガメの食害で極めて危機的な状況となったウミシヨウブ藻場回復の課題では、32m四方の食害防止柵を設置した。設置柵内でウミシヨウブの急速な回復、多種の魚とイカ卵塊が観察され、防止柵の有効性が証明できた。一方、活動中に柵内で食害が生じ、予算枠を変更して柵の改修を行った。藻場危機を多くの方に知っていただく活動も進めた。



柵の設置で回復したウミシヨウブ

はじめる助成

1年目

実践

海岸植栽率	100%
毎月のウミシヨウブ観察・ウェブ公開	12回
今年度計画の達成度	98%
目標達成度	98%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

申請時に計画した食害防止柵では対処しきれず（予想を超える食害行動）、当初の予算を大幅に変更し、追加の策を講じた。

■工夫した点

危機的な状況の藻場の回復には、危機状況を広範囲に知っていただく必要があり、これに努めている。

〒907-1542
沖縄県八重山郡竹富町西表671
番地
電話：090-5286-0906
E-mail：nqf1226@nifty.com
HP：http://iriomote.image.coccan.jp



宮津世屋エコツアーリズムガイドの会

京都府絶滅寸全種指定「サンショウモ」(標準和名：サンショウモ 学名：Salvinia natans)の生育する棚田環境と棚田の生態系の保全

活動地域 京都府宮津市



役に立つ立派な地球の仲間なんだ！

課題

孤絶したエリアで孤高な営農によって保たれてきた水田植物たちの命脈も営農者の高齢化で非常事態。棚田の原風景の中に濃厚に生育する希少植物の保全を課題とした。

目標

本事業が生物多様性などのシンボルとして、価値ある資源だという認識が広く共有され、水田形態の保全維持、その稲と草の共生のために汗をかく人の繋がりを創造すること。

活動内容と成果

草刈り、獣害対策など水田環境の生態保存を行いながら、水田植物たちのためのピオトープ作りなどを試みるとともに、エコツアーリズム活動団体、環境保護団体、校区の教育機関などに出向き、稀少水田植物の現状について理解を深めていただく啓発活動や、現地観察会を企画した。環境学習の演習として、地元の高校生が主体的に参加し、本種の特性なども研究してくれた。その活動は新聞も取り上げてくれ、全国ユース環境活動発表大会や日本森林学会ポスターコンクールで高い評価を与えられた。



確かに形は「サンショウ」の葉だ、味は？

はじめる助成

1年目

実践

エコツアー開催	2回
保全活動参加者数(延べ)	100人
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	85%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

棚田環境が孤絶していたことと、水田植物は雑草で邪魔者という認識も強く、肝心の地元の関心が寄せられなかったこと。

■工夫した点

活動の様子や変化など、情報をこまめに伝えること。

〒626-0227
京都府宮津市上世屋432
E-mail：px8fn4@bma.biglobe.ne.jp
HP：http://miyazu-et.com



今後の展望

隣接するエリアにおける環境課題の相互理解と繋がりによって環境が守られる、という認識の共有が広がったことを踏まえ、地元に入って活動している若い人たちとも繋がりがながら、新しい協働組織で事業を継続したいと考えている。

(特非) 日本オランウータン・リサーチセンター

マレーシア・ダナムバレイ保護区におけるオランウータンの長期調査を基盤とした、人材育成と普及啓発事業

活動地域  マレーシア



オランウータンの親子

課題

ダナムバレイ地域に生息するオランウータンを長期生存可能な個体群として維持する。

目標

地元の関連組織からの理解と協力を得ながら、ダナムバレイ地域に生息するオランウータンの生息密度を調べるモニタリング調査を毎月行う。



今後の展望

ダナムバレイでは、外国人の渡航制限によってエコツアー事業は閉鎖され、壊滅的なダメージを受けている。その損害は大きく、1-2年程度で元に戻れるものではない。今後は、オランウータンの調査活動と並行して、現地の観光業復興を支援したいと考えている。

活動内容と成果

ボルネオ島マレーシア領サバ州にあるダナムバレイ保護区には、約500頭のオランウータン (*Pongo pygmaeus morio*) が生息している。この地域のオランウータンを対象に、生息密度調査と果実量調査を毎月行う予定であった。新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が禁止されたために、助成期間の1年間は日本人研究者らが現地に行き調査を行うことができなかった。しかし、現地スタッフによるオランウータンの長期調査は、規模は縮小したものの、ロックダウンの期間以外は実施することができた。そして、乏しいデータからの推測ではあるが、オランウータンの生息数に大きな変化は起こっていないことを確認できた。これらの成果を、セミナーや学会で報告、また学術雑誌への話題提供として投稿した。



オランウータン生息密度調査中の現地スタッフ

はじめる助成
1年目
調査研究

生息密度調査の実施期間	10 か月
報告書・セミナーなどでの成果報告	4 回
今年度計画の達成度	70 %
目標達成度	40 %

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

保護区へ入る際には、現地スタッフはPCR検査を受け、陰性証明書を用意する必要があった。

■ 工夫した点

現地の関連組織の代表と頻りに連絡を取り合い、常に変化している現地の感染状況に合わせて、現地スタッフの活動内容を決めた。

〒168-0064
東京都杉並区永福町四丁目5番1号
E-mail : info@orangutan-research.jp
HP : https://www.orangutan-research.jp/



自然保護・保全・復元

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク

石狩川流域にわずかに残る湿地環境・文化をネットワークの力で守り育てる

活動地域  北海道



しっちフォーラムの「しめっちトークショー」

課題

保全団体の脆弱な組織基盤、守るべき湿地及び文化の未把握と、湿地への理解の不足／湿地保全に関わる人が少ない。

目標

人／団体／文化／地域が持続することで、湿地の様々な生態系サービスをだれもが享受し、石狩低地帯に残存するわずかな湿地が劣化・減少せず、湿原再生を実現する。



今後の展望

- オンラインの活用を前年度よりも増やし、市民との交流の機会を増やすことで湿地の魅力により多くの人たちに伝えられるようにする。
- 作成したPR動画を活用してオンラインを通じた湿地の魅力の周知を図っていく。

活動内容と成果

- ①ネットワークへの新規加入 サポーター10人増、事務局1人増
- ②定期的な事務局会議の開催／事業収益向上に向けた企画立案
- ③未保全湿地の調査／湿地調査WSの開催
 - 未保全湿地調査1回、湿地調査探索会(湿地調査WS)の開催、27人参加
- ④残存文化調査の実施
 - 湿地文化WS「湿地文化体験～湿地に生えるスゲでみ縄を作ろう～」開催(20人)
- ⑤湿地保全の必要性や可能性を伝えるツール作成
 - PR動画の作成
- ⑥フォーラムの開催
 - しっちフォーラムを開催した(計53人の参加)、オンライン配信も行い約40人が視聴



スゲを使ったみ縄ワークショップ

つづける助成
1年目
実践

サポーターの増加	10 人
湿地文化WS参加者数	20 人
今年度計画の達成度	70 %
目標達成度	30 %

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルスの影響で当初予定していた活動が実施できなかった。

■ 工夫した点

オンラインを活用して新型コロナウイルスの影響のなかでも活動が実施できるよう心掛けた。

〒064-0808
北海道札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園201号
電話 : 011-200-0973
E-mail : ishikari.wetland@gmail.com
HP : http://ishikarigawa-net.com/



(一社) 大雪山・山守隊

たまには山に恩返し
～高山帯の自然環境保全活動～

活動地域 北海道



「日曜日の登山道整備」で木道を設置する

課題

総延長約300kmに及び大雪山国立公園の登山道では、侵食のスピードに管理が追いつかず各所で荒廃が進んでおり、登山道周辺の生態系に多大な影響を及ぼしている。

目標

生態系の復元を根底に置き、一般登山者や管理者である行政、民間企業や研究者などが協働で登山道を維持管理していく仕組みづくりを目指している。



今後の展望

大雪山の登山道を持続可能な形で維持管理していくための管理体制作りには多くの課題がある。ボランティア体制構築や研究者との連携、資材運搬の省力化、募金や協力金の効果的運用等、できる限りの努力を行っていく。

つづける助成

1年目

実践

活動内容と成果

- 一般登山者と協力した登山道の補修を、「日曜日の登山道整備」という形で開催。「高原温泉沼巡りコース」や「間宮岳」にて計5回実施した
- ぬかるみが激しい場所への木道設置や、法面が大きく崩落した場所での効果的な資材を用いた保全整備を行った
- 「高原温泉沼巡りコース」では、整備に使用する木材を運ぶ「荷上げボランティア」も募集。木材と背負子を常時準備し、いつでも荷上げができる体制を作った。木材は1本約4～17kg。延べ151人の参加者があり、合計約4tの木材の荷上げを行うことができた



大人も子どもも一緒に作業

イベントの延べ参加者数	76人
荷上げボランティア参加者数	151人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	30%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの影響で大人数が集まっていた作業ができない中、どうやって一般登山者と一緒に作業を行うかが課題だった。

■工夫した点

少数が集まるように3日前にSNSで呼びかけを行う形で募集。「現地集合現地解散」「予約不要」という形を試みた。

〒078-1333
北海道上川郡当麻町伊香牛1区
電話：090-7058-8357
E-mail: yamamoritai@gmail.com
HP: <https://www.yamamoritai.com/>



African Marine Mammal Conservation Organization (AMMCO)

カメルーン南西部で絶滅の危機に瀕する大型水生ほ乳類マナティーと漁業の共存を目的とした、環境配慮型漁業の推進とエコツーリズムの整備

活動地域 カメルーン



学生たちを対象とした野外実習

課題

カメルーンでアフリカマナティーの漁網への混獲と漁師らによる密漁を防止し、マナティーを観光資源としたエコツーリズムによって保全と地域経済の活性化を図ること。

目標

アフリカマナティーの混獲を防ぐ漁法を広め、環境教育によって地域住民の保全への意識を向上させ、マナティーを観光資源としたエコツーリズムの準備を進める。



今後の展望

新たな問題として浮上している外来種の浮草の駆除を進めていき、地域での環境教育を実施することで、マナティー保全への意識を高めていく。そして保全と地域経済活性化のためのエコツアーの整備と実施を目指す。

つづける助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- 混獲を防ぐ漁法を紹介するワークショップに150人の漁師が参加し、90%が新しい漁法の訓練を受けた
- ワークショップ後に50%の漁師が新しい漁法を実施した
- 漁具破損数が前年より95%減少し、マナティー混獲個体の報告は0件であった
- 対象地域で行った環境教育に合計1,800人が参加し、80%がマナティー保全に賛同した
- 保全についての冊子を作成し、合計1,010人に配布した
- エコツアープランを二つ作成した
- エコツーリズムに必要な人材育成は25人を対象に行った



Lake Ossaでのエコツアー実施

環境教育を受けた人数	1,800人
マナティー保全に賛同した人	80%
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	80%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス感染症によりエコツアーの実施や学校での活動が制限された。外来種の浮草も湖に広まり、漁業やマナティーに影響を与えている。

■工夫した点

エコツアー施設の整備を進めていき、少人数での環境教育を実施した。外来種については昆虫を用いた駆除を始めている。

Dizangue/Edea, Littoral
Cameroon
E-mail: info@ammco.org
HP: <http://www.ammco.org/>



北極渡り鳥イニシアティブ優先種コクガン・カリガネの保全に向けた共同調査と普及啓発

活動地域 北海道、宮城県



捕獲チームと発信器を装着したカリガネ

課題

コクガン、カリガネは東アジア地域で優先して保全すべき渡り鳥に指定されているにもかかわらず、渡りルートが解明されておらず、直面している脅威について知見が不足している。

目標

コクガン、カリガネを発信器により追跡することで両種の渡りルート及び重要な生息地を解明し、東アジアの重要生息地での保全に向けた国際的な連携体制を構築する。



今後の展望

コクガン、カリガネの捕獲に関する知見を得ることができたため、2年目以降は、より多くの個体を追跡する。その結果を国内外で科学的知見に基づいた情報発信、普及啓発を行い、海外の協力者とも積極的に連携する。

活動内容と成果

本年度は、北海道においてコクガン16羽、宮城県においてカリガネ1羽を捕獲し、発信器追跡を行った。特にカリガネについては、日本で初めての捕獲、発信器追跡となり、これまで知られていなかった夜間のねぐらや採餌範囲などの科学的知見が得られた。また、これまでの取組みや上記の発信器追跡で得られた知見を発表する希少ガン類のシンポジウムをオンラインで開催し、開催当日は170人、アーカイブ動画は2,329回の再生数(3月31日現在)を記録し、当初見込みの100人を大幅に超える数を達成することができた。



オンライン配信によるシンポジウムの様子

つづける助成
1年目
調査研究

発信器追跡個体	16羽
シンポジウム閲覧数	2,329回
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	30%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

カリガネは日本国内にわずか300羽と数が少なく、これまでだれも捕獲したことがなく、捕獲に関するノウハウがなかったこと。

■工夫した点

カリガネの行動を1週間にわたり詳細に記録し、行動範囲を絞り込み、捕獲のための作戦を練ったこと。

〒989-6315
宮城県大崎市三本木新沼字二又
159-1
電話：0229-52-3326
E-mail：saway1217@yahoo.co.jp
HP：http://shibalabo.eco.coocan.jp/goose/index.htm



サンゴの育つ温帯の海—足摺宇和海国立公園における海洋生物多様性の解明とその保全および普及活動

活動地域 高知県・愛媛県



沖の島小学校での出前授業の様子

課題

足摺宇和海の生物多様性の根幹をなすサンゴ群集は食害生物により甚大な影響を受けている。また、地域の人々が資源の価値を理解しづらく直接的に関わる機会が不足している。

目標

足摺宇和海の特色と環境変動の影響を受けやすいサンゴ群集と海洋生物多様性の理解を深める。また、資源を継続的に利用するための保全活動を進め、その魅力を広く普及する。



今後の展望

足摺宇和海の生物多様性を把握するため、重点的な調査を進める。また、サンゴ群集のモニタリングや食害生物の駆除を継続する。さらに講演会や観察会を実施し、足摺宇和海や生物多様性に関する意識を向上させる。

活動内容と成果

- 足摺宇和海におけるサンゴ群集の生物多様性把握のための活動を実施し、1,101種の生物を確認
- 本研究所のホームページのWeb図鑑「黒潮の生き物たち」に170種を掲載
- 魚、底生生物、海藻の種リストを作成
- サンゴ群集のモニタリングを5地点で実施し、全地点でオニヒトデの食害を確認。特に多くの食害が確認された沖の島と竜串で各3回ずつ駆除を実施し、計187個体を駆除
- Web図鑑の閲覧数は約3,800人に到達。また、Web図鑑の執筆者として外部研究者4人を招聘し、一般から5人が参加



オニヒトデの駆除の様子

つづける助成
1年目
調査研究

Web図鑑掲載数	170種
オニヒトデの駆除数	187個体
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	40%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、不特定多数の参加者を募集するイベントや勉強会の開催が中止に追い込まれた。

■工夫した点

感染症対策を十分にとり、少人数での自然学習会、観察会を実施した。また、活動や生物を紹介したWeb図鑑の更新に努めた。

〒788-0333
高知県幡多郡大月町西泊560-1
電話：0880-62-7077
E-mail：mail@kuroshio.or.jp
HP：http://kuroshio.holy.jp/



ネパールのシェイ・フォクスンド国立公園における地域コミュニティに基づいたユキヒョウ保全の強化

活動地域  ネパール



地域コミュニティ会議後の集合写真

課題

ユキヒョウは山岳環境の希少なキーストーン種である。ドルパのシェイフォクスンド国立公園で地域コミュニティベースのユキヒョウ保全活動の基盤構築が求められる。

目標

シェイ・フォクスンド国立公園の山岳環境に生息する野生動物(特にユキヒョウ)の長期生態モニタリングを通して、地域コミュニティの経済が維持され保全意識が向上される。



今後の展望

本プロジェクトを通して地元のステークホルダーのユキヒョウ保全に関する活動を強化し、外部支援がなくても保全活動を長期継続できるようになることを目指す。

つづける助成

1年目

調査研究

活動内容と成果

- ①6地域において73人がユキヒョウと餌動物の密度調査法のトレーニングを受けた
- ②250か所に赤外線カメラを設置し4,000 km²以上の範囲でユキヒョウの密度を調査した
- ③15村落から250世帯の家族が参加し保全活動の問題等を話し合った
- ④ユキヒョウによる家畜襲撃の防止柵を2か所設置した
- ⑤22村落の840世帯の家族において家畜襲撃数を調査した
- ⑥150世帯に家畜被害補償の申請手続き用書類の作成支援を実施し44,17,500 ネパールルピーを補償できた



ユキヒョウの足あと

トレーニング参加者 **73人**

カメラトラップ設置数 **250か所**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で大規模な集会は実施できず、正式な会議を実施するのに苦労した。

■工夫した点

1対1でやり取りをするようにして、会合を避けた。試料の取り扱いや保管方法など、日本ともオンラインで議論して工夫した。

Lalitpur 44700, Province No: 3, Nepal
電話: +977 984-8466166
E-mail: info.cesnepal@gmail.com
HP: <https://www.facebook.com/CESNepal/>



岩手山麓自然学校

町の天然記念物チョウセンアカシジミ保護！高畑牧野から広げる里のデワノトネリコ雑木林づくり

活動地域  岩手県



高畑牧野でのデワノトネリコの植樹活動

課題

町の天然記念物に指定されたチョウセンアカシジミは、郷土のシンボルとなる珍しい蝶であるが、組織的な保護ははかられておらず、岩手山麓における絶滅が懸念されている。

目標

岩手山麓の林野域や水田農村域にデワノトネリコの育つ雑木林を再生し、環境学習の場として活用し、管理することで、チョウセンアカシジミを絶滅の危機から救う。



今後の展望

高畑牧野をはじめ、環境荒廃が進行しつつある岩手山麓の林野域・農村域において、チョウセンアカシジミの保護や生物多様性・自然景観の保全とあわせて、人が自然と安心安全に触れあえるよう、環境づくりを行う。

ひろげる助成

1年目

実践

活動内容と成果

絶滅が危惧されている町の天然記念物チョウセンアカシジミを保護するために、民家の庭先などにデワノトネリコ(チョウセンアカシジミの食樹)を植栽し、チョウセンアカシジミの繁殖地を水田農村域に新しく確保することもできた。あわせて、荒廃が進む高畑牧野において明るい雑木林の再生や自然観察コースづくりを進め、デイキャンプやハイキングなどの野外活動のほか、デワノトネリコの植樹を実施したことで、チョウセンアカシジミ保護や、高畑牧野など岩手山麓に広がる林野の環境を保全し、体験学習に活用する活動を広げることができた。



民家の庭先に植栽したデワノトネリコの若木

チョウセンアカシジミの生息地づくり **5か所**

高畑牧野での自然体験学習会の開催 **13回**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の拡大により、人の集まる調査保護活動や、環境学習会の実施における参加者募集が難しくなった。

■工夫した点

環境学習会より感染リスクの低い人里離れた山奥での環境整備活動や農村域でのデワノトネリコの植栽活動を優先することにした。

〒020-0506
岩手県岩手郡栗石町沼返467-2
電話: 019-692-5899
E-mail: eacgreen1893@gmail.com
HP: <http://biological-diversity.com/shizen/iwate/>



(特非) 隠岐しぜんむら

隠岐諸島の島前地域における自然環境の保全体制の構築

活動地域 島根県隠岐郡



植物調査中

課題

隠岐島前地域の住民は自然と関わりながら生活しているため、独自の生態系であることを認識していない。そのため、環境改変等で特殊な自然環境が破壊される可能性がある。

目標

隠岐島前地域の自然環境の現状が整理できる調査が行われ、島前地域の自然環境の現状が把握される。そして、各島ごとに島の環境に合わせた保全活動の実施体制が構築される。



今後の展望

島前地域3島の調査を実施し、中ノ島の植物ハンドブックを作成した。他の2島でも同様の植物ハンドブックを作成する。そして、それぞれの島のハンドブックを自然観察等で活用して保全活動につなげる。

ひろげる助成

1年目

実践

活動内容と成果

【調査活動】

- 島前地域3島内の生物調査実施回数：37回
 - 中ノ島の植物ハンドブックを作成し、町の施策を担う行政各所と地域住民に配布した
 - 調査による新知見を論文、隠岐の文化財で4項目発表
- #### 【普及啓発活動】
- 中ノ島の自然観察会を1回実施 参加者：5人
 - 西ノ島の自然観察会を1回実施 参加者：12人
 - 自然観察会のPR動画を6本作製し、YouTubeで発信
 - 自然展示会を1回実施(中ノ島)
 - 中ノ島の希少種生育域の整備を2回実施
 - 中ノ島の希少種6種を保全する看板を作成、設置



植物ハンドブックを作成しました！

島前地域内調査	37回
島のハンドブック作成	1冊
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	30%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で積極的な普及啓発活動の実施が困難であった。

■工夫した点

普及啓発のために、自然観察会の動画を作成し、YouTubeにアップロードすることで、自宅でも観覧できるようにした。

〒684-0403
島根県隠岐郡海士町大字海士5328-6
電話：08514-2-1313
E-mail：sizenmura@navy.plala.or.jp
HP：http://www.sizenmura.com/



(認特) 四国自然史科学研究センター

地域もクマも守る 四国の社会イノベーションプロジェクト

活動地域 四国



クマ被害を受ける養蜂箱に電気柵を設置

課題

四国に生息するツキノワグマは僅か約20頭と推定され、回復傾向がみられない。早急な保全対策が必要だが、地域住民のツキノワグマへの許容度は十分に高くはない。

目標

①地域への普及啓発、②トラブル防止の体制整備、③生息状況の把握、④ツキノワグマ保全による利益の創出により、地域がクマの生息を許容できる体制基盤を構築する。



今後の展望

住民意識調査から、地域の許容度の低さが明らかになった。地域の不安軽減のため、普及啓発やトラブル防止の体制整備に力を入れつつ、地域づくりや地域観光の視点を取り入れたポジティブな活動を進める予定である。

ひろげる助成

1年目

実践

活動内容と成果

- ①調査・活動ステーションの設置、座談会や展示会の実施、普及啓発パネルの制作、チラシ配布、住民意識調査、活動報告冊子の制作など、地域への普及啓発活動を実施
- ②地元住民と協力してクマによる養蜂被害の防除活動を実施
- ③生息地の周辺地域でカメラトラップ45地点を設け、外縁部における生息状況調査を実施
- ④地域とツキノワグマの共生に寄与する商品・サービスを「ISLAND BEAR Friendly」と名付け、第一弾として地元企業と連携した「ISLAND BEAR Friendly五稜箸」を販売



活動に協力いただいている地域の方々

養蜂被害防除の実施者数	3人
生息確認地点数	15地点
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	40%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

参加者を募った一斉調査ができず、45台のカメラトラップを少人数で設置・回収した。

■工夫した点

地域住民数人に協力いただき現地調査を実施した。クマの生息地と一緒に歩き、保全意識の共有や連携体制の構築などが行えた。

〒785-0023
高知県須崎市下分乙470-1
電話：0889-40-0840
E-mail：sion@lutra.jp
HP：http://www.lutra.jp/



(特非) ニッポンバラタナゴ高安研究会

高安の里におけるニッポンバラタナゴを保護するための地域循環共生圏づくり

活動地域 大阪府



ニッポンバラタナゴの保護のためのドビ流し

課題

高安地域の自然再生活動によって、持続可能な生態系サービスを維持しながら、ニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全するための地域循環共生圏を構築する。

目標

地元住民や行政及び都市部のものづくりの得意な企業や住民と連携し、ニッポンバラタナゴを含む生物多様性が保全される高安地域循環共生圏を構築する。



今後の展望

高安中学校区まちづくり協議会と協働し、「八尾廃校SATODUKURI BASE」を拠点として、きんたい廃校博物館や河内木綿の伝承の場、及び、高安山の森林資源を利用した木育教室を同時開催する。

ひろげる助成

1年目

実践

活動内容と成果

高安地域の自然再生活動である、ニッポンバラタナゴ(キンタイ)の保護池調査やドビ流し(池干し)、里山の森林整備、及び里地の有機栽培を実施することで、ニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全するための地域循環共生圏の構築を目指した。その成果は、森林資源のバイオマスエネルギーとしての利用や有機野菜やブランド米(きんたい米)、河内木綿の商品化など、自立分散型の持続可能な生態系サービスの利用方法の可能性を確認すると同時に、ニッポンバラタナゴの個体数も予想を超える約10万尾を保全することができた。



保護池の水で栽培したきんたい米

ニッポンバラタナゴの個体数 **10万尾**

きんたい米の生産量 **300kg**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **50%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症と夏の猛暑の影響で、保護池調査や河内木綿の栽培が一時期停止したため、ドブガイの繁殖や綿の収穫量が激減した。

■工夫した点

オンラインでドビ流し(池干し)の中継や活動紹介を実施した。また、保護池の貝を再生するためのナノバブル発生装置を設置した。

〒581-0872
大阪府八尾市郡川5-131
電話：072-941-7682
E-mail：n_baratanago@yahoo.co.jp
HP：http://n-baratanago.com



(特非) 大山千枚田保存会

台風被害が里山里海の生態系に与えた影響の把握と、そこから考える里山里海の保全活動

活動地域 千葉県鴨川市



台風で荒れてしまった竹林の整備

課題

令和元年に発生した台風は私たちの自然環境・生活環境に多大な影響を与えた。台風が里山里海に与えた影響を把握し、新たな保全活用法を検討することが急務であると考えた。

目標

台風による里山里海の生態系への影響が把握されると同時に、それらが再生・保全するための活動が普及される。



今後の展望

オンラインも含めた里山里海的环境をライブで伝えることのできる勉強会の開催方法は、工夫する必要性を感じた。同時に気候変動と自然生態系の関わりを伝えるためにツールの開発に結び付けた。

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- ①里山の生物について21回の観察会形式の調査を実施した。また、地元漁師10人に海洋環境の変化についてヒアリングを行った。
- ②3aの森林に対して、2回の森の健康診断及び10回の森林整備を行った。
- ③森の新たな活用、海と森の結びつき、台風後の里山の生物相の変化について学ぶ勉強会を6回行い、森林活用計画を作った。
- ④これらをもとに台風が里山里海に与えた影響について伝えるためのリーフレットを5,000部作成し、関係団体及び体験参加者に配布した。



台風後の里山

里山の生物相の調査 **21回**

里山里海の活用法の勉強会 **6回**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **40%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍ということもあり外部との調整やスケジュールの変更などは苦労した。

■工夫した点

地元中学生や農家に積極的な働きかけをすることで活動を進めることができた。

〒296-0232
千葉県鴨川市平塚540
電話：04-7099-9050
E-mail：info@senmaida.com
HP：https://senmaida.com/



(特非) 森からつづく道

オオキトンボを育む里地を知る・保つ・伝える・つなげるプロジェクト

活動地域 愛媛県松山市北条地域



小学3年生の授業でのオオキトンボ産卵観察

課題

希少種・オオキトンボが生息するため池で発生が減少が続き、温水開始の遅れ等が要因と推察されたが、特定は困難であり、農業従事者に保全の関心を高めてもらいにくい。

目標

本種が発生する五つのため池の管理者により、生息地ネットワーク構想が共有され、広域で本種の生息に寄与するため池管理が導入され、生息数の増加傾向が継続する。



今後の展望

複数のため池において本種の生息環境維持に資する管理を働きかけ、生息地ネットワーク構築を推進する。里地の生物ポスターを小学校で掲示してもらい、解説の機会によって接点を増やし、保全の機運の醸成を進める。

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- 本種の生息環境の維持に資するため池管理のマニュアルを基に発生のため池の水管理が行われ、激減した2018・2019年から発生が増加に転じた
- 本種の認知度調査では、市中心部で16%、地元では29%であり、さらなる認知度向上が必要
- 里地・里山の調査から、トンボ・野鳥・チョウ・植物の4種のポスターを制作し、生物多様性を発信するツールの整備が進んだ
- 本種に関する学習が小学校の授業として定着。近隣2高校が本種の保全をテーマに研究や情報発信に取り組んだ。ピーチクリーン活動団体と連携が生まれた



イベント出展でのトンボ古い・認知度調査

認知度調査参加者 **253人**

ステークホルダー増加数 **3組織**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **40%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

調査結果報告や水管理状況の聞き取りにあたり、ため池管理者と日程調整が難しく、草刈りに参加して情報提供・収集を進めた。

■工夫した点

身近にいる多様な生物を解説するオオキくん通信(A4カラー両面)を発行し小学校等に配布。22号を数え好評を得ている。

〒790-0827
愛媛県松山市鈿砲町1-7
電話：089-992-9152
E-mail：info@morimichi.org
HP：http://morimichi.org



自然保護・保全・復元

(一社) はまのね

害獣として憎まれている鹿との共生を考える多様な関わりしらのデザイン

活動地域 宮城県



配布した広報ツールがcaféで読まれる

課題

人間都合で命を翻弄され、今また害獣の名の下に大きく数を減らされようとしている二ホンジカと共生するとはどういうことかを考えること。

目標

地域住民やイベント参加者の鹿への理解が深まるとともに、新たな関わり方をデザインすることで、同じ環境の中に生きる生命同士として、多様な共生のあり方を模索する。

復興支援助成

1年目

実践

活動内容と成果

- ①鹿への理解を深めるための知識・見方・技術の提供
 - 生態学・生物学・史的な知見を伝える広報ツール制作 →ランチョンマット型でコーヒーの下敷き等にして、くつろいだ形で知識や見識を深められるデザインとした
- ②多様な関わり方の種まき
 - 捕獲した鹿の活用のあり方として、動物園の飼養動物への給餌について先行事例を調査した
 - 未利用部位の利用に向けて8レシピを開発した
 - 簡易で簡単に組み立てられる解体キットを開発した
- ③より深く関わる人のためのシカハウスの建設(リノベ)
 - 第1期工事が完了した



骨の髄を使ったソースと脂や筋で炒めた副菜

未利用部位の利用を促すレシピ開発 **8個**

多様な視点から鹿を知る広報物 **3種**

今年度計画の達成度 **30%**

目標達成度 **10%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

体感や山の中で現場を見ながら、という形での事業を予定していたため、新型コロナウイルス感染症の影響をもろに受けてしまった。

■工夫した点

長期的な展望に立ち、今年度は次年度以降の活動がより円滑に進むような土台づくりにシフトした。

〒986-2353
宮城県石巻市桃浦字蛤浜18
電話：0225-90-2909
HP：https://www.hamaguridou.com



今後の展望

害獣や狩猟といった一方的な見方や焦点の当て方から脱却し、クリエイターとの協働による新たな見方の提供や、関わり方のハードルを下げることで、様々な人が鹿と多様な接点を結べるような活動を行ってきたい。

世界に誇れるセーリング会場にしよう！自然の環境活動への理解を深める江ノ島エコプロジェクト2020

活動地域 神奈川県

特別助成

1年目

知識の提供・普及啓発

海岸清掃参加者 **794人**

イベント参加者 **105人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **70%**



マリンスポーツの終わりに海岸清掃

活動内容と成果

各種海岸環境保全啓蒙イベントの開催
東京五輪セーリング競技の種目であり、江ノ島で開催されるヨットとウインドサーフィンのトップアスリートと一緒にイベントを、競技を知らない地域住民たちを中心に実施した。近くで観覧・応援できる機会を作ること、海やビーチという環境への理解と環境保全の意義や大切さを深めると同時に、マリンスポーツと海やビーチの関係について学ぶ機会とした。結果、地域の子どもたちを中心に、自発的にマリンスポーツをしたら海岸清掃という習慣・考えを体感してもらえた。



ウインドサーフィンのイベントレースの様子

課題

東京五輪セーリング競技開催予定地である江の島は、地元外からの観光客、海利用者、マリンスポーツ利用者が急増し、利用調整、海岸、砂浜環境、風紀の悪化が深刻化している。

目標

地元住民たちが中心となって、問題解決と、海外から東京五輪をめざしてやって来る人たちに、環境を大切に、美しい街江ノ島を印象づけるための枠組みを作る。

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍におけるイベント等の開催可否の日程等の調整と参加募集に苦労した。

■ 工夫した点

目的意識を持ち海岸清掃を行うため、イベント後に清掃を実施し、自発的な意識付けを行った。

今後の展望

2021年度の東京五輪を一つの区切りとして、スポーツと海岸環境保全の意識付けを継続して行っていくこと、夏季の砂浜利用者が多い時期に、どのような取組みができるかを地域住民の方々と調整していきたい。

〒251-0035
神奈川県藤沢市片瀬海岸1-12-4
電話：50-2018-0944
E-mail：info@coco-bea.com
HP：https://www.oceansport.jp/



DEXTE-K

西なぎさ発：東京里海エイド (ラムサール条約に登録された葛西干潟における漂着ごみ収集を中心とした保全活動)

活動地域 東京都

LOVE BLUE助成

1年目

実践

漂着ごみ収集量 **80袋**

参加者人数(延べ) **116人**

今年度計画の達成度 **40%**

目標達成度 **38.6%**



11月21日活動状況(集合写真)

活動内容と成果

- 【活動日】
- 通常開催：6月20日(土)、11月21日(土)
 - 臨時開催：9月27日(日)、10月31日(土)
 - 参加者総数：116人(うち子ども：4人)
 - 漂着ごみ総数：45リットルごみ袋×80袋
 - 粗大ごみ：28
- 【特別開催】
- 通常開催：12月13日(日)
 - えどがわエコセンターとの共催による「エコアクション講座」
※ 木村尚氏を招いてのフィールド活動と特別講演会の実施
 - 人数：56人(うち子ども：12人)
 - 漂着ごみ総数：45リットルごみ袋×12袋



12月13日の活動状況

課題

東京湾最北端部に位置する葛西海浜公園/西なぎさはラムサール条約登録湿地となったが、河川からの漂着ごみが絶えない状況である。

目標

上位目標は、東京湾及び西なぎさにおける海洋ごみの根絶、またそれに向けたステークホルダーの拡大と連携による環境保全維持活動の維持・継続を目指している。

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍でのフィールド活動は、半数以下での開催となったが、変わらず漂着する河川からのごみをいかに低減するかが課題であった。

■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍の緊急事態宣言の狭間に、フィールド活動の臨時開催や特別開催の機会を設けて対処した。

今後の展望

西なぎさに漂着するごみのほとんどが、河川からの首都圏の生活ごみであり、ステークホルダーは首都圏在住の約3千万人である。より多くのステークホルダーを巻き込み、漂着ごみを少しでも低減させたい。

〒134-0086
東京都江戸川区臨海町
電話：03-5878-1173
E-mail：tokyo-satoumi-aid@
dexte-k.com
HP：https://dexte-k.jp/



ルワンダ国Ntebeコミュニティにおける丘陵地帯の土壌侵食と湿地帯の洪水を防ぎ、住民の水へのアクセスを向上させる総合的雨水集水モデル

活動地域  ルワンダ



屋外で実施された運営・維持管理の座学研修

課題

ルワンダの国土の多くは丘陵地であり、耕作地の60%以上は斜面上に位置し、その多くは農耕を推奨される範囲を超え、深刻な土壌侵食とともに、低い農業生産性に陥っている。

目標

住民の水へのアクセスを向上させることに焦点を置き、雨水集水モデルを活用した水利用のメリットとの相乗効果により、豪雨による土壌侵食と洪水の災害を抑制する。



今後の展望

建設された雨水集水モデルを活用した給水システムを運用し、その有効性をコミュニティで確認する。同システムの運用を続けていながら、課題を抽出し、対策を実施することで、同システムの利用を広げていく計画である。

つづける助成

2年目

実践

活動内容と成果

- 丘陵地に暮らすNtebeコミュニティの住民を対象に雨水集水モデルを活用した給水システムを建設
- 昨年度設立されたコミュニティの水利管理委員会に対して運営・維持管理にかかる研修を実施
- 雨水集水槽（容量150m³）1基、雨水集水槽へ流し込む水路（全長800m）を建設



建設された雨水集水槽（貯水量150m³）

雨水集水槽（150m³）の建設 **1基**

水路（800m）の建設 **1路線**

今年度計画の達成度 **95%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの流行により、ルワンダ国内の移動が制限され、集会開催が制限された。加えて、建設資材価格が高騰した。

■工夫した点

助成活動地域への移動許可を警察から取得し、研修は屋外開催とした。建設資材購入のため、団体自己資金を投入した。



P.O.Box 5618 Kigali/ Rwanda

Road KG 11 Av, Kigali/ Rwanda

電話：+250 788305443

E-mail：info@arde-kubahorwanda.org

HP：http://www.arde-kubahorwanda.org

(特非) D・B・Cグループ

絶滅寸前ザゼンソウとその環境の保全活動

活動地域  兵庫県但馬全域



ザゼンソウの株分け後の株数確認作業

課題

ザゼンソウの保全では温暖化による水源確保のための作業と、春先の害獣による食害を防ぐための手立てがいかに計画どおりにこなせるか。

目標

害獣対策の徹底を行い、株分けを実施し、総面積の120%への拡大を目指す。それに伴い登録ボランティア30人を目標とする。



今後の展望

作業は野外作業なので、今後の継続には保険加入や作業内容別の割り振り、また啓蒙活動の一環の写真展などを本年度はドローン映像を交えるなど、明確で参加しやすい継続事業とし提示、実行していく。

つづける助成

2年目

実践

活動内容と成果

- 1年目、小代地区のザゼンソウ保全面積は予定地域の64%
- 2年目は調査株数200株を数え、保全面積ものり面以外をほぼ行い予定地域の90%保全した。また、この年は株分けも予定どおり行い、総面積の20%をカバー。ザゼンソウ湿地見学ブッシュクラブ・エコツアーでは40人が参加した。地域のガイドクラブ、営農組合等も保全の連携ができた
- 3年目、ボランティア登録システム「おじろザゼンソウ・ファン・クラブ」をスタートさせるべく、会合、啓発活動、講習会等で全体像がみえた



保全作業の安全確認とスケジュールの打合せ

ザゼンソウ株数調査 **200株**

ザゼンソウ・ツアー参加者 **40人**

今年度計画の達成度 **50%**

目標達成度 **65%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

参加ボランティアの確保と継続参加を理解していただくことと新規募集が本年新型コロナウイルス禍で思うようにできなかった。

■工夫した点

保全啓発と但馬のザゼンソウ認知が写真展を開催することで年代関係なく行えたことはファンクラブへの足掛かりにもなった。



〒667-1511

兵庫県美方郡香美町小代区神水738

電話：080-8516-4974

E-mail：inouekameo1958@gmail.com

HP：inouekameo1958.wixsite.com/website

(特非) 大杉谷自然学校

建設工事における環境配慮行動の推進

活動地域 三重県



専門家との既設構造物の調査

課題

自然体験等により普及啓発活動に努めてきたが、河川環境に大きな効果があるのが河川工事である。河川工事には環境保全指針があるものの、配慮されていないと感じる。

目標

大台町内の公共工事における環境配慮行動の増加により、宮川上流の自然環境が保全される。

活動内容と成果

定点で行う宮川調査で魚種23種を確認。別調査にて共著論文を1本発表予定、また希少魚類の新産地を町内で発見。その他に、町直轄の公共工事の対象箇所(溜池43、河川192)を地図上で把握。体験活動では漁協組合の協賛で伝統漁法の継承を実施。観察会で参加者に実施したアンケートにおいて、「公共工事で自然や生き物に配慮してほしいかどうか」尋ねたところ、「そう思う」という意見を参加者全員から得られた。活動の広がりとしては、上記の協賛、専門家や有識者との調査、新規協力者の確保、基金内での関係構築があげられる。



地域の自然有識者との生物調査

今後の展望

調査データを蓄積し説得力のある資料を作り、勉強会等で認識のすり合わせを円滑に進める。また、事業の継続のため、協力者や住民理解の確保、仕組み作りを進める。行政が動きやすくなるために、指標作りも進める。

ひろげる助成
2年目
実践

町内自然体験参加者	23人
調査回数	15回
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	55%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で対面での活動に支障が出た1年だった。町民だけを対象にした体験活動の参加人数にも影響が出た。

■工夫した点

地域外の協力者とZoomやメール、電話等に対応可能な部分を進め、活動により広がりを持たすべく、物品や教材開発に着手した。

〒519-2633
三重県多気郡大台町久豆199
電話：0598-78-8888
E-mail：info@osugidani.jp
HP：https://osugidani.jp/



(特非) どんぐり王国

流域単位の里山保全と体制づくり

活動地域 愛媛県



耕作放棄地の活用 見守り隊基地に小屋作り

課題

当地区は平成30年西日本豪雨で被災。被害拡大の要因に耕作放棄地が挙げられる。遅々として進まない復興活動に住民から不安の声が上がり里山保全への意識が高まっている。

目標

支流域単位で里山見守り隊を結成し住民による里山保全を行う。耕作放棄地削減の取組み、環境保全、生物多様性の啓発を行い持続可能な里山モデルを構築する。

活動内容と成果

- 里山見守り隊の活動は当初の計画を大きく上回り年4回の活動が毎月の活動となった。それにより新たなコミュニティが生まれている
- 耕作放棄地の利用も順調で里山見守り隊基地周辺の子どもの遊び場、こども果樹園は地域の保育園、幼稚園の自然体験に利用されている
- 耕作放棄地を利用した麦の栽培も定着しつつある。中間コンサルテーションのアドバイスを受け、西予市ふるさと納税返礼品に登録を申請。地元特産品として指定を受け販売されるようになり、6次産業化の足がかりができた



モデル農園 幼稚園児の麦踏み体験

ひろげる助成
2年目
実践

里山見守り隊参加者	158人
耕作放棄地モデル化	50a
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	80%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

今後の活動の継続を考えると里山見守り隊の活動が自主的な活動になる必要があり、それを引き出すのに苦労した。

■工夫した点

毎月の活動の後、話し合える場をつくり参加者の意見を活動にいかせるよう工夫した。

今後の展望

中間コンサルテーションでのもう一つのアドバイスに活動の持続化があり、地域のみならず広く若者を募集し次世代に引き継ぐ下地作りを今後の目標とするため、高校生や大学生の参加を促すような働きかけをしていきたい。

〒797-0010
愛媛県西予市宇和町明間
1766番地
電話：0894-67-0056
E-mail：kokuoumail@gmail.com
HP：http://www.pikara.ne.jp/donguri-oukoku/



オオサンショウウオの暮らす清流を守ろう！ 自然体験のフィールドづくりからはじめる水と 緑の回廊の再生

活動地域 岡山県真庭市



下和川「長とろ」での体験型環境学習会

課題

オオサンショウウオの個体群が豪雨のたびに流され、元の生息域に戻れないことに加え、以前の生息域も河川工事などによって環境が改変されており、生息個体数の減少が進行。

目標

豪雨により流されたオオサンショウウオの個体群の保護を図るとともに、生息地となる清流環境の保全と再生を進めることで、オオサンショウウオの永続的保護を目指す。



今後の展望

田羽根川・下和川水系について、ハンザキサクチュアリとして集中的に保護対策を講じるとともに、生息地での環境学習会を多く開催し、賛同者・協力者を増やしながら、「オオサンショウウオの暮らす川づくり」を進める。

活動内容と成果

豪雨のたびにオオサンショウウオの個体群が流され、生息個体数の減少が著しい岡山県北部の生息地において、「オオサンショウウオの暮らす川づくり」を進めるための調査・検討を行った。また代表的な生息河川である田羽根川についてハンザキサクチュアリ（オオサンショウウオ保護管理河川）として保護対策を行うとともに、新型コロナウイルスの影響下においても、美しい清流の環境づくりを進めている下和川「長とろ」を活動拠点に、県内広くから多くの親子が参加する体験型環境学習会を開催し、オオサンショウウオ生息地再生活動の輪を広げることができた。



観察会で捕獲された全長110cm超の個体

ひろげる助成

2年目

実践

啓発活動の調査会・観察会の開催 **28回**

活動の拠点となるフィールドづくり **4か所**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響下ゆえに、下和川「長とろ」での野外環境学習会への参加希望者が県内に急拡大し、その受入対応に時間を費やした。

■工夫した点

運営体制を強化し、自然体験学習会の実施日を増やすとともに、フィールドを拡大させ、時間差でのプログラム進行を行った。

〒689-2352
鳥取県東伯郡琴浦町浦安250-10
電話：0858-53-1237
E-mail：eac-gren@po.harenet.ne.jp
HP：http://fine-country.com/harenokuniyaseiseibutsu.htm



（一社）ふるさとけものネットワーク

鳥獣被害対策における支援組織の育成・提言・ネットワーク化

活動地域 日本全国



けもの塾オンライン講座の作成

活動内容と成果

計画当初から新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるオンライン化を余儀なくされたが、すべてのプログラムをオンライン開催に切り替えることにより、実施できた。しかし、音声トラブルや司会進行の難しさなど課題も残り、次年度以降も運営スキルを高めていく必要がある。けもの塾は当初からオンライン化を計画していたため、予定通り作成することができたが、講師陣のスケジュール調整に難航したため、公開が年度末になってしまった。次年度は、作成した講座をしっかりとPRして、けものまぢ医者を増やしていきたい。



野生動物対策技術研究会の開催様子

ひろげる助成

2年目

実践

けものJOB活参加者 **120人**

野生動物対策技術研究会参加者 **118人**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

被害に困っている高齢化集落において、対面での支援ができず、チラシなど配布物のみの対応になったこと。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍において、担い手育成のプログラムをすべて対面でなくオンラインに切り替えたこと。

〒501-4601
岐阜県郡上市大和町大間見
307番地
電話：050-5276-2555
E-mail：kouzen@metamori.org
HP：http://furusato-kemono.net/



今後の展望

新型コロナウイルス禍における獣害対策支援として地元の担い手育成を遠隔で行い、フォローしていく体制を整えたい。けもの検定における信用度を高め、けもの塾オンラインを受講する参加者を増やしていきたい。

ネパールにおける猛禽類をはじめとした鳥類及び自然環境を保全していくための人材の育成

活動地域  ネパール



飛ぶ姿を通過する猛禽類

課題

ネパールは850種以上の鳥類が記録される自然豊かな国だが一方で開発が進み、人知れずクマタカなどの貴重な猛禽類の生息地が脅かされている可能性がある。

目標

ネパール人が自立して調査・研究及び啓発活動を行い、一般の人たちも巻き込んで鳥類の保護活動が進んでいく基盤が作られた状態にする。



今後の展望

ネパール人が自立して調査・研究及び啓発活動を行っていただけるよう資金源としてエコツアーを定着させネパール鳥学会主導で継続していただける体制を作る。そのためにエコツアーガイドの育成を引き続き行っていく予定。

活動内容と成果

- クマタカの営巣地の踏査・GPSの装着個体の追跡・猛禽類の渡り調査・トレイルカメラを用いた生物調査をネパール鳥学会が実施し、リモートで指導を行った
- 新たな観光資源発掘のためネパール鳥学会で選出した5か所において、エコツアーの観点でネパール鳥学会会員が調査及び情報整理しその内容について指導を行った
- セミナーで使用するパワーポイント案をネパール鳥学会会員が作成し、その内容について指導を行った
- 啓発用リーフレットを日本とネパール併せて1,850部配布し活動について普及啓発を行った



啓発用リーフレットを読む学生たち

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

猛禽類カウント総数 **6,460羽**

猛禽類の重要性を示した冊子配布数 **1,850部**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の影響で現地訪問ができないことで、試験的なエコツアーの実施や実地指導などできないタスクがあった。

■工夫した点

ネパール鳥学会会員に業務委託を行い、メールやオンライン会議で密に連絡を取り合うことで目標達成に近づけることができた。

〒166-0012
東京都杉並区和田3-54-5
第10 田中ビル3階
電話：03-5378-5691
E-mail：research@jspb.org
HP：http://www.jspb.org/



PALLISHREE

インド国ベンガル湾岸湿地 (バフダ入江およびルシクリヤ河口) における環境保全型クラブバンクの推進とプラスチックフリーエリアの開発

活動地域  インド



抱卵カニ保護活動の様子

課題

対象湿地でみられる乱獲やごみ投棄、気候変動による海洋生物への影響と生活困窮が危惧されている。住民の環境意識は乏しく、地域社会の環境適応・回避能力は脆弱である。

目標

ベンガル湾岸湿地の自然環境を再生し、そこで生活する人々が湿地を賢明に利用するために、クラブバンクの導入とプラスチックフリーエリア (PFA) を創出する。



今後の展望

各活動で得た教訓をもとに、バフダ入江とルシクリヤ河口の両湿地で、環境保全型クラブバンク及びプラスチックフリーエリアのモデル地として活動継続できる体制を目指す。

活動内容と成果

- 下記の活動を実施した。
- ①CBを設置し、推計2億950万匹のワタリガニ種苗をベンガル湾に放流
 - ②マングローブ (1万2,000本) や一般植樹 (8万本) 植林による緑化面積増加
 - ③住民グループを結成し、清掃活動を実施、計700kmのごみを収集
 - ④壁紙10枚、参加型エコゲーム、ニュースレター (計2巻4,000部)、クラブバンクのリーフレット (3,000部)、森林保全のブックレット3,000部、環境ラリー活動、環境エッセイや絵画コンテスト等を通じて環境普及啓発



住民グループ運営会議の様子 (PFA創出)

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

ワタリガニ卵放流推計数 **2億950万匹**

ごみ収集 **700 km**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **80%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍の移動制限、異なる文化・言語を背景に、住民同士や住民と外部機関との意思疎通が難しい状況であった。

■工夫した点

湿地の賢明な利用を促進するために住民参加型の活動を多く取り入れるとともに、政府の支援も呼びかけ環境活動を活性化させた。

502/2 Mallick Complex, P.O.-Khandagiri, Bhubaneswar-751030, Dist-Khorda, Odisha, India
HP：http://www.pallishree.org/



宮城の浜の海洋ゴミを減らそうプロジェクト

活動地域 宮城県

LOVE BLUE助成
2年目
調査研究

定点調査	4回
清掃活動	8回
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	100%



荒浜での清掃活動

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍で、大規模な調査・清掃活動やセミナーが実施できず、求める成果に近づけるための活動の修正を余儀なくされ、参加者を集めるのにも苦労した。

■ 工夫した点

予定通りの実施は難しいとわかった時点で方向転換し、広範囲のデータ収集はあきらめ、小規模で回数を増やして清掃活動し、大規模イベントの代わりに動画配信等を行った。

課題

県内各地の海岸で海岸ごみの定点調査ができていないということ。また海洋ごみについて他人事とらえている一般市民が多いということ。

目標

県内で海岸ごみの調査・清掃活動を行い、その結果から提言を行うこと。海岸にごみがなくなること。市民が海岸ごみに関心を持ち、ごみ抑制や清掃の意識を持ってもらうこと。

活動内容と成果

海洋ごみの定点調査を4回、清掃活動を8回行い、400袋で250袋ものごみを回収した。その結果、荒浜の海岸には目立ったごみはほとんどなくなった。小規模セミナー・ワークショップを8回、動画配信を1回(再生数76回)、取材対応・展示協力を4回行い、それぞれの機会を通じて多くの市民に海洋ごみ問題の深刻さを伝えることができた。その結果、定期的に海岸に足を運んでくれたり清掃に参加する市民が増え、海洋ごみ問題を自分事として意識してもらうことができた。



海洋ごみ普及啓発動画の一場面

全助成期間の活動を振り返って

県内全域の海岸では活動できなかったが、中心的に活動した荒浜においては、目に見えるごみはほとんどなくなり、地域住民や他団体による定期的な清掃活動の下地作りができた。また活動参加した市民は、海岸ごみには遠方から流れ着くものばかりではなく、河川から流れてきたと思われる身近なごみも多いことに気づき、問題意識を持ってもらうことができた。新型コロナウイルスの終息後に提言につながる説得力のあるデータ収集ができれば理想的。



宮城県主催イベントでの講師活動

〒981-0933
宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45フォレスト仙台5F
電話：022-276-5118
E-mail：melon@miyagi.jpn.org
HP：https://www.melon.or.jp/



今後の展望

海岸清掃を行う団体や市民のネットワークができ、今後も継続した活動が期待できる。当団体としてもボランティアとともに無理のない調査・清掃活動を続け、たく短い活動ではなく、細くても長い活動を行っていきたい。清掃活動と並行して、できれば将来的に何らかのデータに基づく海洋ごみ問題解決のための実効性のある提言を行うところまでいきたい。

(特非) ワイルドライフ・プロミシング

ケニア、マサイマラ国立保護区周辺、ゴイラレ (Nkoilare) 地域の野生動物保全活動

活動地域  ケニア



課題

対象地域において、野生動物と家畜が居住地を共有することで、野生動物の生息地や水場が減少し、結果的に野生動物の個体数が減少している現状がある。

目標

対象地域において、野生動物と家畜の棲み分け (Zoning) を根付かせ、地域マサイの人々が自発的にエコツーリズムに関わることで、野生動物との共存を目指す。



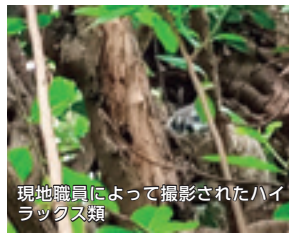
今後の展望

2020年度に予定していた活動を、2021年度に継続して取り組んでいきたい。2021年度は最終年度なので、活動が次に続くよう日本国内での広報活動にも力をいれていく。

つづける助成
3年目
実践

活動内容と成果

現地の活動がままならない中で、一般向けのセミナーを他機関と共催実施することで現地の活動を日本の皆さまに知ってもらうことができた。日本での活動をより活発化する良い機会となった。また、今回の新型コロナウイルスの影響を受けて、ケニア現地の人々に日々の様子を報告してもらうよう試みた。現地と日本の連絡手段の確保、現地活動助手の更なる育成の必要性を強く意識するきっかけとなった。現地の脆弱性、観光業への依存が露呈される結果となった。



現地職員によって撮影されたハイラックス類

日本向オンラインセミナー参加者数	120人
野生動物と人に関わる情報収集数	73レポート
今年度計画の達成度	20%
目標達成度	65%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍で、現地との連携を取るのが難しく、現地の人々の生活そのものが非常に脆弱であった。

■ 工夫した点

日本での活動に重点を置き、セミナーや動物園での活動につなげることができた。

〒063-0033
北海道札幌市西区西野3条7丁目
5-15
電話：011-667-4618
E-mail: zentyouyou@yume-dental.com
HP: <http://www.wildlife-promising.org/>



国際自然保護連合日本委員会

国連生物多様性の10年における民間の取組・成果集約と国際発信による次期国際枠組への貢献 (3年目)

活動地域  日本全域



課題

愛知目標の合意から10年が経過。2020年までの目標達成に向けてのさらなる取組み強化とともに、10年の成果の把握と次期目標への日本からの提言プロセスを作る必要がある。

目標

日本の民間を中心とした愛知ターゲット達成の取組みと成果をまとめ、国内外に発信することを軸に、次期目標の担い手となるユースの参画や能力養成を図ることをめざす。



今後の展望

日本におけるポスト2020枠組みへのNGOと環境省との意見交換については、高い評価を得る機会を重ねることができた。生物多様性条約下における交渉への政策提言について、手法や機会の作り方など検討が必要。

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- 生物多様性条約第9閣連会議は延期されたものの、オンラインフォーラムの傍聴、海外情報の国内への展開、様々なNGOを巻き込んだ、ポスト2020枠組みを受けた国内検討へのインプット (環境省との意見交換5回、オンラインフォーラムシリーズ計7回、760人登録) などを行った
- ユース支援については、指名した生物多様性ユースアンバサダーを支援し、10テーマでの活動を展開。成果発表 (オンラインイベント・電子での冊子製作) の機会を国内外で得るなど成果への評価が高かった



ユース活動成果冊子

政府への提言機会 (会合) の創出	5回
ユースアンバサダー	10チーム
今年度計画の達成度	30%
目標達成度	70%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

政策提言先である国際会議/交渉プロセスの延期や変化があり、事業の柱の一つが大幅な変更を強いられた。

■ 工夫した点

国内での政策提言はオンライン会議を活用し、全国規模で展開できた。ユース事業も、ユース団体の今後の成長の支える形で展開。

〒104-0033
東京都中央区新川1-16-10
ミトヨビル2F
電話：03-3553-4109
E-mail: iucnj@naesj.or.jp
HP: <http://bd20.jp/>



香港観鳥会 (The Hong Kong Bird Watching Society)

西部太平洋における海鳥の衛星追跡：渡り鳥で繋げるアジアの海と人々

活動地域  香港、インドネシア



太平洋海鳥グループのウェブ会議

課題

東南アジアにおいて、海鳥保全に必要な人材を育成し、重要サイトの保全対策を構築、保全の意識啓発を進める。西太平洋で海鳥保全研究者の協力ネットワークを構築する。

目標

アジアの重要サイトを集めた海鳥保全ネットワークが形成される。保全を進めるため、インドネシア、フィリピンなど各国との共同プロジェクトを実施する。



今後の展望

国際移動制限の緩和状況に応じて、インドネシアにおける活動のフォローアップを進めたい。またウェブ会合を通じて、より多くのアジア諸国からの活動への参加を促していきたい。

ひろげる助成
3年目
調査研究

活動内容と成果

新型コロナウイルス禍により国際的な活動は2021年度に延期せざるを得なかったが、香港では59羽のマミジロアジサシを標識放鳥し、2羽の衛星追跡により繁殖地周辺での行動圏を把握したほか、インドネシアのプロジェクトサイトが正式に海洋保護区となり保全が担保されることとなった。また三つのウェブ会議及びセミナーに参加し（うち二つは東アジアの海鳥研究者・保全関係者の会合）、渡航制限はあるもののアジサシ類保全へ向けた関係者の協力体制構築を進めた。



香港でのマミジロアジサシ調査

海鳥保護区の設立 (海洋保護区)	1 箇所
マミジロアジサシの衛星追跡	2 個体
今年度計画の達成度	40 %
目標達成度	60 %

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルスによる国際的な渡航制限で、インドネシアの現地活動を実施できなかった。

■ 工夫した点

ネットワーク構築に向け、韓国、中国、フィリピンの海鳥研究者・保全関係者を招いてウェブ会合を開き、活動を報告した。

7C, V Ga Building, 532 Castle Peak Road, Lai Chi Kok, Kowloon, Hong Kong
電話：+852 2377 4387
E-mail：hkbws@hkbws.org.hk
HP：https://www.hkbws.org.hk/



自然保護・保全・復元

(特非) 石西礁湖サンゴ礁基金

複合ストレスの影響を受ける八重山地方のサンゴ礁保全・再生に向けたサンゴ認定制度の構築

活動地域  沖縄県八重山地方



八重山地方のサンゴ礁

課題

八重山のサンゴ礁生態系を保全・再生するため、赤土流出や栄養塩類の低減、海域の過剰な利用を転換するなど影響を低減し、海域の環境に適した状態へ回復する必要がある。

目標

八重山のサンゴ礁への様々な影響を低減するため、環境負荷の低減や保全・再生につながる取組みや製品などを認定する制度の構築と普及を目指す。



今後の展望

今後は、八重山のサンゴ礁を守るフレンドシップ登録のツールの作成などの準備を行い、そのキックオフと普及を進める。また、社会実験の継続と、農地と観光以外のガイドラインについても検討していく。

フロントランナー助成
3年目
調査研究

活動内容と成果

今年度は、①サンゴ礁保全への行動変容を促すための参加スキームとしてのフレンドシップ登録制度の仕組みと普及戦略、②農地の土壌保全（赤土流出抑制）のためのガイドライン（案）、③社会実験において関心のある消費者からのフレンドシップへの高い支持、④栄養塩の低減のためのパイン栽培実験での元肥の流出形態などの成果を得ることができた。しかしながら、⑤フォーラムについては、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して延期の扱いとしたので未達成である。



社会実験（マルシェ）の状況

フレンドシップ登録制度の仕組み	1 仕組み
調査・研究ミーティング	4 回
今年度計画の達成度	100 %
目標達成度	50 %

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

地域での作業について、感染症予防を考慮した実施方法に苦心したが、時期と人材の選定、オンラインでの作業などを工夫した。

■ 工夫した点

八重山地方のサンゴ礁を守るフレンドシップ登録の仕組みを描くとともに、自発的な団体と連携することで社会実験に成功した。

〒907-0023
沖縄県石垣市宇石垣221番地
電話：0980-87-0935
E-mail：sangosho@dream.bbexcite.jp
HP：http://www.strata.jp/sangokikin/



八重山の世界環境に対応するサンゴ礁の再生とサンゴ礁を守る意識の向上

活動地域 沖縄県

つづける助成

3年目

実践

サンゴ畑のサンゴの生育率 **91.5%**

苗作り教室の参加人数 **35人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **85%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

報告会や苗作り教室など人を集めて開催するイベントを、新型コロナウイルス対策をしながらどのように開催するか苦慮した。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍の中、予定よりも遅れてのスタートとなったが、スケジュールを上手く調整し、計画していた内容のほとんどの活動を行うことができた。



サンゴ畑に魚が棲みはじめている様子

課題

八重山諸島では1970年代と比べるとサンゴの生育環境が50%以下になっており、このままではサンゴの回復が難しくなっていること。

目標

- サンゴ礁を守る意識の向上
- 八重山の世界環境に対応したサンゴ礁の再生のためのサンゴ養殖活動

活動内容と成果

- サンゴ苗の株分けや、サンゴ苗の移動を行った。水深の浅いA畑では、合計3,410本のサンゴ苗が完成し、3月末での生育率は、91.5%だった。A畑の合計養殖面積は、696㎡となった。水深の深いB畑では、合計387本のサンゴ苗が完成し、3月末での生育率は、83.7%だった。B畑の合計養殖面積は88㎡となった
- サンゴ苗作り教室では、例年よりも少人数での開催として、合計35人の参加者が集まった
- 関東圏の報告会では、29人の参加者が集まった



サンゴ苗作り教室の様子

全助成期間の活動を振り返って

サンゴの白化に強い苗を探すこと、白化の原因でもある水温上昇を避けた、水深の深い場所でのサンゴの養殖を開始できたことは、サンゴの養殖を続けていくにあたってとても意味のある活動になった。まだまだチャレンジの段階ではあるが、この3年間で培ってきた経験や、ネットワークをいかして今後も活動を続けていきたい。サンゴの苗作り教室の開催も毎年行うことで、子どもたちのサンゴへの意識の向上につなげることができた。



関東圏の報告会の様子

〒907-0004
沖縄県石垣市登野城480-1
電話：0980-87-5088
E-mail：info@kanko-ishigaki.org
HP：http://kanko-ishigaki.org/



今後の展望

サンゴの養殖畑を拡大していくことはもちろんだが、今あるサンゴの苗を成長させることで、数年後には産卵できる大きさになることが予想される。産卵することで、今のサンゴ畑の周りにも、自然のサンゴのコロニーが作られることも期待したい。企業CSRの獲得件数を今よりも増やしていくことで、今後の団体の自立にもつなげていきたい。

オランウータンに熱帯の森を —インドネシアにおける熱帯雨林回復の取り組み—

活動地域  インドネシア

ひろげる助成

3年目

実践

森林再生のための調査 **3回**

資料、教材の作成 **600部**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍の影響で人が集まる機会を制限され、表立っての会合等の呼びかけは自粛せざるを得なかった。従来の普及啓発活動からの転換が必要であったが対応が不十分だった。

■工夫した点

インドネシアは日本をはじめ海外からの入国、国内での人の移動が制限された1年だったが、現地のスタッフ(村人)を中心にまとめ、活動を維持、継続した。



「熱帯に森を残そう」を発行しました

課題

野生オランウータンの生息地である熱帯雨林は石炭の露天掘りなどの開発が進むことで、入植や違法伐採が増加し、荒廃が進んでいる。

目標

オランウータンの生息地である森林のこれ以上の状況の悪化を防ぎ、再生への道筋をたてること。

活動内容と成果

現地の森林の状況把握と現在の土地利用状況の調査、パトロールなど森林の再生に向けた取り組みを行った。現地は新首都移転の新しいニュースとともに各地で耕地化が進んでいる。こうした状況を踏まえて新たな再生計画案を作成、実施する必要があるが、今年度は予定どおり進めぬ点も多く、棚上げとなっているものに関しては、今後引き続き取り組んでいく必要がある。また、熱帯雨林の保全に関する普及啓発活動も行っているが、今年は活動の節目の年でもあり、教材資料として小冊子「熱帯に森を残そう1、2」をまとめた。



果樹園となりランブータンが植えられていた

全助成期間の活動を振り返って

私たちは、自分たちが主体となって、現地の人々とともに直接課題にあたるという形で長年活動を続けてきた。そういう意味で現場主義ののだが、本年は助成最終年であったにもかかわらず、現地への渡航がかなわず、今後の事態の早急な改善も期待できない状態となっており、見通しがつかず非常に残念である。しかし、一連の活動により、プロジェクトの重要性、意義に関しては理解が進んでおり、今後も時をみて計画を進めていく必要がある。



植樹して5-6年たった場所

〒162-0065
東京都新宿区住吉町8-23 富井ビル2F
電話：03-5363-0170
E-mail：mof.orangutan@gmail.com
HP：http://moforangutan.web.fc2.com



今後の展望

森林再生への取り組みは緊急の課題ではあるが、同時に時間がかかる息の長い取り組みでもある。今回は生憎の事態となり、足踏みを余儀なくされているが、長い目で見ればこれもひと時のことである。人の目が届きにくい中、一帯の見回りは非常に重要であり継続していく必要がある。私たちはこうした現地での基本的な作業を維持し、支えていくためにも、今後も熱帯雨林保全の重要性を訴え、支援の輪を広げていきたいと考える。

喜界島をモデルとした地域主体型のサンゴ礁保全プラットフォームの構築

活動地域  鹿児島県大島郡喜界町

ひろげる助成

3年目

実践

プログラム年間参加者数 **1,302人**

サンゴ礁保全の地域基盤体制組織 **3組織**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **95%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

活動のはじめはサンゴ礁が喜界島の暮らしに関わることを伝えるのに苦労をしたが、徐々に地域の方々が喜界島の魅力としてサンゴ礁を受け入れ、活動を通して理解が広まった。

■ 工夫した点

サンゴ礁調査保全活動の成果が図鑑やパンフレット、冊子となり、多くの人に手にとってもらえるようになった。サンゴ礁の島がキーワードとして喜界島に広まりつつある。



KIKAIブルー サンゴ礁調査

課題

サンゴ礁は沿岸生態系の生物多様性を維持する重要なプラットフォームであるが、地域住民の自然環境に対する関心・意識の向上を目的とした取組みは限られている。

目標

地域住民の自然環境に対する意識向上と保全活動を促し、それを将来にわたって持続的に支え、適切な環境教育を提供できるようなプラットフォームを地域に定着させる。

活動内容と成果

3年間の活動を通じて、喜界島ではサンゴ礁が地域の様々な主体を結びキーワードとなること認知されてきた。学校教育ではサンゴ学習単元の開発や喜界島教育協議会の設立をはじめ、サンゴ礁を通じた学習活動が継続されている。そして、貴重な北限のアオサンゴ群生を保全・活用するために漁業・マリンスポーツ事業者・行政・研究所が参画する「喜界島アオサンゴ保全協議会」が設立された。さらにサンゴ礁をキーワードに島の様々な主体が参加し島の未来を考える「サンゴ礁文化連絡会議(仮)」の設立を目指した動きが始まっている。



サンゴカフェで「アオサンゴカフェ」

全助成期間の活動を振り返って

本事業から始まったリーフチェック及び海洋環境モニタリング活動、学校教育と連携したサンゴ養殖活動、喜界島ジオ・マリンエコツアー活動の三つの活動が、協議会の設立や地域活動団体の立ち上がりなど、それぞれ地域住民の主体的な取組みにつながっていく兆しが見えている。喜界島の地域レベルでの自然環境に対する関心の向上とサンゴ礁保全活動の基盤づくりに大きな役割を果たしてきたと感じる。



サンゴの石垣修復体験～どんなサンゴの化石かな

〒891-6151
鹿児島県大島郡喜界町大字塩道1508
電話：0997-66-0200
E-mail：mail@kikaireefs.org
HP：http://kikaireefs.org



今後の展望

喜界島で培ったプラットフォームでの活動をもとに、奄美群島間を結ぶ一つのキーワードとしてサンゴ礁保全を通して、共通の地域環境課題を見出し、同じベクトルで環境保全に取り組むコンソーシアムを構築することで活動を発展・継続させていく。本活動で構築した奄美群島の個人・事業者・自治体の関係性を拡大・強化することで、奄美群島が地球環境問題に対して高い関心を持って活動する国際的なモデル地域となることを目指す。

『松島湾 うみっこ たづっこ プロジェクト』

活動地域  宮城県松島町

ひろげる助成
3年目
調査研究

資材の投入回数	2 回
資材の投入面積	50 ㎡
今年度計画の達成度	100 %
目標達成度	100 %



福浦橋の上から資材を投入する参加者

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

1回目のイベントでは予想以上の方々に参加いただいたので、その対応に苦労した。以降のイベントではスタッフ数を増員した。

■ 工夫した点

持続的な活動のため、橋から資材を投げ入れる本活動を松島町が主催するゴミ拾いツアーや、松島高校観光科が行っている修学旅行生のための案内ツアーに取り入れていただいた。

課題

震災による津波で壊滅的な被害を受けた松島湾の藻場の再生を図ることで生態系を復活させ、基幹産業である水産業や観光業の復興と持続利用可能な地域社会の創生を目指す。

目標

多くの協力者に参加いただき、継続的な「みんなで行う藻場造成」が実施できること。また藻場の回復指標として、サンゴタツを確認することとする。

活動内容と成果

昨年度に引き続き、藻場の生えやすい環境を整えるため、泥場となったエリアに藻場回復資材を投入する底質改良イベントを2回実施した。

- 投入資材は授産施設（不自由を抱えた方の就業施設）の方々に製作を依頼した
- イベントに参加及び関与した人数は新型コロナウイルスの影響で昨年度に比べ減少したものの、およそ2,100人となり、新たにスタッフとして大学生ボランティアが参加した。さらに松島高校観光科の生徒による修学旅行生のための案内ツアーの中に、本イベントを取り入れていただき、多くの高校生にも参加いただいた



大学生スタッフと資材を投入する松島高校生



底質改善エリアへのアマモの移植活動

全助成期間の活動を振り返って

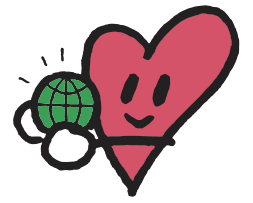
本活動の中心となる福浦橋での底質改善イベントには、当初の計画に比べてとても多くの観光客（約6,500人/3年）に参加いただいた。また、この活動を通して、以前からお世話になっていた漁業関係者の方々をはじめ、松島町観光課や授産施設の皆様、大学生サークル、松島高校等、より多くの多様な繋がりができたと感じる。松島湾での藻場再生活動をツールとして、地域が持つ課題に対する様々な取組みにもつながることを実感した。

〒984-0051
宮城県仙台市若林区新寺1-5-26-104
電話：022-293-2281
E-mail：e-tec@world.ocn.ne.jp
HP：http://www.e-tec.server-shared.com/



今後の展望

3年間の活動によって、ステークホルダーが広がり、イベントや企画がさらに活発化する可能性が高いことから、地元関係者に大きく期待されている。資金面では、松島町においてイベント資材の有料化や寄付金付きの入場券が検討されている。また、ふるさと納税の活用についても議論がなされていると報告を受けた。人的な面では松島高校観光科や大学の環境サークルの関与があり、内容を引き継ぐことで持続的な活動になると考えている。



森林保全・ 緑化

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

ウータン・森と生活を考える会

インドネシア・ボルネオ島における「開発」圧力に抗する地域住民主体の伝統知に基づく収入創出と環境教育を通じた熱帯林保全及びそれを支える日本でのしくみ構築

活動地域  インドネシア



タンジュン・プティンの村人たちが植林地にて

課題

熱帯林破壊や森林火災の多くは、大企業の開発による土地転換によるものであり、開発圧力下にある地域住民の持続可能な収入創出と消費者側の啓発と支援の仕組み構築が必要。

目標

アグロフォレストリー・エコツーリズム等大規模開発に代わるオルタナティブな収入創出を地域住民主体で実行されるように促し、当事者として日本から支援する仕組みを作る。



今後の展望

先進地域訪問・環境教育による、地域住民主体の苗づくり・植林、アグロフォレストリー、エコツーリズム等収入創出を担う次世代キーパーソンの育成を継続し、日本から支援するファンドレイジングの仕組みを構築する。

活動内容と成果

- タンジュン・プティン地域で①在来種9種類の苗づくりと植林10haを実施②アグロフォレストリー実施に向けて先進地域研修を行い実験場を村内につくった③エコツーリズムのポスターを作成・配布した
- ムラサ村で①アグロフォレストリーとして果樹の植林7haを実施②その普及のための環境教育に向けた先進地域研修を行った
- 日本から支える仕組み構築のため①学習会を4回開催(参加者278人) ②広報メディア制作検討ワークショップを実施し③熱帯林保全啓発の動画及び④「ボルネオ熱帯写真館」の試作品が完成



熱帯写真館と当会の紹介動画のウェブサイトを

ひろげる助成

1年目

実践

在来種や果樹の植林面積 **17ha**

学習会の参加者 **278人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

インドネシア、日本ともに、新型コロナウイルス禍の移動制限によって対面の活動を減らさざるを得なかった。

■工夫した点

移動制限を受けてオンラインでのイベント、打ち合わせ等を盛り込んだことで、国内外問わず場所に縛られず繋がることができた。

〒530-0015
大阪府大阪市北区中崎西1丁目
6-36-308 連合事務所気付
電話：050-5876-7925
E-mail：contact-hutan@hutangroup.org
HP：https://hutangroup.org/



(特非) 森づくりフォーラム

人工林の生物多様性を高めると森づくりの普及啓発と市民参加型の施業モデル実践

活動地域  東京都・神奈川県



事例ガイドの取材地(北海道/保持林業)

課題

林業の衰退、木材価格の低迷と過疎化により、手入れがされていない人工林の荒廃が進み、森林の優れた公益的機能が十分に発揮されていない状況がある。

目標

人工林の多様性を高める森づくりの認知、また森林の多様性の大切さを実感する人を増やし、市民参加による協働で荒廃した人工林を生態系豊かな森林へと移行させる。



今後の展望

「人工林の多様性を高める森づくり」の普及啓発と実践を重点的にを行い、多様なステークホルダーとの協働体制を作っていく。最終的には、市民参加型で実践できる施業手法について提案を行いたい。

活動内容と成果

- 事例ガイドの作成と普及啓発
人工林の多様性を高める森づくりの認知を広げるため、日本全国の事例等を調査し、その中から研究者や専門家、森林の多様性を高める森づくりを実践している行政・企業・団体に対して、合計20件の取材・インタビュー・原稿執筆依頼を行った。それらをまとめ、「人工林の多様性を高める森づくり事例ガイド」を作成した。
- 森林フィールドでのモデル施業
施業モデル実践に向けて、フィールドのモニタリング調査(植生・昆虫)を行った。夜間昆虫調査は、一般参加者も募集し、イベントとして実施した。



夜間昆虫調査イベントの様子

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

事例ガイド(ベータ版)の作成 **完成**

調査・イベント参加人数 **34人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

事例ガイド作成のための各テーマ設定、事例・知見の収集、及び取材先の選定・調整業務に苦労した。

■工夫した点

森づくりの潮流、森林生態の知見、そして国内の事例を幅広く掲載できるよう工夫し、オンラインも活用しながら取材を行った。

〒113-0033
東京都文京区本郷2-25-14
第一ライトビル405
電話：03-3868-9535
E-mail：office@moridukuri.jp
HP：https://www.moridukuri.jp/



東部ネパール・ジャルタルの森再生のためのツルヒヨドリ除去に関する参加型アクションリサーチ

活動地域  ネパール



地域住民によるツルヒヨドリ除去作業

課題

森林植生回復のためのコミュニティーが活用できる外来侵略種(ツルヒヨドリ)除去の技術の開発・普及。

目標

ツルヒヨドリにより荒廃したジャルタルの森が元の植生を回復すること。

ひろげる助成

1年目

調査研究

活動内容と成果

①ツルヒヨドリの除去：コミュニティ森林グループの参加により11.5haの除去を実施。400人日の労働機会の提供 ②ツルヒヨドリ除去後の補植：14種類の在来種を9,000本補植 ③コンポストの生産：二つのコミュニティ森林グループに各1ユニットずつコンポスト生産設備を設置。2軒の農家に個人でつかえるコンポスト生産ユニットを設置。ピット手法と地表で生産する二つの手法を比較のために採用。研修も実施 ④試験圃場の設置：ツルヒヨドリの繁殖抑制のための手法の比較のための試験圃場を設置



森林グループのコンポスト生産施設

ツルヒヨドリ除去 **11.5 ha**

在来種の補植 **9,000本**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **30%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

森から除去したツルヒヨドリを使ってコンポストを作り、販売することに関して地域住民の同意を得るために時間を要した。

■工夫した点

コンポストの販売については、地域の紅茶畑への売り込みを試みた。



今後の展望

本プロジェクトで得られた、外来侵略種除去の手法やコンポスト生産とその販売による外来侵略種除去のインセンティブの向上と地域生計の改善に関する知見や教訓は他の地域にも展開する予定である。

Krishnamohan Smriti Road,
Bagdol,Lalitpur Metropolitan
City-4, GPO Box: 12207,Nepal
E-mail : fa@forestaction.org
HP : <https://www.forestaction.org/>



森林保全・緑化

里山林における在来種保全活動

—特定外来植物(オオハンゴンソウ) 抜取の継続実施—

活動地域  長野県・東京都



特定外来植物調査の様子・GPSによる記録

課題

在来植物が自生する中山間地の里山林に特定外来植物が侵入しはじめ、数か所で群落化している。在来植物保全のために、持続的な抜取作業による制御が必要である。

目標

在来植物を保全するために、特定外来植物を制御する活動を計画的に継続する。あわせて里山林の生物多様性への理解促進を図る。

つづける助成

2年目

実践

活動内容と成果

- 数化している里山林内に点在する特定外来植物の抜取作業を計画的に行うため、専門調査員により森内全域の繁殖地点を記録、あわせて在来種保全の指導を受けた
- 昨年の台風で被災し、河畔の崩壊や多数の倒木が生じ環境が激変したエリアに重点を置いて森全域を再調査した
- 特定外来植物の点在個所や範囲をGPSにより記録できた。このデータに基づき、今後の長期的な作業計画を作成し活動を継続する
- 調査時の記録として撮影した外来種の写真を編集し、森内の自然や調査・作業の様子をオンラインにより情報発信した



調査時に地元団体と交流

環境調査実施 **12回**

抜取作業実施 **4回**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **75%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で活動が制限された。2拠点間の移動が制約され、住民との接触も自粛したことで普及啓発活動が進まず、一部後退もした。

■工夫した点

地元の協力団体・個人との新たな連携形態を模索した。電話・メールにより連絡をとりつつ役割分担を見直し、連携体制を工夫した。



今後の展望

制御作業を今後も継続するとともに、調査結果を順次資料としてまとめ、ツールとして地元で在来種保全活動をしている団体・個人と交流することにより、地域全体の在来種保全・生物多様性保全への取組みに貢献する。

〒144-0043
東京都大田区羽田1-1-3
電話：03-5737-2744
HP： <http://www.save-earth.or.jp/>



(特非) 時ノ寿の森クラブ

森林・里山を社会財として「シェア」し、持続可能な森林保全を目指す

活動地域 静岡県



森のようちえん親子体験の様子

課題

間伐等の保全活動により再生しつつある小規模民有林だが、生産的価値の減少した状態では、今後も所有者による保全管理は難しく、再び荒廃状態に陥る可能性が高い。

目標

所有者に代わって永続的に保全管理する仕組みを構築するとともに、その森林・里山の公益的価値を社会全体で共有(シェア)する仕組みを整備する。



今後の展望

パートナーシップを結んだ企業と持続可能な関係性の構築を進めたい。体験プログラム参加家族に対し、森林里山の新たな活用のきっかけを提供し、森との関わりをより深めてもらえるよう促したい。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

- 対象森林の持続可能な保全管理の体制づくりの一つとして、企業とのパートナーシップを2件結ぶことができた。今後の実効性のある保全活動の連携と活用について協定を交わした
- 新型コロナウイルス禍であったが、子どもたちの自然体験の機会を奪わぬよう、感染対策をし、体験プログラムの運営を行った。その結果、森のようちえんは登録園児が2019年度13人(1コース)→2020年度37人(2コース)となり、多くの子どもたちに森林体験の提供と保護者への森林保全活動の啓蒙啓発を行うことができた



森林ボランティア体験・外来植物の除去作業

森林体験プログラム 延べ参加人数	828人
参加者リピート率	51.8%
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍での参加者を募るプログラムの運営。参加者の不安を可能な限り減らし、納得した上で参加してもらえる仕組みづくり。

■工夫した点

森林ボランティア体験の募集が難しい中、すでに関わりのある森のようちえんの参加親子へ呼びかけ、参加に結びつけることができた。

〒436-0341
静岡県掛川市倉真7021
電話：0537-28-0082
E-mail：info@tokinosunomori.com
HP：https://tokinosunomori.com/



(一社) more trees

単一的な針葉樹人工林を多様な針広混交林や広葉樹林に再生するための知識・技術の普及と人材育成

活動地域 北海道、高知県、鳥取県ほか



オンライン勉強会の様子

課題

戦後に拡大したスギやヒノキなど針葉樹による単一的な人工林には、アクセスの悪さや経済面から手入れ不足の森林も多く、保水力などの森林が持つ機能の低下を招いている。

目標

針広混交林や広葉樹に関する知識と技術を全国的に普及させ、適切な間伐や植林によって針広混交林や広葉樹林に導き、森林の公益的機能を回復させる。



今後の展望

活動地域をさらに広げ、勉強会や研修会を国内複数か所で開催し、目的と意義を共有したうえで広葉樹の知識と技術の普及を図る。また並行して植林活動も引き続き各地で展開していく。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- 宮崎県諸塚村において勉強会及び現場視察会を実施、さらに有識者を講師に招いた技術研修会を実施
- 岩手県住田町及び熊本県小国町の森林・林業関係者を対象としたオンライン勉強会をそれぞれ実施
- 北海道美幌町にて北海道大学・吉田教授の立ち会いのもと生育調査を実施
- 北海道美幌町、高知県梶原町、鳥取県智頭町、長野県小諸市にて計6.72ha、11,720本の植林を実施
- 宮崎県諸塚村にて1.2haの除伐を実施
- 高知県梶原町、鳥取県智頭町、長野県小諸市にて植樹イベントを実施



植林作業の様子(北海道美幌町)

勉強会・研修会参加者 数	57人
植林・育林面積	7.92ha
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍で各地へ頻繁に通うことができず、地域によっては県外からの来訪を制限しているケースもあった。

■工夫した点

勉強会は対面ではなくオンライン開催に切り替えることで、遠隔地かつ複数地域に対してリモートで実施することができた。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-9-11-103
電話：03-5770-3969
E-mail：info@more-trees.org
HP：https://www.more-trees.org/



「環境林業」を担う人材の育成

活動地域 



森の暮らし塾1期生「春の森の生態学」実習

課題

多くの山村は過疎化が進行し、消失の危機にある。一方、低質材の大量生産を志向する画一的な現代林業は、生態系の保全と、地域経済を支えるという期待に応えられていない。

目標

TOGA森の暮らし塾等の運営により、山村に住んで、生態系を保全し、森林資源を持続的に利用する「環境林業」を担う人材を育成し、持続可能な山村地域の創出を目指す。



今後の展望

森の暮らし塾を通じて、山で暮らせる人材を育成しつつ、広葉樹をはじめとする森林資源の具体的な活用法とその収益性の確認、フィールドにおける収穫・更新、循環利用の実証等の実践に重点を置いて活動していきたい。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- ①TOGA森の暮らし塾2020の開催
通年塾生9人(延べ参加者数 111人)年10回の講座(森林調査、林業、狩猟、アロマオイル他)を開催
塾生のうち、3組5人が利賀村へ移住。3人が林業に就業。
修了式では、塾生たちが「トチノキのオーナー制度」等のアイデアを提案
- ②TOGA森の暮らし塾2021の塾生募集
県内外から8人の応募あり
- ③開校記念式典に本郷浩二林野庁長官来訪
11月に開催した開校記念式典(新型コロナウイルス禍で延期)では、長官より心強いエールをいただいた



利賀村に伝わる伝統的的林業技術「争ツル」

利賀村への移住者数 **5人**

講座の延べ参加者数 **111人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

高齢者の多い過疎の山村へ、東京を含む県外からの参加者を招いての講座であり、運営管理における新型コロナウイルス対応に苦労した。

■工夫した点

塾生の多様な興味・関心に対して、予定になかったオプション講座(ドローン、巨木ツアー、スノートレッキング等)を工夫した。

〒939-2512
富山県南砺市利賀村上百瀬51
電話：0763-68-2177
E-mail：moribio@hotmail.co.jp
HP：moribio.com/



森林保全・緑化

岩沼市「千年希望の丘」植樹祭&収穫祭

活動地域 



3密回避、マスク着用ハマナス畑植樹

課題

東日本大震災を風化させることなく、復興の象徴である宮城県岩沼市「千年希望の丘」の完成を目指すプロジェクトである。

目標

宮城県岩沼市「千年希望の丘」の完成により、東北被災沿岸部に本来あるべきふるさとの森と海浜植生が再生することが目標である。



今後の展望

2021年度の宮城県岩沼市「千年希望の丘」の完成を目指して、新型コロナウイルス対策を徹底しながら、植樹、補植、除草活動を継続する予定である。

復興支援助成

2年目

実践

活動内容と成果

宮城県岩沼市「千年希望の丘」植樹祭のゴールは36万本。2019年度末時点で累計33万5千本、植樹達成率は93.1%。2020年度はファイナル植樹祭が新型コロナウイルス感染拡大を受け、1年延期となったが、3密を避けた少人数植樹で2,600本を植樹。2020年度末時点で植樹達成率は93.8%、残り22,400本になっている。ハマナス畑は2020年度末に岩沼市役所が新たに整備し、かつ1,000本を植栽。ここに当協会が535本を追加植樹し、合計1,535本のハマナス畑が完成した。



柴田農林高校と除草作業後の海岸清掃活動

植樹本数(ふるさとの森) **2,600本**

植樹本数(ハマナス) **535本**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **66%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響を受け、植樹・育樹(除草)イベントすべてが延期または中止となった。

■工夫した点

宮城県柴田農林高等学校や仙台市シルバー人材センターとの連携を強化し、植樹・育樹(除草)・補植作業を行った。

〒981-0931
宮城県仙台市青葉区北山1丁目14番1号
電話：022-234-5327
E-mail：morinobouchoutei@yahoo.co.jp
HP：http://morinobouchoutei.com/



牡鹿半島荻浜湾流域環境再生プロジェクト

活動地域 宮城県

つづける助成
3年目
実践

ポット苗作成	約300個
直植え苗	24個
今年度計画の達成度	60%
目標達成度	70%



専門家による植生調査(防鹿柵内)

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、エコツアーの実施を中止としたため、啓蒙活動が思うように進まなかった。

■工夫した点

昨年度実生を採取し保護する育成の仕方が比較的うまくいったので、ウリハダカエデだけでなく他の種も採取し苗木の種類を増やせるようにした。

課題

荻浜湾流域の人工林の多くは放置林の上、近年ニホンジカの獣害が原因となり、地被植物や中層を構成する広葉樹が自生できない環境となり、土砂崩れ等の実害が出ている。

目標

複層混交林として再生し、生物多様性環境が創出されるよう、鹿柵内外における植生サイクルを把握し、潜在的な植生を把握する。また地権者の山林保護への意識が向上する。

活動内容と成果

- 防鹿柵において6回の定点観察調査を実施した
- 専門家による植生調査を行い継続的な植生の把握を行っている。また、土壌生物調査を実施し、今後の生物多様性創出のための現況を把握することができた
- 苗を約300ポット作成し、昨年度同様挿し木や取り木という育成方法にも挑戦し、実生を保護し、育てる方法にも取り組んだ。また、過去に育てていた苗木(24本)を整備した苗床に直植えした
- 活動報告書を作成した



ポット苗木



直植えしたウリハダカエデの苗

全助成期間の活動を振り返って

この3年間で専門家による継続的な植生調査及び土壌調査等を行うことができ、活動場所の特性を知ることができた。また、地域の方々にも活動を知ってもらうためのパンフレットや広報誌の作成、エコツアーの実施等による啓蒙活動を継続的に行ってきたため、石巻市との連携を図る動きが可能になってきた。

〒986-2341
宮城県石巻市荻浜湾山12-2
電話：0225-98-9172
E-mail：office@oshikalink.jp
HP：https://www.facebook.com/oshikalink/



今後の展望

今年度は石巻市が所有する沿岸部の低平地を借りることができ、苗床を整備することができたため、植樹用の苗木を育てる十分な土地を確保できた。今後はまだ整備が完了していない場所を整備し、苗木の育成を進めていきたい。

ふるさとの森を取り戻せ！「松毛川千年の森」再生プロジェクト

活動地域 静岡県

ひろげる助成
3年目
実践

活動の延べ参加者数 **222人**

河畔林の再生面積 **1,550㎡**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **100%**



放置竹林を光が差し込む、ふるさとの森へ

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍で、自然観察会等の屋外イベントが難航し、回数・規模ともに限定的な開催となった。オンライン発信を具体化させ、河畔林の動植物や自然の魅力を発信していきたい。

■工夫した点

大学の環境実習や企業のCSRと連携し、河畔林整備を進めるとともに環境保全に携わる人材を育成した。また、県の大規模河川整備事業を誘致し、自然再生の基盤を構築した。

森林保全・緑化

課題

三島市と沼津市を横断する「松毛川」は、ゴミの放置や放置竹林の拡大、河川内のヘドロの堆積等による環境悪化が進行し、「ふるさとの川と森」が失われようとしている。

目標

松毛川の河畔に「ふるさとの森」を取り戻す市民主導の再生・整備活動や環境教育・交流活動を推進するとともに、三島市・沼津市両市民による保全・管理体制を構築する。

活動内容と成果

- 大学・企業・地元住民延べ118人と協働し、これまで整備した河畔林の枝払い・下草刈り等の保育作業を実施した
- 河畔林に生息する野鳥、植物を専門家が解説する自然観察会を3回行い、児童を含めた47人の市民が参加した
- 新型コロナウイルス禍に対応した松毛川オンライン環境講座を首都圏の大学生21人へ実施した
- 松毛川的环境調査（植物・野鳥・水生生物・魚類）を行い、3年間の森づくり活動の成果を可視化した
- 「千年の森づくりシンポジウム」を開催し、専門家による学術的な自然評価を加え、当地の魅力を発信した



森を飛び回る野鳥たちを観察



松毛川の魅力を発信するシンポジウムを開催

全助成期間の活動を振り返って

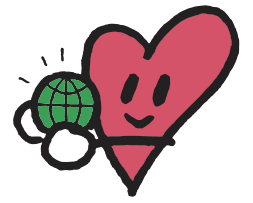
放置竹林化した森に原自然を取り戻す活動の趣旨に沿って、着実な再生活動を進め、年々動植物の多様性を向上させることができた。加えて、森の変化に比例して周辺住民の評価・参加度も向上し、地元愛護団体との連携強化による持続的な管理体制を強化できた。また、助成期間中に県営事業による河川整備の誘致やこれまでの活動が中部地域の未来づくりのモデルとして受賞したことで、松毛川の希少性・保全の重要性が広く認められた。

〒411-0857
静岡県三島市芝本町6-2
電話：055-983-0136
E-mail：info@gwmishima.jp
HP：http://www.gwmishima.jp/



今後の展望

地元愛護団体とともに整備作業・普及活動をより推進するとともに、近隣の学校・企業・団体とのパートナーシップを強め、松毛川が広く地域に活用される協働の森づくりに取り組んでいく。また、助成期間で蓄積した専門的な環境データを元にオンラインを活用しながら、ふるさとの森としての魅力や価値を広く発信し、環境保全の支援の輪を拡げる活動を展開していく方針である。



砂漠化防止

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

モンゴル国ゴビ地域における牧民と協働した砂漠化防止活動

活動地域  モンゴル

ひろげる助成

2年目

実践

デルス保護管理区の設置数 **8か所**

飼料備蓄倉庫の建設数 **1か所**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **67%**



活動で建設した飼料備蓄倉庫

活動内容と成果

牧民がデルスを災害時以外は利用しないように管理するために、デルス保護・管理区を設置し、管理・利用する。それとともに飼料備蓄倉庫を建設し、飼料を備蓄し、災害時にデルスに頼りすぎない体制を築く。

課題

モンゴル国南部のゴビ地域では降水量が少なく、大きく変動する。そのような環境下で安定して生息する植物“デルス”が家畜に過剰に食べられ、局所的な砂漠化が進んでいる。

目標

モンゴル国・ゴビ地域において、デルスが回復し、砂漠化が防止される。



設置されたデルス保護・管理区

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍で日本人がモンゴルに渡航できなかった。

■工夫した点

モンゴル人スタッフの体制を充実させ、オンラインでの打ち合わせを行うことで、アウトプットを達成した。

砂漠化防止



今後の展望

デルスの保護については、保護と利用を両立させるための新規技術の普及と、飼料備蓄を牧民グループとともに取り組む。

〒111-0051
東京都台東区蔵前3-17-3
蔵前インテリジェントビル8階
電話：03-5825-9735
E-mail：contact@gef.or.jp
HP：https://www.gef.or.jp/



ケニア半砂漠地域にあるイシンヤ地区の学校での環境教育を兼ねた植林緑化活動 (3年目)

活動地域  ケニア

ひろげる助成

3年目

実践

植林本数 **4,000本**

植林活動参加者 **941人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **100%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染症の影響による学校休校のため植林活動が予定時期にできなかった。日本人専門家が現地に渡航できず、従来型の研修を変更せざるを得なかった。

■ 工夫した点

貯水タンクを休校中に設置し、学校再開直後に植林活動を実施できるようにした。地域開発研修は現地専門家を雇用し、オンライン参加の日本人専門家のフォロー体制を整えた。



植林専門家から苗木の扱い方法を学ぶ児童

課題

ケニアのイシンヤ地区は慢性的な干ばつ状態に加え、家畜の過放牧等で樹木が失われている。しかし住民のマサイ族には環境保全の意識や慣習がなく、砂漠化が進んでいる。

目標

学生と住民が植林緑化活動意識を向上させ、学生は自身が植えた苗木の世話を継続する。デモファームで作った野菜が給食で提供される。現地農業省は活動推進体制を整える。

活動内容と成果

- イシンヤ地区4校と4村で植樹を実施し、生徒、教職員、住民等計941人が参加、4,000本を植樹
- 水のない5学校に貯水タンクを各1基(計5基)を設置し、点滴灌漑を整備
- 4校で生徒、教職員、住民等に環境教育を実施し、計941人が参加
- 4校にデモファームを設置し、計9,000本の野菜の苗を植え、栽培を開始
- 現地農業省とオンライン連携会議を毎月1回実施(計12回)
- 4村の地域リーダー、教諭、行政職員等に合同地域開発研修を1回実施し、50人が参加。日本人専門家はオンラインで研修を指導



学校での環境教育



地域住民が参加した地域開発研修を実施

全助成期間の活動を振り返って

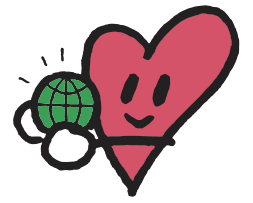
本事業はマサイ族の環境意識向上が容易ではないと考え、彼らの子息を直接受益者とする活動として開始した。しかし活動開始直後から住民の反響が大きく、活動を学校のみならず周辺村へ拡大し実施した。3年間の活動により、地域の環境破壊への危機意識と環境保全活動力は向上している。当団体と現地農業省との連携体制も強化され、農業省が中心となった環境再生への取組み力は向上していることから、本事業の実施意義は大きい。

〒157-0072
東京都世田谷区祖師谷4-1-22-2F
電話：03-3484-5092
E-mail：staff@icajapan.org
HP：http://www.icajapan.org



今後の展望

現地農業省と協力し、事業のフォローアップを行う。現地農業省が主体となってケニア政府に環境保全活動への補助金を給付させる働きかけを行うために、当団体はICAケニアと協力し現地農業省職員の能力強化に向けた指導を行う。日本では、ケニアの植林活動の支持者(寄付者)を募るために、本事業の成果報告等を含む広報を継続して実施し、資金調達を図る。



環境保全型 農業等

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

(特非) 農ある暮らしを広める会

農ある暮らしの基盤となる自然環境を再生
保全できるコミュニティづくり

活動地域  二宮町周辺



相模湾を望む谷戸田での田圃再生講座

課題

地域の過疎化が進み、里山は荒れ、生物多様性が失われ、畑、田圃は放棄されている。子どもたちは自然体験の場、遊びの場が奪われ、災害の危険性が増している。

目標

遊休農地や荒廃した里山は再生、維持管理され、高齢者、障害者、子どもたち、子育て世帯の居場所となり、自然環境と風土の保全を住民が自ら行う地域となる。



今後の展望

農を核として人々が多くの仲間たちと多面的な活動を行う地域づくりや地域住民と積極的に繋がることを推進するため、次世代に受け継ぐ企画運営能力と専門的知識を持った次期リーダーを3年計画で育成している。

活動内容と成果

- 農園活動及び座学
二宮農園：22回開催 子ども農園：12回開催
- 移住促進セミナー開催(8/10)：18人参加
10/23はオンライン開催 2家族が移住予定
- 生物多様性フォーラム開催(ドローンによる植生調査)
8/30開催 33人参加
- 田植え体験イベント(25人参加)
- 沢、棚田体験イベント(16人参加 内子ども7人)
- エコフェスタにのみや特別企画
子どもリポーター17人による環境団体訪問
- 沢整備、田圃整備講座開催(2/20：10人、3/13：10人)



沢の水はどこを流れるのかな

つづける助成

1年目

実践

農園、沢・田圃活動
延べ参加者 **1,089人**

再生した畑や田圃の
延べ面積 **4,000㎡**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍、目標を変え
ることなく、いかにして安全・安心
で、効果的な活動を続けることが
できるかに苦労した。

■工夫した点

新型コロナウイルスによる制約のな
か、農園活動における座学はできる
だけ畑で開催した。また、雨の日は
建物の軒下を借りて行った。

〒259-0123
神奈川県中郡二宮町二宮133番地
電話：090-2147-0134
E-mail：ein03stein1649@ozzio.jp
HP：http://new-ninomiya.com



(特非) 越後妻有里山協働機構

農と文化のフィールドミュージアム

活動地域  新潟県十日町市



マルタニシ見つけた!

課題

他の中山間地と同様に過疎・高齢化が著しく、里山内の耕作放棄地も増大しており、集落のコミュニティ低下が大きな問題となっている。

目標

①耕作放棄地を開墾し、有機観光農園を創りだす②
旧来の植生や生き物が里山を彩る③多くの来場者が
実感・体感する



今後の展望

有機観光農園での収穫体験を通して、城山の自然・植生・生き物と触れることのできる楽しい場所にしていきたい。また、ここでの活動を通じて、自然環境について考えるきっかけとなるように働きかけていきたい。

活動内容と成果

- 耕作放棄地に有機観光農園を開墾・耕作
⇒1,200㎡
- 有機観光農園を巡る収穫体験ツアーの構築
⇒夏に10日程、延べ参加者数は33人
- カタクリ群生地の整備
⇒5回実施、整備面積160㎡
- ヤマユリの保護・移植活動
⇒5回実施、保護株数25株(うち新規移植株数14株)
- 絶滅危惧種(クロサンショウウオ/マルタニシ/モリアオガエル/トノサマガエル)の保護活動
⇒5回実施(卵塊保護、移動、観察)
- アート作品以外も体感する来場ツアーの醸造
⇒BBQ及び収穫体験ツアー延べ参加者は172人



収穫体験の帰り道

つづける助成

1年目

実践

耕作放棄地開墾・栽培
面積 **1,200㎡**

ヤマユリ保護・移植株
数 **25株**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響により、
各活動での集客に苦戦した。

■工夫した点

作業内容や開催時期、感染予防対策
など、スタッフと活動の見直しを都
度行なった。

〒942-1526
新潟県十日町市松代3743-1
まつだい「農舞台」内
電話：025-595-6180
HP：https://www.echigo-tsumari.jp/



バングラデシュ北東部ハオール地域気候変動適応化農業普及プロジェクト

活動地域  バングラデシュ



農民研修の様子

課題

気候変動により不安定になっている自然災害（フラッシュフラッド・冷害）に対する農業支援（新品種の導入と作付け体系の見直し）。

目標

ハオール地域で気候変動適応型農業（新品種の導入・作付け体系の見直し）が実証され普及する。



今後の展望

年度末から再度新型コロナウイルスの蔓延が厳しくなっており、ロックダウンの可能性が高い。1年次の経験を踏まえ、農民とのやり取りを工夫しながら努めていく。また中央行政へ働きかけ行政からの協力を取り付ける。

活動内容と成果

災害に強い新品種米の導入と年間を通じた作付け体系の見直しにより、災害の多いハオール地域の農民のレジリエンスを高める活動。

本年度は国立稲作研究所（BRRI）から無償で新品種種子を配布するとともに栽培方法を研修。あわせて乾期の灌漑と農作物搬送のための農道建設を行った。

結果、この地域で初めて雨期に稲を収穫した他、乾期稲作ではかなりの収穫増が見込まれている。また活動は複数のメディアで取り上げられた。



雨期稲作のため、筏の上で稲代を作る

ひろげる助成

1年目

実践

水路の掘削と農道整備 **300 m**

稲作研修への参加農民数 **100人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **35%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス蔓延の影響で外出禁止令が発出されたことで、フィールド訪問に苦勞した。人件費・交通費の高騰。

■工夫した点

携帯電話の活用や早朝の訪問などで農民とのつながりを維持した。



Srabon Villa, House No. 5485/3, Rajnagar R/A, Habigonj-3300, Bangladesh
HP: www.asedbd.org

環境保全型農業等

(特非) APLA

フィリピン・ネグロス西州における小規模農民のネットワーク構築による環境保全型農業の推進とその担い手となる若手リーダーの育成

活動地域  フィリピン



オンラインミーティングの様子

課題

気候変動の影響は、小規模農民の収入の不安定化につながっている。山間部から街のマーケットへのアクセスも容易でなく、横のつながり（ネットワーク）を得る機会も少ない。

目標

環境保全型農業の実施と普及に向けて、小規模農民たちによる交流が自発的に実施される。また、持続可能で安定した生活のための取組みが地域住民のみで継続される。



今後の展望

新型コロナウイルスによる影響を最小限にするため、小規模な活動を多く実施し、全体へ効果を広げていく。①ネットワーク構築、②販売先の拡充、③次世代育成を活動の柱として、生活安定と環境保全型農業を推進する。

活動内容と成果

前半では、新型コロナウイルスにおける現地への影響と状況の把握、そしてその対応に努めた。後半では、小規模自営農民の現状の聞き取り調査を実施し、改めて生活安定並びに地域環境保全における住民の課題を把握。調査の分析により、ネットワーク構築と販売先の拡充が、農民における生活安定と環境保全型農業を推進するための重要な取組みであるということを示した。また、地域の需要を把握するため小さな売店を設置し、農民たちによる小さな売店運営が山間部の住民の生活安定における有効的な取組みか否かを確認していく。



設置した売店の様子

ひろげる助成

1年目

実践

聞き取り調査対象者数 **17人**

売店の設置（事例創出） **1か所**

今年度計画の達成度 **30%**

目標達成度 **10%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの感染拡大により活動が困難な状況となり、現地への影響と状況の把握、そしてその対応に苦勞した。

■工夫した点

小規模自営農民の現状の聞き取り調査を実施し、改めて生活安定並びに地域環境保全における住民の課題を把握した。



〒169-0072
東京都新宿区大久保2-4-15
サンライズ新宿3F
電話：03-5273-8160
E-mail: info@apla.jp
HP: https://www.apla.jp/

(特非) 河北潟湖沼研究所

流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する

活動地域  石川県河北潟



流域をめぐるモデルツアーの様子

課題

河北潟の水質改善を目指し、保全活動参加者は増えているが、流域の観点からの取組みを進めるため、流域の組織的な仕組み作りや流域保全を進める産業作りが課題である。

目標

流域協議会を設立し、流域での水辺保全活動参加者の増加、農業や化学肥料の使用を減らした圃場の増加、環境保全と調和する産業の推進を目標とする。



今後の展望

流域連携の専門家、プロボノメンバーを加え、流域連携と産業作りの作業部会を進めていく。流域協議会の設立は河北潟自然再生協議会を軸に進めていく。活動参加者の裾野を広げるためのイベントを継続して行っていく。

活動内容と成果

- 流域連携をテーマにしたシンポジウムを実施した
- 流域協議会の設立に向けて、河北潟自然再生協議会をベースに、話し合いを進めた
- プロボノの協力を得て、モデルツアーも含めた流域の新たな産業について検討した
- 流域内をめぐるモデルツアーを3回実施した。実施を通して流域内で新たな関係をつくることができ、また参加者の過半数から、流域の自然環境に対する理解が高まったとの回答を得た
- 田んぼで農業体験や調査活動を実施し、それぞれのべ113人、29人が参加し、水辺の保全活動への参加者の裾野を広げた



流域をめぐるモデルツアーの様子

ひろげる助成

1年目

実践

シンポジウム参加者 **62人**

モデルツアー延べ参加者数 **76人**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

当初モデルツアーではバスを使用する予定だったが、徒歩移動をメインとすることになり、コース設定に工夫が必要となった。

■工夫した点

流域の川をめぐるモデルツアーでは、自然環境とともに歴史や昔の風景も紹介することで、より興味を持ってもらえるよう工夫した。

〒929-0342
石川県河北郡津幡町字北中条南9番9
電話：076-288-5803
E-mail：info@kahokugata.sakura.ne.jp
HP：http://kahokugata.sakura.ne.jp/



(特非) DANKA DANKA

セネガル共和国において地域循環型採卵養鶏を育てるプロジェクト

活動地域  セネガル



希少になっている地鶏を探して

課題

大量生産・大量消費・大量廃棄型の近代養鶏が主流のセネガルでは、地鶏の減少、卵殻や糞といった産業廃棄物、化学物質の多用された卵を食する人々の健康が危惧される。

目標

セネガル共和国に、鶏、環境、人に負荷のかからない健康的で地域循環型の採卵養鶏を普及させる。



今後の展望

新型コロナウイルスの影響下、自然卵養鶏をSNSメディアで広く紹介し認知度を高め、なるべく食糧難の時代への備えとしても卵加工品の製造開発を成功させ、地域循環型の自然卵養鶏がセネガルに定着するための取組みを行う。

活動内容と成果

- 自然卵養鶏モデルファーム予定地の整備と地鶏探索調査を行い、オンライン指導に向けた動画コンテンツを作成した
- 卵加工品の製品開発では、卵シャンプーと塩漬け卵のレシピ2件を作成した。今後もセネガル人好みの製品誕生に向け改良を重ねていく
- 産業廃棄物の再利用では、卵殻が内装塗料になることが十分に確認でき、製造レシピ1件を作成した。今後は、自然素材をいかす日本の「漆喰」技術を取り入れて製品開発を続ける



アジアの伝統的保存食「塩漬け卵」の試作

ひろげる助成

1年目

実践

採卵養鶏動画指導用現地語コンテ **12本**

卵・卵殻製品開発 **3件**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **27%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍で現地活動が大幅に制限された。例えば、現地では入手が簡単な卵の殻の再利用実験ができなくなった。

■工夫した点

卵殻再利用実験を国内で行い、材料を集めるため、「卵の殻を集めるキャンペーン」をSNSで呼びかけ、日本とセネガルを結んだ。

〒890-0064
鹿児島県鹿児島市鴨池新町28-1-1301
電話：099-256-6214
E-mail：camp@dankadanka.org
HP：http://www.dankadanka.org



インドにおける持続可能な開発のための伝統的農業：SATOYAMAのアプローチ

活動地域  インド



チェンガ祭において伝統衣装の歌と踊り

課題

焼畑をはじめとする伝統的土地利用には、北東インドで育まれた知的財産が詰まっているが、誤った固定観念と農村からの人口流出による消滅・劣化が懸念される。

目標

伝統的な農業が、生物多様性の保全や持続可能な開発を達成する手段としての役割を果たせるよう、伝統的な農業に対する正しい知識が広がる。



今後の展望

プロジェクト関係者と日本にて伝統的農業のワークショップを開催し知識交流を行った上で、学術論文集を完成させる。タイ・カレン族の焼畑を視察し、土地利用の文化・伝統の継承について知識交流を行う。

活動内容と成果

- ①北東インドの焼畑に関する学術論文集を編纂するため、インド国内外の専門家9人(+スタッフ2人)からなる編纂委員会を組織し、論文アブストラクトを募集。投稿24件、17件をアクセプト。14編の初稿が寄せられた
- ②焼畑に関する意識啓発と知見集積を目的に、チェンガ祭(参加者約250人)、先進地視察(13人)、インドSATOYAMAワークショップ(15人)を開催した
- ③バリパラ財団主催のEHNFフォーラムにてセッションを運営し、伝統的農業の重要性を発信



ハンノキを活用した焼畑の先進地を視察

ひろげる助成

1年目

調査研究

焼畑に関する学術論文集編纂論文数 **14編**

主催イベント参加者数(延べ数) **280人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **33%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍の移動制限により現地での活動が実行できず、海外先進地視察も延期になり、現地関係者の関心の低下が懸念された。

■工夫した点

文化的に重要なチェンガ祭と活動を組み合わせ協力関係を実証。近隣地域で先進的活動を見つけて視察を実施し、知識交流を確保。

Darbari Seth Block, IHC Complex, Lodhi Road, New Delhi, India
電話：+91-11-24682100
E-mail：siddharth.edake@teri.res.in
HP：https://www.teriin.org/



(特非) ザ・ピープル

福島から次世代へ！国外へ！オーガニックコットンで想いをつなげるプロジェクト

活動地域  福島県



コットン畑での農業体験

課題

東日本大震災後の福島浜通りでは復興が進む反面、震災体験の風化が進み、若い世代との学びや教訓の共有には大きな課題が残る。地域外や国外ではなおさらである。

目標

福島と地域外、特に国外の若い世代を対象とした東日本大震災とその後の環境配慮型の取組みを通じた学びの共有が、若者自身の手で進められる。



今後の展望

新型コロナウイルスの影響をできるだけ避けつつ、本来の事業目的を果たせるような仕組みを構築すること自体が、今後の事業運営力強化につながるものと考え、オンラインでの交流機会の持ち方などを研究して事業推進する。

活動内容と成果

コットン栽培に関わった大学生たちは、夏休み中の高校生への農業体験提供、学園祭での活動紹介ブースの設置とオンラインで結んだ草木染め体験の共有など、自分たちの活動を通して本プロジェクトの意義を同世代の若者たちに伝える場づくりを行った。活動は学内ライオンズクラブの活動の成果としてライオンズクラブ全国版広報誌などで取り上げられ、地域外への波及力は非常に大きかった。さらに、ネパールの女性たちに対してオンラインでの説明を留学生自身の手で行い、糸紡ぎの手法と併せて本プロジェクトの取組み内容やその意義を解説した。



大学生と地域住民が草木染め体験を共有

復興支援助成

1年目

実践

参加大学生が延べ20人を超える **65人**

アイデアコンテスト応募10点以上 **36点**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **70%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍の中でネパールへの渡航が困難となり、実施の難しい事業内容が出てきてしまった。

■工夫した点

早い時期に事業内容の見直しを行い、事業変更手続きを取ったことで、代替えの事業により一定の成果を上げることが可能となった。

〒971-8168
福島県いわき市小名浜君ヶ塚町13-6
電話：0246-52-2511
E-mail：the-people@email.plala.or.jp
HP：http://npo-thepeople.com/



DRCSC (Development Research Communication and Services Centre)

インド西ベンガル州ビルブム県における土地利用別アグロフォレストリーと環境に配慮した運用・利用の推進

活動地域  インド



公共地休閑地植林の生垣にマメ科灌木を追植

課題

乾燥地域で限界小規模農民世帯の占める割合の高い地域で、飼料や燃料などの供給源である森林減少や土壌侵食が進んでいる。

目標

有効利用の余地のある土地に多目的樹植林が広まり、かつ適正技術の導入により住民の生活向上と温暖化ガスの排出量を減少させる。



今後の展望

3年間の活動で、小規模限界農民600世帯において食料、飼料、燃料の供給を20%増加し、女性の家事労働が軽減されつつ地域レベルでの温暖化ガスを30%を目安に減少させていく。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

活動は2地区の30グループ、計600世帯を対象。各土地利用別の植林に適した計40種以上の樹木を住民とともに選択し、道路沿い、休閑地、池周り、水田、家周りの計9haに、計1万1千本の多目的樹を植林し、15kgのマメ科灌木等の種子を蒔いた。新燃料の節約を促進する無煙かまど175ユニット、バイオガス24ユニットを設置。緑化に繋がる環境型農業と食料・栄養改善の促進のため、雨水保水池を10池、屋根水保水タンクを4ユニット設置し、平行して魚養殖を10池に推進した。200世帯の菜園に3から4種の果樹を植樹した。



バイオガスで燃料も労力も減少

植林した多目的樹	1万本
設置した無煙かまど	175世帯
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	65%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

雨季に依存する植林を効果的に実施できるように、事前準備をオンラインで進め、フィールドワーカーの負担と不安を軽減。

■工夫した点

植林する樹木種を1年目より増やし、短期間で収穫の得られる有用種を生垣や隙間追植に積極的に取り入れた。

58A, Dharmotala Road,
bosepukur, Kasba, Kolkata 700
042, West Bengal INDIA
E-mail : sc.enre@gmail.com
HP : www.drcsc.org



(一社) シェア・ザ・プラネット

バングラデシュジェナイダ県における環境・気候変動に適応する持続的農業の実践と普及

活動地域  バングラデシュ



市民への周知イベントで活動の模型を展示

課題

過度な地下水灌漑に依存している農法の改善(地下水のくみ上げすぎによる帯水層の低下、ヒ素の溶出などの環境汚染が顕在化している)。

目標

地下からの灌漑水に過度に依存する農法から節水型の作付けや農法が住民主導で実践される。



今後の展望

農民は、地下水灌漑の量を減らす農業を実践した。水を減らしても経済的には有利であることを体感し、この農法を継続的に実践していくものと思われる。今後はより広範な地域への普及に力を入れていきたい。

ひろげる助成

3年目

実践

活動内容と成果

対象住民の6割が作付けをコメから野菜作りへ転換。また9割以上の農民は節水型稲作を導入した。またこうした農法を導入したすべての農民の収益が上がった。こうした取組みに対して農業行政・地方行政ともに認知・協力が得られた。また地方紙や全国紙にも活動が取り上げられた。



土壌改良ワークショップ

灌漑に頼らない農業実践	255人
灌漑に頼らない農業実践面積	120ha
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	75%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

2019年のサイクロン直撃。2020年新型コロナウイルス蔓延と困難な場面があったが、農民は活動の意義についてよく理解し、実践した。

■工夫した点

活動をより広く知ってもらうため、中央レベル、県レベル、また他のNGOとのネットワーキングに注力し、マスコミも活用した。

〒350-0046
埼玉県川越市菅原町7-16-302
電話：070-5363-5858
E-mail : info@sharetheplanet.jp
HP : http://sharetheplanet.jp/



(特非) ラムサール・ネットワーク日本

ラムサール条約と生物多様性条約の水田決議に基づく田んぼ10年プロジェクトの加速化とSDGsを組み入れた新しい水田目標の構築と活動の推進

活動地域  日本全域及び国外



地域交流会（小松島市）の開催

課題

活動的な参加者を増やし、活動全体の活性化と、継続した事業としての基盤を強化する。その視点から人材育成、組織運営体制、将来ビジョンの重点項目の可視化を行う。

目標

参加者が少数の地域で重点的に活動し、取組みを拡大・主流化し、年度内にSDGsとCBD新戦略計画を組み入れた新・10年計画を策定し、POST2020に備える。



今後の展望

2021年に新田んぼ10年プロジェクトの行動計画の策定とキックオフシンポジウムを行い、これまでの活動成果を継承し、今後の道筋を示し、より多くの賛同者を得て、田んぼの生物多様の主流化に向けて更なる推進を目指す。

活動内容と成果

地域交流会（小松島市）、ヒアリング（2回）を開催し、登録参加者は、延べ301団体・個人となった。2020年以降の新10年計画策定のワークショップ、田んぼの生きもの調査と多面的機能支払い制度の勉強会（八代市）を開催。農水、環境、国交省と水田決議円卓会議準備会を5回開催。「田んぼ10年だより」を3号刊行。エコライフフェア（オンライン）に参加し、活動内容を配信。IUCN-Jの生物多様性国家戦略を考えるフォーラムで農業の分科会を開催。田んぼの生物保全の動画を作成。10年間の成果をまとめた報告書を発行。



田んぼの生きもの調査（八代市）の参加者

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

水田決議円卓会議準備会	5回
「田んぼ10年だより」の発行	3号
今年度計画の達成度	60%
目標達成度	75%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス対策で、会議・集会規制が流動的で、延期も続いたため、事業実行計画や将来計画の検討に齟齬が生じた。

■ 工夫した点

会議・集会の規制対応として、実施時期を調整するとともにオンライン化を進めた。実際に集まる場合は感染対策を徹底した。

〒110-0016
東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3F
電話：03-3834-6566
E-mail：info@ramnet-j.org
HP：http://www.ramnet-j.org/



バングラデシュネトロナ県における気候変動による洪水への地域住民の適応能力とレジリエンス強化

活動地域  バングラデシュ

ひろげる助成

3年目

実践

ガイドライン実践項目
うちの実践数 **18項目**

コミュニティシード
バンクでの保存種 **101種**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **90%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

本事業は、農民の作付け転換を洪水被害軽減策として導入したが、作付け転換への農民の理解を得ること、参加を促すことが最も難しい点であった。

■工夫した点

短期間に収穫できる稲や水害に強い稲の品種、冬期作付け品種(野菜)等を試験栽培圃場を通し認知してもらい、これらが洪水被害を低減することを理解してもらった。



フィールド観察会での品種選定

課題

- ①気候変動から頻発・長期化する洪水により稲の収穫量が減少・全滅すること
- ②土壌・河川の生態系が人間の活動によって崩れていること

目標

雨期に地域一帯が浸水する事業地において、小規模農家及び漁師が農業・漁業を持続的に行えるよう、洪水への対応策を自ら考え、実施している(農業のレジリエンス強化)。

活動内容と成果

対象農民へ気候変動起因の季節性洪水の長期化や突発的な洪水のメカニズムを学ぶ研修を提供し、事業地に適した農法の導入や水害や冷害に強い品種の導入、植樹活動を通じた環境保全に対する意識構築を図った。これらの活動の結果、農民は栽培する稲や野菜の種・種もみを収穫し、農民間で交換し、次期作付け用に多種多様な品種の種子を保管することができるようになった。今回は新型コロナウイルス禍で活動に制限が生じたものの、休校で時間を余した青少年からなる自助グループが形成され、植樹活動への積極的な参加がみられた(植樹数12,480株)。



農民とのディスカッション

全助成期間の活動を振り返って

事業課題とする“洪水の農作物被害”はすべての農民が打開したい課題であったが、最初は作付け転換に積極的な農民が少なかった。試験栽培圃場で生育された稲・野菜の生育状況をみて、徐々に農民からの理解が得られ、現在では自助グループが10組形成されている(276人所属)。導入したシードバンク(種子保存施設)の利用者も年々増加し、今回は約665世帯が利用し、現在101種の種・種もみが保存されている。



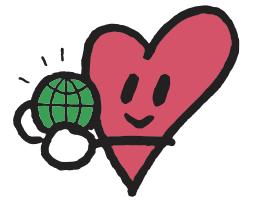
水上での野菜栽培の様子

House#3/1, Flat-5A, Lalmatia, Block-F, Dhaka, 1207,
Bangladesh
電話: +880-2-9132372, +880-1552-389857
E-mail: info@barcik.org.bd
HP: http://www.barcik.org.bd



今後の展望

今次形成された自助グループは、地域住民の巻き込みに取り組んでおり、今後このグループのようにイニシアティブを持って活動する自助グループが作られていくことが期待される。その他、設置したシードバンク、苗木圃場が地域の自然環境に大きな貢献をしていくと考える。また、青少年から植樹活動に関心が集まっていることから、本事業終了後も青少年の巻き込みを力を入れ、次世代に繋がる気候変動に強い地域づくりに貢献したい。



防止地球温暖化

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

柿木自然エネルギー学校(小水力)実践編の開講

活動地域  島根県吉賀町



電気配線作業についての講座の様子

課題

脱炭素社会構築と地域再生の両立を目指し、この地域にある自然エネルギーを活用した事業を増やすことと、そのための担い手育成が求められている。

目標

小水力発電事業を地域で増やすため、ノウハウを持った小水力発電開発の担い手を増やす。またその人たちが中心になり、地域の資源発掘や地域が主体となった事業化を図る。



今後の展望

完成した発電設備を使って、自然エネルギーや小水力発電について学ぶ環境教育プログラムの開発や、EV活用の検討、小水力発電事業の検討を進めていく。

はじめる助成

1年目

実践

活動内容と成果

島根県柿木村において小水力発電導入手法を学ぶ「自然エネルギー学校(実践編)」を開催した。座学・見学だけに留まらず、実際に現場で小水力発電導入(調査→設計→設備設置)を実践することで、より実際に即した実践経験を持つ小水力発電開発の担い手を育成する。今年度は、実際に小水力発電設備を設置し発電開始することを目標に、各回10人前後の参加者により、発電設備に水を流し込むための取水設備や水路の土木工事、水車・発電機の設置と電気工事など、手法を学びながら自分たちで作業をして発電設備を完成させた。



設置した小水力発電設備

自然エネルギー学校受講者数	12人
設置した小水力発電設備	1基
今年度計画の達成度	95%
目標達成度	95%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

発電設備の設置場所は、そこで発電可能かどうかだけでなく、発電した電気をどう利用できるかもポイントとなり、選定に苦労した。

■工夫した点

砂防堰堤の利用には県の許可が必要であるが、このような用途での利用は県内で前例がなく、他県での事例を利用して説明した。

島根県鹿足郡吉賀町柿木村
E-mail: kakinokieschool@gmail.com

(一社) コクリエーションデザイン

キリバス共和国でエネルギー転換の仕組みと環境マイスター制度をつくるプロジェクト

活動地域  キリバス



KiriCANへのヒアリング風景

課題

●ユース世代の活躍の場が乏しい ●気候変動に関するグローバルな課題とゴミ問題など身近な課題を問題として意識しにくい ●環境教育のプログラムに関するノウハウに乏しい

目標

「ユース世代の活躍の場の創出」「環境意識の改善」「環境問題を啓発していくためのプログラム開発」



今後の展望

KiriCANの中に環境ユースセンターを立ち上げ、KiriCANとMELON、コクリエーションデザインが中心となり協働で人材育成プログラムを推進する。また国の制度として「環境マスター」制度が推進される。

はじめる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

事業計画のキリバス側へのヒアリングを実施し詳しい実情を把握し今後の展開の可能性も探ることができた。【ヒアリング先】

- KiriCAN
主な内容: KiriCANが現在取り組んでいる活動と気候変動に関する取組み。今回の人材育成事業への反応
 - JICAキリバスオフィス
主な内容: 日本人現地協力者の可能性や海外青年協力隊の動向調査
 - 元海外青年協力隊
主な内容: キリバスにおける環境活動の状況及び日本との連携状況調査
- 以上の情報やこれまでのキリバス事業の経験を踏まえ、事業計画案を作成した。



元海外青年協力隊へ対面でのヒアリング風景

キリバス関係者へのヒアリング	3回
事業計画書(案)	1件
今年度計画の達成度	95%
目標達成度	95%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で国境閉鎖の解除がされず渡航ができなかった。当初予定の対面での合意形成がなかなか進まなかった。

■工夫した点

リモートによるヒアリングを行う中で現状の課題やニーズを確認するとともに事業構想の共有化により仮合意まで行った。

〒121-0073
東京都足立区六町1-3-2
E-mail: office.cocredesign@gmail.com

(特非) 東大和エネルギーの会

東大和エネルギー調査隊とおひさまモニターBIG

活動地域  東京都



スタディーツアーで所沢市メガソーラーを見学

課題

地球温暖化防止、CO₂削減のため、地域内で再生可能エネルギーの電気を創り、使うを増やす。

目標

市内の家庭からのCO₂排出量を把握し、削減の取組みを進めるため、モニター体験、講演会、スタディーツアーなどを実施し、自分事として考える人を増やす。



今後の展望

エネルギー調査隊を市内の他の地域にも広げる。CO₂排出ゼロに向け、引き続き、モニター体験や学習会などを実施して、自分たちに何ができるかを自覚し、行動に結びつくような取組みを広げていく。

はじめる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- エネルギー調査隊は、市内2地区を選定し、太陽光パネル設置状況を調査した。結果、設置率は約3.5%だった
- おひさまモニター事業は、新規に480Wの太陽光パネルを2か所貸与し、太陽光発電の利用を実感してもらった。その他、200Wを2か所、100Wを4か所、合計8か所のモニターを実施、体験発表会は次年度に延期
- 講演会、所沢市へのスタディーツアーなど学びの機会を確保した
- 市民発電は5周年を迎え順調に発電している。5周年記念誌を作成し配布した。市民や市議会、市長に向けて提言を行った



市民発電5周年記念集会の様子

スタディーツアー参加者	17人
太陽光パネル設置状況の現地調査	2地域
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

エネルギー調査隊として、市内で太陽光パネル設置状況の調査をするときに、直接話を聞くことが新型コロナウイルスにより困難になった。

■工夫した点

エネルギー調査隊について、対面調査の代わりにして、アンケートを作成、各戸に投函し、返信してもらった。

〒207-0014
東京都東大和市南街2-17-16
パピルス会館
電話：042-566-2950
E-mail：yamato_2146@yahoo.co.jp
HP：https://higashiyamato-ene.jimdo.com/



(一社) 環境政策対話研究所

脱炭素社会づくりに向けた熟議の輪を広げる。

活動地域  東京都・神奈川県・愛知県・北海道



授業風景

課題

脱炭素転換推進の上で市民参加（行動、政策形成）は不可欠であるが、日本社会では問題点打開への市民による徹底討議、合意形成努力、市民政策提言などは未知の世界である。

目標

脱炭素転換に向けて、市民による徹底討議のための手法開発を実践を通じて推進し、定着を目指すとともに、若い世代を対象に参加・熟議に対する必要な能力を身につけてもらう。



今後の展望

目標に向けて着実に前進している。2050年カーボンゼロへの内外の追い風を受け、地域社会・高校・高専の教育現場と連携し、実践を積み上げ、脱炭素社会づくり参加・熟議型のプログラムの完成・普及に全力をあげたい。

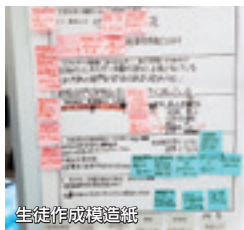
ひろげる助成

1年目

実践

活動内容と成果

- ①脱炭素社会づくりのための地域市民討議の開催
欧州の気候市民会議等の動向を踏まえ、川崎市にて「脱炭素かわさき市民会議」を開催することとし、無作為抽出を基本に75人の一般市民の参加を得て、2021年5-10月開催に向け準備
- ②高校生及び高専生向け参加・熟議型脱炭素・エネルギー教育プログラムの開発・実践
筑波大学附属坂戸高校、立命館慶祥高校、福島工業高等専門学校の3校にて、それぞれの特長をいかしたプログラムを開発し約150人の高校生等の参加を得て実践
- ③脱炭素転換に向けた若手人材の育成



生徒作成模造紙

高校等のプログラムへの参加学生数	150人
川崎市での市民討議への参加者数	75人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	30%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

本活動は、参加・熟議型対話の手法開発・普及である。新型コロナウイルス禍の中、三密になりかねず、オンライン化が切実な課題になった。

■工夫した点

オンライン化の手法開発に徹底的に時間をかけ、試行錯誤を繰り返した。多くの先行事例研究を行い、専門家の指導を受けた。

〒160-0015
東京都新宿区大塚町31-22
エクレール外苑西202
電話：03-6883-8865
E-mail：office@inst-dep.com
HP：http://inst-dep.com/



(一社) 自然エネルギー共同設置推進機構 (NECO)

自然エネルギー 100%を目指す「持続可能まちづくり」。電気・熱・交通での省エネ／シェア／創エネ

活動地域 長野県



上田ビジョン会議シンポジウム

課題

持続可能なまちづくりは重要だが①既存社会インフラが化石燃料多消費を前提②個別利害と全体最適な組み合わせがずれる③短期的にはコスト高、で進みにくい。

目標

電気に比べ、熱や交通のゼロカーボン事業は、一団体だけでは実現が難しく、市内の行政や企業、そして各集落などと協働していく必要があるため、連携体制を構築する。



今後の展望

持続可能なまちづくりは、インフラの変更も必要であるため、長期にわたる事業である。まずはエリアを決めて、その中で「断熱建築」「歩いて楽しめるまちづくり」の魅力を体感できるように、実践していく。

活動内容と成果

- 持続可能なまちづくり学習会を立ち上げ、エネルギー利用を視点に入れた自主的な住民ワークショップにつなげてきた。
- ①多様なメンバーによる協議会で、上田市の各種計画を読み取るなどして、共通の課題・不安を抽出し、その解決には持続可能なまちづくりが重要であることを共同学習してきた
 - ②上田市や長野県の地域振興局と継続的に協議を行って、課題や認識をすり合わせた
 - ③熱の省エネに関して、市内の文化施設など多くの人を訪れる場所4か所で断熱改修ワークショップを実施し、断熱効果を身近に実感できるようにした



断熱改修ワークショップ

ひろげる助成

1年目

実践

協議会イベント出席者数 **200人**

断熱改修ワークショップ開催数 **4か所**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **25%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

個別地域や自治会などでの取り組みは、関係構築など含め、時間がかかる。

■工夫した点

市内の多様な職業、役職による協議会を継続運営し、データを揃えて、共通認識が得られるようにした。

〒386-0018
長野県上田市常田2-27-17
電話：0268-75-5896
E-mail：info@neco.or.jp
HP：https://www.neco.or.jp



(一社) カーフリーデージャパン

ベトナムの典型的な農村景観が広がるタイビン省での自転車を中心とした持続可能な交通まちづくり活動

活動地域 ベトナム



タイビン省での自転車ルート調査

課題

ベトナム他都市のような深刻な交通渋滞や環境汚染がまだ少ないタイビン省で、農村集落の環境や景観、生活、文化を維持・保全し、集落の移動の安全や生活を向上させること。

目標

タイビン省の平坦な水田地帯や自然豊かな地域特性をいかした移動やエコツーリズムを推進し、自転車を核とした持続可能な移動体系を確立させること。



今後の展望

今後は渡航前提で考えているが、オンラインでの活動も検討しながら、現地住民や観光施設、行政機関等と協働して、電動自転車の貸出を開始したり、エコツーリズムの策定、一部整備を目指す。

活動内容と成果

タイビン省における子どもたちの通学実態調査を実施した。現地協力スタッフや、協力団体の大学組織 (NUCE) が、都市部と農村部の小中学校6校において、駐輪場調査を行い、子どもたちの通学手段を把握した。さらに、そのうち4校では、通学やまちの観光に関するアンケートを実施した。また、自転車による移動の可能性を模索するべく、観光計画など諸文献調査、農村間等を電動自転車を実態調査し、自転車を活用したエコツーリズムの提案も始めた。一方で、自転車走行環境整備に必要な標識等を前活動地の協力団体と協力して作成した。



協力大学組織でのワークショップ

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

通学アンケート回答者 **120人**

大学組織ワークショップ参加者 **8人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で渡航できない中、現地の協力団体等とメールで交渉したり、渡航へ向けての申請等準備に苦労した。

■工夫した点

当団体の現地活動の一部を、協力団体に代行を通じて技術移転したり、次年度以降に行う予定だった作業を先行したこと。

〒114-0014
東京都北区田端2-4-19
電話：03-6914-3404
E-mail：carfreejapan@cfjapan.org
HP：http://www.cfjapan.org



(一社) 全国ご当地エネルギー協会

地域参加型温暖化対策としての「ご当地エネルギー地産地消」の仕組みづくり・協働・実装

活動地域  東京都、日本全域



4DH国際オンラインシンポジウムの様子

課題

系統制約やFIT価格の低下など事業環境が厳しくなる中で新たなスキームでの事業化を模索し、挑戦を続けるご当地エネルギー事業の支援と協働。

目標

非FIT・ポストFIT環境下で、新たな地域エネルギー事業を10地域増やす。
国際的な協働事業を少なくとも一つ以上立ち上げる。



今後の展望

引き続き国内外のネットワークを強化するとともに、非FIT・ポストFIT環境下でご当地エネルギー事業を増やしていくため、全国の会員団体と協働で事業モデルを検討していく。

活動内容と成果

新型コロナウイルス禍で調査や事業推進が困難な中、バイオマスボイラーの調査などを推進することができた。また、今年度はほぼ全ての国際会議がオンライン開催となったが、参加や発表の機会を活用することで、引き続きネットワークを強化することができた。昨年度延期となった日本での4DH国際シンポジウムは、今年度オンラインで開催することができた。また、国内向けのオンラインセミナーを9月に開催したところ、参加者も多く(100人以上)、関心の高さが伺えたため、3月に再度国際オンラインセミナーを追加開催した。



ご当地電力証書のロゴ

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

国際会議の参加	5回
ご当地電力価値証明発行数	3件
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	30%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの流行で、国際会議の開催を延期した。また、地域にインタナーを派遣するなどの交流が難しくなった。

■工夫した点

国際会議や研究会などは、オンラインに切り替えることで開催や参加が可能となり、ネットワークの強化につなげることができた。

〒160-0008
東京都新宿区四谷三栄町16-16
電話：03-3355-2212
E-mail: contact_info@communitypower.jp
HP: http://communitypower.jp



(特非) 生ごみリサイクル全国ネットワーク

通気式生ごみ保管容器「生ごみカラット」を使用した地球温暖化対策

活動地域  日本全域



標準的な生ごみを作成し実証事業を進める様子

課題

「生ごみカラット」の臭気の抑制効果や水分除去効果、温室効果ガス削減効果を明らかにして、それを自治体のごみ処理担当者に理解してもらうこと。

目標

「台所からの地球温暖化対策」として生ごみの水分減量を普及すること。半乾燥生ごみ活用の普及。



今後の展望

自治体アンケートでは、当ネットワークからの支援のニーズを把握した。回答があった自治体と連携して生ごみカラットを用いたティアップ事業を実施予定。

活動内容と成果

今年度は①生ごみカラットの有効性確認の実証実験、②自治体の水分減量・生ごみ資源化を把握するためのアンケート、を中心に実施した。①の結果、臭気抑制効果や水分減量(悪天候でも40%の減量効果)による地球温暖化防止効果を確認。この結果報告と②の調査を実施。679自治体から回答(回答率38.8%)を得た。温暖化防止のための施策では、「生ごみからの水分除去」が全体の42.2%であることを把握。また、当会への事業支援の要望自治体は、「学習会への講師派遣」が48自治体であり、次年度のティアップ事業につなげていく予定である。



生ごみカラットを使い生ごみからの水分削減

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

ティアップ自治体候補(講師依頼)	48自治体
全国市区町村アンケート回答率	38.8%
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	30%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

実証事業を実施するための生ごみ(標準的な生ごみ)の設定のために時間を要した。

■工夫した点

自治体の調査結果を参考に標準的な生ごみを作成し、生ごみカラットを用いた臭気抑制や水分減量効果を把握するための事業を実施。

〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町 3-1-5
電話：03-3483-3761
E-mail: info@namagomi-rz.sakura.ne.jp
HP: http://www.namagomi-rz.sakura.ne.jp/



市民や事業所の再エネ電力選択による持続可能な再エネ社会の構築

活動地域 日本全域



3/13パワーシフトサミットVol.12開催

課題

環境問題に関心のある市民の間でも、「再エネ電力の選択」を実行している人はまだ一部であり、まだまだ情報普及が必要である。

目標

大手電力と新電力との間の格差や大規模電源を優遇する制度面の課題を新電力会社とも連携して、是正改善に向けた働きかけを実施する。一般市民への情報普及を加速させる。



今後の展望

異業種で活躍するアンバサダーの方々と連携したSNSライブや記事を作成したい。また賛同いただける団体との連携により、様々な社会問題と同時に気候危機の解決に向けて活動したい。

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- ①当会に参加している再エネ新電力向けに電力制度問題などの勉強会を5回実施し、課題やそれぞれの工夫・取組みについて共有した
- ②アンバサダー企画では10人の方にパワーシフトアンバサダーとなっていただきSNSやイベントで発信を行い、再エネ選択がより身近なものになるように工夫した。さらに一般の市民の方に講座を受けていただくことで知識と発信力を育成し、約10人の方に市民アンバサダーとして参加いただいた



2/5電力市場高騰トーク開催

再エネ電力会社追加 **5社**

賛同団体数合計 **92団体**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **20%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍で対面イベントや勉強会はほとんど開催できなかった。電力会社紹介が増え、連絡の維持は課題。

■工夫した点

パワーシフト（再エネ電力の選択）というシンプルな活動が広まる中で、SNSなどのデザイン性を高めて広がりを作った。

〒173-0037
東京都板橋区小茂根1-21-9
FoE Japan内
電話：03-6909-5983
E-mail：info@power-shift.org
HP：https://power-shift.org/



(認特) FoE Japan

アジア太平洋地域での気候正義に基づいた1.5度目標達成に向けた調査・提言活動

活動地域 アジア太平洋



アジア太平洋地域での気候正義研修の様子

課題

1.5度目標達成及び途上国での気候変動被害対策が「当該支援策に途上国の声が反映されておらず」「先進国による途上国への適切な支援」となっていない。

目標

1.5度目標達成のため、先進国及び途上国の温室効果ガス排出削減目標が気候正義の考え方に基づいたものまで引き上げられる。

ひろげる助成

1年目

調査研究

活動内容と成果

2020年度は新型コロナウイルスの影響によるCOP26の延期に伴い、国際交渉に関連する活動は十分に実施できなかった。しかし、新型コロナウイルス禍においても、アジア太平洋地域の若者を対象とした研修プログラムをオンラインで実施し、6か国から約30人の参加者とともに5回実施することができた。気候変動による損失と被害及び気候正義の普及啓発という活動についても、外部講演は8回実施し、延べ140人ほどが参加、また企画した連続ウェビナーでも全5回で250人が参加した。



気候被害を語る気候変動連続ウェビナーにて

気候変動連続ウェビナー **250人**

アジア太平洋地域での気候正義研修 **5回**

今年度計画の達成度 **66%**

目標達成度 **16%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスによって国際会議などの大きな予定変更が重なり、計画通りに進められなかった。

■工夫した点

イベントやセミナーのオンライン移行。直接対面での実施が難しいからこそ、回数を増やしたり広く呼びかけたりした。

〒173-0037
東京都板橋区小茂根1-21-9
電話：03-6909-5983
E-mail：info@foejapan.org
HP：https://www.foejapan.org/



パリ協定の目標達成のための国内制度への政策提言と対話

活動地域 日本全域



課題

現行の気候・エネルギー政策をパリ協定に整合するように抜本改正する動きは国内ではほとんどみられない。1.5℃目標に整合するよう対策の強化が必要である。

目標

日本政府において、パリ協定1.5℃目標に整合的な、気候変動に係る政策が導入されること。



今後の展望

2021年はG7・G20サミット、COP26グラスゴー会議など気候変動に関する重要なイベントが目白押しである。新型コロナウイルス禍の状況に臨機応変に対応しながら、今後もタイムリーな提言に取り組む。

活動内容と成果

気候変動に関する国際動向について分析しながら日本の気候変動・エネルギー政策やグリーンリカバリーに関する提言・情報発信・政府との対話に取り組んだ。幅広い市民団体やユースグループと協議し、署名キャンペーン「あと4年・未来を守れるのは今」にも協力した。

CAN-Japanでは、1.5℃目標のために2050年実質ゼロの目標設定を日本政府に要請してきた。2020年10月、菅総理が2050年までのカーボンニュートラル宣言を表明したことは、一歩前進だ。だが、2030年目標や対策の強化など課題は山積している。



協力する署名キャンペーン「あと4年」

プラットフォーム助成

1年目

知識の提供・普及啓発

イベントを開催する **7回**

今年度計画の達成度 **40%**

目標達成度 **40%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍により、COPなどの国際会議が中止になったため、活動計画の修正を迫られた。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍にあわせ、オンラインでの情報発信やウェビナー企画などを強化した。

〒604-8124
京都市中京区帯屋町574番地
高倉ビル305号
電話：075-254-1011
E-mail: secretariat@can-japan.org
HP: <https://www.can-japan.org>
プロジェクト: <https://go100re.jp>



(特非) PVネット兵庫グローバルサービス

神戸市灘区水車新田における都市型小水力発電による地域活性化

活動地域 兵庫県神戸市



自然エネルギーフォーラム終了後集合写真

課題

再生可能エネルギーは環境への影響が少なく、地球の環境問題解決に寄与することを地域住民各自が理解し、自ら地球温暖化防止に資する行動をすることが重要。

目標

小水力発電によるクリーンな電力が利用されることで都市近郊における低炭素地域づくりに貢献し、地域資源が有効活用されている。



今後の展望

国、県、市の関連許認可機関からの許認可は取得でき、設置工事もほぼ予定通り進んでいる。今後は、「小水力発電設備並びに設備設置敷地の活用構想づくりと実践」に重点を置いて活動する。

活動内容と成果

- 持続可能な地域社会実現をテーマとして、セミナー、フォーラム各1回開催(参加延べ人数121人、賛同メッセージ多数)
- 環境関連イベントのWEBでの開催に参加
 - ①ひょうごユースecoフォーラム
 - ②「ふれあいフェスティバル」in阪神北(新型コロナウイルス禍においてもWEB上でわれわれの活動の認知度が向上できた)
- 小水力発電設備を設置する敷地を里山林として維持・管理し、学びの場として有効活用する方法について神戸大学黒田教授の指導を受け検討を開始
- 国、県、市の関連許認可機関からの許認可を取得できた



設備設置敷地内でのキノコ栽培活動

つづける助成

2年目

実践

イベントの延べ参加者数 **121人**

小水力発電設置賛同割合 **90%**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

- ①新型コロナウイルス感染拡大の影響で環境イベントが開催されず
- ②国、県、市の関連許認可機関との協議に時間と労力を要した

■工夫した点

- ①WEB開催に参加
- ②根気強く交渉を実施

〒657-0068
兵庫県神戸市灘区篠原北町3丁目9-3
電話：078-861-2530
E-mail: pvnet_hyogo@hera.co.net.ne.jp
HP: <http://pvnyhyogo.g2.xrea.com/>



(特非) 若桜・こらぼ企画

若桜町における実践型自然エネルギー学校 (小水力発電)の開催

活動地域  鳥取県若桜町



発電機設置作業の様子

課題

若桜町は県内有数の水資源やバイオマス資源を有しているものの、地域主体の自然エネルギー利活用が進んでおらず、小水力発電の事業化が課題である。

目標

受講者が小水力発電開発の担い手として、資源発掘、調査、事業計画策定や地域での主体形成へのコーディネートや、自らも事業主体者となり、事業を実施することを目指す。



今後の展望

完成した発電設備を利用し、町内住民への自然エネルギーに関する勉強会や、子ども向けの環境教育プログラムを検討・実施する。また、本格的な発電所建設の検討もしていく。

活動内容と成果

鳥取県若桜町において地域住民を対象とし、小水力発電導入手法を学ぶ「自然エネルギー学校」を開催した。座学・見学だけに留まらず、実際に現場で小水力発電導入(調査→設計→設備設置)を実践することで、より実際に即した実践経験を持つ小水力発電開発の担い手の育成を目指している。今年度は実践編を開講し、昨年の基礎編で学んだことを基に、測量、取水柵の設計や資材調達から、水路の土木工事、水車・発電機の設置と電気工事など、すべて自分たちで作業をして発電設備を完成させた。小水力発電の開発ノウハウを得ることができた。



発電した電気を使ったイルミネーション

つづける助成
2年目
実践

自然エネルギー学校 実践編受講者	14人
完成した発電設備	1基
今年度計画の達成度	95%
目標達成度	85%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスでスケジュールが変更になった。雪のシーズンの前に設置作業を終了させることが必要だったが、なんとか間に合った。

■工夫した点

修理が必要になった場合、人任せにせず自分たちで対処できるように、資材調達もすべて自分たちの手で行っている。

〒680-0701
鳥取県八頭郡若桜町若桜416-1
E-mail : wakasa.korabokikaku@gmail.com

縁パワーしまね

未来対話－大学生・若者と作る「2050年に向けた山陰エネルギーシナリオ」

活動地域  島根県大田市



今年イベントをすべてオンラインで開催

課題

山陰地域では、地域主体によるエネルギー事業の創出やエネルギーシフトへの機運が低調である。気候変動やエネルギー問題について自分事とし、活動を始める人を増やしたい。

目標

自然エネルギーの利用など先進的に取り組む地域や人を増やすこと、そのための働きかけ活動をする人を増やすこと、地域の将来を考える若者がその活動を担うことを目指す。



今後の展望

次年度は、断熱改修プロジェクトを検討しており、学校や住宅でのワークショップを実施予定である。また、今年度完成した小水力発電設備を活用し、環境教育や同様の設備を増やしていくための取組みを実施する。

活動内容と成果

今年度は、昨年度開催を見送ったシンポジウムを、オンラインでのイベントに企画変更して開催した。気候変動の現状や世界の動き、海外のエネルギー事業の事例、建築物の省エネ化、電気自動車(EV)の動向など7回にわたり学び、山陰地域での住宅や学校の断熱化やEVの普及のための今後の活動について参加者とともに検討した。また、自然エネルギーに取り組みたい地域へのサポート活動を実施し、小規模な小水力発電設備の設置やそれをいかにした地域づくりについて協議した。



地域住民主体の小水力発電事業をサポート

つづける助成
2年目
知識の提供・普及啓発

オンラインフォーラム 講座開催数	7回
オンラインフォーラム 延べ参加者	278人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	70%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

地域の自然エネルギー資源調査などは屋外の活動ではあるものの、感染対策のため参加者を絞らざるを得ず、やや広がりには欠けた。

■工夫した点

オンラインの操作に慣れない人のイベントへの参加が難しくなることから、ごく少人数が集まって参加するための会場も用意した。

島根県大田市
E-mail : office@empower.shimane.org

(一社) おらってにいがた市民エネルギー協議会

「低炭素都市にいがた」を実現させるための
プロフェッショナル人材、「環境エネルギー
教育コーディネーター」の創成

活動地域 新潟県



小学校での環境教育出前授業

課題

地元新潟において、環境教育啓発活動の必要性を感じており、それを担う若い世代の人材育成が急務である。

目標

新潟の低炭素社会実現に向けて「環境エネルギー教育コーディネーター」を育成することを目的とする。



今後の展望

引き続き、ユーススタッフがインターン兼アルバイトという形で団体に参加し、より当事者意識と積極性を持って学びと実践を経験してもらうプログラムに改良して実施する予定。

つづける助成

2年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

年間を通じて、延べ41人のユースにオンラインセミナーや勉強会、合宿、エコイベントに参加してもらうことができた。中でも、実践できるスタッフとして3人のユースが「おらってインターン」として積極的に活動に参加し、環境団体ウェブサイト作成のための取材、新潟市が中心となって行っている環境教育フェア実行委員会にメンバーの一人として参加する、など次世代を担う環境教育コーディネーターとしての片りんを感じさせるほどに活躍してくれた。



対面・オンライン「エネルギーカフェ」開催

インターン育成 **3人**

オンラインセミナー参加者 **108人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **65%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

インターンという新しい形の人材育成計画で、限られた環境の中でどのようにして課題解決などに取り組みば良いのか悩んだ。

■工夫した点

外部のアドバイスを受けヒアリングをすることで、解決案を出し合ったり、新たな活動方針の可能性を見出すことができた。

〒951-8116
新潟県新潟市中央区東中通2番町
288番地2マンション101号室
電話：025-385-6047
E-mail：info@oratte.org
HP：http://www.oratte.org/



(一社) あきた地球環境会議

サバ州地球温暖化防止センターSDGs達成へ寄与!
“気候変動×スクールmanifesto”で未来を描く
Project Phase II

活動地域 マレーシア

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

サバ州政府との本事業に関するMoU締結：2019年11月18日付
(1) 気候変動及びSDGs Goal-13達成へ向けた「SERASI コンテスト」公募▶エントリー 75校
(2) サバ州認定地球温暖化防止講師の人材育成体制整備
▶講師養成動画プログラムの構築：①基礎編 ②実践編 ③応用編 <DVDセット(各1本3枚入)>
▶講師養成に関するアンケート等：①講師認定レポート ②授業参加生徒用アンケート ③認定講師報告レポート
▶講師養成マニュアル：1冊
▶講師認定オンラインテスト：①基礎編 ②実践編



講師養成DVD：応用編プレビュー

課題

資源産出国でエネルギーに係る意識が希薄であり、“地球温暖化防止の取組み”が全く見られず、マインドセットが不十分な状況であり、気候変動対策教育が喫緊の課題。

目標

スクールmanifesto等によりサバ州と秋田の高校生の地球温暖化防止意識が醸成され、サバ州の学校ではパリ協定とSDGsが認知され、達成のための取組みが推進される。



今後の展望

2021年度は、SERASIコンテスト開催と優良事例集配布による波及と、構築した養成プログラムの認定講師によるサバ州全域での授業展開とその検証評価による改善等を経て、本事業の継続及び定着を図る。

SERASIコンテスト
エントリー学校数 **75校**

講師養成プログラム
WEBテスト **5種**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **60%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの影響により当初計画を変更したが、想定外に依頼や調整等に手間取ったため、事業進捗管理に苦勞した。

■工夫した点

オンライン会議と並行してマレーシアで汎用性の高いWhatsAppアプリを活用し、担当者レベルの細かな確認事項を共有した。

〒010-0912
秋田県秋田市保戸野通町
7-33 2F
電話：018-874-8548
E-mail：info_acea@ceeakita.org
HP：http://www.ceeakita.org/index.html



(特非) エコプランふくい

福井とタンザニアの節電所・発電所共同事業

活動地域  福井県・タンザニア



タンザニアZoom交流会

課題

タンザニア市民共同発電所を作り非電化農村を再生可能エネルギーで賄う。福井では発電量をオフセットする節電所を設置する。共同運営体制で持続可能な社会づくりをめざす。

目標

①市民共同発電所システム作りと現地NPOとの共同運営体制作り②発電所1か所、700kWh/年③オフセットの節電量1400kWh/年



今後の展望

タンザニアの非電化農村へのソーラー設置、ソーラー運用マニュアルによる長期使用の技術提供を行うこと（日本の災害用独立ソーラーのマニュアルにも活用）と、日本の節電所認定を更にすすめる。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

新型コロナウイルスでタンザニア渡航ができなかったため、リモートでの打ち合わせによるドドマ市民ソーラーの運用管理、非電化農村のソーラー状況調査、特産品手配・送付、Zoom交流会を開催した。一方、タンザニア連携の節電所推進では、勉強会やイベント出展により募集を行い70,000kWh以上の節電所認定を行った。また、タンザニアでのソーラー「施工・管理運用マニュアル」作りの準備をもとに日本の災害用電源に活用する学習会を開催できた。



タンザニア連携節電所募集の啓発

節電所認定勉強会 **2回**

節電所認定 **72,743 kWh**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスでタンザニア渡航ができず、現地での活動ができなかった。

■工夫した点

Zoomでの打ち合わせの頻度を増やし、カウンターパートに調査や交流会の手配、特産品の配送を行ってもらった。

〒910-0004
福井県福井市宝永4-13-4
電話：0776-30-0092
E-mail：npo@ecoplanf.com
HP：http://ecoplanf.com/



(認特) おかやまエネルギーの未来を考える会

「岡山版・自然エネルギー100%プラットフォーム形成事業」

活動地域  岡山県



中高生が考える地球温暖化対策セミナー

課題

地球温暖化防止や持続可能な地域づくりのためには再生可能エネルギーの導入拡大、エネルギーの地産地消が重要であるが、行政、一般市民とも関心が低く、誤解もある。

目標

自治体がゼロカーボン宣言をすることや、人材育成講座やユースチームの活動を通じて県民・若者世代に再生可能エネルギーの導入意欲が高まること。



今後の展望

企業に、社会が脱炭素の流れになっていることを周知することや、断熱改修のワークショップ事例を作り、再エネ+断熱改修でゼロカーボンが達成できることを提案していきたい。若者の活動も継続していく予定。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

自治体にゼロカーボンを促すため27市町村にアンケート調査をするともに、研究者の協力を得て課題解決の参考となるようロードマップ案や先進事例を記載した冊子を作成。2021年度に配布する予定。2020年7月には岡山県が「二酸化炭素実質ゼロ宣言」を行い、岡山市が「世界首長誓約」に署名。岡山市の場合は、活動1年目に当法人が岡山市とともに市民共同発電所全国フォーラムを開催したことが契機となった。さらに2021年2月には岡山市を含む13市町が連名で「二酸化炭素実質ゼロ宣言」を行い県内のほぼ半数が表明した。



自馬高校生による断熱改修の様子を視察

連続人材育成講座 **80人**

自治体への提案書作成 **300部**

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

高校生と大学生が中心となって主催したセミナーであったが、準備段階で部活や受験、就活などで時間調整が難しかった。

■工夫した点

緊張をほぐすためにファシリテーターの学生が和やかな雰囲気を作ってくれ、楽しかった・勉強になったという感想が多かった。

〒700-0807
岡山県岡山市北区南方1-6-7
電話：086-232-0363
E-mail：enemira@okayama.
email.ne.jp
HP：https://blog.canpan.info/okayama-enemira/



若者による気候変動の解決を導くビジョン作成を通じた活動の拡大と提言の影響力強化

活動地域 日本全域



LCOYにて「やりたいこと宣言」の様子

課題

気候変動問題が現実的な問題として認識されていない、あるいは特に地方において情報摂取機会が限定されている。また青年の意見が政策に反映されにくい。

目標

日本の青年の意識が向上し、気候変動問題解決を目指して多くの青年が行動する、また気候変動対策に対して青年の意見・ビジョンが反映される。



今後の展望

完成した「クライメートビジョン」を「持続可能な社会を目指すZ世代から環境省への提案書」を共同執筆した青年を中心に共有し、30,000人への認知を目指すとともに省庁と連携した協働案を創出・実施する。

活動内容と成果

10月17-18日にLCOY Japan 2020と題したオンラインイベントを実施。日本全国と海外3か国を含む計79人の若者が参加し、日本の気候政策への学びを深めた。理想の社会像「クライメートビジョン」について議論、出た意見は実行委員でまとめ、12月にイラストとして団体SNS上で発表した。
9月19-20日に岡山県西粟倉村へのフィールドワークを実施。温泉施設の薪ボイラー、地域熱供給システム、水力発電所の見学を通して、再生エネで自給率100%をめざす村の取り組みを知り、提言に役立てた。



SDGs未来都市 西粟倉村を訪問

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

環境問題への関心向上
公開WS

7回

イベント参加人数

143人

今年度計画の達成度

80%

目標達成度

60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

実行委員内での事前会合や合宿等、オフラインでのイベントが中止となったため、例年のようなチームビルディングを行えなかった。

■工夫した点

5月入会の新メンバーにイベント企画を依頼し、9月・10月にオンラインイベントを実施。チームビルディングと育成を同時に達成。



E-mail: climategyouthjapan@gmail.com

HP: <https://climategyouthjapan1.wixsite.com/mysite>

環境首都創造NGO全国ネットワーク

地域住民等主導の「気候変動適応の共創プログラム」の開発試行と、実践普及のための体制構築

活動地域 日本全域



岡山市富山公民館での講座

課題

地域主導の包摂的な適応策を組み立て、住民の生命と財産、その基盤である自然資源、社会資源を守る。

目標

地域住民等主導の気候変動適応の共創プログラムが各地で用いられている。



今後の展望

2021年度は、適応の共創プログラムを実施する地域主体者が増えるように、学校教育や環境教育、活動リーダーの育成の現場など、可能性のある学びの場で映像教材を使ってもらえるようにしたい。

活動内容と成果

具体的な地域主体の適応策の事例を共有する事例発表を行い、ディスカッションした。また、地域の特性にあったプログラムをすすめた結果、新たな自助・互助、あるいは自助・互助にとどまらず自治体とのパートナーシップへと発展する可能性が見えた地域や、地域住民が次の世代に向けてプログラムを実施する予定に進展した。新型コロナウイルスの影響で対面による活動が厳しいことを踏まえて、オンラインでも共通理解ができるように映像教材の制作に着手した。



相模原市藤野地区でのフィールドワーク

ひろげる助成

2年目

調査研究

プログラムの実施

2地域

映像教材の作成

2本

今年度計画の達成度

70%

目標達成度

70%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

緊急事態宣言の発出で、現地での活動ができなかったため、オンラインでの会議や報告発表会の実施・映像教材の制作を行った。

■工夫した点

ギリギリまで時期をずらして対応した。また、現地のコーディネーターとのコミュニケーションをSNSなども含めて密に行った。

〒604-0934
京都府京都市中京区麩屋町通り
二条下る尾張町225第二ふや町ビル
206NPO法人環境市民内
電話：075-211-3521
E-mail: office@eco-capital.net
HP: <https://www.eco-capital.net>



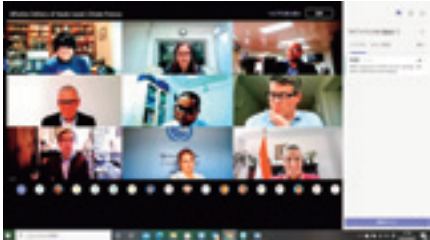
(認特) 地球環境市民会議 (CASA)

2050年80%以上の削減の実行可能性と政策措置、自治体、中小企業・市民との協働活動の構築

活動地域  日本全域

ひろげる助成
2年目
調査研究

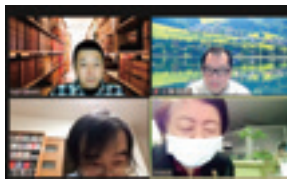
協働した自治体数	3件
今年度計画の達成度	50%
目標達成度	60%



気候変動対策協議会・オンライン会議

活動内容と成果

活動内容は、国内外の気候変動対策の情報を収集・分析し、脱炭素社会の実現可能性をシミュレーションする「CASA2050モデル」を開発して市民提案を作成していくことである（試行版を作成）。それを活用して、いくつかの自治体と脱炭素社会の必要性についての認識を共有し、地域における脱炭素社会に向けた具体的な提言づくりの協働を進めている。そして、市民啓発ツールを開発して脱炭素社会への市民対話を進めていく。これらの活動によって、市民の関心を集め、地域の脱炭素社会への移行を促すことが期待される。



脱炭素社会の地域づくりについての会合

課題

脱炭素社会の実現のために、日本における2050年の温室効果ガスの削減可能性を検討・提言し、それが実現可能であることを市民に広く啓蒙していくこと。

目標

2050年80%以上の温室効果ガスの排出削減が可能であることを示し、脱炭素社会の実現に向けて自治体や中小企業などとの協働、市民への啓発活動を推進していくこと。



今後の展望

「CASA2050モデル」を作成して脱炭素社会の実現可能性を示し、それをもとにして自治体や企業・産業界を対象に、脱炭素社会に向けた情報収集と意見交換を進め、産官民の協働に取り組んでいく。

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

地域レベルの脱炭素社会に向けた取り組みを進めるために、対象となる自治体や事業者とコンタクトして協議すること。

工夫した点

自治体や事業者と協議するために、脱炭素社会の重要性、CASA提案の方向性や成果物のイメージを用意して臨んだこと。

〒540-0026
大阪府大阪市中央区内本町2丁目
1番19号内本町松屋ビル10-470
号室
電話：06-6910-6301
E-mail：office@casa1988.or.jp
HP：https://www.casa1988.or.jp/



やまがた自然エネルギーネットワーク

地域で持続可能なエネルギーを学び実践する「やまがた自然エネルギー学校」

活動地域  山形県

つづける助成
3年目
知識の提供・普及啓発

イベント開催数	6回
イベント参加者数	117人
今年度計画の達成度	78%
目標達成度	80%



市民共同発電所での再生エネルギー活用セミナー

活動内容と成果

山形の地域・住民参加型の再生可能エネルギーセミナーイベントの開催
●地域や住民参加型のテーマで「やまがた自然エネルギー学校2020」を6回開催して延べ117人が参加
●山形県内の家庭用の「自然エネルギーを選んでCO₂を減らすための電力会社切り替えのすすめ」を情報サイト、パンフレットを作成・情報発信
山形の地域特性・住民が取り組む再生可能エネルギーに関する相談対応
●県内で活動する団体、自治体と協力した事業化支援を実施
●イベント・セミナーの概要を団体のホームページで発信



山形で自然エネルギーの電気を選ぶ 広報資料

課題

豊かな自然資源に恵まれる山形県で、住民・事業者・行政が主体的に関わり、地域特性に適した再生可能エネルギーの利活用を推進するため学び機会の創出が必要である。

目標

山形県内の各地域や住民による再生可能エネルギーに関する学びや実践導入を促進し、地域資源を活用することによる地域循環共生圏の形成に寄与していく。



今後の展望

山形県に住む県民やNPO、民間企業と連携して、地域主体となる再生可能エネルギーの取組みを支援するとともに、カーボンニュートラル、地球温暖化防止活動の推進につなげていく。

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルスの影響から実施計画、体制・スケジュール、対応人材の調整など見直して実施した。

工夫した点

現在の社会的な動向や地域の情勢を踏まえ、一般の方にわかりやすく、参加しやすいプログラムの提供をしている。

〒999-3776
山形県東根市大字羽入2115-4
電話：050-3479-2014
E-mail：info@yamaene.com
HP：http://yamaene.net/



(特非) エコ・モビリティ サッポロ

楽しく快適にSDGsコミュニティ創造事業

活動地域 北海道



地域の中に飛び込んで対話を重ねた

課題

SDGsコミュニティ創造には、地域住民の機運、合意の醸成、共有、発信することが不可欠であるが、それらを支援し持続させるための事業主体が必要である。

目標

真駒内が国内外、地域のひと、自然、歴史、文化と出会う結節点となり、未来を協働で創造していく仲間たちのしなやかなコミュニティを創造する。



今後の展望

今後も地域の課題解決は多様な主体が中心となっていくことから、運営体制を強化し人材育成・エリアマネジメントを担う組織としてのプレゼンスを高めていくことが、本事業の成果を持続させる重要なステップと考える。

ひろげる助成
3年目
実践

活動内容と成果

- 過去2か年の活動を基に、高校生・住民・企業・専門家等が、地域に根差した持続可能な活動や事業に関するアイデアをオンラインや小ユニットごとに企画立案・実施
- 市内高校生51人が参加。全13回で20チームによる企画ができた
- 成果発表会の開催（オンライン・オフライン同時開催）。これまでの活動成果を発表し、参加者106人（オンライン86人、会場20人）。活発なコメント、アドバースにより満足度が100%だった
- 環境広場さっぽろ2020キャリア教育ZONEにおいてプロジェクトから5チームが発表



アイデアにSDGsの要素を取り込んで

参加高校生の数	51人
成果発表会参加人数	106人
今年度計画の達成度	30%
目標達成度	60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

企画を実践する計画だったが、新型コロナウイルス禍により実施ができなかったチームもあった。達成感を得られない参加高校生もいた。

■工夫した点

活動成果報告会はオンライン・オフライン同時開催とし、会場から画面越しに活発なやり取りを行うことができた。

〒060-0031
北海道札幌市中央区北1条東
7丁目10-58
E-mail: info@ecomobility-sapporo.jp
HP: https://ecomobility-sapporo.jp/



地球温暖化防止

(特非) 地域再生機構

地域に根差した実践型自然エネルギー学校 (小水力発電) 運営支援

活動地域 岐阜県、島根県、鳥取県、和歌山県



那智勝浦自然エネルギー講演会

課題

豊富な資源がある中山間地において地域資源の活用である小水力発電の開発には実践経験を踏まえた人材の育成が課題である。

目標

実践型自然エネルギー学校（小水力発電）の普及モデルの活用により多くの地域で小水力発電導入の実践経験のある人材が育ち、小水力発電に取り組む主体地域が増加する。



今後の展望

実践型人材育成プログラム（普及モデル）手法により、地域に根ざした地域主体の小水力発電を導入する地域の増加を目指す。

ひろげる助成
3年目
実践

活動内容と成果

- 実践型自然エネルギー学校が開催され地域の担い手が育成されるために以下の活動を行った。
- 1地域において普及啓発の講演会の開催
 - 2地域において運営指導者の研修の開催
 - 4地域において自然エネルギー学校への講師の派遣（延べ23人）
- 岐阜県内において地域主体の取組みが着実に実行されるよう以下の活動を行った。
- 2地域で事業化に向けたフォローアップ研修の実施、組織構築支援
 - 1地域において自然エネルギー学校（基礎編、実践編）の開催



小川自然エネルギー学校（実践編）

事業化に向けたフォローアップ講座	2地域
事業化に向けた地域主体組織の構築	1地域
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	80%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍において、講座の開催の可否の判断や調整に苦慮した。

■工夫した点

地域の事情を最優先に、可能な限りオンラインでの打ち合わせや講座の開催に努めた。

〒509-7123
岐阜県恵那市三郷町野井133-32
E-mail: info@chiikisaisei.org
HP: http://chiikisaisei.org



パリ協定実施のための脱炭素ビジョンの作成と普及

活動地域  日本全域

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

セミナー・シンポジウム
参加者数 **2,100**人

セミナー・シンポジウム
満足度 **4.3**ポイント

今年度計画の達成度 **60**%

目標達成度 **85**%



脱炭素オンラインシンポジウム

活動内容と成果

オンライン形式で、脱炭素シナリオ・ビジョンに関連するセミナー・シンポジウムを開催した。全国から多様な背景や年代の参加者があり、参加者アンケートも高評価であった。様々な機会に情報発信を行った結果、脱炭素シナリオや気候変動対策に関連する多数の報道につながった。10月に2050年排出実質ゼロが表明され、国全体での方向性が定まり、排出ゼロを宣言する自治体や再生可能エネルギー100%を宣言する企業が増加しており、情報提供などの連携を深めた。自治体では脱炭素達成に向けた計画策定が増加し、意見交換やアドバイス等の活動を行った。



街頭で気候変動対策の重要性をアピール

課題

パリ協定の目標を達成するためには、各国の目標引き上げ、対策強化が不可欠である。日本の対策強化に向けた脱炭素シナリオとその可能性が理解されていない状況がある。

目標

科学的根拠に基づく脱炭素シナリオ・ビジョンの作成を行い、その理解を広め、対策導入や対策実施につなげていくための調査研究、情報提供、人材育成を行う。

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

訪問する面談や意見交換・会議、会場でのセミナーなどの実施ができず、活動全体に制約があった。

■ 工夫した点

オンライン環境の整備と、オンラインのメリットをいかすことができるための広報や情報提供の方法について検討し、実践した。



今後の展望

世界の脱炭素化が明確になってきており、国内も2050年排出実質ゼロ宣言から自治体や企業も脱炭素への方向が強まっている。この状況の中、これまでの成果をいかし、活動を一層効果的となるよう取り組んでいく。

〒604-8124
京都府京都市中京区帯屋町574
高倉ビル305号
電話：075-254-1011
E-mail：kyoto@kiconet.org
HP：https://www.kiconet.org/



インドネシア、海面上昇影響を受ける沿岸コミュニティの衛生環境回復プロジェクト

活動地域  インドネシア

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

住民の衛生環境への意識の向上	39%
活動成果の普及	8村
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	90%



周辺コミュニティによる適応型トイレの視察

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルスの感染拡大と深刻な洪水が1か月以上続いたため、活動が制限された。

■ 工夫した点

コミュニティと情報共有するためのSNSの活用や、オンラインセミナー等の活動を実施した。衛生問題の視点から、感染防止や洪水救援活動も実施した。

課題

バンドゥンガン村は総面積の92%が高潮による浸水被害を受けており、排水やゴミで汚れた水が家屋や道路に溜まり、劣悪な環境に陥っている。

目標

住民の衛生環境に対する行動が改善することと、地域行政の効果的な保健衛生対策が講じられることにより、浸水地域の衛生環境が回復する。

活動内容と成果

浸水地への適応型トイレの維持管理のためのコミュニティの能力強化と、周辺の浸水コミュニティへの普及に向けた指導者育成研修を実施。実際に市の予算で3か所に適応型トイレが設置された。また、これまでの活動成果は教材にまとめ、市と村の関係機関、周辺浸水地域の八つの村とも共有した。オンラインで実施した活動成果報告では、中央政府や中部ジャワ州、民間企業の参加も得て、今後の浸水地域の対策や連携について議論を行った。パブリックキャンペーンとしては、SNSを用いてコミュニティと行政、専門家が情報共有を行った。



衛生キャンペーンのポスター



衛生対策に関する行政機関との議論

全助成期間の活動を振り返って

浸水地域の衛生問題として最も優先度の高かったトイレの問題に対し、住民参加型で適応型トイレを開発できた。技術や運営管理の手法も含めて経験を教材としてまとめ、周辺の村やコミュニティに普及できている。市や村行政も活動の成果を高く評価し、普及と継続的な支援に協力的である。コミュニティの衛生問題に対する意識が高まり、今後はトイレだけでなく、廃棄物管理や水質改善等にも取り組む予定である。

JL. TIRTO AGUNG BARAT V NO 21, PEDALANGAN
BANYUMANIK SEMARANG 50268 INDONESIA
E-mail: bintari.foundation@gmail.com
HP: <https://www.facebook.com/bintari.org/>



今後の展望

コミュニティベースの衛生管理は、市や村、専門家の支援を受け、持続的に運営できる体制が整っている。村の衛生作業部会は市の衛生作業部会やその他の衛生関連組織と連携でき、市レベルの衛生計画や政策の協議や意思決定にコミュニティや村がボトムアップでインプットできることになっている。助成活動の知識と経験は、衛生行動計画や教材とともに他のコミュニティや市の利害関係者と共有され、広く普及される。

「COOL CHOICE」普及啓発に資する「ナッジ」の応用手法の研究と適用

活動地域 中部地方 (富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、三重県、愛知県)

ひろげる助成
3年目
調査研究

ナッジ活用事業アンケート調査回収数	439件
ナッジリレーセミナー参加者	108人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	100%



苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍のため検証調査を予定していた普及啓発事業が軒並み中止になり、調査実施に苦勞した。ただしアンケート調査件数については目標を達成した。

■工夫した点

研究会をオンラインで開催することで新型コロナウイルス禍に対応した。成果となる「クールチョイス普及啓発のためのナッジ活用ガイド」は「あるある事例」やアイデア集を掲載した。

課題

地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」を推進する普及啓発について、現場で効果的に活用できる手法の枠組みを構築することは重要な課題である。

目標

社会行動への介入の考え方である「ナッジ」の応用手法を検討し、実地に活用して検証することにより、普及啓発の枠組みを構築することを、3年間の研究の最終目標とした。

活動内容と成果

中部地方の地球温暖化防止活動推進センター（地域センター）の参加の研究会を通じて、普及啓発事業のナッジ効果の検証のアンケート調査事例を追加した。また、これまでの成果を踏まえ、実務者目線の手引き「クールチョイス普及啓発のためのナッジ活用ガイド」を作成公開した。さらに5地域において「ナッジ・リレーセミナー」を開催し、地域センター職員や推進員へのナッジの理解と活用を促進した。



検証調査対象「省エネ子ども教室」

全助成期間の活動を振り返って

「中部COOL CHOICE普及啓発促進研究会」に参加した中部7県1市における普及啓発活動拠点（地域センター）の3年間の活動により以下の成果を得た。

- 研究会を7回、専門家WGを12回開催した
- 14事例の検証調査で行動変容2事例、意識変容6事例でナッジ追加の効果を確認した
- 手引き「クールチョイス普及啓発のためのナッジ活用ガイド」を作成、5地域で「ナッジ・リレーセミナー」を開催した



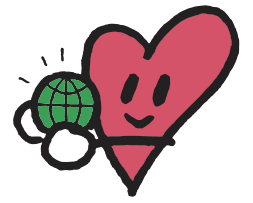
リレーセミナーワークショップ結果

〒461-0005
愛知県名古屋市東区東桜二丁目4番1号
電話：052-934-7295
HP：http://www.kankyosoken.or.jp/



今後の展望

本活動は普及啓発の「デザイン」の改善にナッジを用いるという視点での成果を得たことから、柔軟に多様な形で「ナッジ」を検討する有用なツールを「ガイドブック」という形で提供できたと考えられ、今後地域センターのみならず自治体の様々な普及啓発活動の中で活用されることが期待される。また、ナッジは「行動変容」のみならず、「意識変容」の効果も認められており、ESDにおける活用も期待される。



循環型 社会形成

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

廃校を活用した循環式農業、地域循環共生圏の創造

活動地域  鹿児島県奄美大島



幼稚園児向けの循環式有機農業の体験型学習

課題

奄美大島において集落の過疎化や廃校の増加が問題である。子どもたちが集落から人口密集地へ移住し、集落の暮らしや伝統文化の伝承が失われ、耕作放棄地が増加している。

目標

廃校を拠点に集落の暮らしのベースである循環式農業や伝統文化の体験を通して「憩い・交流・伝承の場」という形でコミュニティの活性化を図り、地域循環共生圏を創造する。



今後の展望

奄美大島の豊かな自然と伝統的な暮らしの中で、より良い循環型社会を模索し、実践しながら、世代や地域を超えて人々が交流する場、未来を担う子どもたちの探求型体験学習の場をつくり、地域循環共生圏の創造を目指す。

活動内容と成果

- 廃校を拠点に、循環式農業や奄美の伝統文化の体験イベントを行い、地元の高齢者と奄美の人口密集地で暮らす親子や都市部の大学生などの若年層など多世代・多地域の人々との交流を促した
- 農業体験では、廃棄される有機廃材（野菜くず、炊きすぎて余った白米、出汁がらなど）を発酵させて鶏にエサとして与え、そのフンを肥料とする循環式有機農業の仕組みを体験し、持続可能な循環型社会の大切さを伝えた
- 循環式農業の実践により、近隣の病院で廃棄される調理時の有機廃材（4.8t/年）を鶏エサとして有効活用した



育てた綿花の糸を紡ぎと草木染の伝統体験

はじめる助成

1年目

実践

食料残渣回収量 **4.8 t**

イベント参加人数 **389人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

農業体験プログラムは天候に左右されたり、農産物の成長度合いを考慮する必要があるため、開催日程の決定が難しかった。

■ 工夫した点

子どもたちが循環型社会の大切さをイメージしやすいように、体験学習だけでなく、絵本や動画などを活用するなどの工夫をした。



〒894-1514

鹿児島県大島郡瀬戸内町節子1310

電話：0997-78-0400

HP：https://setouchinchu.wixsite.com/website

(特非) 循環生活研究所

「ローカルフードサイクリング美和台」で目指す持続可能な共助社会

活動地域  福岡県福岡市



コミュニティコンポストに取り組みの様子

課題

対象地区は高齢化が進みコミュニケーションが希薄化。コンポスト継続も困難な方が増え、これまで循環していた住民の生ごみがふたたび廃棄物となり焼却場へ行っている。

目標

食の資源循環（コミュニティコンポストを軸とした栄養循環のしくみ：LFC）が地域で定着し、地域住民の共助のしくみで実行される。

活動内容と成果

- 住民自主活動によって環境と福祉・健康の同時解決をしながら、持続可能な共助社会を目指し地域自治組織とNPO、行政が協働で生ごみ・落ち葉などの身近な有機資源を堆肥にすることで食につなげる循環システム（LOCAL FOOD CYCLING：LFC）を実施している。
- コミュニティコンポストでは住民が自宅でダンボールコンポストに取り組み、スタッフが巡回してお手入れすることで継続をサポートした。また、同時に高齢者の見守りも行った。できた堆肥を活用する畑も新たに確保し、野菜を地域に出荷して栄養を循環させた。



公民館で実施したプランター講座の様子

ひろげる助成

1年目

実践

会員世帯（3月31日時点） **51軒**

コンポスト設置 **24軒**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **48%**

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

新型コロナウイルスの影響で地域イベントや活動が中止され、思うように会員獲得ができなかった。また海外視察も断念せざるを得なかった。

■ 工夫した点

チラシ配布や少人数講座を企画し新規会員獲得を試みた。また、今年直面した課題解決のため、国内情報収集・視察に切り替えた。



〒811-0201

福岡県福岡市東区三苫4-4-27

電話：092-405-5217

E-mail：info@jun-namaken.com

HP：https://www.jun-namaken.com

(認特) 中部リサイクル運動市民の会

障がい者福祉施設との連携による地域資源循環ネットワークの構築活動 「なごやハートステーションPROJECT」

活動地域 愛知県名古屋市



ハートステーション運営団体の皆さん

課題

名古屋市には、羽毛製品のリサイクルや、まだ使える不用品のリユースのための受け皿が足りていない。また、障がい者の就労機会の増加や工賃の向上も求められている。

目標

市内に多くのハートステーションができ、市民が持ち込む羽毛製品やリユース品をリサイクル・リユースする活動が障がい者の工賃向上とノーマライゼーションに寄与している。



今後の展望

インターネットを活用した情報発信を強化し、オンラインで集客・営業を行える体制をつくりたい。ハートステーションで活動する障がい者の工賃向上に向けて、ハートステーションへの持ち込み件数を増やしたい。

活動内容と成果

- 実行委員会を立ち上げ、幹事を定期的に開催することができた
- ハートステーションを3か所設置した。加えて、2か所の設置候補団体を見つけた
- ウェブサイト、パンフレット、チラシ、パネル、バナー、ステッカーを制作し、SNSで情報発信した
- 新聞折込チラシでPRした
- ハートステーションで羽毛製品とリユース品の回収を行った
- ハートステーションに支払う手数料が確定できた
- 中部地方の有名繊維商社の職員と、アパレル商品の廃棄処分削減に向けた勉強会を開始した



ハートステーションの目印となるステッカー

ひろげる助成

1年目

実践

ハートステーションの数 **3**か所

手数料総額 **51,550**円

今年度計画の達成度 **50**%

目標達成度 **20**%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルス禍のため、ハートステーション設置のための障がい者福祉施設への訪問営業ができなかった。

工夫した点

じっくりと時間をかけて広報ツールを制作し、情報発信を行った。その結果、予想以上に協力者を得ることができた。

〒461-0002

愛知県名古屋市東区代官町39-18

日本陶磁器センタービル5F

電話：052-982-9079

E-mail：nagoya.heartstation@gmail.com

HP：https://nagoya-heartstation.jp/



(公財) 京都市環境保全活動推進協会

プラスチックごみ削減活動を通じた住民と観光客の持続可能な共存

活動地域 京都府



大学生リーダーの活動の様子

課題

観光やお祭りでは、来訪者がもたらす環境負荷が高くなり、地域住民の負担が増すことで文化的にも持続可能性が危ぶまれている。

目標

祇園祭におけるプラスチックごみが発生しにくい仕組みづくりを通じて、地域住民と観光客とがともに環境と文化の持続性向上につながるような行動がとれるようになる。



今後の展望

祇園祭だけでなく、通年にわたる観光地である嵐山においても取組みを実施し、ポスト新型コロナウイルスの観光と地域住民との関係の中で、環境や持続可能性につながる仕組みを提案したい。

活動内容と成果

- 祇園祭では、露店の出店が中止されたため、リユース食器の導入や給水スポットの設置はできなかったが、大学生リーダーによる活動を行った
- 全国の祭りやイベントでのごみ削減策事例について調査を行い、今後の活動に必要な情報を得た
- お祭り以外の観光地として、嵐山での取組みを計画し、地元商店街との調整を行い、今後の活動での協力関係が築けた
- ポスト新型コロナウイルスの観光と都市のあり方に関するセミナーを開催し、今後の考え方を共有できた



オンラインセミナーの様子

ひろげる助成

2年目

実践

イベント参加者 **42**人

大学生リーダー **24**人

今年度計画の達成度 **30**%

目標達成度 **50**%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルス感染症対策が断続的に行われ、取組みの対象となる祭りなどが実施できるかどうかの判断ができない状況になった。

工夫した点

ポスト新型コロナウイルスの観光や都市のあり方についての関心に合わせて、テーマに沿ったオンラインセミナーを開催した。

〒612-0031

京都府京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジーセンター内

電話：075-647-3535

E-mail：agenda@ma21f.jp

HP：https://keaa.or.jp/



給水スポットの拡大による使い捨て飲料容器の削減活動の全国展開

活動地域  日本全域



真夏に全国3都市で街頭アクション実施

課題

ペットボトルなどの使い捨て容器に入った飲料の消費の増加が、資源消費量、CO₂排出量等の環境負荷の増加につながっている一方、水道水や地域の水資源への関心は低い。

目標

日本の多くの地域で給水スポットが設置され、利用されることで、ペットボトル等使い捨て容器入り飲料の消費が減り、環境負荷の低減と潤いのあるまちづくりが広がること。



今後の展望

2021年度は、活動地域を更に拡大し、給水スポット数を増やすとともに、国際連携アクション、街中での実証実験等、新たな取組みを実施したい。自治体、企業等と協働で日本の給水環境に変化を起こしたい。

活動内容と成果

- 全国11都府県で公共及び協力店舗等の給水スポットの拡大活動を実施した
- オンラインセミナーを3回開催した
- 3都市でマイボトル持参率調査と街頭アクションを実施した
- ロハスフェスタで仮設給水ステーションを設置運営した
- 自治体、交通機関、商業施設等を対象に水飲み・給水インフラ全国調査を実施した
- 全国の地域リフィルが集まるサミットを開催、「Refillサミット2021京都宣言」を発表した
- 「給水スポット大賞2020」として自治体、コミュニティの優れた事例を表彰した
- 活動紹介動画、リーフレットを制作した



給水スポット大賞2020授賞式

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

給水スポット登録数 **1,061** 件

活動地域数 **11** 地域

今年度計画の達成度 **65** %

目標達成度 **60** %

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベントやお祭りが中止になり、仮設給水ステーションを使用した活動ができなかったこと。

■工夫した点

活動計画を変更し、少人数の街頭アクションや表彰制度で露出の機会を作るとともに、今後の活動にいかせる調査事業を実施した。

〒110-0015
東京都台東区東上野1-20-6
丸幸ビル3階
電話：075-211-3521（環境市民気附）
E-mail：info@sui-do.jp
HP：http://sui-do.jp
https://www.refill-japan.org/



（一社） JEAN

調べてみよう！マイクロプラスチック市民調査

活動地域  日本全域



マイクロプラスチックの採集を練習する様子

課題

マイクロプラスチックへの関心は高まっているが、市民調査の手法が整っていない。分析、比較、実態把握などができるように市民調査手法を整えることが必要。

目標

海洋ごみに関心を持つ市民が共通の手法でマイクロプラスチックを調査することを通じて、プラスチックによる海洋汚染の実態を知り、プラスチックの使用量削減の重要性に気づく。



今後の展望

20か所程度の調査を追加する。マイクロプラスチックの回収イベントと全体の報告会を行い、身近な海岸のプラスチック汚染状況を伝える。

活動内容と成果

マイクロプラスチックをきっかけに、海洋のプラスチック汚染問題に関心を示す人が増えてきた。研究者らの助言と、検討会議による意見交換により調査手法を検討した。ごみ調査の実験経験を持つ人々を対象に市民調査説明会を行い、マイクロプラスチックの採集や分類などの手法の研修を行った。調査用具セットを貸し出して各地で調査を実施してもらい、31か所の試料が集まっている。うち13か所分については、研究機関の協力によりポリマー分析を行うことになった。



海岸に置いた調査用の枠

ひろげる助成

2年目

調査研究

検討会議 **2** 回

マイクロプラスチック市民調査 **31** 回

今年度計画の達成度 **35** %

目標達成度 **60** %

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスのため、参集や移動を自粛せざるを得ない状況となり、予定数の調査やイベントができなかった。

■工夫した点

対面で予定していた検討会議をオンラインで開催した。調査は移動距離の短い近郊のみで実施した。

〒185-0021
東京都国分寺市南町3-4-12-202
電話：042-322-0712
E-mail：cleanup@jean.jp
HP：http://www.jean.jp



パレスチナ西岸地区北アシーラにおける循環型社会のモデル形成事業

フロントランナー助成
2年目
実践

活動地域  パレスチナ



拡張された堆肥舎で生ゴミ堆肥づくりを継続

課題

日常的なゴミ投棄が行われている地域において、ゴミ分別を通して環境意識を醸成し、有機ゴミを用いた堆肥づくりと有機農業、リサイクルを促進させ、循環型社会を形成する。

目標

パレスチナ西岸地域でゴミの分別による廃棄物の資源化が促進され、地域循環型社会が形成される。

活動内容と成果

- 生ゴミ堆肥の製造に続き、紙ゴミの燃料化実験に着手した
- オンラインでのゴミ分別ワークショップや、Facebookでの事業協力者インタビューの連載を始め、地域住民を巻き込んだ活動を目指した
- 温室1基が稼働し、西岸地区内で製造されている3種の堆肥を、キュウリやイチゴ等の苗を育てることで比較し、品質向上のため、実験から得た課題点を堆肥づくりにいかした
- 堆肥舎で28tの有機堆肥を製造した
- 地域農家からの堆肥資材の無償提供や、事業費の一部を行政が負担することにより、事業の独立性を図った



温室での堆肥比較実験に農家を招聘

生ゴミ堆肥の製造	28 t
北アシーラの年間生ゴミ排出削減率	1.83 %
今年度計画の達成度	93 %
目標達成度	42 %

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

分別種類や方法が複雑で分かりにくいとの声が多く上がり、異物の混入率もなかなか改善されなかった。

■ 工夫した点

回収ゴミの種類を特定し、ゴミ箱に貼るステッカーのデザイン変更やプロモーションビデオの作成で、分かりやすい分別を目指した。



今後の展望

- 堆肥の品質向上と資材コストの削減
- 住民、行政を巻き込んだ仕組みづくりの強化
- 生ゴミ堆肥化に続く、経済合理性が確保し得るリサイクル方法の模索

〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町
1-7-11東洋ビル
電話：03-3253-8990
E-mail：office@parcic.org
HP：http://www.parcic.org



フードバンクによる食料循環のネットワーク構築

活動地域 長野県

つづける助成

3年目

実践

寄贈食料受入 **52t**

フードドライブ開催数 **91か所**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **46%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの影響で業務量が大幅に増えたが、それに見合った人的、財源的な確保が難しく厳しい中で対応を余儀なくされた。その中で新たなボランティアのつながりや団体との連携により乗り切った。

■工夫した点

非常時対応に追われたが、フードバンクが行政、社協、民間団体、学生など多様な団体、個人がそれぞれの役割をはたす場を提供することでできた。



「新型コロナウイルス対応」のためのフードドライブ

課題

企業からの食料寄贈量の増加とフードドライブを県内の多くの地域で開催するための地域ネットワークの構築、及び食品の管理システムの導入。

目標

長野県内でフードバンク活動が広がり、食品ロスが削減され、食料を循環させる県民意識が高まっている。

活動内容と成果

- 新型コロナウイルス禍で年間の食料支援のニーズが通常の約2倍に増加したことから、ニーズに対応するため会員団体等と連携して、企業や市民に食料寄贈を呼び掛け、緊急的な支援活動を行った。特に子どものいる家庭で困窮に陥っている世帯を対象に「緊急応援プロジェクト」を実施したところ、期間中の寄贈量が大幅に増加した。これを契機にそれぞれの地域での活動にもつながり、広がった
- 新型コロナウイルス禍への対応で取扱い食料が大幅に増加したことに対応し、食品の安全管理と効率的な運用を図るため、食品の入庫管理システムの開発を進めた



申込み世帯に食料を郵送



荷物の中にマスクも入れて……

全助成期間の活動を振り返って

最終年の3年目は、完全に新型コロナウイルス対応の活動に終始した1年であった。災害や感染症などの非常時にあっては、平常時ではあまり意識しなかった食の問題の大きさに多くの人気がついた。企業も一般市民も含めて「食品ロス」のことを考え、「生活困窮」が他人事ではないと気づく転機になったといえる。その結果、新たな企業の参画や家庭の未利用食品の寄贈の増加など、社会的な動きにつながる動きが見えてきた。

〒381-0034
長野県長野市大字高田1029番地1 エンドウビル1F 東
電話：026-219-3215
E-mail：info@foodbank-shinshu.org
HP：http://foodbank-shinshu.org



今後の展望

金銭を伴わない食品流通システムを進めるフードバンク活動は、SDGsの目標に大きく関わる活動であることを、社会全体に広め、SDGsの大きな活動の一貫として取り組むような社会の仕組みづくりを目標に進める。SDGsの目標に向かって、フードバンクがハブとなり、だれでも参加できる活動の場を地域の中によっていく。

日本国内におけるチャリティーショップの普及と、地域の拠点として社会的価値を高める活動

活動地域  日本全域

つづける助成
3年目
知識の提供・普及啓発

CSへの理解の深まり	100%
RR勉強会参加者数	30人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	80%



「チャリティショップ白書」

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

「CS白書」制作にあたっては、CSの形態や運営方法は運営する団体ごとに大きく異なるため、データとしてまとめるのは難しかった。

■ 工夫した点

CSの価値や魅力が伝わる内容、デザインとなるよう心掛けた。現状だけではなく、今後の可能性についても言及し、さらなる価値向上に役立つものとした。

課題

チャリティショップ (CS) は、収益による社会貢献活動や不用品リユースの受け皿等の様々な価値があるが、日本では数が極めて少なく、市民にほとんど認知されていない。

目標

日本にCSが普及し、利用する市民が増え、リユースによる資源循環が進むと同時に、運営団体が良好な財政基盤の上で、より充実した社会貢献活動を展開できるようにする。

活動内容と成果

- 日本におけるCSの現状を数値化し、社会貢献活動についてまとめた「CS白書」を発行した。今後は他セクターの組織や個人などにCSの価値を伝えるツールとして活用していく。また、CS関係者にとっても、今後のCSのあり方を考え、価値をより高めていくためのツールとする
- CS講演会を開催し、CSの認知度を高めることができた。また、JCSN (日本チャリティショップ・ネットワーク) に加盟していない団体にも参加を呼びかけ、関西地域におけるゆるやかなネットワークに繋がっている
- CS運営/開設等に関する問い合わせ8件に情報提供を行った



2019年度CSフォーラム・分科会の様子

全助成期間の活動を振り返って

講演会やフォーラム、勉強会の開催や「CS白書」の発行を通じて、他セクターの組織や有識者等との繋がりがうまれたことは大きな成果となった。また、活動を通じて、加盟団体同士の交流がより深いものになり、スキルや情報の共有などが行われるようになった。課題としては、広報活動が十分に行えなかったこと等があげられる。



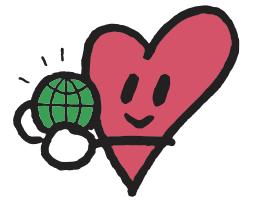
2019年度チャリティショップ・アワード

〒461-0002
愛知県名古屋市長区代官町39-18日本陶磁器センタービル
5階 中部リサイクル運動市民の会内
E-mail: jimur@charityshop.jp
HP: <https://www.facebook.com/JapanCharityShopNetwork/>



今後の展望

今後は、「CS白書」を持って関係省庁、企業などを訪問してCSの価値を伝え、連携につなげたい。情報発信については、2021年度よりCSの概要と魅力、意義を幅広い世代にわかりやすく届けることができる動画を作成し、HPに掲載する予定である。またFacebookでは、テーマを設定して、CSの販売品を使ったコーディネート工夫を、CSごとに一定期間掲載することを企画中である。



環境保全 大気・水・土壌

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

日本企業のサプライチェーン最上流の農家の環境・社会課題解決へ向けた取り組み

活動地域  日本全域



サステナブルファッションEXPO展示会出展

課題

発展途上国の綿花とサトウキビ農家の課題として、農業と化学肥料の不適切な使用が環境汚染と健康被害を発生させるとともに、その農業等のコスト負担により貧困に陥っている。

目標

綿花とサトウキビ農家の環境・社会課題の解決のために、日本の企業・消費者へ普及啓発し、企業のサステナブル・コットンの調達量増加、サトウキビ認証の認知度を向上させる。



今後の展望

綿花：Cotton2040のプロジェクトの遂行と連携を行い、日本のイニシアチブを2021年5月に立ち上げる。サトウキビ：ボンスクロとの連携を継続し認知度を上げ、イニシアチブの基礎を構築する。

活動内容と成果

綿花とサトウキビ農家に関する環境・社会課題解決へ向け、サステナブル・コットン、サトウキビ認証のオンラインセミナー開催で認知度向上に努めた。コットンは、国際イニシアチブのコットン2040とともにサステナブル・コットンの調達量増加プロジェクトを実施するため、日本企業を巻き込み推進。国内展示会での出展とセミナー登壇で認知度を高め、日本のサステナブル・コットンのイニシアチブの立ち上げに向け準備を進めている。サトウキビは、ボンスクロとの協働で、日本でセミナー開催、ウェブサイトで認知度向上のため情報を提供。



サトウキビ原材料調達に関するオンラインセミナー

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

サステナブルファッション EXPO展示会出展	2回
サトウキビに関するウェブナーの開催	1回
今年度計画の達成度	50%
目標達成度	16%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

サステナブル・コットンそれ自体の言葉の認知度が低いため、その定義が何かさらに説明が必要となった。

■ 工夫した点

サステナブル・コットンに関する情報サイトCotton Up Guide (日本語版)の情報をQRコードとともに配布した。

〒211-0006
神奈川県川崎市中原区丸子通
1-653-7-202
電話：044-982-1967
E-mail：info@g-assc.org
HP：http://g-assc.org/z



ナシール教育文化振興財団

パキスタン・チニオット地域における地下水資源保全と適正利用に関する参加型アプローチによる地域コミュニティのエンパワーメント

活動地域  パキスタン



地域の住民は井戸水を唯一の飲用水源としている

課題

当該地域の帯水層の水質汚染の特徴や分布を調査し、地下水汚染の状況を面的な情報にし、地域住民の無秩序な井戸掘削戸取水をなくす。そのため調査と意識啓発を行う。

目標

当該地域での地下水資源に関わる全ての関係者が、地下水汚染や水資源保全に関する情報を共有し意識を十分に持つようになり持続可能な地下水開発と利用がなされるようになる。

活動内容と成果

野外調査に関しては100点の地下水サンプルを採取し(目標の67%)水質分析を行った。また電気探査は21地点で行い(目標の53%)地下水層の分布を調査した。これまでのデータにもとづき写真の地下水汚染度マップを作成し地下水汚染の著しい地区(赤色で示している)がどこにあり、井戸掘削等が不適な地区がどこなのかわかるようにした。意識啓発活動では、地下水に関する住民の意識レベルのベースライン調査を行ったほか、地下水汚染度マップを用いて、地域住民に地下水開発と利用について注意を喚起した。



調査結果にもとづく地下水汚染度の地図

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

地下水サンプリング	100点
電気探査地点数	21地点
今年度計画の達成度	75%
目標達成度	25%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルスの広がりによってパキスタン国内でもたびたびロックダウンが行われ、調査や意識啓発などの野外活動の制約を受けた。

■ 工夫した点

ロックダウンの合間を縫っての野外活動のほか、地域の地下水汚染に関する情報の提供をオンライン・セミナーで繰り返し行った。

パキスタン国/パンジャブ州チニオット県ラフワ市ダールル・サダル
電話：+92476215834
E-mail：nmirza@njc.edu.pk
HP：http://www.inehc.com/447054554 (日本語)



(特非) 有害化学物質削減ネットワーク

2020年目標以降の化学物質管理に関する取組の推進に関する情報発信、普及啓発活動

活動地域 日本全域



地域セミナーの準備 (あいこーぷみやぎ)

課題

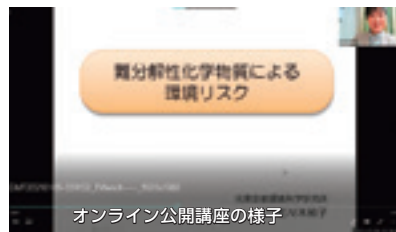
化学物質管理に関する2020年目標の目標年度以降も引き続き、香害や海洋プラスチックごみなど新たな課題へ、問題解決に向けた市民への情報提供や理解力向上に取り組む。

目標

化学物質管理への市民の理解が増し、化学物質管理政策への市民参加が進む。市民と共同して、行政、事業者による化学物質管理への取組みが進んでいる。

活動内容と成果

化学物質管理に関する2020年目標の目標年度を迎え、国際会議への参加準備を進めた。香害や海洋プラスチックごみなど新たな課題に関し、問題解決に向けた市民への情報提供や理解力向上に取り組むために、地域セミナーを2回、公開講座を4回開催した。また、化管法見直し作業に関しては、PRTR制度の届出対象物質の見直しに関して、多数のパブリックコメント(化管法施行令改正案に関するパブコメでは約3,000件意見が提出された)が提出されたが、元となる情報提供を行った。



オンライン公開講座の様子

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

公開講座の開催	4回
地域セミナーの開催	2回
今年度計画の達成度	60%
目標達成度	30%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東京の事務所での会議など密を避けて活動しなければいけない点。

工夫した点

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、運営委員会及び公開講座や地域セミナーなどの学習会はオンラインで実施した。

〒136-0071
東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル
4階
電話：03-5627-7520
E-mail：info@toxwatch.net
HP：https://toxwatch.net/



今後の展望

2020年目標を総括する国際会議が延期されているが、日本の化学物質管理の現状を取りまとめ、情報発信していく。特に現在見直し中の化管法対象物質の見直し作業に関して、市民への情報提供に積極的に取り組む。

(特非) アーケペラゴ

瀬戸内海を美しくするためには始める身近な川ごみ調査

活動地域 香川県



川ごみ調査の様子と川ごみマップ

課題

世界的課題の海ごみ問題。瀬戸内海は、海ごみの66%が陸域から発生し川を通じて海へ流入している。この流入過程の状況を知り、ごみの回収及び発生抑制を行う必要がある。

目標

川ごみの調査及びマップ作成による、海域へ流出するごみの発生源把握とごみの多量漂着場所で効率的なごみ回収の実施。川ごみマップを用いて、ごみ発生抑制の啓発活動。

活動内容と成果

- 川ごみ調査(5水系)によりごみの分布状況を把握し、その状況を可視化した川ごみマップ(Web版・紙版)を作成した
- 調査で分かったごみ多量漂着場所でごみ回収を行った(参加者数25人、回収量107kg)
- 川ごみマップを用いて、海ごみ削減の環境学習説明を行った(紙版マップを600枚配布)
- 調査の報告会を地域コミュニティ・行政と実施し、ごみ漂着やポイ捨てが多い場所等の情報共有や海ごみ削減方法について意見交換を行った。調査方法や海ごみ削減の講座実施について相談があり、今後の展開が考えられる



ごみ多量漂着場所でクリーンアップ

LOVE BLUE助成

1年目

実践

川ごみ分布状況の可視化河川数	5水系
川ごみ調査結果の報告会参加者数	34人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	90%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルス禍・緊急事態宣言により活動のスタートが遅れたことや人が集まるとの催しや会の開催及び調整が難しかった。

工夫した点

川ごみマップを利用して海ごみ問題の説明することにより、人の生活と海が繋がっていると感じてもらえるきっかけとなっている。

〒760-0062
香川県高松市塩上町一丁目2番7
電話：087-813-1001
E-mail：scf@archipelago.or.jp
HP：http://www.archipelago.or.jp/scf/



今後の展望

調査で分かったごみの多量漂着場所で効率的なごみ拾いや川ごみマップを教材としてごみ発生抑制の活動を定期的に実施する。また、地域コミュニティや行政と連携してごみ回収と発生抑制の双方から対策を進める。

Pos Koordinasi untuk Keselamatan Korban Lumpur Lapindo

インドネシア共和国東ジャワ州シドアルジョ地域における熱泥流被災者のエンパワーメント

活動地域  インドネシア

ひろげる助成
2年目
実践



回収した銀板・銅板を住民みなで評価する。

活動内容と成果

- ①銀板・銅板を用いた大気モニタリングは住民のみで実施できるようになった。また、重金属や芳香族炭化水素のサンプリングも専門家の指導の下住民自身の手で行っている。バイオモニタリングは地元の高校生への環境教育とタイアップして実施した
- ②地元の植物種のうち汚染浄化が見込める樹種を特定し、生物分解性水質浄化装置1基の建設・稼働を行った
- ③水耕栽培と魚養殖を合わせたアクアポニックスが軌道に乗つつある。ブラウイジャヤ大学の研究者やNGOとの連携は進んだが、行政・ジャーナリストとの連携は一部に留まった



アクアポニックスで栽培した野菜を収穫する

課題

2006年5月に東ジャワ州シドアルジョで発生した熱泥流噴出事故は、8村2万世帯もの避難者をうみながら今日も噴出を続けており、周囲の村人は環境汚染に苦しんでいる。

目標

熱泥流による環境汚染の影響低減のための技術的社会的経済的スキルを住民が身につける。そのため①環境汚染の実態把握 ②汚染の影響低減 ③生業構築の支援を行う。



今後の展望

- ①カドミウムや鉛の汚染の原因特定のため重金属モニタリングを熱泥の上流域まで拡大
- ②生分解や植物の重金属吸着性を用いた浄化装置で処理水を農業などに利用
- ③行政担当部局や日本のNGOとの協力関係の再構築

大気汚染計測用銅板・銀板の回収数	240基
生物分解性浄水施設の建設・稼働	1基
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	75%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスに伴う「大規模な社会的制限」政策により、規模の大きい集会が開催できなくなった。

■工夫した点

村落単位で小規模なミーティングを数多くこなした。総括ワークショップは、村の会場とオンライン(Zoom)で結んで開催。

Jalan KH Khamdani
Siwalanpanji No 13C Buduran
Sidoarjo, Jawa Timur, Indonesia
61250000
HP : <https://remedi-sidoarjo.eutenika.org/>



(特非) ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議

有害化学物質による胎児と子どもの悪影響を最小限にするための政策提言と世論喚起活動

活動地域  日本全域

ひろげる助成
2年目
知識の提供・普及啓発



10月29日環境省への提言申入れの様子

活動内容と成果

東京多摩地域の水道水への有機フッ素化合物汚染地域住民の血液検査を実施。結果をもとに住民の健康調査とバイオモニタリングの実施を環境省と東京都に提言。地域住民と国会議員に対する学習会を開催。海外の有害化学物質規制の最新情報の国際セミナーをオンラインで開催。また新型コロナウイルス感染拡大による、消毒剤・殺菌剤の過剰使用によるリスクについて提言と学習会を開催。柔軟剤などに含まれる人工香料による健康被害に関するパンフレットを作成。バイオモニタリング制度を含む環境保健基本法の法案を作成。



血液検査報告会。会場とオンラインで開催

課題

海外に比べ日本では有害化学物質の影響に関する認識が一般市民に浸透していない。国民の関心を高め、脆弱な子どもへの悪影響を考慮した化学物質規制強化が必要である。

目標

人の体内の化学物質汚染度を調べるためのバイオモニタリング制度をはじめとする最新の化学物質規制について情報提供を行い、市民の関心の広まりと理解力向上を目指す。



今後の展望

環境保健基本法の法制化を求める請願署名を集め、衆議院と参議院に対して提出する。有害化学物質とその規制について国際セミナーや学習会、SNSで最新情報を提供し、市民の関心の広がりを目指す。

国際セミナー2回の延べ人数	294人
学習会3回の延べ人数	492人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	50%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で国際セミナー講師は来日できず、国内学習会も開催が困難となり、また開催できても会場参加者数が制限された。

■工夫した点

時差がある中海外講師には午前早くからオンラインで講演を依頼、また国内学習会は、会場とオンラインでの開催などで実施した。

〒136-0071
東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル4階
電話 : 03-5875-5410
E-mail : kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp
HP : <https://www.kokumin-kaigi.org>



Bangladesh の高濃度砒素汚染地域における持続的な安全水供給のための技術 移転事業

活動地域  Bangladesh

ひろげる助成
3年目
実践

安全な飲料水を得た村人	600人
利用者組合の結成	3組合
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	80%



砒素除去装置の利用者組合結成の話し合い

活動内容と成果

①砒素除去装置 (Multi-GSF) 建設: 3基を建設。ローカルNGOが主体的に建設を行った②ワークショップ開催: 対象地域3県で開催した。村人は利用者組合を結成し、建設コストの10%負担、メンテナンスの実施等を取り決め、主体的に運営を図った③マニュアル本の作成 (英語版・ベンガル語版): 英語版マニュアルが完成した。Multi-GSFの建設方法及び理論が容易に理解できるもの



完成直後の砒素除去装置を利用する村人

課題

Bangladeshには高濃度砒素汚染地域が多くあり、先行プロジェクトで砒素除去装置を開発した。その性能は優れているが、メンテナンスの方法がまだ確立されていない。

目標

砒素除去装置の利用者が組合を組織し、主体的にメンテナンスを行う。ローカルNGOがその建設・メンテナンスのノウハウを技術取得し、必要に応じて利用者組合を支援する。

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

砒素スラッジタンクの大きさの決定がままならなかった。砂利タンクや鉄タンクからの排水量が定まっていなかったからである。

■ 工夫した点

上記の2タンクからの排水をバケツに入れて2日ほど放置し、上澄みを砒素 $\leq 0.05\text{mg/L}$ のもとでスラッジタンクに排水した。



今後の展望

Multi-GSFが高濃度砒素汚染地帯における代替水源としてBangladesh政府に政策化され、多くの高濃度砒素汚染地域において人々が安全でおいしい飲料水を安定的に得られるよう、中央政府への働きかけを続けていく。

〒880-0014
宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざき
NPOハウス208
E-mail: webmaster@asia-arsenic.net
HP: <http://www.asia-arsenic.jp/>



(特非) パートナーシップオフィス

大学生による海ごみ問題解決のためのクリーンアップとワークショップ事業

活動地域 山形県

LOVE BLUE助成

2年目

実践

WS延べ参加者 **95人**

清掃により清潔度
ランクが1になる **1ランク**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**



鶴岡市湯野浜海岸(2021/3/15)

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

より漂着が著しく人口減少が激しい離島・飛島での活動を昨年に続き企画したが、新型コロナウイルス禍で来島自粛要請が出たり、宿泊活動の制限が出たりしたため叶わなかった。

■工夫した点

感染拡大状況から参加する学生を庄内地域限定、山形県内限定にするなど社会情勢に合わせて事業を進めた。啓発イベントのオンライン化に合わせて映像コンテンツを作成した。

課題

山形県のごみ問題において沿岸集落の人口偏りや海岸形態によって十分な清掃が実施されない海岸がある上、清掃参加者の高齢・固定化が進んでおり継続性の担保が課題。

目標

学生が中心となって新しい年齢層、社会層が主体となった海ごみ問題活動に継続的に取り組んでいく。清掃事業と合わせて発生抑制対策に柔軟なアイデアで取り組んでいく。

活動内容と成果

人口減少が進む遊佐町北部の酒田市宮野浦海岸を7月9日、鳥崎海岸を9月15日、酒田市浜中海岸を11月13日、鶴岡市湯野浜海岸を3月15～17日の合計4回にわたって清掃を実施した。延べ95人の学生が参加し、694袋(推定1,300kg)を回収した。清掃に合わせてグループワークを行い社会に海ごみ問題を発信する方法を話し合った。オンライン開催となったやまがた環境展において、漂着物の凹凸を使ってステンシルするTシャツアートの動画を公開した。



酒田市宮野浦海岸(2020/7/9)

全助成期間の活動を振り返って

清掃活動については、海を有する沿岸3市町すべての海岸で実施した。2年間で延べ142人が参加し、約1,670kgの海ごみを回収した。東北公益文科大学を拠点にする学生団体SCOP、IVUSA山形酒田クラブの2団体を協働して事業をすすめた。事業を進めるなかで学生と自治体担当者、色々な関係者との関係を構築した。新型コロナウイルスの影響もあり、海ごみの実態を広める体験型ワークショップなどの実施が叶わなかった。



遊佐町鳥崎海岸(2021/9/15)

〒998-0859
山形県酒田市大町13-1
電話：0234-26-2381
E-mail：npo-po@nifty.com
HP：https://npo-po.net



今後の
展望

学生団体では、海岸クリーンアップは年数回のペースで開催する意向を持っているため、引き続き支援を続けていく。

大気・水・土壌環境保全

(特非) 神戸海さくら

須磨海岸における地域住民および海岸利用者の参加型清掃活動とマナー意識向上による持続的な環境保全活動

活動地域  兵庫県

LOVE BLUE助成

3年目

実践

一年間に行った
ゴミ拾い回数 **56回**

一年間のゴミ拾い延べ
参加者 **989人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **80%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響により、年間を通じて開催可否の判断が難しく、日程調整等に苦労した。特に行政と連携する活動では、可否の両パターンを準備したため苦労した。

■工夫した点

ニュースや報道を日々確認しながら関係各所と常に最善策を検討し、参加者の安全対策を最優先したプログラムや規模に変更して開催した。



ビーチクリーン参加者との記念撮影

課題

私たちNPO法人神戸海さくらが地域と行政を繋ぐ連携役となり、ボランティアの手で須磨海岸の海洋環境保護と利用者のマナーアップを維持できる体制を確立する。

目標

須磨海岸にボランティア主体で運営するクリーンステーションを行政の協力のもと設置する。プラスチック問題や海洋環境保護のセミナーを、行政や企業と一体となり開催する。

活動内容と成果

ビーチクリーンは毎月1回の計12回と海水浴場開設期間中にあたる7月・8月の計44回を合わせて、計56回実施し、延べ989人が参加した。クリーンステーションはボランティアと海岸来場者との接触による新型コロナウイルス感染が懸念されたため、神戸市港湾局と協議の結果、設置中止。代わりに「Weekday Morning Beach Clean & Sunset Beach Clean」と称して、毎日ビーチクリーンを実施した。海洋プラスチック問題に対しては、専門家による啓蒙セミナーを3回開催した。



「トライやる・アクション」の活動状況

全助成期間の活動を振り返って

3年間の助成のおかげで活動の幅が大きく広がった。神戸市や須磨区との連携がこれまで以上に深まったことに加えて、神戸市内の公立中学校2校との「トライやる・アクション」実施と、国土交通省海事功労者等表彰において近畿地方整備局長表彰を受賞したことで、団体の信頼度が大きく飛躍したと感じている。メディアでは神戸新聞4回、読売新聞1回のほかサンテレビやJ:COMに取り上げてもらい、活動の広告に大きく役立った。



〒652-0061
兵庫県神戸市兵庫区石井町7-1-9
E-mail: info@k-umisakura.com
HP: https://k-umisakura.com/



今後の展望

須磨海岸が、日本で4か所しか認定されていない国際環境認証「ブルーフラッグ」を来年以降も継続していけるよう、行政や地域と連携しながら、当団体は認定に必要な「環境マネジメント」分野において役割を担う。この助成期間で、P&G、サントリーホールディングス、SMBCフィナンシャルグループ、NTTグループ等の企業とビーチクリーンを協働したが、今後さらに規模拡大を目指して、活動に取り組みたい。

総合環境教育



自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

(特非) スノーパーク小出

多世代で里山を守ろう！～体験で触れる身近な自然保護の環境づくり～

活動地域  新潟県魚沼市



こいでのたから★みっけ隊～草木染め体験～

課題

地域の若い世代が身近な自然へ関心を持たないこと、持つきっかけがないこと、また身近な自然を維持しながら、地域の環境教育の拠点として活用し、伝えたい人材の不足。

目標

参加者が上記課題を理解すること、また身近な自然への保全活動に関心を持ち、できることを考えるきっかけを作ること。



今後の展望

より専門的な自然への知識に触れることや、参加者自身に役割を持ってもらうことで、より主体的に動ける環境づくり、仲間づくりを行う。また、身近な自然の中にある価値や魅力を発信する場を設け、支援者を増やす。

活動内容と成果

公園と里山が隣接したエリアで「自然物を活用したものづくりワークショップ」と「自然調査」を2本立てにした定期的な企画を実施し、若い世代の方が繰り返し足を運び、自然を楽しみながら学ぶ時間を作った。カメラマンに活動記録を依頼し、「映える」活動写真を活用して活動をSNS等でPRした。参加者は20～40代が8割を占め、そのうち3割は2回以上参加したりピーターとなったことから、定期的に足を運びきっかけづくりができた。また、活動の中で植物を探したり触れたりする中で、参加者に新たな気づきがあったと考えている。



フィールドでの植物調査の実施

はじめる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

テーマ別企画参加者数 **44人**

20～40代の参加者比率 **8割**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

今まで繋がりのない講師を呼び、初対面の方と内容に合わせて下見を行い、実施したことのない企画を形にするのは苦勞した。

■工夫した点

ものづくりの奥深い作業を短い時間枠に落とし込み、その中で身近な自然物に触れる機会を作り、まただれでもできる形に企画した。

〒946-0043
新潟県魚沼市青島1609
電話：025-792-5320
E-mail：info@sp-koide.org
HP：www.sp-koide.org



(特非) ななしんぼ

郡上市明宝地区における森の恵みの有効活用

活動地域  岐阜県郡上市



子ども向け藁細工ワークショップの様子

課題

野生獣の食害への対策として獣害駆除された鹿がそのまま破壊されている現状や、野生獣と居住区との緩衝地となる林地や里山環境を維持する人手の不足などの問題がある。

目標

獣害駆除された鹿のツノや皮、農林産物を活用した商品開発やワークショップを通し、命を学ぶ機会をつくり、身近な里山とのつながりを回復させた小さな経済循環を目指す。



今後の展望

里山への関心を喚起するワークショップや講座を実施しながら、環境を守り、地域経済に小さな循環を生む地域内サプライチェーンの確立を目指す。そのために、各団体と連携して商品開発や販売、仕組みづくりを行う。

活動内容と成果

〈森と命のつながり〉を伝える活動
●つくり手と協力しながら、農林産物及び野生鹿の皮やツノ等を使った商品を37点試作。ワークショップや講座を14回実施
●子ども向け藁細工ワークショップを実施
●耕作放棄地の田んぼで稲を栽培し、その稲を利用してしめ縄ワークショップを実施
〈地域内サプライチェーンの確立〉
●野生鹿の皮の加工から販売までの流れ、役割を整理
●展示会を開催し、各つくり手の商品の適正価格やどのようなPRをしていけば効果的かを検証し、材料の確保など地域内の団体と連携しながら準備を行った



鹿革と間伐材を利用したバインターづくり

つづける助成

1年目

実践

講座、ワークショップの開催回数 **14回**

販売会及び展示会の商品販売数 **146点**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **40%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

鹿ツノや稲穂つきの藁等材料の入手に苦勞した。現在の田んぼは、収穫時に藁を粉碎するため、自分たちでハサ掛けをするなど工夫した。

■工夫した点

鹿革や森の素材を使った展示会を行うことで、地域内のつくり手をつなげ、自然素材を使ったものづくりへの関心の輪を広げた。

〒501-4307
岐阜県郡上市明宝二間手361番地
電話：0575-87-3799
HP：http://nanashinbo.com/



天草海部

SDGs(14)を目標に、天草の海の生物多様性を学ぶ！先端技術を活用した人材育成

活動地域 熊本県



リモート指導者養成講座「海レク」開催

課題

地域住民の海への関心が低く、定量的な海の生物調査はほとんど行われていない。海を活用する人材が限られており、子どもたちが地域の海について学ぶ機会は限られている。

目標

天草の海の生物多様性を明らかにし、天草の海を学ぶ教材を整備する。水産業が持続的に行われるなど、海を活用し、保全する人材を増やす。

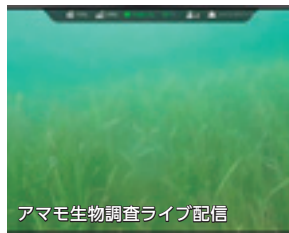


今後の展望

干潟やアマモ場だけでなく、磯など多様な沿岸域の生態系に関する生物調査を実施する。先端技術を活用した水質調査も取り入れ、海の調査を発展させる。VR動画教材を製作し、教材を活用した指導者養成を進める。

活動内容と成果

- ①天草市御所浦のアマモ場で生物調査を1回実施し、生物マップを制作した。アマモ場調査はFacebookのライブ配信を行った(リモート配信1,562PV)
- ②動画教材2本「みんなに伝えたい天草の海 栖本干潟編・御所浦アマモ編」を製作しHPに公開した。指導者向けの海のデジタル教材「天草・海の冒険サポーターズテキスト」第6・7章を制作しHPに公開した
- ③リモート指導者養成講座「海レク」を全16回開催した。海レクはYouTubeで全国の不特定多数に向けて配信し、動画閲覧数合計1,136回となった



アマモ生物調査ライブ配信

つづける助成

1年目

知識の提供・普及啓発

アマモ場の生物調査 **1回**

リモート指導者養成講座開催 **16回**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス・豪雨・大型台風と災害が続き、集客した対面のイベントが開催できず苦労した。

■工夫した点

アマモ場の生物調査は、水中ドローンを用いてリモート配信を行った。指導者養成講座はYouTubeでリモート配信した。

〒861-6303
熊本県天草市栖本町馬場215
E-mail: amakusaimibu@gmail.com
HP: https://umi-bu.com



(認特) 瀬戸内オリーブ基金

地球規模でのゼロエミッションを実現するための、豊島産業廃棄物不法投棄事件の歴史的資料の活用。

活動地域 香川県



展示の更新と設置を見直した資料館の様子

課題

日本最大規模の不法投棄事件であり、日本が循環型社会に転換するきっかけとなった豊島事件の意義と教訓を風化させないために、次の世代に引き継ぐ。

目標

豊島事件の継承を行い、法律だけでなく市民・企業のごみや不法投棄の意識を変え、不法投棄が二度と起こらない市民・企業意識を醸成させる。



今後の展望

新型コロナウイルスの影響は2021年度も引き続き懸念されるので、2021年度は資料や映像の整理や保存の徹底を行う。また、リモート勉強会や動画作成を通して、新型コロナウイルス禍での環境教育や情報発信を強化する。

活動内容と成果

- 新型コロナウイルス禍で、活動を計画通りに進めることができない分、環境整備の強化を徹底した。
- 資料館の展示資料の更新と保存の徹底、老朽化した資料館の改修工事を前倒しで実施した
 - ウェブサイトの情報の整理も進めている
 - 豊島内での企業団体従業員への勉強会を開催し、3回で40人が参加
 - 岡山大学で豊島事件のパネル展を開催し、学生を中心にたくさんの方にお越しいただいた(7日間)
 - 島外(岡山)での勉強会も開催し、産廃現場の未来を参加者の皆様と一緒に考える良いきっかけとなった(60人参加)



岡山での勉強会(跡地の植生回復について)

つづける助成

1年目

知識の提供・普及啓発

資料館展示資料の更新と保存の徹底 **100%**

企業団体の従業員向け学習会の開催 **3回**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **20%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

2020年度に始動した事業だったので、関係各所との連携に苦労した。また、新型コロナウイルス禍の影響もあり、活動の中止が相次いだ。

■工夫した点

秋頃からは新型コロナウイルス禍でもできる普及啓発活動を計画し、実施した。

〒761-6661
香川県小豆郡土庄町豊島家浦3837-4
電話: 0879-68-2911
E-mail: info@olive-foundation.org
HP: http://www.olive-foundation.org/top/



(特非) 地球のしごと大學

持続可能な林業及び農業人の育成事業を行う「地球のしごと大學」の運営と卒業後の実践へ向けた支援

活動地域 埼玉県、奈良県、千葉県、岩手県



自伐型林業の講義風景 チェーンソーの実技練習

課題

【林業】①林業が事業として成立していない②林業就業者が減少している
【農業】③農業により自然環境が破壊されている④農業就業者が不足している

目標

荒廃する日本の森林に対する健全な森林管理及び自然循環に沿った豊かな土壌の創生・保全を目的として、持続可能な環境共生する林業及び農業人の育成事業を行う。



今後の展望

新しく開催したエリア（東北、関西）の受講生獲得を推進するとともに、オンライン講義の方式やフォーラムの方式も最大限活用し、幅広く多くの方々を受講していただき持続可能な環境共生する人材育成を行っていききたい。

つづける助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

【林業】

①自伐型林業学部の開催（埼玉県、奈良県）参加者46人
受講生より自伐型林業を実践する知識・技術を習得できた68.1%、自伐型林業の実践への移行（始めたい含む）87%との回答

②林業フォーラムの開催（2021年1月開催）参加者90人

【農業】

①循環型農業学部の開催（千葉県、岩手県）参加者41人
受講生より循環型農業を実践する知識・技術を習得できた70.8%、循環型農業の実践への移行（始めたい含む）95.8%との回答

②農業フォーラムの開催（2021年3月開催）参加者170人



循環型農業の講義風景

健全な森林管理の認識向上 **約74%**

生態系多様性を
守る農法の認識向上 **100%**

今年度計画の達成度 **87%**

目標達成度 **80%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの影響で、講義日程の変更を行わなければならないことが何度かあり、講師及び受講生との日程や講義方式の調整に苦勞した。

■工夫した点

オンラインの良さを活用して、フォーラムを開催できた。幅広い層の方々にご参加いただけた。

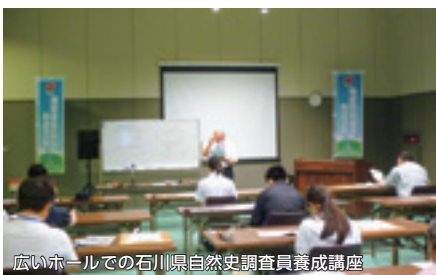
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3-21-1042
E-mail: chikyunoshigoto@gmail.com
HP: https://chikyunoshigoto.com



(特非) 石川県自然史センター

市民参加による地域環境学習教材の作成と環境教育に関する人材養成プロジェクト

活動地域 石川県



広いホールでの石川県自然史調査員養成講座

課題

①地域の環境学習教材不足と市民の地域環境や生態系保全への無関心がある
②地域の環境等の生態系調査に必要な環境調査員の後継者不足は深刻である

目標

①地域の環境学習の教材不足を解消するため「野外調査の手引き」を作成
②環境教育指導者の人材養成として、「石川県自然史調査員養成講座」を開催



今後の展望

今回の自然史調査員養成講座が、受講生だけでなく広く関係方面から高く評価されたことから、令和3年度事業として採択された「いしかわ自然史塾人材養成プロジェクト」の円滑な実施に全力を挙げたい。

つづける助成

1年目

調査研究

活動内容と成果

①地域の環境学習の教材の作成・配布

●自然環境学習教材として「野外調査の手引き」300冊を計画通り作成し、金沢市及び周辺の図書館、中高等学校に配布

●作成に当たり、市民座談会を開催（養成講座受講生2人と地域関係者2人計4人）の方々意見交換を実施

②「石川県自然史調査員養成講座」の開催

●「石川県自然史調査員」の養成講座（5回）には16人の受講生の内、高校生7人が参加

●高校生が、新型コロナウイルス関係で土曜日の特別授業等のため、欠席するなどしたことから、認定者は5人（全講座出席者）となった



野外での実習風景

自然史調査員養成講座受講生 **16人**

自然環境学習教材作 **300冊**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス感染防止対策のため、自然史調査員養成講座募集人員を計画の20人より少ない16人とした。

■工夫した点

新型コロナウイルス感染防止対策のため、会場を研修室からより広いホールに変更し、ソーシャルディスタンスを確保した。

〒920-1147
石川県金沢市銚子町1441番地
電話：076-229-3403
E-mail: info-c@n-muse-ishikawa.or.jp
https://ishikawanaturehistorycenter.com/



北欧の教育農場をモデルとした放課後自然塾(仮)を開講する

活動地域 北海道



いきもの塾教室「ツリーハウスつみき」完成！

課題

支笏洞爺国立公園を身近に有しながらも、観光優先で、地域住民の環境保全への意識も非常に低い。学校教育や社会教育活動においても十分な環境教育の場が提供されていない。

目標

年間を通して、より深く自然や生態系について学べる場づくり。観光や経済発展優先ではなく、環境問題を自分ごととして考えられる人々が地域のなかで増えるよう働きかける。



今後の展望

受講者が学び体験したことを自ら発信し、環境問題などについて地域に広めていってほしい。ツリーハウスを教室としてだけでなく、展示や多世代の交流の場として活用し役立てていけるよう、イベントなどを仕掛けたい。

活動内容と成果

2021年度に開講する放課後自然塾「いきもの塾」の準備とその活動拠点としてツリーハウスの建設を行った。周辺の川・湖・山などへの視察と、3人の外部講師へ依頼済み。ツリーハウス作りでは、北海道産の材にこだわり、林業・製材業・建築業を営む地域の業者4社とやり取りし進めた。大工さんとともに6人のスタッフと子どもから大人まで15人のボランティアの方にご協力いただき、内装や塗装作業も体験。SNSでの発信で約300人への周知と地域の新聞社2社の取材を受けた。教育長を通し、市内10以上の小中学校への周知も行った。



たくさんの地域の方のご協力で

ひろげる助成

1年目

実践

市内放課後活動リサーチ **120件**

SNSでのリアクション **1,250件**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

より自然と近い環境で学習できるようにとツリーハウス型の小屋を建設することとなり、協力者を集めるのに苦労した。

■工夫した点

小屋の建設作業の様子を連日投稿し、規模や活動目的が伝わるようSNSで発信。また、興味を引くようなチラシも作成し配布した。

〒052-0005
北海道伊達市清住町47番地1
電話：080-1886-0698
E-mail：info@ikimonoinc.jp
HP：https://ikimonoinc.jp/



応用地質研究会ヒ素汚染研究グループ

バングラデシュの水供給困難地域における安全な水利用のための環境教育

活動地域 バングラデシュ



教員研修での簡易浄水装置の作成状況

課題

バングラデシュ水供給困難地域での安全な水利用実現のため、子どもたちが主体的に関わる環境教育の実践活動を支援し、環境教育モデルの普及、調査解析活動を行う。

目標

目標は住民主体の給水施設維持管理による安全な水利用であり、環境教育はその目的達成のための重要な手段という位置づけである。



今後の展望

安全な水利用のための研修を受けた教員たちが、今後生徒たちに実践を交えた指導を行い、さらにその成果を子どもたちが地域に伝えていくことが期待される。塩水化地域で、ヒ素汚染地域での環境教育モデルが普及する。

活動内容と成果

- 学校での啓発セミナーや給水施設実態調査の準備・実践を中学校生徒が主体的に行うことで、子どもたちが生活と密接に関連したESDを体験でき、自ら給水施設の管理と運営ができるようになることが期待される
- 子どもたちの純粋な思いによる安全な水利用への取組みは、経験交流会やワークショップを通じて地域行政関係者の意識変革を誘発すると考えられる
- 最終的には、地域住民による給水施設の維持管理活動を地域行政が支援するという、安全な水利用にとっての望むべき姿に近づけていきたい



給水施設モニタリング風景

ひろげる助成

1年目

実践

教員研修の参加者数 **10人**

維持管理支援による給水施設の利用 **2,690人**

今年度計画の達成度 **10%**

目標達成度 **10%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で日本人が現地に渡航することができず、現地活動状況の正確な把握が難しかった。

■工夫した点

現地スタッフとのテレビ会議による定期的な会合により、適切な意見交換ができ、現地の状況把握ができるようになった。

〒350-2201
埼玉県鶴ヶ島市富士見4-2-7-306

(一社) 畑とキャンプの自由な学校みんなの学校

「子どもとつくる。未来の地球プロジェクト」
SDGsスクール活動の実践

活動地域  大分県・大分市



遊び、学び、体験するSDGsスクール

課題

民間のフリースクールなどでは対応できない人数の子どもたちが存在している。子どもたちが学ぶ機会を確保するとともに、活動を通して自己肯定感を取り戻す。

目標

体験的に活動を進めることで、環境や自然から学びSDGsへの意識を深め、主体的に活動へ参加することで、自身への理解を深め自己肯定感を取り戻す。



今後の展望

子どもたちが主体的に学ぶ環境をつくるために、ファンレイジングの展開を予定している。また大分県のフリースクールとの連携や協議会設立で、民間の学ぶ機会の確保や資質向上を図る。

活動内容と成果

- SDGsプロジェクトを子どもたちと行い、登山活動や社会見学を実施した
- SDGsプロジェクトでは、大分大学の客員教授との連携で森林火災や地球温暖化について学んだ
- フードロス削減の活動では、フードバンクを活用したり、周辺の耕作放棄地を活用し団体内の食料自給率を上げた
- SDGsイベントでは、159人の参加があり、より多くの市民が体験的にSDGsに関する活動へ参加できた
- フリースクールの活動では、他団体が見学にきてモデルとなるように案内や活動の紹介を行った



食べる、遊ぶ。食体験

ひろげる助成

1年目

実践

SDGsスクール参加者 **857人**

SDGsイベント参加者 **159人**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

活動を行ううえで、生徒は集まったが定例活動になるまで、送迎など運営面での問題点が浮上してきた。

■工夫した点

送迎車を出すことで効率よく活動が進められた。またフードバンクなどの支援を受けることでフードロス削減につながった。

〒870-0809
大分県大分市机張原1857-2
電話：070-4480-1328
E-mail：mail@min-nano.2-d.jp
HP：http://min-nano.2-d.jp/



(特非) ラブグリーンジャパン

ネパール・タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる

活動地域  ネパール



川の清掃キャンペーン

課題

ネパール・タハ市において、ゴミの投げ捨てやトイレ・家畜からの汚水による水質汚染の問題が浮上ってきているが、何ら対策は取られていない。

目標

地域全体で里山の景観を保全し、持続可能な里山の環境保全のためエコツーリズムをとした地域活性の仕組みづくりをする。



今後の展望

今までの活動を続け、構築してきた行政との信頼関係を基にゴミ分別場を設置するなど、地域住民のニーズに根ざした活動を行い、持続可能な活動とするためにローカルグループのネットワーク作りに取り組んでいきたい。

活動内容と成果

- 学校等の既存の組織に対して意識啓発を目的とした環境教育研修を実施した。335人の参加を得られた
- 地域住民に対して看板やパンフレットを作成して意識啓発を図った
- 環境保全への意識啓発ビデオを作成し、今後活動に役立てていく
- ゴミ拾いキャンペーンを実施し、延べ435人の参加が得られ、11,905kgのゴミを回収した
- 景観美化のため川辺への植樹を行った
- バイオガスを併設したトイレを10基設置した
- 里山保全グループを組織した
- ホームステイ実施家庭向け美化研修を実施した。参加者数238人



川辺への植樹

ひろげる助成

1年目

実践

イベントの延べ参加人数 **1,008人**

ゴミ回収量 **11,905kg**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **50%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による移動制限や学校の閉鎖により、予定通りの活動ができずスケジュール調整が難しかった。

■工夫した点

新型コロナウイルスの影響で、一時研修が開催できなかったため、看板やパンフレットを作成し環境保全に対する意識啓発を行った。

〒247-0063
神奈川県鎌倉市梶原3丁目18-10
電話：080-7968-0059
E-mail：lgikamakura@nifty.com
HP：http://lovegreenjapan.org/



(特非) 田舎のヒロインズ

自然豊かな日本の農村を守るために女性農家が取り組む次世代・消費者教育

活動地域  日本全域



オンラインファームツアー

課題

日本の農村人口や農業者数が減っており、将来的に農地や里山を維持する人手が確保できないと、食糧を生産できなくなるだけでなく、生物多様性が失われ、持続可能な社会が実現できなくなる。

目標

都市と農村が協力し合って持続可能な生産と消費が「当たり前」となった社会。またそれを可能にするため、意識が高い生産者を確保するための次世代育成体制の確立。



今後の展望

オンラインファームツアーは、内容の充実・差別化をはかるため、慣れてきたメンバーで4回ずつ配信する。一方、質の高い教育や配信ができる仲間を増やすための連続講座を実施していく。学生受入れについても継続する。

活動内容と成果

都市住民が農業・農村の現状や現場をもっと身近に感じてもらうためファームツアーを実施。新型コロナウイルス感染拡大のためオンラインに切り替えた。教育機関への出前授業もオンラインで実施。女性農家が伝えるべき内容のプログラム化もはかった(環境面)。大学の授業がオンライン化したことから、農業に興味がある子たちを農家が受け入れ、リモートで授業を受けながらも合間に農作業を手伝う「休学しない農村留学」のモデルづくりに着手。これから社会に出る若者たちが、農業・農村の現場に触れる機会を持てるような仕組みづくりの好スタートを切った。



休学しない農村留学

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

オンラインツアー・セミナー・勉強会 **47回**

学生受入れ **11人・回**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **40%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

これまでやっていなかった活動に取り組もうとするときに、メンバー同士が実際にやって目標や手法を共有できなかったこと。

■工夫した点

学生に会議の記録をとってもらい(録画&ログ資料)、会議に参加できなかったメンバーも後から確認できるようにした。

〒869-1501
熊本県阿蘇郡南阿蘇村両井
1283-3
E-mail: inakano.heroine@gmail.com
HP: http://inakano-heroine.jp/



(特非) 丸瀬布昆虫同好会

虫のいえを学校に広げよう

活動地域  北海道



「虫のいえ」の虫だし。全校生と職員が参加

課題

これまでの学校での「虫」の学びは、教科の中での学習であり、学校周辺に集まる理科の教科書の中の虫の学習が中心で、写真や標本で終えることも多い。虫に触れない子も多い。

目標

「虫のいえ」を設置することにより、児童のすぐそばの環境にまだたくさんの生き物があることを知る。まだまだ残っている自然を虫を通して体感し、それを守る心を育てたい。

活動内容と成果

春に学校の校庭に「虫のいえ」を設置した。子どもたちと一緒に木を入れ、身近な場所に虫が集まる環境を作った。このことにより身近な虫へ関心が高まり、秋の木出しのときはもちろん、普段でも、たくさんの虫を観察・採集してくれた。事前事後の調査比較では、虫に触れる子や飼育する子も増加した。また、子どもたちの積極的な取組みで採集数も種類も多く、その中には遠軽町で初めて採集できた昆虫もいた。採集した昆虫は同定し、標本にして学校に展示した。同じ町内でも2校で採集した虫の種類の違いも見られ、今後の取組みにいかしたい。



つづける助成

1年目

知識の提供・普及啓発

虫のいえ製作 **2棟**

虫のセミナー実施 **30人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **90%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの関係で学校訪問に制限があり、同好会の参加者を絞らざるを得なくなった。また、学校との連携も難しさがあった。

■工夫した点

学校との連絡相談は、電話やメール・郵送で行い訪問回数を絞った。昆虫採集は、学校にお願いし採集した昆虫はまとめて回収した。

〒099-0203
北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町
3番地
電話: 0158-47-3732
E-mail: asari39@gmail.com
HP: https://www.maru-mushi.com



総合環境教育

バンドン市の高校生に対する参加型総合環境教育プログラムの開発と実践

活動地域  インドネシア



参加型総合環境教育WINDYを行う教員

課題

バンドン市の高校生が学校・家庭で直面する環境問題を多面的に理解し、低コストで実効ある解決策を見出す方法を、参加型活動を通じて定着させ、全ての高校に拡大する。

目標

参加型総合環境教育をバンドン市各学校が自主的に継続し、生徒が好事例に着目して、学校・家庭・地域で参加型環境改善活動を行い、実際的な変革を継続的に実践する。



今後の展望

初年度の成果を、宗教ネットワーク（イスラム教、キリスト教）に紹介し、新型コロナウイルス感染対策を第一において、本活動を他校で実施し、教員トレーナーを養成し、各校の参加型総合環境教育を発展させる。

活動内容と成果

バンドン市郊外のイスラム教ASSURUUR学校で、参加型総合環境教育良好事例を、感染症対策を含み80事例収集し、アクションチェックリスト（27項目）を作成、1,700部印刷して全校生徒に配布。教員に参加型総合環境教育のトレーナー研修を行い、研修を受けた教員はチームを作り、生徒79人にワークショップを行い、生徒は395件の環境改善行動計画を作成した。新型コロナウイルス蔓延で活動が制限される中、生徒たちはチームを作り、学校や家庭での改善を収拾し、学校は優秀改善を表彰し、本活動を全校生徒1,700人に紹介した。



ASSURUUR校の生徒たち

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

生徒参加者 **79人**

環境改善行動計画 **395件**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **20%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

ワークショップ実施の際、マスクを参加者全員に提供し全員が着用した。定例会議や成果発表会はZoomを利用した。

■工夫した点

学校とLIONがMOUを締結し、教員トレーナー養成を重視した。教員がチームを作って自主的に活動できるようにした。

Jalan Manjah Beurum Rt/Rw
02/03 Desa Cileunyi Kulon,
Kecamatan Cileunyi,
Kabupaten Bandung, Provinsi
Jawa Barat
電話：+02263735095
E-mail：ajatsudrajat.lion@gmail.com
HP：http://lionindonesia.org/



（一社）スピリット・オブ・セイラーズ

Ocean College

～海を学び、地球を感じる体験～

活動地域  愛知県（日本全域）



清掃活動をオンライン共有しながら行った

課題

2016年度に全国の自治体が回収した海岸漂着物はおよそ3万トン。漂着ゴミは船のプロペラに絡まり航行トラブルの元となる。

目標

海上漂着ゴミ、海岸・港への漂着ごみを減少させ、行動の元となる環境保全への意識向上を目指す。海洋体験活動参加者や船に乗る人が発見したゴミを拾うようになる土台を作る。



今後の展望

今後も、引き続きオンラインを通じた清掃活動を行う一方で、新型コロナウイルス禍による社会情勢との兼ね合いを見ながらも、船に参加者の方と乗り、漂着ゴミ・漂着ゴミの清掃活動を行い、環境保全への意識向上を目指す。

活動内容と成果

- 清掃活動をオンラインで毎週実施。参加者がそれぞれの居住地の近くで清掃活動を行い、その様子や感想、拾ったゴミの量をSNSにアップして全国でゴミ拾いの輪を広げていった
- 自然環境と自分たちの行動について考える機会となるオンライン動画を毎月配信。「水辺の自然環境教育Project Wild」を題材に、海ゴミ・海洋プラスチック・水の汚染・水辺に生きる生き物を中心とした問題について、オンラインで考えながら学べる機会を作り、予定以上の回数視聴された



海岸への漂着ゴミを拾う参加者

LOVE BLUE助成

1年目

実践

拾ったゴミの量 **154.17kg**

自然環境と自分たちの行動についての動画視聴 **1,250回**

今年度計画の達成度 **77%**

目標達成度 **30%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で、対面での清掃活動や環境問題についての話し合いを取り止めにし、人が複数集まる状況を作らないようにした。

■工夫した点

清掃活動をオンラインで共有する方法に変更した。海洋環境動画を作成し、だれでも視聴できるようにした。

〒232-0061
神奈川県横浜市南区大岡4-15
B502
E-mail：sail@spiritofsailors.com
HP：https://spiritofsailors.com



プラスチックごみ削減普及啓発プロジェクト

活動地域 東京都・神奈川県・山梨県等



川ごみビンゴ試行のごみ拾いに出発！

課題

川や海のごみ問題は、多くの人が理解し、自分事としてプラスチックごみを減らす具体的な行動がその対策として重要となる。しかしその普及啓発のためのツールが十分でない。

目標

プラスチックごみ削減の啓発のための出前講座の実施、及び啓発ツールの活用などを通じて、海洋プラスチックごみ問題を自分事として捉え行動できる人を増やす。



今後の展望

出前講座を希望された小学校で出前講座を行う。その際には、できるだけ地域団体とも連携し、継続したサポートができることを念頭におく。また、小学生向けの啓発資料やツールも充実させて普及されることを目指す。

LOVE BLUE助成

1年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

川や海で活動をされている方々を迎えた検討会を3回開催しご意見をいただき、川ごみ海ごみ削減の啓発ツール(パネル、ごみ実物パネル、説明ボード、ビンゴカード)を制作した。制作した啓発ツールは貸し出しのできる態勢を整えた。啓発ツールを試行するごみ拾いを地域の団体に共催いただき3回実施した。翌年度に小学校の出前講座に向くために、10市区、計254校の小学校にアンケートを送付し、ニーズ調査を行った。結果、59校より返信をいただき、そのうち、10校で出前講座を希望する回答を受け、実施のための調整を始めた。



タペストリー型の啓発パネルを制作

試行ごみ拾いの実施	3回
ニーズ調査回答返信	59校
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	30%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍でのごみ拾いイベントの開催判断とその準備に配慮した。小学校へのアンケート送付のタイミングも再考して変更した。

■工夫した点

小学校へのニーズ調査のためのアンケート用紙については、先生の負担が少なく回答しやすいよう設問を厳選した。

〒132-0033

東京都江戸川区東小松川

3-35-13-204

電話：080-8167-8577

E-mail：kawa53@kawagomi.jp

HP：https://kawagomi.jp/



北陸におけるSDGs達成に向けたESDプログラム開発

活動地域 石川県



勝山市長と語る会(勝山市南部中学校生徒の活動)

課題

学校や地域社会ではSDGsとESDの関係に関する理解に混乱があり、どのようにSDGsを達成するためのESD教育を行うかの具体的な方策を提示し、普及する。

目標

SDGs達成に向けて授業を実践している学校が増え、推進のためのプラットフォームが機能している。北陸においてSDGsが達成され、持続可能な地域社会が実現している。



今後の展望

北陸でSDGsが達成され持続可能な地域社会が実現する動きが始まる。そのための地域ユネスコ協会も含めた推進プラットフォームが形成され、SDGs達成に向けてESD授業を実践している学校が増え始める。

つづける助成

2年目

実践

活動内容と成果

- 北陸ESD推進コンソーシアムと綿密な連携の下、「北陸版SDGs・ESD実践ガイドブック」を作成し、北陸3県のユネスコスクールや地域ユネスコ協会等のステークホルダーに配布し、SDGs達成のためのESD教育の促進、普及の研修会・セミナーを実施している
- 北陸3県のSDGs・ESDを推進するステークホルダーを委員とした「北陸SDGs・ESD推進協議会」を設立し、情報・経験を共有し、SDGs達成のためのプラットフォームを形成しようとしている



富山市立堀川小学校児童のデイサービス訪問

SDGs達成に向けた授業の実践校	139校
北陸SDGs・ESD推進協議会開催	2回
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	50%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍や学校現場の多忙化で連絡調整が難しく、対面の研修会もできず計画通り活動ができなかった。

■工夫した点

オンラインでの会議・研修会・セミナーに変更した。そのため、質の高い個別の支援が増えた。

〒921-8105

石川県金沢市平和町1-3-1

石川県平和町庁舎

HP：http://unesco.exblog.jp/



(特非) キッチンるぱ

熊本県内の生活困窮家庭と被災した子どもたちの総合環境教育

活動地域 熊本県



熊本豪雨被災地での清掃ボランティア活動

課題

生活困窮世帯、人間関係に困難を抱えた子どもたち、子どもたちの生活リズムをマネジメントできない親への支援が不足している。さらに熊本地震によるPTSDも加わっている。

目標

子どもたちに基本的な生活習慣が身につく環境を意識した行動がとれるようになるとともに、環境保全に配慮した暮らしが家計を助ける一助になることを知る。



今後の展望

途中で加わる子どもも多くいる中で、まずは子どもたちの心を開き安定させるための活動に注力しつつ、視野を広げ環境へと意識を向かわせるため、環境問題と実生活の繋がりを意識できる体験等に取り組みたい。

活動内容と成果

- 熊本豪雨被災地を訪問し清掃ボランティア活動をした後、被災された方の話を聞いた。自然の脅威と大切さを実感し、人の気持ちに寄り添うこと、共感することの大切さを学ぶことができた(参加者:12人)
- 週末などに農業体験等を実施。子どもたちは、自然環境の大切さや収穫の喜び、自然と共生する生活スタイルの重要性、働くことの大切さや苦労等を知った(参加者:延べ64人)
- これらの活動を通して子どもたちは達成感を覚え、自分が役立つことを知り、情緒面でも安定。相手の思いを汲み取って主体的に行動するようになってきた



荒れた庭から耕す農業体験

つづける助成
2年目
実践

キャンプの参加者数	37人
体験活動の参加者数	893人
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	80%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

夏の集中豪雨や新型コロナウイルス感染拡大の影響により、体験活動の受け入れ先を確保することに苦労した。

■工夫した点

キャンプの県内日帰りへの変更、新型コロナウイルス対策として屋内活動ではアクリル板設置、食事は屋外でテントを張っての実施など。

〒865-0064
熊本県玉名市中1835-1
電話:0968-82-7585
E-mail:rupa@sound.ocn.ne.jp
HP: http://rupa26.wix.com/npo-rupa



市民エネルギーとっとり

中山間地域の再生に資する総合的な地域環境教育実践活動

活動地域 鳥取県



里山保全実践活動

課題

鳥取は自然に恵まれ、地域エネルギー利用を中山間地域の再生の鍵にできる可能性があるが、多様な地域活動が展開されている一方で、耕作放棄地の増加や森林荒廃が進んでいる。

目標

分野横断的な人材を育成し、実践を支援する体制が構築されることにより、鳥取で地域エネルギー事業も取り入れた、中山間地域の再生に取り組む地域・主体を増やす。



今後の展望

自然と共生する里山・農村文化の継承につなげる小規模な連続講座と並行し、映像保存、地域の課題解決・仕事づくりにつながる地域エネルギー利用拠点を増やす。世代間、まちと農村の暮らしをつなげ人材の育成を行う。

活動内容と成果

- まちづくり、自然保護、里山保全等の団体と連携し、●実践的で分野横断的な人材育成講座を13回開催し203人が参加。また県内、近県(鳥根県、岡山県)の先進地域の視察研修を実施 ●地域課題と地域の再生、未来ビジョンを具体的に考える場として上映会、連続講座を開催し81人が参加 ●実践活動・事業化支援のための連携体制の構築と実践地の具体化に取り組んだ
- 地域のエネルギー利用拠点として、独立太陽光発電システムを一緒に作り集落で使用、教育関係施設に発電設備を参加型で設置、小水力発電の適地等について検討を行った。



集落で使う発電所づくりワークショップ

つづける助成
2年目
実践

地域で開催したイベント参加者数	284人
地域イベント開催数	18回
今年度計画の達成度	85%
目標達成度	60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍への対応・方向転換に時間を要し、年度当初にはイベント等の企画がしにくく活動が滞った時期があった。

■工夫した点

地域のニーズを確認しながら、少人数や野外でイベントを実施するなど、地域づくり団体との連携により活動の幅を広げることができた。

〒680-0834
鳥取県鳥取市永楽温泉町
505-406
E-mail:shiminenergy.tottori@gmail.com
HP: http://energytottori.jugem.jp/



木のある暮らしづくり

活動地域 福井県



さとやま遊歩道の整備状況

課題

今まで密接していた森とひととの暮らしの関係が現代において離れてきており、それにより森林の荒廃が進んでいる。また、自然災害時の林地残材の流出などが課題となっている。

目標

森林資源を活用して森や木の価値を再評価し、森とひととの暮らしの関係を再構築することで、森と親しみ、森とともに暮らす調和のとれた木のある暮らしづくりを実践すること。



今後の展望

間伐による薪の供給、さとやま遊歩道による森林公園の造成、及び当該地域の環境に合った木育プログラムを進めることで、森とひととの暮らしの関係を再構築を行い、木のある暮らしを実践していく。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

- 間伐作業のための使用機械の安全研修を行うことができた。また、新材の加工・調整を行うための薪小屋作りを行い、薪の自給のための環境整備を行った
- さとやま遊歩道の整備のための植樹活動は、地域住民の協力を得て行うことができた。また、木と親しむための広場の整備や木製ベンチの配置なども行った
- 木を活用するための木育プログラムである「ウッドプログラム」を五つ作ることができ、提供できる状況を構築した



木を活用するウッドプログラム

もり森応援隊メンバー **18人**

さとやま遊歩道に関わった地域住民 **15人**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響により、イベントや体験会などの実施を見送った。

■工夫した点

新型コロナウイルスの影響もある中、地域住民や他団体との連携を深め、環境整備の取組みを進めることができた。

〒910-2461
福井県福井市南野津又町19-46
電話：0776-93-2335
E-mail：info@ijira.jp
HP：http://www.ijira.jp



災害時にも強い持続可能な北海道のための地域づくり人材育成事業

活動地域 北海道



厚真町へ長期滞在し、活動する参加者

課題

慢性的に人材不足である地域団体と現場実践型学習の場を求める大学等教育機関のマッチングによる人材育成が求められているが資金面等の課題から継続的な運営が困難である。

目標

本事業が持続可能な地域のための人材育成手法として継続的に運営され、オンラインと現場実践型プログラムによって各地で次世代を担う地域づくり人材が育成されている。



今後の展望

eラーニングシステムを活用したオン・オフラインの使い分けによる現場実践型プログラムの構築を目指す。また、新たな会員サービスの構築を行うことによって、より多様な関わり方のできるプロジェクトを目指す。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

教育機関や地域NPOと連携して、延べ189日にわたって、現場実践型プログラムを実施。延べ341人が参加した。その内、5人が2週間以上の長期滞在型で活動に参加した。また、オンラインを活用したプログラムを6回実施し、延べ142人が参加。運営には計24人のボランティアメンバーが参画した。参加者、受入側、送り手からも継続的な運営が望まれており、資金調達と活動方針について検討を重ねた。今までの実績と新型コロナウイルス感染拡大による課題から、eラーニングシステムと連動した会員サービス構築を目指す方針が立った。



活動報告のために作成されたWEB動画

活動人数 **341人**

活動地域 **7市町村**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍での感染対策や参加基準の策定などに苦労した。特に地域差や個人差があるので、地域・団体内での合意形成に苦労した。

■工夫した点

オンラインの場づくりでは、雑談できる時間を意図的に取るなど工夫した。配信型と交流型等オンラインの中でも使い分けを行った。

〒064-0809
北海道札幌市中央区南9条西3丁目1-7
電話：011-562-0081
E-mail：info@ezorock.org
HP：https://www.ezorock.org/



(特非) 五ヶ瀬自然学校

世界農業遺産の里で行う耕作放棄地対策・環境保全型農業価値理解促進のための交流活動事業

活動地域 宮崎県



春めく！世界農業遺産の宮野原フットパス

課題

世界農業遺産の価値を住民が認識できていない。農業生物多様性、持続可能型農林業への理解が低い。耕作放棄地増加、農業後継者不足。インバウンド対策。若者への社会教育。

目標

世界農業遺産の価値をいかした取組みを移住者も含めた住民が主体となって行い、都市住民や外国人観光客とともに継続することで、持続可能な進化した農村の実現を目指す。



今後の展望

フットパスは定員15人程度で集まるようになってきたので、平日を含め回数を増やせるか模索する。FULL里体験&オーナー制度については、「山楽校へ行こう!」に変え、有料企画、無料ボランティア企画に分ける。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

世界農業遺産の里を歩いて巡るフットパスイベントを9集落で春8回・秋5回計画したが、春4回は新型コロナウイルスの影響で中止、食事処や加工グループが地産地消を意識したお昼ご飯を提供した。FULL里体験&オーナー制度を5集落で全15回開催、焼畑やヤボ焼の畑で栽培された雑穀セットや焼き芋用の芋を贈った。耕作放棄地対策での農業ボランティアを2集落で全39回開催、地元中心で行ったが外部ボランティアには栽培したトモロコシをお礼に贈った。生き物調査をフットパスやFULL里体験の中で専門家とともに4集落で開催しやり方を模索した。



椎葉村の焼畑で稗と粟の収穫

イベントの延べ参加者数	664人
イベントの満足度・理解度	100%
今年度計画の達成度	75%
目標達成度	60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で開催中止や定員制限を行った。中止か開催かの判断が難しかった。農作業に関しては集落中心で行った。

■工夫した点

来れなかった方への対応と広報を兼ねて動画を撮影し編集後YouTubeで配信した。

〒882-1201
宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町
大字鞍岡6452番地乙
電話：0982-73-6366
E-mail：gns@gokase.or.jp
HP：http://www.gokase.org



(公社) 日本環境教育フォーラム

Bangladesh・シュンドルボンにおける生物多様性保全を目指した自然体験プログラムの開発及び実践

活動地域 バングラデシュ



自然体験プログラムの様子①

課題

地域住民の環境保全に対する意識不足や経済的貧困により、 mangrove を過剰利用していることから、シュンドルボンの生物多様性は急速に失われている。

目標

シュンドルボンの自然をいかした自然体験プログラムを開発し、地域住民が主体となって実施することで自然環境の保全と生計向上の両立を図り、生物多様性の保全を目指す。



今後の展望

2020年度はリーフレットやウェブサイトの開発を進めた。2021年度はこれらを活用し、自然体験プログラムへの参加者数を増やすとともに、地域住民が主体となり自立した運営体制構築を目指す。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

シュンドルボンにおける生物多様性保全の重要性を伝えることを目的とした植林イベントを3回開催し、地域住民が延べ100人参加した。また、新型コロナウイルスの影響で時間的な余裕が生まれたことから、自然体験プログラム内で実施するアクティビティ開発を進め、計30種類開発した。これにより、季節ごとに旅行者や参加者のニーズに合わせたプログラム提供が可能となった。さらに、参加者から参加費の半額を徴収する形でのプログラム提供をはじめた。新型コロナウイルスの影響により集客の苦戦が予想されたが、2回開催され34人が参加した。



自然体験プログラムの様子②

開発したアクティビティ数	30種類
自然体験プログラムへの参加者数	81人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスにより先行きが不透明なときに、地域住民のモチベーション維持が難しかったこと。

■工夫した点

日本の自然体験活動や環境教育プログラムにおける感染症対策を共有し、バングラデシュに合わせた対策を検討したこと。

〒116-0013
東京都荒川区西日暮里5-38-5
日能研ビル1階
電話：03-5834-2897
E-mail：info@jeef.or.jp
HP：https://jeef.or.jp/



公害資料館ネットワーク

公害経験から教訓へ 公害教育の普遍化事業

活動地域  日本全域、長崎県



ナガサキピースミュージアムで意見交換

課題

公害の被害にあった地域では情報の風化が著しく、公害の経験を共有することが困難になっている。

目標

知識注入型の公害教育だけでなく、双方向及び参加型の公害教育が、公害資料館及び公害被害地で年に1回は開催されるようになる。



今後の展望

来年度は長崎での公害資料館連携フォーラム開催を目指している。公害での学びを広げて、発信できるようにし、また、イベントの開催方法も見直していく。

活動内容と成果

新型コロナウイルス禍は「現地での学び」を大切にしてきた公害資料館ネットワークにとって足元を見直すきっかけとなった。オンラインによるイベントを6回開催し、来年度フォーラムを長崎で開催するために、長崎にて現地実行委員会を立ち上げ、その実行委員会と協力してナガサキピースミュージアムにて、公害資料館ネットワーク共通展示パネルと各公害資料館を紹介するパネルを展示する企画展「影、光る一全国公害資料館からのメッセージ」を開催した。また活動を広げるためのたよりの発行や、ホームページの改変、電子書籍の発信などを行った。



ナガサキピースミュージアムで企画展開催

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

イベント参加者 **275人**

電子書籍の発行 **11冊**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **85%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

オンラインの環境整備については世代ごとや団体別に差があり、慣れていない人たちへのサポートに苦労した。

■工夫した点

ホームページの改変とともに、組織の持続可能なあり方について議論した。

〒712-8034
岡山県倉敷市水島西栄町13-23
電話：086-440-0121
E-mail: kougaishiryoukan@gmail.com
HP: <https://kougai.info/>



(特非) 長野県NPOセンター

長野発・SDGs実現に向けた学生アクションプラン「youth reach」

活動地域  長野県



Gomitomo「清走中」実施

課題

環境活動を含む地域活動の担い手の高齢化と、持続可能なまちづくりへの若年層の意識の低下。

目標

長野県内の高大生が自然環境や長野の将来などを自らの課題として捉え行動を起こし、様々な方と関わりながら、複数の課題を自分たちなりの方法で解決している状態。



今後の展望

高大生主体の活動をより一層、地域として応援していただけるようにネットワークの構築に努めていきたい。

活動内容と成果

今年も引き続き高大生主体で持続可能なまちづくりや、SDGs実現のためのアクションプラン実施にあたり伴走支援を行ってきた。第6回全国環境ユース活動発表大会で先生が選ぶ特別賞を受賞した、ゴミ拾いとゲーム要素を掛け合わせたGomitomo「清走中」の活動や、ゴミ拾いをしながらグローバル気候変動マーチを実施した。また長野県からSDGs全国フォーラムでの登壇依頼があったり、信濃毎日新聞からSDGsを推進している企業への取材同行依頼など協働事業の申し出があった。地域とのつながりもできつつある。



グローバル気候変動マーチにゴミ拾いで参加

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

アクションプラン参加者(高大生) **53人**

アクションプラン数 **10個**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **70%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

対面での活動が制限されていたため、心通じ合うコミュニケーションを取ることに苦戦した。

■工夫した点

高大生の活動拠点利用の際に検温、消毒を実施し、新型コロナウイルス対策を徹底した。

〒381-0034
長野県長野市大学高田1029-1
電話：026-269-0015
E-mail: youth@npo-nagano.org
HP: <https://youthreach-n.com/>



(特非) 日本下水文化研究会

バングラデシュ都市スラムにおける衛生行動の変容促進と衛生環境の形成

活動地域  バングラデシュ



改善された衛生設備の位置を示した地図

課題

都市貧困層コミュニティでは様々な感染リスクに曝されているが、感染ルートを断ち、リスク軽減のため、衛生行動の変容並びに必要な衛生設備の改善が求められている。

目標

啓発活動により、下痢症リスク認知レベルの向上を図り、衛生設備の改善意思を形成し、必要な共同利用設備を住民参加のもとで設置し、自立的に管理できる組織を形成する。



今後の展望

コミュニティの人たちが自立的に衛生環境を維持していくとともに、現地の関係者の手で、活動が進められるよう、ワークショップの教材やコミュニティによる管理業務などの汎用化と伝搬を進めていきたい。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

三つのコミュニティの女性を対象に、感染リスク軽減のため、感染ルートの認知とその遮断につながる衛生行動について、カードを使って考えるワークショップを開いた。衛生行動の変容が確実に継続できるように、既存の設備を改善した。衛生行動の変化、トイレの清潔さの変化、女性がイニシアティブをとることの重要性、衛生環境を維持する活動への参加意識の変化等について、意識調査を行ったところ、ワークショップへの参加、設備改善により、衛生行動の変容とその習慣化、さらには、コミュニティの女性のエンパワメントを促した。



カードを使って感染経路について学ぶ

ワークショップ参加者 **281人**

トイレ使用後の石鹸で手洗い習慣化 **83%**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **55%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍で現地は全国的にロックダウン。日本からの渡航もかなわず、メール等による一方的な指示に終始せざるを得なかった。

■工夫した点

ワークショップでは、感染リスクについての認知レベル向上と衛生行動の変容への理解を深められるようにプログラムを改善。



〒101-0027 東京都千代田区
神田平河町1番第3東ビル710号室
E-mail : jade@jca.apc.org
HP : <http://www.jca.apc.org/jade/index.htm>

(特非) おーでらす

集落の主体的な鳥獣害対策の実施と継続により、農村環境の生物多様性を保全する活動

活動地域  福島県



被害状況や被害を出す獣を地元小学生に講義

課題

鳥獣害対策は短期的に解決できる問題ではないため、対策の継続性が重要であるが、実践できているところは少ない。また、農村環境の荒廃から生物多様性の減少も危惧される。

目標

集落の主体的かつ継続的な対策の実施が、農村環境の生物多様性保全につながるプロセスモデルを確立する。



今後の展望

貴重な環境であることを住民に認識してもらうことで、住民主体の鳥獣害対策の継続を推進する。そのため、各集落の課題解決の方法及び集落ビジョンを住民と検討しながら、集落に合った対策を進めていきたい。

ひろげる助成

2年目

調査研究

活動内容と成果

- 支援対象集落を2地区選定した
- 上記集落を対象に、獣による被害調査及び被害対策の効果検証を実施した。
結果は、両集落ともに被害がみられ、対策の改善が必要であった。また、獣害を防いだ後のビジョンを住民間で明確にし、対策の継続性を図る必要があると考える
- 各集落で植物、鳥類、哺乳類、両生・爬虫類、魚貝類、水生昆虫類の生物相調査を実施した。
両集落延べ927種が出現し、そのうち絶滅危惧種に指定されている貴重な生物が24種確認された



絶滅危惧Ⅱ類指定のホトケドジョウ

獣被害現地調査 **13回**

生物出現種数 **927種**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **40%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

住民との接触ができない状況での、情報提供の方法や、集会等が実施できるかの調整。

■工夫した点

調査等の情報提供は資料を配布して行った。被害対策については、配布後に改善が見られた。



〒969-3302
福島県耶麻郡磐梯町
大字更科字権現森45番地
電話 : 0242-73-3071
E-mail : info@ohderasu.com
HP : <https://www.ohderasu.com/>

乳幼児期の自然体験の実態調査と、認定こども園等でのモデル事業実施

活動地域 静岡県



課題

乳幼児期の子どもが人生のベースを築き、主体的に様々な学びを得るためには自然の中での体験が必要だと考えるが、自然に触れる機会が激減していることが課題である。

目標

子どもの自然体験が増え、大人も行動変容の機会が増えることで、自然に目を向け、環境に配慮することや、持続可能な社会づくりを意識して行動できる人が静岡市に増える。



今後の展望

実態調査やモデル事業実施など、3年間の成果を発信していくことで理解者や協力者を増やし、静岡市内の0～5歳児3,000人(人口の5%)以上が自然度の高い場所での遊びを体験できる体制を整えたい。

ひろげる助成
2年目
調査研究

活動内容と成果

- 静岡市内の認定こども園・保育園・小規模保育施設にて、保育者を対象に、新型コロナウイルスの影響で子どもたちの体験や成長にどのような変化が見られるかについてのアンケート調査やヒアリング調査を実施した
- 認定こども園等にてプログラムが実施できない分、家族で自然の中へ気軽に出かけられる機会を増やすための自然体験イベントを開催した
- 新型コロナウイルス禍で出かけられなくても身近でできる自然遊びについて、こども園の先生向け動画を3本製作し、当団体サイトに掲載した



こども園の先生向け動画

市内の認定こども園アンケート回収	23園
自然体験イベント入場者	287人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	50%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍でモデル事業を実施してもよいものか、こども園の先生方も迷っていらっしゃる中で判断のタイミングが難しかった。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍でのこども園の実態や先生方の声を調査し、ニーズに応えられるような新たなプログラムを開発することができた。

〒422-8002
静岡県静岡市駿河区谷田1170-2
電話：054-263-2866
E-mail：e-info@ecoedu.or.jp
HP：https://www.ecoedu.or.jp/



みちのく潮風トレイル 普及・啓発活動

活動地域 青森県・岩手県・宮城県・福島県



課題

みちのく潮風トレイルは2019年6月9日に全線開通を迎えたが、まだ認知度が低く、沿線地域でのハイカーの受入体制が整っておらず、整備の行き届かないルートもある。

目標

地域住民のおもてなし精神を醸成してハイカーの受入体制を整えるとともに、安全安心に歩くための情報を提供して、より多くのハイカーが歩きに訪れる道にする。



今後の展望

4/1からは、データブックの販売とMCTサポーターズのHP掲載を開始する。今後も、ホームページの内容拡充やMCTサポーターズ掲載数増加、地域における認知度向上を進めていきたい。

復興支援助成
2年目
知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- 地点間距離や設備(トイレなど)等の情報を掲載した販売用の「データブック」が完成した
- みちのく潮風トレイルの情報を発信するホームページ(第2段階)を作成・公開した
- 沿線事業者を訪問して協力を依頼し、ハイカーにサービスを提供するMCTサポーターズ36件をHPに公開した
- 八戸市、田野畑村、宮古市の3か所で地域住民向けのフォーラムを開催し、計91人に参加していただいた
- 整備活動を11回、161人の参加者と整備を実施するとともに、整備ボランティアに合計79個人・団体に登録いただいた



整備体験会

MCTサポーターズ掲載事業者数	36件
整備ボランティア登録者数	79個人・団体
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	75%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響で、急遽フォーラムの講師を呼べなくなり、ビデオメッセージへの変更や講師の追加など内容変更にも苦労した。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍で外部参加者を募れない中、関心を持ってもらえるよう、地元協力者のみで開催した整備活動の様子を発信した。

〒981-1232
宮城県名取市大手町5丁目6-1
名取市市民活動支援センター内
電話：022-398-6181
E-mail：info@m-tc.org
HP：https://m-tc.org/



(特非) 能登半島おらっちゃんの里山里海

能登の里海環境・文化の持続可能性構築

活動地域 石川県



正院小学校全校児童参加でクリーンビーチ

課題

豊かな里山里海文化も、過疎・高齢化で資源が未利用化し荒廃しつつある。次世代を担う子どもたちの親世代が、その文化を体感していないため、自然と人との間に距離ができた。

目標

子どもたちに地域の資源のすばらしさと重要性を伝え、触れ合う機会を増やす活動を行う。活動を「楽しむ」ことで「学び」、環境を「守る」意味を理解し保全活動を継続する。



今後の展望

これまでの里海保全活動の継続と、市民や観光客に「里海」をより身近に感じてもらうための魅力的な体験プログラムをNPO自身が楽しみながら継続し、最終的には里山里海の繋がりによる奥能登珠洲の魅力を発信する。

活動内容と成果

世界農業遺産 (GIAHS) 認定の里海を、知って、守って、楽しむ、という観点から、新型コロナウイルス禍の中でも事業を実施し、市内小学生、その保護者など多くの市民の参加をいただいた。

- ミニ地引網による里海調査には、体験も含め9回延べ109人が参加した
- 海岸清掃活動には、企画した5校のうち4校、延べ158人が参加した(1校は荒天のため中止)
- 秋に開催した「釣り大会」には、過去最大の21組、42人が参加した
- 冬には初めて、広い冬の海岸を歩く「里海ウォーキング」を実施し、10人が参加した



冬の海岸を歩く「里海ウォーキング」

LOVE BLUE助成

2年目

実践

地引網、魚種調査 9回

海岸清掃 4回

今年度計画の達成度 85%

目標達成度 80%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

海岸周辺での事業展開であることから、天候の影響を大きく受けることが多いので、関係者との日程調整に常に留意が必要だった。

■工夫した点

地域行事や学校行事を事前に把握し、丁寧なスケジュール調整を行い、天候を含めイベントの日程を決めてきた。

〒927-1462
石川県珠洲市三崎町小泊33-7
電話：0768-88-2528
E-mail : satoyamasatoumi2006@gmail.com
HP : http://www.satoyama-satoumi.com



(特非) さっぽろ自由学校「遊」

SDGsに基づくNPOのアドボカシー力の向上とセクター間対話の推進

活動地域 北海道



振り返り座談会(オンライン)から

課題

持続可能で公正な社会の実現のためには、健全な「市民社会」の成熟が不可欠であり、NPO/市民活動のアドボカシー力の向上とともに、諸セクターの「市民化」が必要。

目標

SDGsが北海道における多様な主体にとっての共通の目標となり、市民活動の実践や提言がいかされる民主的な市民社会が形成されていくこと。

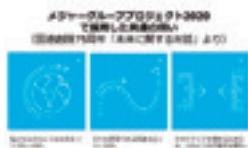


今後の展望

次年度に繰り越した助成金を使用して報告冊子を完成させ、各所に配布する。プロジェクト自体は呼びかけの範囲を広めながら継続し、多様な主体の社会参画を促す仕組みを地域レベルで定着させる。

活動内容と成果

前年度までの活動をもとに、SDGsが掲げる「だれひとり取り残さない」社会づくりを具現化するため、北海道メジャーグループ・プロジェクトを正式に立ち上げ、八つのグループ(ユース、女性、障害者、農民、地域コミュニティ、NGO・NPO、企業、研究者)がそれぞれグループミーティングを実施し、12月には全体ミーティングを開催、それぞれのグループの未来へのビジョンやその達成に向けた取組みについて共有した。全体ミーティング後には、振り返り座談会を開催し、プロジェクトの成果をまとめた報告書を作成している。



各グループの話し合いに採用した共通の問い

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

参加した属性別グループの数 8グループ

プロジェクト参加人数 100超 人

今年度計画の達成度 50%

目標達成度 80%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響により、対面での活動がほぼできない状況が続いた。そのため、多方面への働きかけなどに制限が生じた。

■工夫した点

打ち合わせや本番のミーティングにおいてオンラインを積極的に活用することで、想定していた活動を実現した。

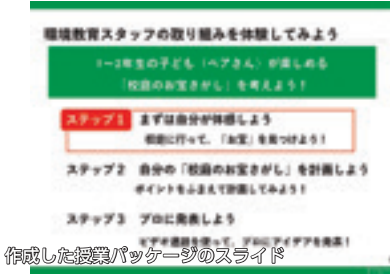
〒060-0061
北海道札幌市中央区南1条西5丁目
愛生館ビル5F
電話：011-252-6752
E-mail : syu@sapporoyu.org
HP : http://sapporoyu.org/



(特非) まちなびや

全国の先生が手軽にできる！環境の仕事のイメージが広がる！「環境キャリア授業パッケージ」の開発と普及

活動地域 静岡県



課題

- 講師が学校へ訪問する「出張授業」では、実施できる地域や規模が限定されてしまうこと
- 「環境保全」=「自然を守る仕事（第一次産業の仕事）」に直結してしまうこと

目標

- 学校の教員が気軽に実施できる授業パッケージの作成
- 静岡まちのお仕事図鑑「コドモンデ」総集編・ワークブックの作成



今後の展望

作成した授業パッケージについては、今後小学校で実施する予定である。また、発行した「超コドモンデ」について、掲載されている人とつながるオンライン授業の開発など、ワークブックと併せて活用していきたい。

活動内容と成果

【活動内容】

- ①静岡まちのお仕事図鑑「コドモンデ」に登場した「環境に配慮している職種」の講師と学校をビデオ通話でつなぐ小・中学校向けの環境キャリア授業の開発を行う
- ②これまで当団体が発行してきた「コドモンデ」の総集編を作成。学校の授業で活用できるよう、ワークブックも作成した

【成果】

- ①環境教育NPOを講師としたビデオ通話授業用の教材を作成し、授業パッケージマニュアルをホームページに掲載した
- ②「コドモンデ」総集編「超コドモンデ」とワークブックを発行し、静岡県内の小・中学校計800校に配布中



総集編「超コドモンデ」とワークブック

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

授業パッケージ開発	1種
「コドモンデ」総集編	1冊
今年度計画の達成度	50%
目標達成度	40%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

①について、環境教育NPOスタッフの仕事体験として、小学生でもできる学習内容を考えること。

■工夫した点

外部講師を呼ぶことのできない状況下においても、様々な仕事を知る機会や、自分の将来について考えられる内容とした。

〒420-0813
静岡県静岡市葵区長沼
631番地の1
電話：054-264-7170
E-mail：info@machinabiya.com
HP：http://machinabiya.com/



鹿児島湾奥地域における湿地帯保全活動

活動地域 鹿児島県

LOVE BLUE助成

3年目

実践

底生生物調査と鳥類調査 **12回**

今年度計画の達成度 **45%**

目標達成度 **50%**



始良市松原なぎさ小学校6年生と清掃活動

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルスの影響で、計画していた大人数でのゴミ拾いイベントや啓発講座、ステークホルダーを集っての室内での懇話会等、実施事業が行えなくなった。

■ 工夫した点

実施には至らなかったが、リモートでの啓発講座や懇話会、規模を縮小しての野外でのイベントを模索した。これらの取組みは今後にかきたい。

課題

当該地域は絶滅危惧種の野鳥等の生息場所となっているが、生物と人の暮らしとの距離が近く、清掃活動や住民の情報共有等の早急な保全対策が必要である。

目標

錦江湾奥の湿地環境が美しく維持され、希少生物が生息し、地域住民が湾奥湿地環境に誇りを持つことができる。

活動内容と成果

- 毎月1回鹿児島湾奥湿地帯周辺において、底生生物と野鳥の調査を行い、湾奥湿地周辺の環境の指標となる、基礎的な生物データを収集した。国内希少野生動物植物種であるクロツラヘラサギをはじめ、クロツラヘラサギと同所的に生息する様々な野鳥や、その野鳥たちが捕食していると思われる多くの底生生物種の生息を確認した
- 湾奥湿地周辺のステークホルダーと、湾奥湿地帯を取り巻く問題点、取組み等の情報共有を行うことができた



桜島をバックに底生生物調査

全助成期間の活動を振り返って

生物調査については、これまで定期的には行えていなかった春季の基礎情報を得ることができ、今後の啓発活動にかすことができる。半面、新型コロナウイルスの影響は甚大で、予定計画していた啓発活動や懇話会事業が実施できず、目標に届かなかった。地道な保全活動は、対面でなければ進めることが難しいと感じた。しかし、助成期間を通して形成できたステークホルダーとの連携を今後もいかして、保全活動を継続していきたい。



底生生物の同定作業

〒899-5652
鹿児島県始良市平松7703
電話：0995-67-6042
E-mail：office@kusunokishizenkan.com
HP：http://www.kusunokishizenkan.com



今後の展望

今後も地域自治体と協働で清掃活動・啓発活動を実施し、湾奥湿地環境の重要性認知度を高めるとともに、主催事業としてパードウォッチングや干潟体験等のエコツアー、出前授業や公民館講座を開催して参加者への普及啓発に取り組み、地域住民が湾奥湿地環境に誇りを持つような取組みを継続していく予定である。

みんなで作る森の学び場～里山保育 「ぐーりりの森のこどもえん」

活動地域  新潟県

つづける助成

3年目

実践

週末の里山保育活動・子ども参加人数 **306人**

整備により維持管理した森林面積 **4ha**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **90%**



子どもたちはいつも全身全霊で自然と戯れる

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス禍において、団体の受入れや出張開園の予定の多くがキャンセルとなり、スタッフの確保にも影響が生じるなどにより、体験活動を一時休止することになった。

■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍で予定していた活動を延期せざるを得なくなったが、森に集まらない間は整備や学び場づくりを前倒しで進め、来るべきときに子どもたちを迎えるための準備を整えた。

課題

人の暮らしが自然から乖離し、里山は荒廃した。子どもたちがのびのびと遊び学べる環境も明らかに劣化し、本来自然の中で育まれるべき感性や生きる力が十分に養われない。

目標

定期的な整備により里山を再生させ、そこに森の学び場となる空間と時間を作り出すことで、子どもたちが森に通う機会が増え、自然への愛着を持つようになる。

活動内容と成果

年間を通じて、里山保育「ぐーりりの森のこどもえん」を週末に16回開園し、合計306人の参加を得ることができたほか、他地域への出張こどもえんを2か所で5回開き、合計で約230人の参加を得られた。常連の参加者がサブスタッフのように手伝ってくれたり、参加した子どもの保護者の方から「この森の古株だというのがうちの子の自慢らしい」という声も頂くなど、地道に重ねてきた活動が確実に森への愛着へと変わり、プロジェクトをともに動かす仲間が増えたと実感する。



森の整備は子どもたちも手伝ってくれる



数年前まで荒れ放題だった山林が憩いの場に

全助成期間の活動を振り返って

「ぐーりりの森のこどもえん」は始めた当初、参加を呼びかけても申込みがなしという日もあるほど無名であったが、とにかく3年間地道に活動を積み重ねることで少しずつ森の学び場を設えた結果、今では団体の代名詞的ともいえる活動へ変貌を遂げた。環境教育は成果が短期間で現れにくいものであるが、いつも通う森が少しずつ再生・成長するのを感じると、人の意識は大きく変化し、行動を起こす力になるということを実感した。

〒959-1931
新潟県阿賀野市山寺794-499
E-mail: shelter@tiny.jp
HP: <http://shelter.tiny.jp/>



今後の展望

助成により多くの人に愛されるようになった「ぐーりりの森のこどもえん」という活動をこれからも大事に積み重ねながら、より多くの人に、「整備と同時並行で子どもたちの森の学び場をつくる」という取組みを知ってもらい、ともに活動する仲間を増やしていくことで、学び場づくりからエコビレッジづくりへと発展させていく。同時に、他地域でも「整備と一体になった森のこどもえん」が生まれるようなサポートも担っていきたいと考える。

森里川海(自然資本)を活用した地域課題解決型人材を育成する『未来・ひと・仕事』創生塾の構築と展開

活動地域  神奈川県

つづける助成
3年目
実践

研修参加者	14人
就職人数	2人
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	100%



研修を終えて

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

人材育成塾の自立に向けた作り込みと人材育成プラットフォームの構築が遅々として進まなかったところ。

■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍という未曾有の経験もあり、新型コロナウイルスだからできないではなくて、新型コロナウイルスだからこそできる手法はないか?という観点から、Zoomと実地のハイブリッドという手法を展開した。

課題

担い手となる、

- 人材の育成と確保
- スタートアップ資金と身分の保障
- やる気ある人材を後押しする地域のステークホルダーを巻き込んだプラットフォームの構築

目標

教育プログラムの開講で地域起業家人材が3人誕生し、2年程度実践的なトライアルをサポートし、賃金と身分を保障できる制度(ローカル版地域おこし協力隊)が確立される。

活動内容と成果

環境(エネルギー)、農業、国際交流を題材にしたELEオンライン研修の実施(6回)。参加者14人が自然環境を守り紡ぎながら仕事をおこすことについての理解が進み、参加者総数14人中2人が小田原かなごてファームに就職した。



みかんの収穫体験

全助成期間の活動を振り返って

人材育成塾も、自立のめどは立たず、また、人材育成プラットフォームも、中途半端な形でしか成果は残せず、筆者自身も当会を去らなければならず、事業として展開することは困難となってしまった。筆者が立ち上げた会社で責任をもって人材育成塾並びに人材育成プラットフォームを引き継いで展開していきたい。



ソーラーシェアリングを作ってみよう

〒100-0005
東京都千代田区丸の内3-1-1国際ビル2階244
電話：0465-24-5180
E-mail：contact@enekei.jp
HP：https://enekei.jp/



今後の展望

人材育成塾・人材育成プラットフォーム事業について、いずれも筆者(小山田)が立ち上げた合同会社小田原かなごてファームで引き継ぎ展開していきたい。地域の課題解決を担う人材は、当社が社員を雇用することで確保してまいる。

SDGsを達成するためのESD地域リーダー 担い手育成事業

活動地域  千葉県

つづける助成

3年目

実践

ESD地域リーダー
人材育成 **17人**

プラットホームづくり
会議参加者 **36人**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **90%**



ESD/SDGs理解促進公開セミナー

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

2020年度はこれまで作ったESDプログラム体験活動を実施する予定であったが、新型コロナウイルス予防のため、会場とZoomを取り入れた研修会を開催した。

■ 工夫した点

2020年度は新型コロナウイルス感染症予防のためZoom会議を開催することになり、参加者へZoomのやり方などフォローワークショップでは新型コロナウイルス対策を実施した。

課題

SDGsを達成していくためには、ESDの視点を持った学習及び活動のプログラムと地域でのリーダーを持続可能にしていく仕組みがないことが課題である。

目標

3年間でESD地域リーダーを県内に50人育成する。ESDプログラムガイドブック(2018年～2020年)を作成。プラットホームづくりの必要性と構築の基礎づくり。

活動内容と成果

人材育成事業は、年3回(9月10月11月)2か所の地域(市原市、南房総市)で開催し、16のESDプログラムと17人のESD地域リーダーが誕生した。また、ESDの視点を入れた、「ESDプログラム」ガイドブック2020年度版ができた。

プラットホームづくりでは、①ユースとの連携 ②地域の自然からの学び ③学校との連携 ④モデルプログラムの活用 の四つの実験プロジェクトが生まれ、内容など検討した結果、次年度の活動へとつなぐこととした。



SDGsを進めるプラットホームづくり

全助成期間の活動を振り返って

ESDの視点を入れたESDプログラムづくりを通して、持続可能な社会を作るためのESD地域リーダー育成をお互いに学ぶことができた。また、地域リーダーが活躍するための多様な主体が集まり機能するプラットホームづくりへと広げることができた。千葉県の北部、南部と活動を展開したが、地域の特徴があることが分かり、その特徴を今後にかしていく。また、新たな団体等との新しい出会いがあった。



ESD地域リーダー育成事業

〒262-0006
千葉県千葉市花見川区横戸台21-13
電話：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
HP：https://kanpachiba.com/



今後の展望

事業の実施と継続のため、地域コアリーダーのスキルアップを図りながら、多様な主体と連携、協働し、事業を展開する。千葉県内に地域拠点づくり(県南・県北・中央)を3年間で実施し、SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点を作る。

(特非) しゃぼん玉の会

Promising Future Project～後に続く世代が幸せになるようにSDGsを学ぶ子どもと若者のプロジェクト～事業

活動地域 埼玉県

ひろげる助成

3年目

実践

野外活動への
延べ参加者数

312人

SDGsミニ勉強会
参加者数

66人

今年度計画の達成度

62%

目標達成度

60%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

県外を予定していた環境ツアーは中止し、環境を学ぶワークショップは県境を跨がず、県内での活動を余儀なくされ、計画をほぼ全面的に見直して実施することになった。

■ 工夫した点

これまで足を運ぶことがなかった、県南・県東部地区での環境に関わる施設や自然観察公園を探したり、県西部のハイキングコースのほぼ全コースを下見のために歩いた。



観察園で環境オリエンテーリングをする親子

課題

埼玉県桶川市・北本市などでは、環境への関心の高さに比べて、SDGsへの理解は不登校・引きこもりの子ども・若者をはじめ、小学生から大人に至るまで認知度はかなり低い。

目標

自然体験活動に取り組み、SDGsを学び、発信する活動を行うことで、不登校・引きこもりの子ども・若者や地域住民に、SDGsへの意識を向上させる仕組みを構築する。

活動内容と成果

この1年間新型コロナウイルスのため、多くのプログラムが中止・変更となる中、自然体験活動を78回実施し、312人の参加があり、楽しく学ぶ機会を持つことでSDGsへの関心が高まった。「あなたのアウトドアを教えてください」に写真を送ってくれた方42人、「ごみ調べとリサイクル」を学ぶ研究ノート15人、発達障害研修会111人(11回開催)、ミニ学習会66人(同20回)が参加された。SDGs新聞を毎月発行し、自分の取り組んでいる活動とSDGsの関連を主体的に考える機会を持つことで、環境やSDGsへの関心を高められた。



親子で行った所沢航空発祥記念館(所沢)

全助成期間の活動を振り返って

幅広い年齢層の方に環境ワークショップ、環境ツアー、セミナー、研修会に参加していただき、SDGsを楽しく学ぶ機会を持つことができました。「SDGsと私」「169のターゲット」「ごみ調べとリサイクル」を学ぶ研究ノートなど、参加型の学びが参加者の意欲を呼び起こし、継続的な学びの礎になることも証明された。この3年間で、学校、行政、地域においてSDGsへの認知が広がった。今後もより質の高い学びが求められている。



その迫力に圧倒された首都圏外郭放水路

〒363-0027
埼玉県桶川市川田谷5563-5
電話：090-1793-6665
E-mail：npo.shabondama@gmail.com
HP：http://npo-shabondama.pepper.jp



今後の
展望

「防災×環境」をテーマに活動したい。特に治水については、埼玉県防災センターなどの協力を得て、県内山間地の台風19号の実態調査と復旧の取組みを調査することから始めたい。並行して、河川改修など治水に取り組んだ、過去の埼玉県内外の事例を集め、可能な限り現地に足を運び、学びを深めていきたい。新型コロナウイルス次第ではあるが、ごみの処分地の現地調査、ごみに関する講演会も行政などと協議しながら進める。

ラオス国ルアンパバン県における環境教育システムの構築

活動地域  ラオス

ひろげる助成

3年目

実践

教員アンケートによる
教材満足度 **100%**

各活動の自主的な
環境活動実施回数 **2回/週**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **75%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

事業実施当初は環境教育の開発に苦勞した。3年かけステークホルダーを増やし、行政のグリーンスクールの取組みとも協働を進め、地域に認められる教材になりつつある。

■工夫した点

活動として良いことをしていくだけでなく、それが地域に定着するよう参加者や利害関係者にとってのメリットを生み出すことができるよう工夫し協働を進めることができた。



6年生の農業ワークショップ

課題

子どもたちが身の回りの環境問題について体系的に学ぶ機会がなく、中学校が独自に環境教育を実施し、活動に継続的に取り組むには、教材や人材、資金が不足している。

目標

ルアンパバン県の学校にて、環境教育の教材開発、教員の人材育成、教育プログラムの定着が行われ、各学校、農業大学で活動を継続していくために必要な現金収入を向上する。

活動内容と成果

今年度は、現地協力団体の農業大学環境保全チームや事業対象者となる中学校、教育局だけでなく、天然資源環境局、都市開発局、農業局と協力し教材を改良することができた。また、中学校でも4年生の森林保全、5年生のゴミ問題、6年生の農業とそれぞれのテーマでの環境教育、ワークショップを実施することができ、2校で計10回のワークショップを行い、300人が参加した。事業で予定した活動以外にも、各学校で週2回環境保全活動の時間が設けられ、教員と生徒によるボランティアチームが結成されるなどの自主性の発展も見られる。



レクチャーやゲームを通して知識を学ぶ

全助成期間の活動を振り返って

本事業では、事業担当者が若手プロジェクトリーダーとして採用されていたこともあり、学びを事業にいかしながら活動を進めることができた。その結果、課題であったステークホルダーの整理、拡大についても事業実施地域で十分な広がりを実現することができた。また、活動の持続性についても、学校では環境保全と収入向上の両立、行政には彼らが進めるグリーンスクール認証の促進など双方に協働のメリットを生み出すことができた。



習慣として定着した校内清掃、ゴミ分別

〒102-0092
東京都千代田区準町2-12藤和半蔵門コープ103号
電話：03-3512-0355
E-mail：info@habitat.or.jp
HP：https://japanhabitat.org/



今後の展望

3年目には、実施対象校だけでなく、地域の中学校6校を招き、活動の視察会や教材開発ミーティングを行った。視察に参加した6校も、すでに本事業を参考に自主的な取組みを始めたところもあり、農業大学と協力し活動を拡大していくことが期待されている。また3年目は農業大学、中学校双方で将来的に活動を継続していくため、環境保全活動から現金収入の向上にも結びついており、活動の定着、今後の継続が期待できる。

学び愛インドネシア・ごみ銀行とコンポストの活用と普及

活動地域  インドネシア

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

環境問題解決提案 コンテスト	35校
SDGsリーダー合宿	68人
今年度計画の達成度	90%
目標達成度	90%



苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

- プロジェクトと現地の年度始めと常識の違い
- 活動2年目の後半に想定していなかったパンデミックが起り、渡航が制限されプロジェクトの実施が危ぶまれた

■ 工夫した点

長年現地で活動して築いた人脈を使い、新型コロナウイルス禍での協力体制の強化と現地スタッフとのSNSを駆使し対面からオンラインへの移行を早期に実現した。

課題

ごみ銀行が誕生し、全国的に広がりを見せているが、未だに利用者は一部の住民に限られている。またごみからリサイクル品を作っているが、新たな問題を引き起こしている。

目標

南タンゲラン市の市民の行動が環境指向型となり、同市が環境モデル都市に変貌する。

活動内容と成果

- 環境教育マルチステークホルダー委員会を3回実施し、プロジェクトを進めた
- 改訂した教本(コンポストとごみ銀行)を2,400冊印刷した
- 印刷した教本を市内公立12中学校に配布した
- 対面授業ができない状態なので、オンラインを通して中学生向けにオンラインで「コンポストとごみ銀行」の実践授業を実施した
- SDGsリーダー合宿をオンラインに変更し、68人が参加した
- 学んだ環境授業から環境問題解決提案コンテストを実施し、市内35校から生徒154人が応募した



教材開発のために各地のごみ銀行を取材

全助成期間の活動を振り返って

インドネシア・南タンゲラン市をインドネシアの環境教育の先端モデル地域とするため、ごみ銀行とコンポストの実践授業ができるように教材と器具の開発ができた。特にごみ銀行は、世界初で注目されたが市民の理解不足が目立っていた。今回、各地で様々な取組みが行われていることや分別したごみからコンポストを作る方法を学ぶ他、日本での不用品・ごみからビジネスを展開している事例を紹介することができた。



環境問題解決提案コンテスト応募作品

〒930-1313
富山県富山市中滝142-9
E-mail: sb930jp@yahoo.co.jp
HP: <http://www.baliwind.com/>



今後の展望

インドネシアでの教育・環境の活動が21年目を迎えた。2001年に策定されたMDGs(ミレニアム開発目標)からSDGs(持続可能な開発目標)となり地球上の「だれ一人取り残さない(leave no one behind)」が掲げられた。弊会はインドネシアでのリーディングNGOとしてSDGsに取り組み、活動を続けて行く計画である。

「持続可能な開発を促進する教育・学習」 コーディネーター研修事業

活動地域  日本全域

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

オンライン学びあいの実施 **4回**

運営委員及び
タスク会議 **33回**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **75%**



地域・学びあい・入門セミナー

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

限られた時間の中で、価値観や経験、物事の進め方などが違う人たちが、合意形成しながら丁寧な話し合いを通して物事を進めることの難しさがあった。

■ 工夫した点

各地域での持続可能な地域づくりのための「学びあい」の実践のプロセスや変化などをブログにすることで、振り返り、自分たちの言葉で発信できるようにしている。

課題

持続可能な開発を進めるすべての取組みにおいて、教育・学習の役割が強化される必要がある一方で、それを実践レベルで担う人材育成の取組みは、国内ではまだ十分とは言えない。

目標

地域づくりに関わる実践者が、持続可能な開発を後押しする教育や学習活動をコーディネートする際のヒントを得て、それを活用した教育活動を展開していくこと。

活動内容と成果

- オンラインでの研修コーディネーターチームによるフォローアップの実施、実践者同士の交流及び活動報告や共有の場の開催(計4回)、ブログでの持続可能な地域づくりのための「学びあい」実践事例の発信(5件)をした
- 地域の実情に応じたコーディネーションの実践が共有されることで、参加者が自らの地域の実践を捉えなおし、持続可能な地域づくりを促進する学びのコーディネートのヒントを得ることに繋がっている



第1回オンライン学びあい

全助成期間の活動を振り返って

- 2019年度の研修を通じて、各地域でのコーディネートを進めるきっかけとなり、本年度は計画通り、フォローアップや研修などの活動を実施できていれば、より具体的にコーディネートの展開が見られたと考えている
- 各地で様々な活動をしている人たちと、地域から離れて学びあい、刺激し合う機会は自分たちでは作れない。思い込みや無意識の言語化ができる貴重な空間を作ったこと自体が、大きな成果だと考えている



2020年度事業報告書の表紙

〒112-0002
東京都文京区小石川12-17-41-3F
電話：03-5844-3630
E-mail：main@dear.or.jp
HP：http://www.dear.or.jp



今後の展望

● 研修で使用する教材や研修プログラムは、ハンドブックや報告書にまとめられており、今後も活用していくが、そのプロセスの中で同時に見直しを図っていく (SDGsをめぐる社会状況が変化の中で、持続可能な開発をめぐる理解についてもその発行当時とは変化してきていると考えられる) ● 研修参加者らが地域内での事業展開に活用できるように、今後も継続的なフォローアップやサポートをしていく

国際協力フォーラム開催

活動地域 日本全域

プラットフォーム助成
3年目
国際会議

参加者数	589人
アンケート満足度	75%
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	70%



国際協力フォーラム「HAPIC」の様子

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での開催が困難になった。オンラインでの開催は2020年度が初めての経験であり、通信環境の事前確認などの作業に追われた。

■工夫した点

多様なテーマを扱い、かつ、参加型の運営を心掛けたため、セッションを主催団体だけで準備するのではなく、一般公募を行った。その結果、13件のセッションを採択した。

課題

SDGs達成に向けた課題や国際環境協力を取り巻く国内外の状況とその変化への対応について、多様な関係者が一堂に会して議論・学習・連携する定期的な機会が存在しない。

目標

環境保全を含む国際協力に関わる多様な関係者が一堂に会し、重要・最新テーマについての議論と学習、連携を通して、SDGs達成に向けた活動が創出・展開されていること。

活動内容と成果

- 国際協力や社会課題解決に関するイベントに参加し、運営手法を調査した
- 2021年2月14-16日の3日間、オンラインで「HAPIC2021」を開催し、登壇者53人、参加者589人を得ることができた。気候変動、防災・減災、ジェンダー平等、新型コロナウイルス感染症と国際協力、若者の政治参加、コレクティブインパクトなど、現在の社会が直面する課題や解決手法などに関する29のセッションを開催した



若手プロジェクトリーダー研修に関する発表

全助成期間の活動を振り返って

年度を経るごとにセッション数が増え、それに伴い取り扱うテーマが増えたことで、議論と学習の機会を参加者に提供することができた。また、ネットワーキング・レセプションやダイレクトメッセージ機能、ブース出展などを通じて参加者間や登壇者・参加者間での出会いの場を創出することで、潜在的な連携相手を探す機会を提供することができた。



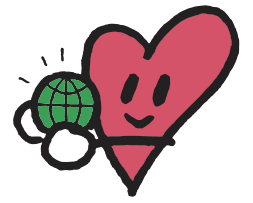
ブレイクアウトセッションの様子

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18アバコビル5F
電話：03-5292-2911
E-mail: global-citizen@janic.org
HP: <https://www.janic.org/>



今後の展望

海外ではオンラインイベントが多数開催されているため、引き続き参加し、最適な形での開催を検討する一方で、2021年度以降はオンラインと対面のハイブリッド開催を模索する。環境NGO/NPOの動向にも注視し、企画段階から多くの団体に声を掛けるとともに、広報協力も依頼する。参加人数と組織数、協力団体(協賛・出展・後援)は目標を超えたため、引き続き数を伸ばせるように取り組んでいく。



総合環境 保全活動

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

ナチュラリストネットワークかがわ

持続可能な社会の実現に向けた四国の産学官民連携プラットフォームの構築→四国における人・モノ・コトの発掘と発信による地域循環共生圏実践者ネットワークの構築

活動地域 四国



基金事業で制作した冊子

課題

四国では人口減、中山間地の荒廃、有害獣被害などが大きな社会問題となっており、自然や生物多様性を基軸とした活動だけでは課題解決に限界を感じていた。

目標

四国4県の産学官民連携プラットフォームを構築するとともに、四国内で展開する自然資源を活用した商品や事業、取組みなどを取材紹介し、活動の認知度向上を目指す。



今後の展望

基金事業は終了したものの、取材の中で得られた情報やスキルは四国各県において自然資源を活用した事業や商品の開発や販売、地域課題の解決などに少しでも活用していきたいと考えている。

活動内容と成果

- 持続可能な四国を目指すため、地域循環共生圏の考えに基づいた産学官民連携プラットフォーム「ローカルSDGs四国」が2021年2月に発足した
- 四国内で展開される自然資源を活用した取組みを5か所取材し、その内容などを冊子にまとめ発行することができた。この冊子は今後、様々な場所で配布、活用される予定である。また、この内容や取材時の様子などをまとめたホームページや動画も順次掲載している。さらに、取材の中で取材先と取材者で互いのスキルを持ち寄り、より良い商品開発に繋がるような情報交流も活発に行われた



畑藍ファームの藍畑と乾燥中の藍染

はじめる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

プラットフォームの
会員数 **21** 団体/個人計

取材・広報できた
取組み数 **5** か所

今年度計画の達成度 **70** %

目標達成度 **75** %

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響によって会議や他県往來が制限され、特に中山間地では他県の車が来ただけでも問題となったため、事業推進が困難となった。

■工夫した点

取材は特定の少人数で行うことで感染リスクを回避し、取材対象も絞って行った。

〒763-0084

香川県丸亀市飯野町東二丁目995-1

E-mail : naturalist.kagawa@gmail.com

HP : <https://naturalistkagawa.wixsite.com/naturalist-kagawa>



II NET

インドネシア・西部バリ国立公園周辺村における、地域に根ざした環境教育と若者ファシリテーター育成を通じた『子どもたちが生きいきと活動するカムリシロムク保護村』づくり

活動地域 インドネシア



ちびっこファシリテーター候補者たちと話す

課題

インドネシア・バリ西部において、カムリシロムクの野生復帰をテコにエコツーリズムを発展させるためには、多くの村人による生息地復元や野生復帰支援活動が必要である。

目標

西部バリ国立公園周辺村において、子どもや若者が積極的に参加するカムリシロムク野生復帰活動が進み、他地域からの視察や村落エコツーリズムの対象となる。



今後の展望

各村の環境ファシリテーターの活動支援を通じ、環境教育シラバスの作成、「ちびっこファシリテーター」によるカムリシロムク・モニタリング、「環境保全ファイターズ」による生息地保全活動を展開していきたい。

活動内容と成果

新型コロナウイルス禍で学校が休校となり、対面での活動が制限された中、コミュニティファシリテーターたちは村を訪問して、現場にて対話型で環境ファシリテーターの育成活動を行い、ギリマスク村で5人、ムラヤ村で2人が育成された。また環境教育実施校として上記2村で4校が選定された。さらにムラヤ村クラタカン集落では子どもたちによる「あるものさがし」ワークショップが行われるとともに、野生復帰したカムリシロムクのモニタリング活動の準備が始まった。また両村では住民主体のゴミリサイクル活動やビーチの清掃活動が始まった。



子どもたちが村で観察したカムリシロムク

ひろげる助成

1年目

実践

環境ファシリテーター
育成 **7** 人

あるものさがしワーク
ショップ参加者 **14** 人

今年度計画の達成度 **70** %

目標達成度 **25** %

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍で移動が制限され現地訪問が困難になった。学校が休校したことで環境教育実施に向けた動きが困難となった。

■工夫した点

ZoomミーティングやWhatsAppのビデオコールを使い会合を実施。現地では3密を避け屋外で少人数で活動した。

Nayu Ceklik RT02 RW020 No.1 Nusukan
Banjarsari Surakarta, Jateng, Indonesia

(特非) アサザ基金

霞ヶ浦水源地の総合保全に向けたコンソーシアムの設立とコミュニティビジネスの流域ネットワーク化

活動地域 霞ヶ浦流域



再生した耕作放棄地(谷津田)での田植え作業

課題

霞ヶ浦の流域では、水源を管理してきた集落の過疎化が進み、耕作放棄地の増加や森林の荒廃が進んでいる。流域全体に広がる水源を総合的に保全再生することが課題となっている。

目標

霞ヶ浦流域の主要3水系で、水源の耕作放棄地再生と森林整備を、過疎集落の活性化と一体化したコミュニティビジネスとして興し、流域展開への体制作りを行う。



今後の展望

古民家に居住する人たちのライフスタイルをモデルに都市部からの移住者やテレワーク利用者の誘致なども進めていきたい。今年度は、地元集落や学校との協働事業を本格化するほか、コミュニティビジネスのモデルを具体化していきたい。

活動内容と成果

水源再生と集落活性化を一体化したコミュニティビジネスの先行事例として、牛久市島田町の古民家(空家)を活動拠点にするために改装した。古民家に居住して水源再生に関わる人材が5人確保できた。集落自治会や地元公立学校との協力連携に向けた体制ができた。古民家でイベント・セミナーを計15回開催した。参加人数は642人。生物調査を各水源地で3回実施した。計4.3haの耕作放棄地と森林を整備した。家畜の飼育技術のあるスタッフを新たに雇用して有畜農業への展開を図っている。



水源地での放置竹林整備のイベント

ひろげる助成

1年目

実践

水源地の再生面積 **4.3 ha**

イベント参加人数 **642人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **14%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの影響で、計画していた集落間の交流が難しくなった。対象者に高齢者が多く、感染防止に配慮する必要があった。

■工夫した点

イベントの参加者を地域に絞ったり、スタッフが個別に集落関係者を訪ねて聞き取りを行うなどの工夫をして実施した。

〒300-1222
茨城県牛久市南3-4-21
電話：029-871-7166
E-mail：asaza@jcom.home.ne.jp
HP：http://www.asaza.jp



(一社) SDGs市民社会ネットワーク

「持続可能な開発目標」(SDGs)に関する市民社会の活動の強化とマルチ・ステークホルダー・プロセスの定着を目指した活動

活動地域 日本全域



SDGsケーキ(SDGs5周年イベント)

課題

新型コロナウイルス感染症により脆弱な立場にある人ほど深刻なダメージを受けている。しかし、政策の意思決定に当事者の声を反映させるシステムが定着していない。

目標

SDGs達成に向けてマルチ・ステークホルダー・プロセスが定着し、プロセスの質を向上させるシステムが確立されている。



今後の展望

多様な市民社会組織の声を政策決定に反映させるためには、そのプロセスでの多様性の確保が重要である。政策提言のアプローチに多様性をもたせ、だれ一人取り残さない社会の実現に向けオルタナティブを提案していく。

活動内容と成果

新型コロナウイルス感染症により社会の課題が顕在化し、SDGsの達成状況は悪化している。SDGs市民社会ネットワークは2020年度に5回の新型コロナウイルス声明を発表し、「SDGsを軸にした新型コロナウイルス対策」の重要性と市民社会活動の役割と実践について発信してきた。ウェブサイトには合計8,000を超えるアクセスがあった。また、6回の政党/議員勉強会を開催し、立法院でのSDGsに関する議論の活発化を進めた。その他、市民社会の実践を広げる場として、地域SDGs指標の策定に向けた連携プロジェクトを実施した。



超党派議連とのSDGsに関する意見交換会

ひろげる助成

1年目

実践

各政党との意見交換会 **6回**

主催イベントの開催 **10回**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **30%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

様々な分野で活動する多様な市民社会組織がネットワークの母体であり、組織のビジョンを具体化するプロセスが重要であった。

■工夫した点

オンラインでの会合を活用し、国際的な活動への参加や国内の地域連携事業の実施など、距離的制約の克服に努めた。

〒102-0072
東京都千代田区飯田橋1-7-10
山京ビル本館604号
電話：03-5357-1773
E-mail：office@sdgs-japan.net
HP：https://www.sdgs-japan.net/



(特非) 徳島保全生物学研究会

生物多様性活動認証制度の拡大による地域の生物多様性向上の推進

活動地域 徳島県



エコフェスタでのアンケート聴取と普及啓発

課題

生物多様性活動認証制度の普及により、徳島県における生物多様性の保全活動が推進拡大する。

目標

徳島県内の企業における生物多様性活動を普及させ、企業における認知を向上させるとともに、農業や消費者に認証制度を普及啓発する。



今後の展望

作成したチェックシートと講習会資料で企業に生物多様性活動認証制度を推進していく。並行して農業従事者への中上級認証制度を検討する。さらに、消費者に取組みを普及啓発し、生物多様性の向上を図る。

活動内容と成果

生物多様性の向上を図るため、生物多様性活動認証制度を企業に普及させる準備として、企業版チェックシート、及び講習会資料を作成し、課題を抽出し検討した。実際に進めるにあたり、企業の代表者が組織した「SDGsとくしまみらい会議」と連携を図った。また、農業者への普及啓発を合わせて実施し、県西部と県南部の農業従事者の協力を新たに得ることができた。組織内ではオンラインを活用して情報共有と連携を図り、また、消費者への普及啓発にオーガニック・フェスタ会場からオンラインにより生物多様性の取組みや重要性を伝えた。



生物多様性活動認証取得農家への取材

ひろげる助成

1年目

実践

消費者アンケートによる課題抽出 **127人**

認証取得者のHP掲載者数 **8軒**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **35%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を図り、かつ、新しいスキルをマスターしながら実施しなければ活動が推進できなかったこと。

■工夫した点

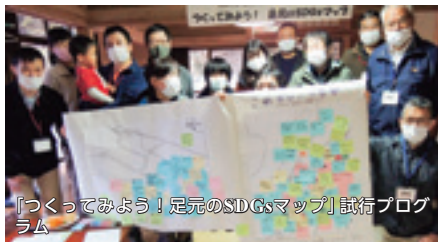
対面の場合、関係者が新型コロナウイルス感染を起こさないように細心の注意を払いながら実施したこと、オンライン会議のスキル習得。

〒774-0016
徳島県阿南市中林町東45番地1
電話：090-2828-6181
E-mail：sachiyowww@hotmail.co.jp

NPO地域づくり工房

市民からの持続可能性アセスメントの提案とモデル事業の実施

活動地域 長野県及び日本全域



「つくってみよう！足元のSDGsマップ」試行プログラム

課題

日本では持続可能性アセスメントが導入されていない。開発行為の持続可能性を評価する仕組みを構築することで、SDGsに向けた取組みの実効性を高める必要がある。

目標

持続可能性アセスメントを市民活動の分野から提言し、実践を広げていくことで、日本における持続可能性アセスメントの導入を促進する。

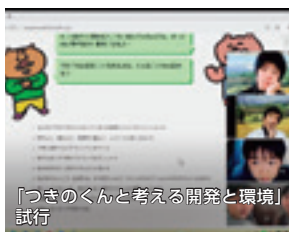


今後の展望

初年度、オンライン対応を余儀なくされたが、むしろ幅広い地域や分野、立場の参加を得て調査や検討を行うことができた。これを土台に日本での持続可能性アセスメントの導入に向けた機運を高めることに貢献したい。

活動内容と成果

- ①持続可能性評価の指標の構築
 - 下記②のモデル事業での指標と方法書づくり
 - オンライン学習会「開発とSDGs」(3回)開催
 - Web「市民からの持続可能性アセスメント」公開
- ②モデル事業の実施
 - 大阪万博に向けたワークショップ(2回)と提案作成
 - 夢洲での生きもの調査(33回)とフォトアルバム刊行
 - 生きもの調査の結果に基づくオンライン講演会(4回)
 - 「水島再生プラン」持続可能性アセス方法書の公開
- ③環境教育への反映
 - 「つくってみよう足元のSDGsマップ」開発と試行(1回)
 - Webゲーム「つきのくんと考える開発と環境」開発とオンラインプログラムの試行(2回)



「つきのくんと考える開発と環境」試行

ひろげる助成

1年目

知識の提供・普及啓発

学習会等参加者 **433人**

現地調査参加者 **131人**

今年度計画の達成度 **94.1%**

目標達成度 **32%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス対応でオンライン実施を余儀なくされ、協力団体との連絡調整や学習会開催などで試行錯誤することが多かった。

■工夫した点

各地の環境NPO(大阪、倉敷、東京)と協働したモデル事業の実施と、専門団体・学会との連携。

〒398-0002
長野県大町市仁科町3302
電話：0261-22-7601(FAX兼用)
E-mail：npo@omachi.org
HP：http://npo.omachi.org/



(特非) アジア太平洋資料センター (PARC)

電気自動車・再生可能エネルギー・SDGs
を鉱物調達の視点から再検証するモニタ
リング・普及啓発・提言活動

活動地域  フィリピン、インドネシア、エクアドル、日本全域など



足尾銅山煙害跡地における植林活動

課題

気候変動対策として電気自動車等の需要が急速に拡大しているが、その生産に必要なリチウム・ニッケル・銅の獲得のため、拙速かつ破壊的な鉱山開発が進んでいる。

目標

「責任ある鉱物採掘」が資源開発セクターの標準となり、気候変動対策などの切迫した問題に対して十分な環境配慮がされ採掘された鉱物が活用される状態を目指す。



今後の
展望

新型コロナウイルスによる制限が解除され、当初の予定通り現地訪問ができ、調査・取材ができることを望む。そうでない場合にも、オンラインを駆使した代替案にて目標達成ができるよう、状況を注視しつつ柔軟に対応していく。

活動内容と成果

- 連続オンラインセミナー「気候危機対策における公正なトランジションとは？—鉱物資源の視点から考える」(全3回)を実施
- 国際オンラインフォーラム「気候危機がもたらすアジアの危機—エネルギートランジションに脅かされるフィリピンの生物多様性と暮らし」を実施
- 足尾銅山開発現場とその環境・健康被害影響取材を実施
- エクアドルの鉱山開発の状況についてオンライン取材を実施
- 資源開発・精錬企業1社と面会実施
- 教材開発のための企画委員会を組織・実施



足尾銅山環境・健康被害に関する視察・取材の様子

ひろげる助成
1年目
調査研究

オンラインセミナー
延べ参加者数 **753人**

教材作成写真・映像 **1,400点**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **25%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍により海外の鉱山開発現場への取材などが実施できず、実態調査や映像教材制作のための素材集めに苦心した。

■工夫した点

オンラインツールを駆使した代替案(オンライン報告会、オンライン取材、調査・映像撮影委託など)を柔軟に検討・実施した。

〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町1-7-11
電話：03-5209-3455
E-mail：office@parc-jp.org
HP：http://www.parc-jp.org/



(特非) 九州エコファーマーズセンター

熊本地震被災地域における活性化のための
活動

活動地域  熊本県



開墾塾の活動

課題

熊本地震被災住民に暮らし再建の希望を持てるようにすること。そのために住民自らの力で修復可能な農地や施設を自力で再生し、経済基盤となる特産農産物の強化をはかること。

目標

阿蘇の地震被災の集落が、自然豊かで多くの生命の営みを感じられる農村集落として復活する。



今後の
展望

新型コロナウイルス禍で大打撃を被っている中、地方価値が見直されている。この機会に阿蘇の魅力をかすために、農地の整備を行い、農業人材育成、特産農畜産物開発を進め、景観維持と農業の持続的発展につなげていく。

活動内容と成果

- ブランディング化のために赤牛肥育、コーヒー豆栽培オーナー制導入、水前寺ノリの実証実験を開始
- 復興イベントとして南阿蘇鉄道の未開通の無人駅で「駅カフェ・ミニミニコンサート」3か所、復興整備地で「グランピング」を開催。参加者60人
- 農業復興の一環として、開墾塾、農業体験を実施。新規就農予定者2人農業研修中
- 地震後の耕作放棄地を重機を利用し、水田整備2ha、農地整備7ha。延べ114人参加



熊本地震後の耕作放棄地を重機で整備

復興支援助成
1年目
実践

勉強会、塾参加者 **51人**

復興ミニイベント、
農業体験 **68人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **30%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で、三密となる大規模なイベントや塾が開始できなかったこと。

■工夫した点

三密を避けるため、小さなイベントや小規模塾の開催に変更し、SNSやレポートによる発信を実施。同時に、農地整備を強化。

〒869-1404
熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽1475-1
アースライブラリー内
電話：080-3018-0573
E-mail：ecofarmers@asoeco.jp
HP：https://www.facebook.com/npoecofarmers



(特非) フー太郎の森基金

被災農地で被災者を対象にした無農薬・減農薬の市民農園造成と実践的「食育」講座開催

活動地域 福島県相馬市



二転三転しながら、ようやく整備された農地

課題

福島県では震災関連死が震災の死者を上回ってしまっただけでなく、震災で公営住宅に移り住んだ被災者は引きこもりがちで生活を送っている。また被災農地が耕作放棄地になっている。

目標

被災農地を市民農園に造成し、震災で家庭菜園を失った人々に利用してもらい、合わせて農薬をなるべく使わない農業を指導し、食養生講座などで健康な食の提案をする。



今後の展望

農園通貨「ベジ」を発行し、園内に新たなコミュニティを作る計画だったが、新型コロナウイルス禍で十分な参加者が見込めないことから中止していた。耕作者を増やし、農園の本格開始に合わせて「ベジ」を発行したい。

活動内容と成果

相馬市から市民農園造成の認可を得、遊休閑地に環境や景観に配慮した市民農園の造成を開始。予定地の土質が悪く、新たな土120㎡を搬入することになったが、最終的に、9㎡・45区画の畑が整備できた。整地の完了が11月末となり、耕作シーズンを過ぎてしまったことから、利用者は2人6区画にとどまった。西田式手掘り井戸を西田氏の指導で園内に自力設置、雨のない時期でも順調に水を得ることが可能となった。また新型コロナウイルス禍ながら、福島市在住の境野米子氏の「実践的食養生講座」を2回開講できた。参加者は2回合計で50人となった。



西田裕氏が特許を持つ手掘り井戸掘りに挑戦

復興支援助成

1年目

実践

耕作放棄地に整備された畑 45区画

「食養生講座」の参加者 50人

今年度計画の達成度 100%

目標達成度 60%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

大型重機で石取りなどもしたが、想像していた以上に予定地の土質が悪く、最終的に120㎡の土を入れることになった。

■工夫した点

畑づくりで最も重労働なのが水の運搬。園内に自力で手掘り井戸を設置し、水源を確保した。通年で水を得ることが可能になった。

〒976-0022
福島県相馬市尾浜字南ノ入241-3
電話：0244-38-7820
E-mail：info@futaro.org
HP：http://futaro.org/



持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク (SUSPON)

持続可能なスポーツイベントを実現するためのNGO/NPOによる提言・実践活動

活動地域 日本全域



第4回シンポジウム@Zoom

課題

持続可能な社会づくりに向け、2020年東京五輪をロンドン等を超える持続可能な大会とし、そのためにNGO/NPOとの協働が実現するかが大きな課題となっている。

目標

NGO/NPOが持続可能な社会づくりに向けた提言と実践の双方を担う主体として認識され、実現すべき持続可能性についてステークホルダー間の議論が深まる。



今後の展望

2020年度に発行した冊子の中国語・英語への翻訳版の作成、スポーツ関係団体等へのオンライン相談会・ワークショップ対応や、各分会活動でのコミュニケーションを通じ持続可能な社会づくりへのレガシーに繋げる。

活動内容と成果

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において課題とされる持続可能性に配慮した大会運営を実現するために、大会関係者とコミュニケーションを図るための窓口として「持続可能なスポーツイベントを実現するためのNGO/NPO連絡会 (SUSPON: サスポン)」を2016年度に立ち上げた。2020年度はこれまでの活動をまとめた冊子「スポーツの力でつくるサステナブルな未来～スポーツ大会を支える皆さんへ」を作成しスポーツ関係団体等に配布。ごみゼロ部会ではリユースカップ導入実証実験等の部会活動を行った。



スポーツの力でつくるサステナブルな未来

特別助成

1年目

知識の提供・普及啓発

ガイドブック配布 473部

リユースカップ導入実証実験 1社

今年度計画の達成度 60%

目標達成度 80%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

SUSPONは環境分野の団体がほとんどということもあり、スポーツ分野の繋がりが薄く今回の対象への広報の当てがなかった。

■工夫した点

公開されている情報から全国のスポーツ関係団体の住所を調べ、そこへガイドブックの配布とシンポジウムの広報を併せて行った。

〒111-0051
東京都台東区蔵前3-17-3 蔵前インテリジェントビル8階(地球・人間環境フォーラム内)
HP：https://suspon.net/



企業・学校・NPOの誰もが使いやすい環境 配慮施策パッケージの開発と導入支援

活動地域  東京都・長野県・広島県・石垣島・インドネシア

つづける助成
2年目
調査研究



活動内容と成果

オペレーションのエコシフトを支援する組織の対象を企業から学校や自治体にも広げ、ウェブサイトのリニューアルを行った。施策数を68に増やし、環境負荷計算ツールを開発したことで効果指標を数値で表せるようになった。オンラインイベントを18回開催、イベントレポートやエコ施策事例紹介記事は43件サイトに掲載し、新型コロナウイルス禍にあっても情報発信をすることができた。導入パートナー団体は7組織、導入支援プラットフォームにはアンバサダー5人とテックパートナー18法人が加わり、合計30組織/人のパートナーと協働している。



エコ施策の浸透率図

課題

組織のオペレーションをエコ化する施策は多く、やりやすいところから始められ、環境効果も高いが、情報の散在や、進め方がわからないなど、取り組めていない組織は多い。

目標

組織のオペレーション面がエコであることが当たり前前の社会を目指す。



今後の
展望

「なぜ導入すべきか？」を理解する動画教材を含むパッケージを確立させ、導入組織を増やしたい。蓄積した多様な事例を発信することでアライアンスを拡大させ、プロジェクトのインパクトを最大化する。

オンラインイベント参加者	923人
協働パートナー	30組織/人
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	70%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

Operation Greenのミッションに共感し、インプットの研修までは進むものの、施策の導入まで進むのは難しい。

■ 工夫した点

イベントや会議を全てオンラインに切り替え、新型コロナウイルス禍でもプロジェクトの推進に支障がないよう尽力した。

〒107-0062
東京都港区南青山2-15-5 FARO
1階
E-mail: operationgreen@earthcompany.info
HP: <https://www.earthcompany.info/ja/>



ウミガメにおける海洋ゴミ問題のモニタリング調査と誤食ゴミを活用した参加型啓発プログラムの開発

活動地域  関東

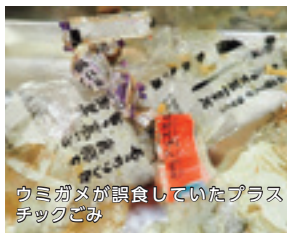
ひろげる助成
2年目
実践



ウミガメ漂着の連絡が入ると現場に向かう

活動内容と成果

- ウミガメ漂着個体及び混獲個体の調査を139頭に対して行った。また、小笠原の捕殺個体も加え、ゴミの誤食状況を調べた結果、平均して7割のウミガメがゴミを摂取していた(地域やウミガメの種類により誤食率は異なる)
- ウミガメのフンを分析したところ、15/15頭からマイクロプラスチックが検出された
- 海洋ゴミやウミガメに関する普及啓発のためのオンラインイベントを12月と2月に計2回実施した。合計38人が参加。アンケートは回答が得られた30人のうち29人が「大満足」「満足」という結果となった



ウミガメが誤食していたプラスチックごみ

課題

海洋ゴミの生物への影響は未解明な部分が多く、現状把握が急務となっている。

目標

海洋ゴミ問題についてウミガメへの影響を解明し、一般へその情報を拡散する。



今後の
展望

活動も2年目となり、データも蓄積されてきた。積極的に活動をPRし、ウミガメを通して、ゴミや環境問題を考えてもらえるきっかけにしてほしい。

調査頭数	139頭
オンラインイベント(2回)参加者	38人
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	80%

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

ウミガメの漂着個体の調査があまり写真映えるものではないので、活動アピールがやりづらいところがある。

■ 工夫した点

写真を少し加工したり、きれいな風景を背景に撮影するなどして、twitterでの投稿を昨年より増やした。

〒221-0822
神奈川県横浜市神奈川区西神奈川3-17-8 4F
電話: 045-432-2358
E-mail: info@elna.or.jp
HP: <https://www.elna.or.jp/>



北の里浜 花のかけはしネットワーク

東日本大震災被災地における地域のレジリエンス向上を目指した海浜植物群落の再生と環境・防災学習・地域交流ネットワーク形成

活動地域  北海道、宮城県、岩手県



10月の岡田小との植栽活動の様子

課題

被災地では時間の経過による風化に対し、状況の改善が必要で、震災から8年が経過する中、継続的な活動と定着させていくため地域での担い手の発掘・技術移転が求められる。

目標

地域との連携で継続性を担保しつつ、海浜植生の保全・復元活動を続けることで、環境教育+防災教育が定着し、海辺の生態系保全と防災への意識を維持していけるようになる。



今後の展望

構築されたネットワークをもとに、各々の地域の学校や活動団体との協働を進め、自主的な活動となるように進めていく。また本活動で得られた成果をもとにモデルとなるようなツール作りを目指していく。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

海浜植物のレスキュー活動で集めていた種子より北海道内で市民や企業、地域との活動にて約2,000株を育苗し、宮城県などの海岸に約1,500株を現地3か所の適地及び近隣仮植地への移植を、双方の市民延べ150人で行った。例年行っている6月の仙台では植栽交流会とフォーラムは開催できなかったものの、WEB上で行うことによりこれまでより多くの地域からの活動報告を聞く機会となり交流することができた。その様子を映像として保存することもでき、今後の活動に向けた新たな取組み方法を見つけることができた。



札幌市内での企業・団体との苗づくり活動

育てた海浜植物の数量 **2,000株**

植栽活動に参加した人数 **150人**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

被災地においての活動の主体となる町内会やNPOなどとのネットワークの構築や関係づくりを持続的に行っていくこと。

■工夫した点

想いを色褪せないものとするため、そして学び合いや心のふれあいを目的として双方の市民による交流会を併せて実施した。

〒064-0808
北海道札幌市中央区南8条西
2丁目5-74 市民活動プラザ星園
405 手稲さと川探検隊内
HP: <https://hamahirugao.jimdo.com/>



(特非) たてやま・海辺の鑑定団

南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」「伝える」ための仕組み強化による環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動

活動地域  千葉県館山市



沖ノ島森の再生活動での集合写真

課題

沖ノ島では、特に夏季の来訪者によるマナーやゴミ問題、一方台風などによるアマモ場の減少、森の倒木、「環境保全・再生」と「活用」の「仕組み強化」が課題となっている。

目標

沖ノ島の保全・再生と活用を両立する。「普及啓発活動」により「大切さ」を共有し、持続可能な「仕組み」、常に管理ができる体制を構築し、自然環境を次世代に継承する。

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

仕組み強化：新型コロナウイルス禍で沖ノ島が閉鎖となってしまうが、身近な無人島猿島への視察を6人で行った。普及啓発：沖ノ島は閉鎖ではあったがシンボルマークを活用したツール（Tシャツ・ガイドブック）開発を行った。臨機応変な対応により近隣の大賀海岸で活動を行い156人が参加した。感染症対策を実施した上、里海博2020を開催し236人（オンライン含む）が参加した。実践活動：アマモ場再生と同時に、NPO連携により森の再生活動に着手、新型コロナウイルス禍ではあったが、地元消防団、ボランティア、高校生など延べ約365人の協力を得た。



沖ノ島宇賀明神のご神木の倒木更新の様子

森の再生に着手した面積 **3,000㎡**

里海博2020参加人数 **236人**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **55%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

台風を引き続き、新型コロナウイルス禍となり、多くの活動が思うようにできなかったが、森の再生活動では、改善が進み成果が上がった。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍で、沖ノ島が閉鎖となり、普及啓発ができない状況であったが、映像コンテンツに作成を切り替えて着手することができた。

〒294-0034
千葉県館山市沼979番地
電話：0470-24-7088
E-mail: info@umikan.jp
HP: <http://umikan.jp/>



(特非) 北九州・魚部

生き物好き発掘！身近な自然の危機を察知できる人材を増やすための取り組み

活動地域 福岡県



イベントのオンオフハイブリッド開催

課題

だれにも知られないまま消えてゆく自然や生き物を少しでも減らす。自然とのかかわりを持てる人材を増やす。

目標

様々なコンテンツを提供し「自然を観る目」を持つ人材を増やす。そのような人物が増えることで危機を察知される自然も増加すると仮定し、間接的な自然保護の実現を目指す。



今後の展望

リアルでアナログな泥臭さを大切にしており、遠隔時代にまだ対応できていないところもあるが、これを機に新たなことにも柔軟に取り組み新たな層へアプローチしていけるよう、普及啓発活動を含めて事業を推進していきたい。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

生き物への関心を高めるための多目的施設「バイオフィリア」を運営し様々なコンテンツを提供している。千冊以上の蔵書がある「生き物ブックカフェ」も併設。月例イベントとして実施を予定していたサイエンスカフェは、緊急事態宣言のため4回のみ実施。その他予定していたワークショップなどはほぼすべてが実施不可能となった。また当プロジェクトが農林水産省主催のサステナアワードで「レジェンド優秀賞」を受賞した。<https://www.youtube.com/watch?v=9wMij2D2Ylc&t=11s>



専門書を読むカフェ利用者

「バイオフィリア」来場者 **約2,000人**

サイエンスカフェの実施 **4回**

今年度計画の達成度 **10%**

目標達成度 **35%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

集まれる場所を作ることがプロジェクトのキーだったため、新型コロナウイルスで集まれない状況になったときは、目の前が真っ暗になった。

■工夫した点

場所をいかしつつ、遠隔でもイベントが成り立つよう、配信機材を整えオンオフハイブリッド開催ができるよう工夫した。

〒803-0814
福岡県北九州市小倉北区大手町2-12
電話：093-287-0517
E-mail：gyobu.subsidy@gmail.com
HP：https://gyobu.or.jp/



(一財) CSOネットワーク

持続可能性を高める中小企業をサポートするツールの開発及びそれに向けた調査～SDGs時代における地域のエコシステムを活用したアプローチ～

活動地域 東京都・佐賀県



中小企業経営者との面談の様子

課題

中小企業は、地域経済を支える欠かせない存在だが、取り巻く環境の厳しさを背景に、自社や地域社会への持続可能性向上に関する取組みは限定的であると思われる。

目標

中小企業の持続可能性における現状と期待値のギャップを調査し、地域・社会の関係性の中で理解し、ギャップを埋めるために必要なことを地域・社会のシステムから考える。



今後の展望

今年度にて得られた試作版プログラムへの様々なフィードバックを踏まえ、プログラムを改善するとともに、普及に取り組んでいく。普及にあたっては、様々な団体やネットワークとの協働の機会を創出していきたい。

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

活動内容と成果

- 有識者及び中小企業関係者との情報交換・ヒアリングを8回実施
- 試作版プログラムを開発し、中小企業6社の経営者(佐賀県3社、福岡県2社、東京都1社)に試作版プログラムのモニター体験をしていただき、フィードバックを集めた
- オンラインセミナーを開催。約60人が参加。参加者アンケートからは、「参考になった」「もっと聞きたかった」との声が多数得られた
- 海外文献調査を実施し、報告書を発行
- 中小企業と持続可能性をテーマにしたコラムを執筆
- 事業及びプログラムを紹介するウェブページを開発



オンラインセミナーの様子

ウェビナー参加者 **60人**

試作版プログラムを体験した中小企業 **6企業**

今年度計画の達成度 **85%**

目標達成度 **60%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、出張、対面での面談、セミナー実施、海外調査の実施が困難であった。

■工夫した点

オンラインを活用し、面談やセミナーを実施した。海外調査は、文献調査と有識者へのオンラインインタビューで情報を収集した。

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
アパコビル5階
電話：03-3202-8188
E-mail：office@csnj.org
HP：https://www.csnj.org/



持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム協会

若者によるSDGs実施の推進のためのユースコンパクト発足、GDPに変わるビジョン・指標策定を中心とした政策提言、及びSDGs推進に関わる啓発活動

活動地域  日本全域・アメリカ



SDGs Youth Summitの様子

課題

2030年の持続可能な社会の実現まで残り10年、これまで以上に多様なステークホルダーのアクションが求められる中、若者の声を国際・国内の政策の枠組みに発信する。

目標

SDGs達成に向けて、若者が様々な社会課題を解決するために活動を始め、協同し合い、政策決定の場に参加し、その意見が公平で公正に反映されるような社会の実現。



今後の展望

持続的な社会の実現に向けて、日本の若者の自主的・集团的・民主的な参画枠組みを推進するため、残り10年の間でプラットフォームとしての規模拡大、影響力の強化、事業の加速をしていく予定である。

活動内容と成果

- HLPF (ハイレベル政治フォーラム) ではサイドイベントへの登壇やセッションへの参加
- 北東アジアマルチステークホルダー会議の市民社会セッションへの登壇、公式会合にて日中韓モンゴルの市民社会共同で作成した声明の発表
- 環境大臣との数回にわたる意見交換会に参加、第五次男女共同参画基本計画に対する提言を内閣府担当大臣に手交
- 有識者・若者活動家による分科会や鼎談を含むSDGs Youth Summitをオンライン開催
- 人材育成事業のSDGsユースアンバサダープログラムの開催
- ウェビナーの開催



環境大臣との意見交換会の様子

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

イベントへの来場者総数 **400超**人

国連・国際会議への参加や登壇 **5**回

今年度計画の達成度 **75%**

目標達成度 **55%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

オンラインイベント開催の中で参加者を集めること、またオンラインで開催される会合に時差を乗り越えて参加することに苦労した。

■工夫した点

新型コロナウイルス禍の早い段階からイベントをすべてオンライン開催に切り替え、オンライン開催のノウハウを構築した。

〒120-0026
東京都足立区千住旭町7-25 Torin Terrace 202号室
E-mail : japanyouthplatform@gmail.com
HP : https://www.jyps.website/



たねと食とひと@フォーラム

「たね」を通して見た食と農の持続可能性についての啓発活動

活動地域  東京都



農研機構・農業生物資源ジーンバンク見学

課題

「たね」をめぐる考え方は立場の違いや情報の所在の偏り等から、主体的に考え責任ある取組みに関わることができたであろう多くの市民の関心を集めることができなかった。

目標

講師等、啓発活動の担い手の育成拡大。環境、農、食をテーマとする市民団体のネットワークや国会議員連盟の発足。種子生産条例制定の自治体の増加。ウェブ等閲覧数の増加。

活動内容と成果

オンライン連続講座「大豆栽培」、「国連小農宣言・家族農業の10年に学ぶ」を開催。都道府県の種子生産状況アンケート調査、豆腐・納豆、ビール、食用油の原材料に関する公開質問、ぶどう・梨、米の育種・生産現場の見学取材、ゲノム編集トマト種苗メーカーの取材、有機農業生産者が運営するSeedバンクの見学、農業生物資源ジーンバンクの見学。ゲノム編集や種苗法をテーマにカフェを開催。啓発ツールの作成。栃木県の高校内にあるSOYプロジェクトとの共催で「オダイズサイ2021～たねと土の約束～」をオンライン開催。



「オダイズサイ2021たねと土の約束」開催

ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発

調査及び取材活動 **79**団体

講座等啓発活動 **69**回

今年度計画の達成度 **95%**

目標達成度 **95%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

社会状況により当初計画を柔軟に見直しながらの活動となったため、当初の予定通りに活動が組めず、後半に活動が集中してしまった。

■工夫した点

講座はオンライン開催とし、参加者への事前事後のフォローを行った。調査活動及び少人数でできる取材活動の報告を広報紙に掲載。

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-21ちよだプラットフォームスクエア1342
電話 : 03-6869-7206
E-mail : info@nongmseed.jp
HP : https://nongmseed.jp/



(一社) JARTA

旅行会社に向けたサステナブル・ツーリズム国際認証制度の普及啓発

活動地域 日本全域

フロントランナー助成
2年目
知識の提供・普及啓発



1月金石研修の様子。日本語で初の開催

課題

近年の急激な訪日観光客の増加や一極集中による「観光公害」が我が国の自然環境、文化遺産、そして地域経済に深刻な影響を与え始めている。

目標

国際基準に沿った持続可能な「責任ある旅行」を普及啓発し、観光地域の自然環境の保全と、地域資源や文化をいかした観光活動により美しい日本を次世代に残せるようにする。



今後の展望

新型コロナウイルス禍の旅行業の停滞期を通じて従来通りの観光の在り方を見直すという機運がより高まっている。国際基準を活用しつつも、より日本の旅行業界の実情に対応する柔軟で実践的な取組みを進めていく。

活動内容と成果

下記の活動を通じて、Travelife (サステナブルツーリズムの国際認証団体であり、国際的な審査基準のひとつ) の理解が深まり、JARTAを窓口へ実践と認証を目指す取組みを開始する事業者が10社以上となった。

- ツーリズムEXPOin 沖縄 プース出展
- JARTA基本研修「新様式に適用する持続可能な観光」
- Travelife関連の和訳作業(ウェルカムパック、ユーザーマニュアル、プレゼン資料、約款)
- Travelifeコーチング研修実施北海道
- Travelife研修を日本語で開催 金石
- Travelifeコーチング研修、宿泊施設視察 山形



ツーリズムEXPOin沖縄の出展

研修会参加者	75人
新規会員	4社
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	35%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルス禍でイベントや研修会を当初の計画通りに実施することができなかった。会員の旅行事業はほぼ完全に停滞していた。

工夫した点

人の動きや活動が制限される状況下でJARTAが発信していく情報が伝わりやすいようにウェブサイトをリニューアルした。

〒604-8811
京都府京都市中京区壬生賀陽御所町8-2
電話：075-406-7700
E-mail：secretariat@jarta.org
HP：http://www.jarta.org



(特非) ACE

インドのコットン生産地の環境・社会課題を解決する持続可能な Cotton の普及啓発活動

活動地域 日本全域・インド

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発



オンラインイベントにて

課題

Cotton の栽培には農薬等が使用され、土壌や水質の低下や健康被害などを招いている。また栽培に労働力が必要となり、種子栽培を行う地域で児童労働が増加している。

目標

サステナブルな Cotton の使用量が増加し、持続可能な開発目標のゴール12「持続可能な消費と生産」に貢献する Cotton のビジネスが促進される。



今後の展望

with新型コロナウイルスを前提に、オンラインツールを活用してインドの状況の啓発を積極的に行う。企業に対しては、アパレル産業の経済的ダメージの中で、SDG12に寄与する活動事例の紹介や、協働連携などを検討する。

活動内容と成果

助成3年目は、年度はじめに新型コロナウイルス禍での活動の見直しを中心に行った。

- その中で、
- ①インド(Cotton 生産地域)における貧困の増加並びに児童労働の問題の発信強化
 - ②企業向けオンラインイベント開催へ注力した。
- ①では、海外のレポートなどを活用して新型コロナウイルスの影響を伝え、特にインドの現状について広く啓発を行った。
- ②では、企業と学生が一堂に会すオンラインイベントを開催、学生のサステナブルな調達に対する関心度を企業側へ伝えた。これにより、今後の学生との協働を前向きに検討する企業も増加した。



Cotton 生産地の児童労働について説明

イベント参加者	50人
企業向けサイト問合せ数	1社
今年度計画の達成度	30%
目標達成度	50%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルス禍の制限された行動の中で、インパクトを生み出すことに苦勞した。

工夫した点

持続可能な Cotton 製品の利点発信に加え、新型コロナウイルス禍における児童労働問題並びにインド現地の状況を伝えるよう意識した。

〒110-0005
東京都台東区上野6-1-6御徒町グリーンハイツ1005号
E-mail：cotton@acejapan.org
HP：http://acejapan.org/



総合環境保全活動

(特非) EnVision環境保全事務所

地理空間情報を使った、地域版SDGs達成に向けた生態系サービス評価のシナリオづくりと普及啓発 —Evidence!に基づいた計画、評価、モニタリングの主流化のために—

活動地域 北海道



個別実習にてソフトを操作する参加者

課題

生物多様性や生態系サービスの保全のための、「意思決定が地域単位で行われるための資源」、「データや情報を利用するためのツール」、「人材」が不足していること。

目標

生物多様性や生態系サービスの保全のための「人材育成とネットワーク形成」、「データや情報を利用するためのツール」、「情報資源」が充実すること。

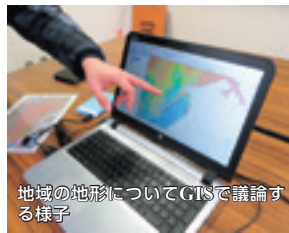


今後の展望

今後も可能な限り個別実習を続け、サポートなしでも各自のデータを活用することができる組織を増やすこと（個別実習の実施）。また、技術が定着している組織が複数ある地域を増やすこと（講習会の実施）。

活動内容と成果

昨年度、本助成活動にて釧路でのGIS講習会を開催した。今年度は、実際にGISを組織で活用していく上でハードルとなる「時間」や「技術」という壁を払拭し、技術の定着を目指すため、「個別実習」を重点的に実施した。個別実習では、組織の課題や目的に合わせたサポートを意識した。操作を何度か繰り返しGISを体感しながら理解すると、イメージしていたよりもハードルは低く、面白いと感じる方が多い。訪問組織の中には、作成図を行政資料として活用を始めている組織も複数ある。



地域の地形についてGISで議論する様子

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

個別実習実施組織 **6組織**

シナリオ案 **3個**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **85%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

「ハードルが高い」イメージのGISソフトを活用した個別実習を始めるまでのきっかけを作ること。

■工夫した点

GIS以外の理由で打ち合わせの機会を作るなど、GISの話題を「おまけ」とすることで開始のハードルを下げた。

〒060-0809
北海道札幌市北区北9条西4丁目5-2
電話：011-726-3072
E-mail：kudo@env.gr.jp
HP：http://www.env.gr.jp/



(一社) 徳島地域エネルギー

熱利用転換で環境を守り未来につなぐ木質バイオマス地域アライアンス

活動地域 日本全国



西谷地区 木質バイオマス総合研修会

課題

温暖化防止、地域環境の保全、地域活性化のために、木質バイオマス熱利用の導入が有効である。その方策として地域ごとのアライアンス（同盟）組織し、持続的に推進する。

目標

木質バイオマス熱利用地域アライアンスを6年間に16組（今年2組）形成する。ボイラー導入支援でCO₂排出量を6年後に年間4,680t（今年810t）削減する。



今後の展望

5年間の活動により、木質バイオマス熱利用の重要性が認識され、導入する施設も増えた。地域自身が木質バイオマス熱利用を計画、調査、実践できるよう、重点地域を選び、引き続ききめ細やかな支援をする。

活動内容と成果

CO₂を排出せず、地域資源を活用し、地域経済にも貢献する地域アライアンスを育成した。単年度（5年間通算）の成果は、アライアンス形成3地域・対目標150%（16地域114%）。研修会・見学会等の参加者222人、実務人材育成は215人（実質44人）であった。木質バイオマス導入・転換簡易診断は25施設417%（92施設156%）、ボイラー導入支援は新規7施設4,120kW（27施設90%、8,985kW197%）であった。CO₂排出削減は2,564t/年317%（6,943t/年175%）であった。



バイオマス熱利用導入支援・研修（平戸市）

フロントランナー助成

5年目

実践

木質バイオマス熱利用地域アライアンス形成 **3地域**

ボイラー導入支援によるCO₂排出削減 **2,564 t**

今年度計画の達成度 **95%**

目標達成度 **95%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

①木質バイオマス熱利用に対する理解②需要側の事業者、山側の燃料製造者と設計・設置技術者の育成③自治体等の慎重な決断

■工夫した点

①地域に向き、講演や研修等を繰り返し行った②と③の条件が比較的揃い、意欲的な地域を選択し、粘り強く活動を行った

〒770-0935
徳島県徳島市伊月町1-32
電話：088-624-8375
E-mail：info@tene.jp
HP：https://www.tene.jp/



石垣島白保サンゴ礁保全調査プロジェクト

活動地域  沖縄県石垣市

つづける助成
3年目
知識の提供・普及啓発

地域住民、行政等への聞き取り調査	11人
ワークショップ参加者	18人
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	70%



遠隔ワークショップの様子

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

最終年に本事業の主たる活動である市民調査を中止せざるを得ない状況となり、代替活動への切り替えとその調整に苦労した。

■ 工夫した点

調査の集大成として、現地の協力を得て三つの調査を映像に収録し、教材化した点。また遠隔ワークショップを企画して教材を利用し、地域内外の交流を行ったこと。

課題

西表石垣国立公園白保海域公園地区のサンゴ礁は、気候変動や営農活動に伴う赤土の海洋流出などの影響により、劣化が進んでいる。

目標

研究者、地域内外のNPOや市民が連携し、野外調査や保全活動を通じてサンゴ礁の価値を再認識し、陸から海に流入する赤土を最小限に抑え、サンゴ礁の生息域を保全する。

活動内容と成果

本地域のサンゴ礁733haと農地663haを対象に海・陸・文化調査を行い、調査手法の確立、マニュアル及び解説動画の制作を行った。また研究者、現地NPOや協力農家、都心に住む市民ボランティアが本地域のサンゴ礁保全活動について活発な意見交換を行うワークショップを開催した。解説動画の制作やワークショップでの協議を通じて、現地関係者に調査の意義を浸透させ、今後の継続した活動への道筋をつけることができた。



海域の赤土調査の様子

全助成期間の活動を振り返って

本活動は、現地住民の手で実践できるサンゴ礁保全のための調査手法と対策を確立し、運営及び指導力を現地住民が身につけ、継続的で自立的な活動を行うことを目指した。研究者や現地関係者、ボランティアと試行錯誤を繰り返してグリーンベルト調査の手法を確立させ、それをマニュアルや解説動画などの教材として地域に残すことができた。また、最終年には現地関係者が主体的に調査を推進する機会を持つことができて良かった。



グリーンベルト調査の様子

〒113-8657
東京都文京区弥生1-1-1
電話：03-6686-0300
E-mail：info@earthwatch.jp
HP：https://www.earthwatch.jp/



今後の展望

本事業で制作した海・陸・文化調査の解説動画やマニュアルを教材として活用し、現地NPOが近隣の学校、大学や企業の保全活動としてグリーンベルト植栽や調査を運営し、保全対策の必要性を浸透させていく。また地域外の人々が遠隔で継続的に白保集落の保全活動を見守り、何か白保の人々が助けを必要としているときに応援に行くような、緩やかで無理のない保全コミュニティづくりを目指していく。

若い世代を巻き込んだ「KANSAI-SDGs市民アジェンダ」の策定と活用

～関西地域のSDGs啓発・普及活動を目指したアクションへつなぐ～

活動地域 大阪府

ひろげる助成

3年目

実践

分科会の開催 **1**回

ユースアジェンダシンポジウム参加者 **200**人

今年度計画の達成度 **70**%

目標達成度 **85**%

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響でオンライン化を余儀なくされた点。事務局がオンライン会場を用意できても、個人の年代等によって関わることへのハードルの高さが変わってしまう。

■工夫した点

なるべく対面時の方法を再現することを試みつつ、そのために新たなオンラインツールを使う場合は、協力してくれる人たちに向けてツールの使い方を事前にレクチャーするなど工夫した。



第4回分科会「教育」の様子

課題

非営利セクターを含む市民レベル・地域レベルでの、SDGsの理解や発信の不足。若い世代の声が拾われにくい・届きにくい現状や市民一人ひとりの当事者意識の不足。

目標

関西地域で市民レベルでのSDGsに対する理解が進む。さらに、地域・市民から、地球規模の環境・社会課題の解決に向けた行動変容が見られ、SDGs達成への道筋が示される。

活動内容と成果

- 前年から続けてきた活動である分科会のまとめとして、「人権」をテーマにした分科会を開催し、参加者のSDGsについての理解及び行動変容の促進を図った
- 高校生の専門チーム「ユース提言セクション」を立ち上げ、同世代に向けたユースアジェンダとして貧困と差別に関する提言書を作成した。その提言書及び提言書作成に至るまでの調査内容についてシンポジウムを開催し、延べ200人以上の高校生が参加した
- 全分科会の振り返り内容及び関西地域のNGOのSDGsとの関わりについてまとめた報告書を作成した



ユースアジェンダオンラインシンポジウム

全助成期間の活動を振り返って

関西地域の市民レベルでのSDGsの理解の促進(特に、SDGs概論のような内容ではなくより具体的な部分に踏み込んだ理解の促進)、周縁化されやすいユース世代の声を届きやすいものにしていくこと、そしてSDGs達成に向けた道筋の提示という3点において、少なくともその一端を担うことはできたと自負している。また、これまで地域での協働があまり活発でなかった環境系・開発系団体の双方とともに活動に取り組んでこられた。



報告書の1ページ(気候変動分科会)



〒530-0013
大阪府大阪市北区茶屋町2-30, 4階
電話：06-6377-5144
E-mail: knc@kansaingo.net
HP: https://kansaingo.net/



今後の展望

開発系団体だけでなく環境系団体にも協力を仰ぎ、両者と一緒にこの活動に取り組んでこられたことを重要な成果とし、その連携・連帯をこれで終わらせることのないように次に繋げていきたい。具体的には、これまで行ってきたような分科会(セミナー)の継続や、特にユース世代におけるSDGsの理解度の向上を図ることをしていきたい。それらから得た知見をいかし、日本国内に留まらず海外の市民社会との連携も進めていきたい。

(特非) 泉京・垂井

持続的で包括的な地域・環境ガバナンスの実現をめざす

～ローカル・アドボカシー・モデルの実践と創出～

活動地域  日本全域

ひろげる助成
3年目
実践

あどぼのゼミナール
参加者数 **53人**

あどぼのプラットフォーム参加団体 **15団体**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **100%**



苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

各地で多種多様なアドボカシーの手法があり、展開されている。しかしながら、それらがアドボカシー活動だと認識されていない。

■ 工夫した点

型にはまったアドボカシーを考えるのではなく、環境ガバナンスの実現には、多種多様な手法があることを前提に進めている。

課題

NGO・NPOのアドボカシー活動は国際的には活発に展開されているが、国内においてその必要性についての認識も不十分であり、そのための社会資源・基盤も脆弱である。

目標

ローカル・アドボカシー・モデルが全国的に広がって成果を収め、それによって持続的・包括的な地域・環境ガバナンスのあり方が各地で実現し持続的に機能し効果をもたらす。

活動内容と成果

- 【ローカル・アドボカシー・モデル実践・創出事業】
- ローカル・アドボカシー・モデルの構築(京都・垂井)
- 全国各地へのローカル・アドボカシー・モデルの展開
- あどぼの双穴
- 【アドボカシー・プロセス/インフラ事業】
- 外務省との政策対話
- SDGs非営利コンサルティング事業の確立
- オンライン連続講座の実施
- あどぼのゼミナール実施
- 【アドボカシー・プラットフォーム構築事業】
- あどぼのプラットフォームの確立
- あどぼのプラットフォームによる協働講座の実施



オンライン講座岐阜新聞報道

全助成期間の活動を振り返って

ローカル・アドボカシー・モデル(LAM)の実践・創出、アドボカシー・プロセス/インフラ、アドボカシー・プラットフォーム構築。LAMについては、都市型・地方型に加えて、その多様なあり方についての知見を確認するには至った。アドボカシー・プロセス/インフラについては3年間の間も変化が激しく、それに柔軟に対応してきた。そして、アドボカシー・プラットフォームが確立できたことは大きな成果となった。



あどぼの学校新HP開設

〒503-2124
岐阜県不破郡垂井町宮代1794番地1
電話：0584-23-3010
E-mail：info@sento-tarui.org
HP：https://www.advo-citizen.org/



今後の展望

本事業の経験・成果を踏まえて、2021年度以降は次の三つの事業を中心に展開していく。
① “あどぼのプラットフォーム人材育成事業”の策定 ② “あどぼのプラットフォーム人材育成事業”の実施
③ “あどぼのプラットフォーム”継承記録作成

ペドラブランカ自然保護区支援連合

生産者・消費者・流通による包括的なアグロエコロジーネットワークの構築によって行うブラジル・ペドラブランカ山系の生態系保全活動

活動地域  ブラジル

ひろげる助成
3年目
実践

SNSフォロワー	3,615人
新たな有機認証取得農家	12世帯
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	85%



新型コロナウイルス禍でも農業は続く

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス禍で人の動きが制限されたが、農業は続けなければならぬ。援農に人が集めにくく、農家同士の連携協力も困難になってしまった。

■工夫した点

消費者と農家の協力関係が壊れないように、新型コロナウイルス禍でも配慮しながら行える交流を積極的に企画した。

課題

国策から保全型農法は優先順位が下げられつつある。そんな中で市民発の草の根の運動で循環型農業を実現すること。

目標

ペドラブランカ山系に保護区が制定されること、保護区の外にも環境保全型の伝統農法を実践する二次林的バッファー地帯が形成されること、及びそれを通じた地域の連携。

活動内容と成果

世界遺産でもあるイグアスの滝の水源の一つでもあるペドラブランカ山系において、下記の活動を行った：

- ①環境保全型農法を実践する農家46世帯の一覧化、可視化。参加型アグロエコロジー認証制度の実現
- ②それら農家世帯が互いに技術を学び、相談・援農・技術交換を進められるネットワークの形成
- ③消費者グループの組織化及び農家ネットワークとの融和を目指し、オンラインで総勢154人からなるネットワークの形成
- ④州で保護区を制定するための議会陳情、提言書の提出



ほかし肥料のつくりにかたワークショップ

全助成期間の活動を振り返って

ペドラブランカ地方で持続可能な農業が営まれることはブラジル南部の水源を守ることであり、流域全体の自然を保護することにつながる。それが経済的に成立し、仲間がいて、消費者の支えも得られ、そして行政の後押しが得られる。そんな包括的な支援体制を小規模ながらも実現できたことが本プロジェクトの成果といえる。新型コロナウイルス禍で規模の拡大は難しくなったが、小さな規模の中で強い連帯感をつくることには成功した。



新型コロナウイルス禍前は盛り上がりなみせた有機生産市

Praça Dr. Paiva de Oliveira, 513 - Centro, Caldas - MG
37780-000 Brazil
HP : <https://www.facebook.com/aliancapelapedrabranca/>



今後の展望

活動期間中に近隣の大学との交流、行政の観光課とのエコツーリズムの協働プロジェクトが進むなど、芽づる式に新たな活動が生まれつつある。その縁を有効活用し、助成が終わった後も発展が続くことが期待される。

(特非) 森の生活

市民による里山活動を通じた地域社会再生のモデル構築

活動地域  北海道下川町

ひろげる助成
3年目
実践

「みんなの基地づくり」
参加者数 **64人**

ワークショップや
勉強会の参加者 **119人**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **80%**



市民参加型で作る「みんなの基地づくり」

課題

- 市民が森と接する機会の不足と、里山活動の担い手不足
- 地域の人口減少による担い手不足や活動の停滞

目標

植生豊かな自然と幅広い里山活動ができる環境で地域住民が主体となって生き生きと活動するようになり、興味を抱いた地域外の人が訪れてこの地域の移住・交流人口が増える。

活動内容と成果

- 地域住民が主体となって生き生きと活動する場づくりのために、里山活動の拠点となる場所「みんなの基地」づくりを市民参加型で実施し、計5回64人の参加があった
- 活動しやすい場づくりや、活動の自由度を高める仕組みの改善をしながら市民活動のサポートをし、69回の活動、1,110人の参加があった
- 里山活動利用者向けのワークショップや勉強会を9回開催し、119人の参加があった
- 下川町での豊かな自然を楽しむ体験をできるワークショップを4回開催し、35人参加（うち町外者16人）があった



森のようちえん「カカラ」の活動の様子



「グリーンウッドワーク」ワークショップ

全助成期間の活動を振り返って

本助成期間中に、市民参加型でのフィールド整備やワークショップ・勉強会などを実施したり、活動の仕組みの改善をしたことにより、市民ボランティアが主体となって自主的に運営する機運が高まった。また、地域外からワークショップや活動に参加される方は、興味や関心がマッチすれば遠方からでも足を運んでくださることがわかったので、この地域ならではの魅力や暮らしの提案を今後も発信していきたいと思う。

〒098-1204
北海道上川郡下川町南町477番地
電話：01655-4-2606
E-mail：info@morinoseikatsu.org
HP：https://morinoseikatsu.org



今後の
展望

本助成期間終了後も、ボランティアの方々为主体的に運営していくための協議の場を設置し、継続して活動が続けられるよう支援をしていく。また、今後も増えると予想される移住者の方々に対しても、自然体験活動のフィールドとして引き続き市民に開かれた場として整備や利用の周知を実施していく。

(特非) Little Bees International

国連生物多様性の10年・愛知目標(1・2・5・14・15)の達成を目指したナイロビ川流域の河川敷及びコロゴッチョスラムを中心にした生物多様性保全のための総合環境保全活動(ケニア共和国)

活動地域  ケニア

ひろげる助成

3年目

実践

放置廃棄物の量 **25%減少**

プラスチック・アルミニウム回収量 **25%増加**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍による都市封鎖により人やものの移動が滞り、再び路上には廃棄物があふれ環境劣化が深刻化した。社会機能もまひする中で住民の自発的努力のための結束が高まった。

■工夫した点

活動の見える化、成果指標を住民に示し、環境意識を高めるとともに、早期から新型コロナウイルス対策を地域で進めることで住民の信頼を得ることもでき、活動の促進につながった。



リサイクル資源ごみの分別回収活動中

課題

都市比較レポートでも環境部門最下位に位置するナイロビのゴミ捨て場から派生したコロゴッチョスラム及びナイロビ川は環境劣化が著しく社会・環境的脆弱性の中にある。

目標

国連生物多様性の10年・愛知目標の達成を目指し、特に貧困層及び弱者のニーズを考慮した健康、生活、福利に貢献できる地域の生物多様性の保全と回復を目指す。

活動内容と成果

- ナイロビ川河川敷の生態系保全と回復、グリーンベルト活動(植樹約3,500本。二酸化炭素吸収量約6t向上。※数値は3年間)
- 貧困層及び弱者のニーズを考慮した生物多様性促進(養蜂・ノウサギ育成事業。リサイクルバック製作事業)
- “Mottainai”環境セミナー・環境教育・ワークショップ(住民参加延べ約1,500人(3年間))
- 廃棄物回収活動(プラスチック・アルミ等資源ごみ分別回収。リサイクル25%以上促進(3年間))
- 国際的議論参加(アフリカ開発会議での国際フォーラム開催・COPでの発表)



ナイロビ川河川敷植樹によるグリーンベルト



リサイクル資源ごみ分別回収活動

全助成期間の活動を振り返って

3年間の活動を通じて「生物多様性」というキーワードが、実体のある環境目標として地域の人々に認識され、そのための活動も多層化し、コミュニティにとって欠かせないものとなっている。資源ごみの分別も進み、環境ワークショップやセミナーを通じ“Mottainai”への理解も深まり、循環型社会への意識も非常に高まった。新型コロナウイルスの危機を乗り越え、より多くの方たちが活動に理解を示し積極的な参加がみられるようになった。

〒116-0014
東京都荒川区東日暮里6-40-22
電話：03-3805-5548
E-mail: littlebees@littlebeesinternational.org
HP: <https://www.littlebeesinternational.org/>



今後の展望

グリーンベルトやごみの分別回収など、見える化した確かな成果がコミュニティの住民にもたらした自信と意識の高まりは環境活動推進のための原動力となってきている。生態系システムの回復には時間がかかるが、ナイロビ川河川敷を中心に豊かな植生が根付き始めたことは今後の活動の進展への大きな期待となっている。本活動を通じて地域で築いた信頼の絆をベースに、資源ごみの分別回収等、根付いた慣習を継続させていきたい。

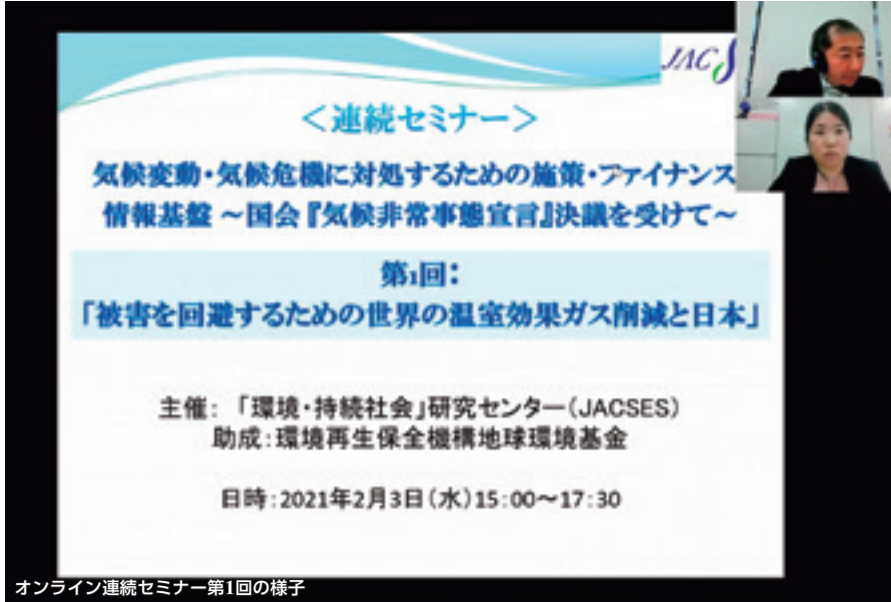
(特非) 「環境・持続社会」研究センター (JACSSES)

地球規模での気候変動対策推進のための途上国の効果的な気候変動対策強化/透明性向上に向けた日本と国連資金メカニズム (GEF・GCF)・イニシアティブ (CBIT等) の取組/連携強化のための調査研究・提言・啓発

活動地域  日本全域

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

連続セミナー参加者	270人
メディア掲載/寄稿/会合招聘	12回
今年度計画の達成度	95%
目標達成度	90%



オンライン連続セミナー第1回の様子

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルス蔓延によって活動のオンライン化を進めたが、セミナーを円滑に開催するため、Zoomウェビナーの使い方等を把握するのに苦勞した。

■工夫した点

オンラインセミナー開始前後に参加者への案内を表示し、唐突感をなくすようにした。また、国内外での情報・提言発信力を高めるため、提言の動画作成や英語翻訳を行った。

課題

世界全体の気候変動対策推進には途上国の対策強化が急務。より効果的な資金・対策支援のために、日本と国際機関等の戦略的連携と途上国の透明性向上支援が必要。

目標

日本の国際機関等との連携強化、途上国対策支援及び透明性向上のためのパートナーシップ拡大、国内で気候資金及び途上国の透明性/能力向上への関心・理解促進。

活動内容と成果

以下を実施し、発表した提言に対し一定の理解・評価を得られ、日本による途上国の透明性向上/資金支援等に関する政策進展に寄与できた。

- 政策担当者、事業者、NGO/NPO、研究機関、メディア等と意見交換を重ね、その結果を反映した提言ver6を発表
- 国連経済社会理事会への声明等、英語提言も発表
- 提言普及のため、調査提言レポートや動画を作成
- 国会気候非常事態宣言決議を受けたオンライン連続セミナーを2021年2月に開催
- 講演や寄稿を通じた情報/提言発信



オンライン連続セミナー第2回の様子



全助成期間の活動を振り返って

地球環境ファシリティアや緑の気候基金といった気候変動関連の国際機関との連携が進んだ点や、日本のステークホルダーの関心・理解の高まり、測定・報告・検証に関する能力構築等を支援するパートナーシップ参加国の増加等に寄与することができたと思う。また、気候変動はSDGsの目標13であり、SDGsの他ゴール (ジェンダー・水・防災等) に取り組む方々とのネットワークが構築され、本活動の効果拡大も見込まれる。

〒107-0052
東京都港区赤坂1-4-10赤坂三鈴ビル2階
電話: 03-3505-5552
E-mail: jacsces@jacsces.org
HP: http://jacsces.org/



今後の展望

日本の2050年温室効果ガス実質ゼロ表明や国会の気候非常事態宣言によって、気候変動に対する関心は今までになく高まっていると感じる。しかし、気候変動以外にも取り組むべき課題は多く、新型コロナウイルス蔓延によって社会の脆弱性にも注目が集まっている。今後は気候変動とSDGsの他目標との同時達成に向けて何が必要か、多様なステークホルダーと対話を行い、真摯に検討を重ねていきたい。

(特非) いすみライフスタイル研究所

森・里・水田・川・海一体型環境保全による 夷隅川流域での生物多様性と里山・里海環 境維持活動

活動地域  千葉県

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

生物多様性テキスト
韓国版の作成 **1,000冊**

米フェスでの広報活動 **700人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **80%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

- 市民の巻き込み方
- 天候の影響を受けやすいビーチクリーン、食育イベントなど野外活動
- 新型コロナウイルスの影響対策

■ 工夫した点

- いすみ市で活性化している給食の有機化との連携
- 協働相手を地域内外で実質的・積極的に行っている団体に絞り込み
- 教材づくり強化など子どもたちへのアプローチの強化



作家キム・ファンさんによる紙芝居上演会

課題

千葉県一の生物多様性を誇る夷隅川流域における里山・水田・里海の環境保全と生物多様性を維持し、地域のまちづくりにいかすこと、そのために地域住民の意識を高めること。

目標

夷隅川流域の生物多様性と環境保全を維持していくための継続的な仕組み(ESD含む)とコンテンツづくりを、地域内外で実質的に活動をしている団体と協働し、構築する。

活動内容と成果

- ①米フェスでの生物多様性をテーマにした紙芝居の原作者による上演会、座談会、パネル展示実施
- ②「エコメッセ2020 in ちば」に動画出演
- ③夷隅川リパーククリーン(3回、34人参加、71kgゴミ収集)
- ④2年目で制作したテキストの韓国語版を作成、韓国で配布(1,000冊印刷)
- ⑤2年目で制作したテキストをテーマにしたボードゲームを制作
- ⑥畑の食育イベント(3回、60人参加)
- ⑦過去のニュースレター3種(各1万部)、パネル4種増刷
- ⑧新規ニュースレター3種制作(各1万部)、パネル4種制作



夷隅川リパーククリーン

全助成期間の活動を振り返って

市内外の団体との協働関係強化により地域での環境保全活動のバリエーションが増え、やりやすくなったこと、子どもたちの意識を変えることが大人たちも影響を受けることを認識し環境教育の重要性を再認識したこと、小さなことでもテーマと情報発信をしっかりとさせて継続していることなどができるときの気づきを得た。また、SDGsブームが後押しとなって、地域の活性化と環境保全をリンクさせた活動もやりやすくなった。



生物多様性ボードゲーム開発勉強会の模様

〒299-4616
千葉県いすみ市岬町長者475
電話：0470-62-6730
E-mail: isumi-style@bz03.plala.or.jp
HP: <http://www.isumi-style.com/>



総合環境保全活動



今後の
展望

2021年度に本助成金「特別助成」の枠で「夷隅川流域を柱にした生きものの力を借りた地域循環共生圏づくり準備活動」を申請し、採択いただいた。これはこの3年間の活動によって得たものを次につなげる資産にできた成果と考えている。今後、これまでの地域での活動を継続させながら、「生物多様性の主流化」と「ESD環境の充実」をテーマにした地域循環共生圏プラットフォームづくりに取り組んでいきたい。

途上国における環境技術関連事業の効果的 遂行のための、適正技術に関する情報収集・ネットワーク形成と、普及・啓発活動

活動地域  東京都

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

イベント参加者(累計) **2,162名**

包括的フレームワーク
賛同団体 **17団体**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **85%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、海外渡航をとまなう調査や、会議室に集まって開催する形式のセミナー等ができなくなりました。

■工夫した点

オンラインツール(Zoom)を活用し、セミナーや調査をオンラインで実施することで、方法や形式は異なっても、目指すものの実質は達成できるように努めた。



ハイレベル政治フォーラムサイドイベント

課題

国際協力を効果的に進め、持続可能な成果を上げるためには、適正技術を開発・普及させていくことが欠かせないが、そのための情報基盤とネットワークがない。

目標

適正技術に関わる情報基盤を整備し、その周知とネットワーク形成を行い、関連事業の形成を促進する。

活動内容と成果

- 雑誌36冊、報告書3冊収集
- インドの1団体をオンライン調査。適正技術事例6件とともに報告書にまとめ、200部発行
- セミナー4回開催。平均38.5人参加
- インドネシアでのワークショップをオンライン開催。1,896人参加
- 参加者へのアンケート結果から大半の方が適正技術への理解を深めたことが知られた
- 情報公開に916件のアクセスがあった
- 国際会議にて、〈持続可能な開発のための適正な技術選択に関する包括的フレームワーク〉の発表を2回実施
- コンサルティングサービス3件実施



適正技術の事例(山仙プール式炭化平戸)



インドネシアでのオンラインセミナー開催

全助成期間の活動を振り返って

適正技術関連情報の体系的収集と周知、セミナー・国際会議等の開催、コンサルティングなど当初予定していた活動に加えて、新たに、〈持続可能な開発のための適正な技術選択に関する包括的フレームワーク〉並びに〈脱炭素社会構築のための適正な技術選択に関する提言〉を策定し、発信開始した。これらにより、今後の持続可能な開発に向けて、適正な技術を選択し、実践していくためのプラットフォームが形成されつつある。

〒110-0003
東京都台東区根岸1-5-12 井上ビル2F
電話：03-3875-9286
E-mail：tokyo-office@apex-ngo.org
HP：http://www.apex-ngo.org/



今後の展望

本事業から派生した、上記の包括的フレームワークを活用した持続可能な社会形成の促進事業に取り組む計画である。周知活動、大学のカリキュラムへの取り入れ、適正な技術選択の事例収集と、その包括的フレームワークによる評価、国際的対話と、国際協力によるモデル事業の促進がその主な内容である。包括的フレームワークに沿った技術選択をすることにより、社会的評価が得られ、資金調達もしやすくなるような状況をつくりたい。

富山県におけるSDGsの普及啓発とその達成に向けたパートナーシップ構築

活動地域 富山県

ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発

協働プロジェクトの実働数	10 個
オンラインフォーラム動画再生回数	388 回
今年度計画の達成度	80 %
目標達成度	80 %



苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

オンライン手法を初めて取り入れたため、慣れるまでマイクのハウリング対処や安定したネット環境の確保、現場でのセッティングに苦慮した。

■ 工夫した点

SDGsの「だれ一人取り残さない」理念共有を多様な人々と分け隔てなく対話を通じて行えるよう、お寺のマルシェ企画とコラボしオープン開催した。オンラインも同時開催。

課題

持続可能な開発目標「SDGs」の認知が、富山ではあまり進んでおらず、SDGsに必要とされる「あらゆる人々の協力体制：パートナーシップ」が築かれていない。

目標

富山県内において、セミナーやWeb等の情報発信、ヒト・コトが出会う場の提供（カフェ）を行い、SDGsの認知向上や実践体制となるパートナーシップ構築を目指す。

活動内容と成果

- SDGsの「だれ一人取り残さない」理念共有と地域課題のあぶり出しを目的としたSDGsトークカフェ（お寺&オンライン開催）を全6回実施。県内外の累計180人が参加。その様子を冊子としてまとめ、2,000部印刷し、県下へ広く配布
- 協働プロジェクトを推し進める人材育成とした「SDGsコーディネーター能力強化セミナー」を2回実施。自治体SDGs関係者中心に24人が受講
- 地域指標づくりをテーマとしたオンラインフォーラムを開催



全助成期間の活動を振り返って

団体発足とともにこの活動をはじめ、当初はどれほどの影響を及ぼせるか不安だったが、社会的なSDGs浸透も相まって、年々活動が広く認知されるようになり、富山県内でのSDGs認知と実践促進において、一定の役割を果たすことができた。特に異なるセクター間の交流や接点創出に大きく貢献できた。当団体と直接の関係ができた団体だけでもざっと100ほどになる。本助成を受けられたことに心から感謝したい。

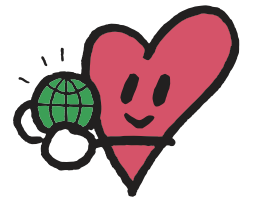


〒939-2702
富山県富山市婦中町田島854-3
電話：076-400-8305
E-mail：info@pectoyama.org
HP：https://www.pectoyama.org



今後の展望

SDGsが地域でも浸透する中、具体的にどんなことに配慮し何をしていけばいいかという指針や指標が求められつつある。この3年間の活動でみてきた地域課題や様々な団体とのネットワークを礎として、ローカルSDGsの指標づくりと運営体制を築き、地域指標の見える化（Webでの公開等）を行っていく。併せてローカルSDGsの実装（包括的でレジリエンスのある地域づくり）につながるプロジェクトへの支援活動も行う。



その他の 環境保全活動

自然保護・保全・復元

森林保全・緑化

砂漠化防止

環境保全型農業等

地球温暖化防止

循環型社会形成

大気・水・土壌環境保全

総合環境教育

総合環境保全活動

その他の環境保全活動

(特非) Mブリッジ

エシカル消費の啓発活動事業

～消費者にできる身近なSDGsとして伝え広げる～

活動地域 三重県



廃棄野菜で作ったアレルギーフリーな団子

課題

①国民全体の環境問題への意識が低い②三重県民の環境に対しての意識と自ら取り組んだり学んだりする姿勢が非常に低い③悪化している食品ロスと働けない女性の雇用問題

目標

地域の消費者がSDGsやエシカル消費、食品ロス削減など具体的な行動に取り組み、持続可能な社会に地域が近づき、女性が働きやすい社会になっている状態



今後の展望

SDGsやエシカルが身近にあることや手軽に取り組める方法を伝え、持続可能な社会を思い行動できる消費者を増やしたいと考える。また、講座開設、商品レビュー会などを実施し裾野を広げていきたい。

ひろげる助成

1年目

実践

活動内容と成果

- 食品ロス削減事業
生活の中で身近な「食」が抱える社会課題の一つを消費者が知り手軽に行動してほしいと考え、動画配信や食品ロス材料から開発した商品の販売を実施
- エシカル講座開設
エシカルを六つの切り口と三重の事例を踏まえた内容から学び、ともに発信してくれるインフルエンサーを育成したいと考え、6回連続講座を実施。オンデマンドで配信
- エシカル度をチェックする商品レビュー会
三重県にあるエシカルな商品をもとに、モニターと製造元がディスカッションしながらエシカル度をチェックしていく事業で、今年度は7回実施



三重県初エシカル講座の撮影&座談会風景

廃棄野菜削減量	5%
意識が向上した受講生の割合	80%
今年度計画の達成度	70%
目標達成度	30%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

日持ちしない廃棄野菜やお米をどのように加工し組み合わせれば、商品になるか試行錯誤したことが一番苦勞した。

工夫した点

地元企業から廃棄野菜を、近隣の高校と提携しアイデアと学びの場を、日々食に関わる主婦が暮らしに溶け込む商品を考えて点。

〒515-0084
三重県松阪市日野町788 カリヨンプラザ3階
電話：0598-23-8400
E-mail：csr@tsutaetai.jp
HP：https://ethical-m.jimdo.com/



日本クマネットワーク

街に出るクマ

～アーバンベアとどう付き合うか～

活動地域 日本全国



増備したクマトランクキットの中身

課題

近年クマの市街地出沒が増えているが、その情報整理と対策は十分ではない。奥山でクマを保全し、市街地で人の安全を守る「ゾーニング管理」の普及と環境整備が課題である。

目標

クマが市街地に出没する要因や対策の必要性を理解できる住民・行政を増やすと同時に、地域が主体的に出没対策を行い、継続的に普及啓発活動を実行できるようにする。



今後の展望

クマの市街地出沒事例から対応方法などの解析を進める。また、地域住民の意識を向上させるワークショップやクマトランクキットの担い手育成講座を開催し、各地のクマ事情に沿ったアーバンベア対策の基盤を整える。

ひろげる助成

1年目

調査研究

活動内容と成果

- 全国各地の過去10年間で発生した約80件の市街地出沒事例を収集し、情報解析を行っている
- モデル地域（北陸：石川県・富山県、神奈川県、札幌市）において住民意識の調査を行い、地域の人々のクマに対する理解度を定量化した
- クマの普及啓発用の無料貸し出し教材トランクキットを4個作成した。また、トランクキットの使い方を解説する手引書を新たに作成し、関連する動画も3本公開した
- 上記の活動は、オンラインでの情報交換会（80人以上の参加）やHP及びFacebookで精力的に情報発信を行った



YouTubeにあげた動画のサムネ

クマ市街地出沒事例の収集	80件
クマトランクキットの作成	4個
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	30%

苦勞した点と工夫した点

苦勞した点

新型コロナウイルスの影響により、現地調査や各活動をまたぐ大きな対面会議が行えず、特に前半期の活動進行に苦勞した。

工夫した点

ウェブを活用した頻繁な情報交換を心掛けた。また、活動内容を臨機応変に変更し、対面だけでなくでもできる活動を前倒しで進めた。

〒060-0818
北海道札幌市北区北18条西9丁目
北海道大学獣医学部S棟102野生動物学教室内
HP：http://www.japanbear.org/



日韓海洋プラスチックリサイクル環境学習事業

活動地域 福岡県



日韓同時海洋清掃後の環境ディスカッション

課題

世界遺産登録地の宗像の海岸線は、大陸から漂着する大量のペットボトルで汚れ深刻な状況である。その問題を海峡を挟んだ日韓で考え、取り組む必要がある。

目標

日韓の学生が環境と音楽を切り口に、国境を越えて学び活動することで、海洋プラスチックの問題に取り組み、ゴミを資源化しリサイクルすることで幅広い世代の環境意識を向上させる。



今後の展望

基盤ができたこの体制を保ちながら、学生主導の団体として新たに組織し、自主的に環境問題を考え取り組んでいく運営スタイルを、宗像フェスCSR推進実行委員会が学校、企業、行政と連携して運営サポートする。

活動内容と成果

- 日韓の学生で、日本海を挟んだ釜山、福岡の双方の海岸の清掃活動をし、学生の環境への学びの場を提供した。福岡の海岸は韓国からのペットボトルが大量に漂着している。投棄する側と、流れ着く側の両方で取り組み、双方で回収した海洋プラスチックを合わせて日本でリサイクルを行う。双方のフィールド活動をネット中継し、その後日韓の学生でマイクロプラスチックが環境に与える影響などの講義を受けた後に環境ディスカッションをした
- 回収した海洋プラスチック2t。漂着ゴミ回収3t。参加者の環境問題理解度のアンケートを実施した



日韓同時海洋清掃

LOVE BLUE助成

1年目

実践

イベントの延べ参加者数 **244人**

回収される海洋ゴミ **12t**

今年度計画の達成度 **60%**

目標達成度 **100%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍のため、緊急事態宣言地域に該当した福岡県は、大人数で参加する事業を行うために何度も日程変更を必要とした。

■工夫した点

音楽を切り口に環境問題をより幅広い世代と層に学ばせる事業としてアーティストの参加による告知を行った。

〒811-3439
福岡県宗像市三倉17-1
電話：0940-22-8308
E-mail：office@munafes.jp

(特非) ジョイライフさま

環境保全の大切さを伝える自然体験・地域交流の創出

活動地域 埼玉県



台風被害による流木瓦礫倒木の撤去廃棄処理状況

課題

2019年の台風19号や大雨で入間川が氾濫したことで、河川敷整備地が土砂、瓦礫、流木で荒廃してしまい、その撤去並びに整備作業は会員だけでは厳しい状況となった。

目標

緑と花に囲まれた憩いと癒しの場となるような水辺空間とすべく、定期的持続的な整備活動を実施する。



今後の展望

新型コロナウイルス感染予防対策を行い、水辺空間整備と環境体験学習を諸団体とともに開催したいと考えている。体験学習に家族連れで参加する方を巻き込み、ごみ収集の協力を頂きながら、ごみのない環境の持続を目指していく。

活動内容と成果

新型コロナウイルス感染拡大により、環境保全の大切さを伝える自然体験は自粛せざるを得ず、子どもたち対象の環境学習を行うことはできなかった。だが、昨年協働した団体・業者・ボランティアの協力により、ソーシャルディスタンスが保てる水辺空間については、山積みとなった流木瓦礫を撤去することができ、大きな成果を感じている。不法投棄の家電ごみは860kgにも及び、そのごみの処分については行政の処分対象に入らず苦労させられた。次年度に向けた構想は、諸団体との出会いもあり計画の話し合いも行われ、水辺整備の成果に反映されると感じている。



流木瓦礫倒木の機械処理状況

LOVE BLUE助成

2年目

実践

水辺周辺整備進捗状況 **3.3 t**

環境学習参加者数 **10人**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **40%**

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

台風による流木瓦礫で荒廃し途方に暮れる中、昨年協働した諸団体、ボランティアに声掛けしたが、人集めに苦労した。

■工夫した点

整備の傍ら、河川を利用する団体と協働の企画を話し合い、次年度の活動に参加してもらうことを相談することができた。

〒350-1308
埼玉県狭山市中央1-43-11
電話：04-2958-3338
E-mail：kubotakk@trust.ocn.ne.jp
HP：http://www.joylife.or.jp



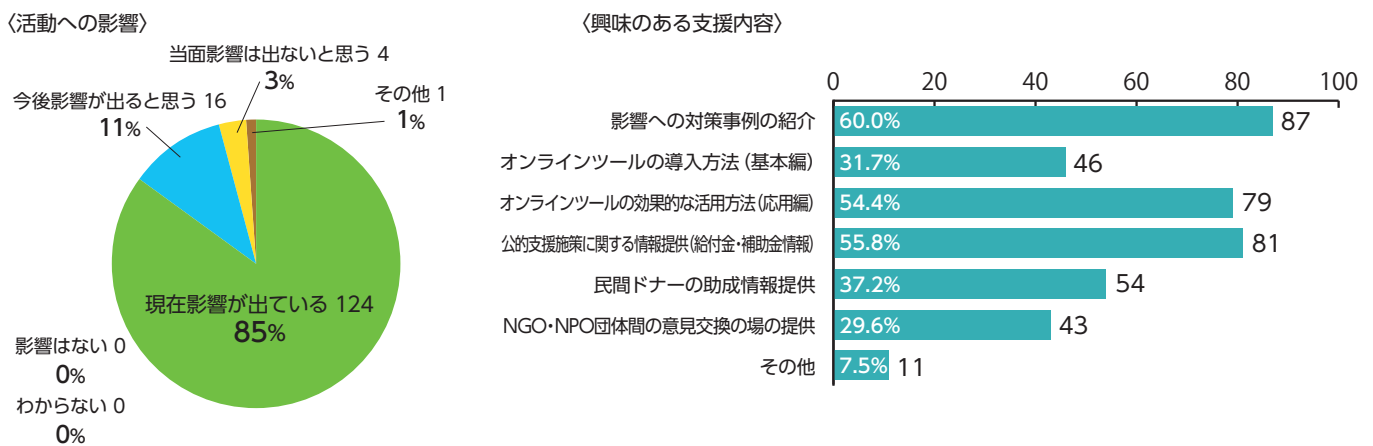
2020年度 地球環境基金の活動概要

1 助成事業

(1) 新型コロナウイルス感染拡大への対応

新型コロナウイルス感染拡大による助成対象活動への深刻な影響が懸念されたことから、2020年度の全助成先団体に対し、それぞれの団体が行っている感染症対策や環境NGO・NPOが必要としている支援などを明らかにするために「活動影響調査」を実施しました。助成先180団体中140団体から回答があり、調査結果はホームページで公表しています。

https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19_taisaku_2.html



活動影響調査で把握した助成先団体のニーズを踏まえ、以下の対応を実施しました。

①助成期間の延長

2020年度が助成最終年度の団体に対し、希望する団体は2021年度に助成金の一部を繰り越して使用できるよう、年度末までの助成期間を1年延長しました（16団体、35,458千円）。

②公的支援（給付金・補助金）、活動事例等の情報提供

国等が行う感染症対策関連情報や支援制度をリンク集としてまとめた特設サイトを開設しました。また、コロナ禍においても工夫して活動を進める団体の事例紹介を行いました。

■各府省庁による新型コロナウイルス感染症関連情報

<https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19.html>

■コロナ禍の中で活動を進める工夫について（事例のご紹介）

https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19_jirei.html

③オンライン意見交換会・オンライン活用セミナーの開催

新型コロナウイルス感染拡大の活動への影響や対応・工夫などに関する意見交換会・セミナーをオンラインで開催し、その動画はホームページでも公開しました。

■助成先団体間の意見交換会（計3回）

https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19_iken.html

■コロナ禍におけるオンライン活用セミナー（計3回）

https://www.erca.go.jp/jfge/training/covid19_seminar.html

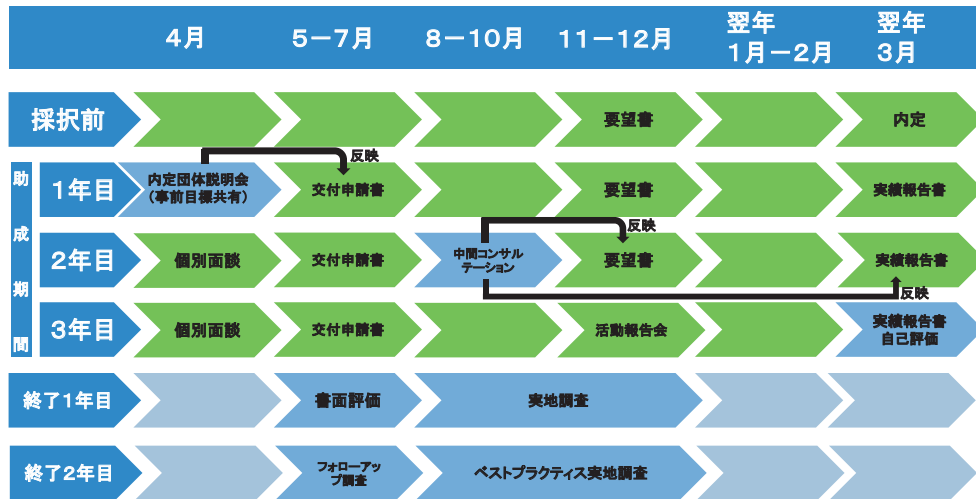
(2) 評価制度の実施

従前の評価制度は、助成活動終了年次に評価専門委員が現地へ赴き評価する「事後評価」のみを実施していましたが、2014（平成26）年度からは、地球環境基金評価要領に基づき、「事前目標共有」、「中間コンサルテーション」、活動終了後の「事後評価（書面評価、実地調査）」を導入、さらに2016（平成28）年度からは、「継続評価」（フロントランナー助成のみ）を導入し、助成事業の推進を図りました。

また、2018（平成30）年度からは、助成活動の優良事例を広く普及していくことを目的とした「ベストプラクティス実地調査」を新たに導入しました。

これらにより、2020年度は評価対象となる194団体の評価を実施しました。

助成事業評価スケジュール（3年計画の場合）



■中間コンサルテーション



■実地調査（愛知県）



■実地調査（インド）

※画像は2019年度。2020年度は書面やオンラインによる確認を実施しました。

(3) 各主体（民間団体・企業・行政）との協働・連携

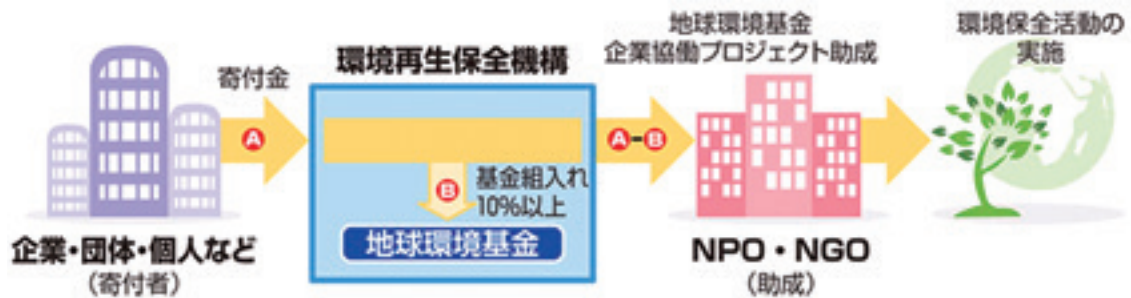
環境問題にかかわるあらゆる主体が連携することにより環境問題の解決策を模索することは重要です。地球環境基金では、環境パートナーシップオフィス（EPO）をはじめとする多様なステークホルダーとの連携を図っています。

EPO連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境基金の助成金要望に関する情報交換、相談、助言 ・助成金説明会開催 等
ドナー連携	<ul style="list-style-type: none"> ・NGO・NPOへ支援を行う他の団体（ドナー）との意見交換会・勉強会へ参加
NPO・企業連携	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOと企業等との協働事業創出やパートナーシップ構築の契機となることを目的とし、助成団体の活動報告会を開催（2020年度は、活動報告動画をホームページに掲載） ・NPOと企業の連携促進のため、企業の社会貢献活動担当者との意見交換会に参加

※2020年度は新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、一部の取組みを見合わせました。

(4) 地球環境基金企業協働プロジェクト助成の開始

2015(平成27)年度から企業協働プロジェクトの第1弾として、(一社)日本釣用品工業会からの寄付金を原資とした「つり環境ビジョン助成」を開始。2017(平成29)年度からは「LOVE BLUE助成」に名称変更し、今年度も清掃活動など、水辺の環境保全活動への助成を行いました。



2 振興事業

(1) 全国ユース環境ネットワーク促進事業の拡大

持続可能な社会の達成に向け、将来の担い手となる高校生や大学生等のユース世代の環境活動を支援し、その裾野の拡大やネットワークの構築を図る、全国ユース環境ネットワーク促進事業を推進しました。

①全国ユース環境活動発表大会

環境活動を通じて得た学びの共有など、志を同じくするユース世代の交流と相互研鑽の場として開催している「全国ユース環境活動発表大会」。第6回となる今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、発表動画を提出いただいてウェブサイトで公開する「Web発表大会」形式での開催となり、87団体から応募をいただきました。全国8ブロックに分かれて審査を行う地方大会で選抜された合計16団体が、2021年2月に開催した全国大会に進出。審査の結果、各賞が決定しました。また、全国大会に出場した団体の高校生がオンラインで交流ワークショップに参加したほか、環境大臣賞を受賞した宮城県農業高等学校の高校生が、小泉進次郎環境大臣、笹川博義環境副大臣とオンラインで懇談を行いました。

②全国大学生環境活動コンテスト (ecocon)

2021年2月に全国大学生環境活動コンテスト2020を共催しました。今回は、全国から11の団体が参加し、活動の発表・交流・学習を行いました。

③ユース環境研修・セミナー

環境活動に取り組む高校生、大学生に対し、民間団体や企業と連携してSDGsなどの環境に関する研修・座談会を、オンラインを中心とした形で実施しました。



■第6回全国ユース環境活動発表大会 (オンライン交流会)



■大学生SDGs座談会

(2) 情報提供業務

①地球環境基金活動報告集

地球環境基金助成金による環境保全活動の概要をとりまとめた「2019年度地球環境基金活動報告集」の配布を行いました。

②ホームページによる情報提供

地球環境基金のインターネットホームページにおいて、地球環境基金の制度、募金のお知らせ、助成案件採択状況、助成活動実施状況、研修及び講座の開催案内、環境NGO・NPO総覧オンラインデータベース検索、助成活動の外部専門委員による評価結果等の情報を掲載しています。



2019年度 活動報告集



地球環境基金の情報館

③Twitter・Instagramによる情報提供

全国ユース環境活動発表大会の報告、助成団体の活動案内や活動報告、各種研修の報告、出展イベントの様子などの情報を提供しました。



Twitterへの投稿



Instagramへの投稿写真

(3) 研修業務

環境NGO・NPO活動に参加しているスタッフや環境保全活動への関心を有するの方々のための研修として、2020年度は以下を行いました。

①活動影響調査で把握したニーズに基づく意見交換会、セミナーの実施

新型コロナウイルス感染拡大による助成対象活動への深刻な影響が懸念されたことから、2020年度の全助成先団体に対して活動影響調査をアンケート形式で実施し、そこで寄せられた声を受けて、オンラインでの組織運営の工夫等に関するセミナーと、助成先団体同士が影響やオンライン活用の上での工夫などを共有する意見交換会を、オンライン上で開催しました。また、「公的支援に関する情報提供（給付金・補助金情報）」として、国等が行う感染症対策関連情報や支援制度をリンク集としてまとめたものをホームページに特設サイトとして開設しました。

	内 容	参加者数 (延べ人数)
オンライン 意見交換会	新型コロナウイルスによる活動への影響や、アクション・工夫、オンライン活用のメリットや難しさ、今後に向けての構想などをテーマに意見交換会を実施	20名
オンライン 活用セミナー	新型コロナウイルス影響下での組織運営やコミュニケーションの取り方に関する、さまざまなアイデアやノウハウの提案などを目的に、セミナーを開催	75名



基金HPにおける情報提供

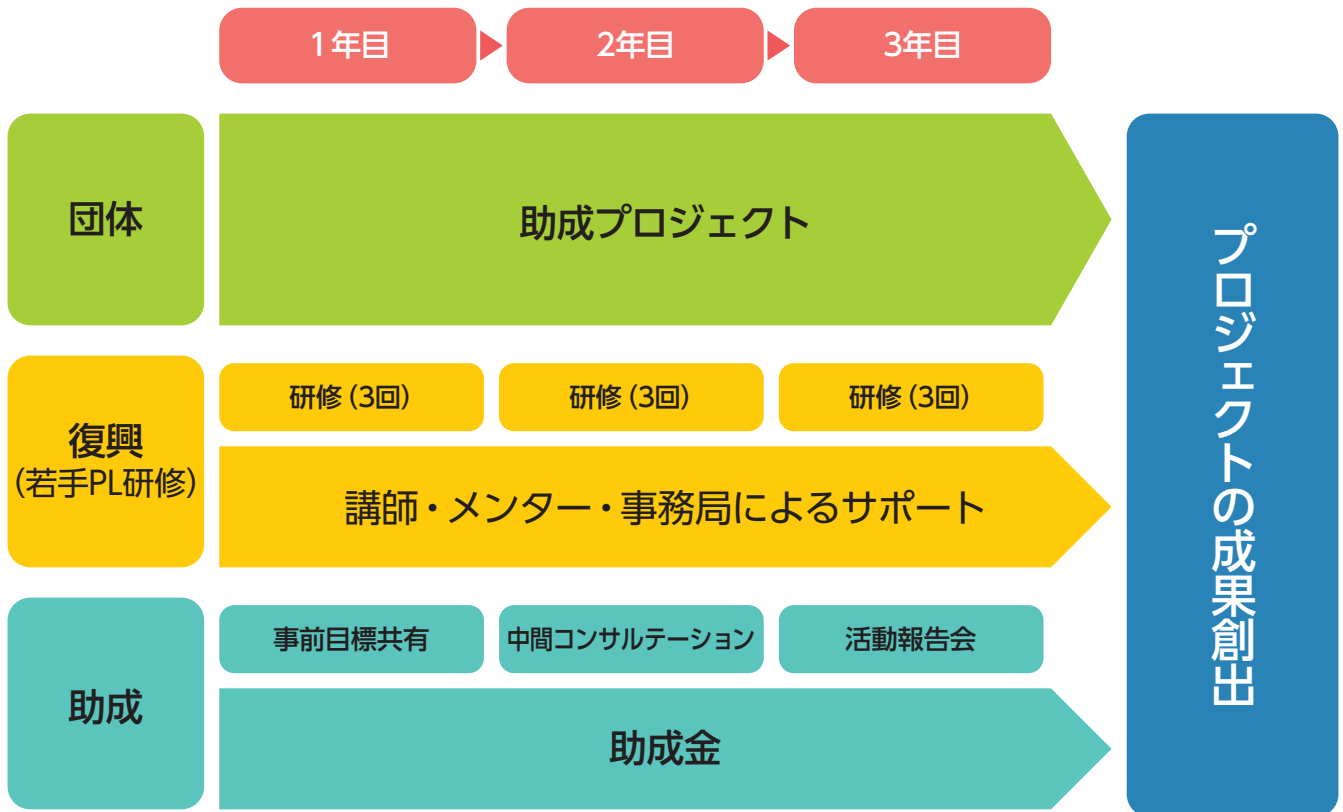


第3回NPO・NGOオンライン意見交換会

②プロジェクトリーダー研修

今後の環境活動を担う若手の人材育成の重要性がますます高まっていることを背景とし、地球環境基金では若手プロジェクトリーダーの育成を支援しています。3年間にわたり活動推進費を助成するとともに、リーダーシップを発揮して活動成果を創出し、また将来の環境保全活動の持続的発展に貢献できる人材を育成するための研修を行っています。

2020年度は、5期生6名、6期生12名、7期生8名、計26名を対象に、年3回の研修を、5期生の第2回（フィールド実習）を除いてオンラインで実施しました。



	5期生	6期生	7期生
第1回	8/24 (月)、25 (火)	6/29 (月)、30 (火)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーとの協働 ・協働の観点でプロジェクトを捉える 	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成プロセスデザイン ・課題と解決策の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の策定方法 ・指標(アウトカム、アウトプット)の設定
サブ研修	—	8/18 (火)	8/6 (木)、27 (木)
第2回	10/5 (月)、6 (火)	10/19 (月)、20 (火)	
	フィールド実習 (静岡県富士宮市)	<ul style="list-style-type: none"> ・協働 ・リーダーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体と自身の軸の理解
サブ研修	12/18 (金)	12/18 (金)	—
第3回	1/19 (火)、20 (水)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の事業・研修の振り返り ・今後のキャリアデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・コレクティブ・インパクト ・2年目研修の総括・発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力のデザイン ・プロジェクトに必要な資源



■フィールド実習 (5期生)



■オンラインによる研修の様子

参加者の声

自分自身の、そして同期メンバーの3年間の振り返りをして、お互いに意見・感想を出し合う中で、みな若手PL研修を通して成長していることが見て取れた。研修の講義・講師・同期の存在により、本来は接点のないプロジェクト内容が充実したのだと思うと貴重な機会だったことを実感した。

(3年目：5期生)



事業を進める上で大事なものは、結局コミュニケーションだと感じた。他の団体や職場内など、役立つ場面がたくさんあると思う。2年目は講師が継続して1年間担当して下さり、研修生同士が馴染みやすい雰囲気作りをしてくださったのが、とても良かった。

(2年目：6期生)



コロナ禍ということで実際にお会いすることは叶いませんでしたが、オンラインだからこそ近い距離感でお話しできた部分も大きかった気がします。来年度以降、実際にお会いしてお話しできるのが楽しみです。人に依頼やお願いをするのが苦手なので、協働で行えるアイデアが浮かべば、同期の皆さんと協力し合い、なにか実現させることで、苦手意識を克服できたらいいなと思います。

(1年目：7期生)



五十音別一覧データ

●団体名 (法人名略称)

ページ

団体名 (法人名略称)	ページ
あ行	
アーキペラゴ	76
Earth Company	114
アースウォッチ・ジャパン	120
II NET	109
ICA文化事業協会	40
あきた地球環境会議	58
アサザ基金	110
アジア太平洋資料センター (PARC)	112
アジア砒素ネットワーク	78
ASED HABIGONJ	44
APLA	44
African Marine Mammal Conservation Organization (AMMCO)	11
天草海部	84
いきものいんく	86
石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク	10
石川県自然史センター	85
石川県ユネスコ協会	90
伊自良の里振興協会	92
いすみライフスタイル研究所	127
田舎のヒロインズ	88
西表在来植物の植栽で地域振興を進める会	9
岩手山麓自然学校	13
インドネシア教育振興会	105
ウータン・森と生活を考える会	31
ARDE/KUBAHO	18
ACE	118
エコ・モビリティ サッポロ	62
ECO village SHELTER project	100
エコプランふくい	59
SDGs市民社会ネットワーク	110
ezorock	92
越後妻有里山協働機構	43
エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議	101
エバーラスティング・ネイチャー	114
FoE Japan	55
APEX	128
Mブリッジ	131
縁パワーしまね	57
En Vision環境保全事務所	119
応用地質研究会ヒ素汚染研究グループ	86
大杉谷自然学校	19
おーでらす	95
大山千枚田保存会	15

おかやまエネルギーの未来を考える会	59
隠岐しぜんむら	14
おしかリンク	35
おらってにいがた市民エネルギー協議会	58
オランウータンと熱帯雨林の会	26

●団体名 (法人名略称) ページ

か行	カーフリーデージャパン	53
	開発教育協会	106
	柿木自然エネルギー学校実行委員会	51
	河北潟湖沼研究所	45
	[環境・持続社会] 研究センター (JACSES)	126
	環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)	129
	環境首都創造NGO全国ネットワーク	60
	環境政策対話研究所	52
	環境生態工学研究所	28
	環境創造研究センター	65
	環境パートナーシップちば	102
	観光事業活動研究会	25
	関西NGO協議会	121
	雁の里親友の会	12
	喜界島サンゴ礁科学研究所	27
	気候ネットワーク	63
	北九州・魚部	116
	北の里浜 花のかけはしネットワーク	115
	キッチンるば	91
	九州エコファーマーズセンター	112
	京都市環境保全活動推進協会	68
	くすの木自然館	99
	Climate Action Network Japan (CAN-Japan)	56
	Climate Youth Japan	60
	グラウンドワーク三島	36
	黒潮生物研究所	12
	公害資料館ネットワーク	94
	神戸海さくら	80
	五ヶ瀬自然学校	93
	国際協力NGOセンター	107
国際自然保護連合日本委員会	23	
コクリエーションデザイン	51	

●団体名 (法人名略称) ページ

さ行	ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン	75
	ザ・ピープル	46
	さっぽろ自由学校「遊」	97
	CSOネットワーク	116
	JEAN	69

シェア・ザ・プラネット	47
四国自然史科学研究センター	14
しずおか環境教育研究会	96
自然エネルギー共同設置推進機構(NECO)	53
持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム協会	117
持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク (SUSPON)	113
市民エネルギーとっとり	91
しゃぼん玉の会	103
JARTA	118
循環生活研究所	67
ジョイライフさやま	132
水Do！ネットワーク	69
スノーパーク小出	83
スピリット・オブ・セイラーズ	89
Save Earth Foundation	32
石西礁湖サンゴ礁基金	24
瀬戸内オリーブ基金	84
せとうちんちゅネットワーク	67
全国川ごみネットワーク	90
全国ご当地エネルギー協会	54
Centre for Ecological Studies	13
泉京・垂井	122

●団体名 (法人名略称)	ページ
た行	
ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議	77
大雪山・山守隊	11
たてやま・海辺の鑑定団	115
たねと食とひと@フォーラム	117
DANKA DANKA	45
地域再生機構	62
NPO地域づくり工房	111
地球・人間環境フォーラム	39
地球環境市民会議 (CASA)	61
地球のしごと大學	85
中部リサイクル運動市民の会	68
DRCS (Development Research Communication and Services Centre)	47
DEXTE-K	17
D・B・Cグループ	18
The Energy and Resources Institute (TERI)	46
時ノ寿の森クラブ	33
徳島地域エネルギー	119
徳島保全生物学研究会	111
どんぐり王国	19

●団体名 (法人名略称)	ページ
な行	
長野県NPOセンター	94

ナシール教育文化振興財団	75
ナチュラルリストネットワークかがわ	109
ななしんぼ	83
生ごみリサイクル全国ネットワーク	54
ニッポンバラタナゴ高安研究会	15
日本オランウータン・リサーチセンター	10
日本海洋教育スポーツ振興協会	17
日本環境教育フォーラム	93
日本クマネットワーク	131
日本下水文化研究会	95
日本チャリティーショップ・ネットワーク	72
日本鳥類保護連盟	21
日本ハビタット協会	104
農ある暮らしを広める会	43
能登半島おらっちゃんの里山里海	97

●団体名 (法人名略称) ページ

は行	パートナーシップオフィス	79
	畑とキャンプの自由な学校みんなの学校	87
	はまのね	16
	PALLISHREE	21
	BARCIK	49
	パルシック	70
	晴れの国野生生物研究会	20
	パワーシフト・キャンペーン運営委員会	55
	PVネット兵庫グローバルサービス	56
	東大和エネルギーの会	52
	ビナ・カルタ・レスタリ(BINTARI)財団	64
	フー太郎の森基金	113
	フードバンク信州	71
	Forest Action Nepal	32
	ふるさとけものネットワーク	20
	ペドラブランカ自然保護区支援連合	123
	Pos Koordinasi untuk Keselamatan Korban Lumpur Lapindo (PosKo KKLuLa)	77
	香港観鳥会 (The Hong Kong Bird Watching Society)	24

●団体名 (法人名略称) ページ

ま行	まちなびや	98
	丸瀬布昆虫同好会	88
	みちのくトレイルクラブ	96
	みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	22
	宮津世屋エコツーリズムガイドの会	9
	宗像フェスCSR推進実行委員会	132
	more trees	33
	森からつづく道	16
	森づくりフォーラム	31

森の生活	124
森の防潮堤協会	34
moribio森の暮らし研究所	34

●団体名 (法人名略称) ページ

や行	やまがた自然エネルギーネットワーク	61
	有害化学物質削減ネットワーク	76

●団体名 (法人名略称) ページ

ら行	LION	89
	ラブグリーンジャパン	87
	ラムサール・ネットワーク日本	48
	Little Bees International	125

●団体名 (法人名略称) ページ

わ行	ワイルドライフ・プロミシング	23
	若桜・こらぼ企画	57

地球環境基金へのご支援のお願い

かけがえのない私たちの地球環境を健全に保っていくために、国の内外で環境保全活動を展開するNGO・NPOの役割がますます重要になってきています。

こうした民間団体を支援する地球環境基金は、皆様方一人ひとりのご理解とご協力によって支えられています。

地球環境基金では、金融機関からのお振込みのほか、様々な寄付方法をご用意しています。地球環境基金への寄付を通して、環境NGO・NPOの活動をご支援ください。

◇金融機関からのお振込のご案内◇

銀行名/支店名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行	00190-0-664214	地球環境基金
新生銀行 本店	普0789699	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
みずほ銀行 本店	普2413416	
三井住友銀行 東京公務部	普3013615	
三菱UFJ銀行 本店	普7637448	
りそな銀行 赤坂支店	普1023850	

※ゆうちょ銀行以外からお振込みいただく場合は領収書を発行できません。領収書の発行をご希望の方は地球環境基金へご連絡ください。

◇その他の寄付方法のご案内◇

オンライン決済から

VISA、Master、JCB、AMEX、Dinersのクレジットカードをお持ちの方は、基金ホームページからご寄付いただけます。

全国のFamiポートから

全国のファミリーマートに設置されている「Famiポート」からご寄付いただけます。

「本de寄付」から

読み終わった本やCD・DVDなどの買取金額が寄付金となります。

「つながる募金」から

スマートフォンを利用して、100円からご寄付いただけます。

スマートフォン決済アプリから

J-Coin Payサービスを利用されている方は、「ぼちっと募金」にてご寄付いただけます。

地球環境基金サポーターから

継続的にご支援いただく寄付方法です。寄付金額と、毎月か毎年をお選びいただけます。

募金箱から

募金箱の貸出しを行っています。オフィスや店頭、イベントなどで設置いただけます。

なお、独立行政法人環境再生保全機構は特定公益増進法人に指定されており、この基金にご寄付いただいた個人の方、企業等は税制上の優遇措置（所得税控除、損金算入）を受けることができます。

寄付に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

地球環境基金部 基金管理課 TEL 044-520-9606（広報・募金窓口）



地球環境基金 2020年度活動報告集

発行日 2021年9月

編集・発行 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部
〒212-8554

神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー 8階

TEL: 044-520-9505 FAX: 044-520-2192

URL: <http://www.erca.go.jp/jfge>



※本報告集に掲載している情報は、2021年4月現在のものです。

